新潟県埋蔵文化財調査報告書　第297集

一般国道49号

阿賀野バイパス関係発掘調査報告書19

石船戸東遺跡Ⅲ　第４次調査
蕪 木 遺 跡 Ⅱ　第３次調査
山口野中遺跡Ⅴ　第６次調査

２０２３

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

一般国道 49 号

阿賀野バイパス関係発掘調査報告書 19

石船戸東遺跡Ⅲ　第４次調査
（いしふなとひがし）

蕪木遺跡Ⅱ　第３次調査
（かぶらぎ）

山口野中遺跡Ⅴ　第６次調査
（やまぐちのなか）

２０２３

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

一般国道 49 号は、新潟市と福島県いわき市の間の 249km、日本海側と太平洋側を結ぶ主要幹線路としての役割を担っています。また、日常生活や地域経済を支える重要な基盤施設でもあるため、近年、著しく交通量が増えてきました。それに伴い、交通渋滞や交通事故の増加など生活環境に悪影響を与える様々な問題が生じています。

そこで、阿賀野市六野瀬から同市下黒瀬を結ぶ延長 13.7km の阿賀野バイパスの建設が計画されました。同バイパスは、安全で円滑な交通の確保と都市機能活性化のために重要な役割を果たすものと大いに期待されます。

本書は、阿賀野バイパスの建設に先立ち、2022（令和４）年度に本発掘調査を実施した石船戸東遺跡第４次調査、蕪木遺跡第３次調査、山口野中遺跡第６次調査の報告書です。いずれの遺跡も旧阿賀野川の自然堤防に位置し、蕪木遺跡と山口野中遺跡では古代から中世の道が見つかりました。これまでの阿賀野バイパス関係の発掘調査によって、古代から中世における旧阿賀野川を利用した河川交通と陸上交通の結節点に成立した遺跡群の様相が明らかになりました。

今回の調査成果が、地域の歴史を解明するための基礎資料として広く活用されるとともに、県民の方々の埋蔵文化財に対する理解と認識を深める契機となれば幸いです。

最後に、この調査に関して多大な御協力と御支援を賜った阿賀野市教育委員会、並びに地域住民の方々、また、発掘調査から報告書刊行に至るまで格別の御高配を賜った国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所に対して厚くお礼申し上げます。

2023（令和５）年７月

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

理 事 長　野　上　文　敏

例　　言

1　本報告書は、新潟県阿賀野市大字百津字石船戸に所在する石船戸東遺跡、阿賀野市大字堀越字蕪木に所在する蕪木（かぶらぎ）遺跡、阿賀野市大字月崎に所在する山口野中遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、一般国道 49 号阿賀野バイパス建設事業に伴い、新潟県教育委員会（以下、県教委とする）の調整を経て、国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所（以下、国交省とする）からの委託を受けた公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団）が実施した。

3　埋文事業団は 2022 年度に発掘調査、整理作業及び関連諸工事等を株式会社ノガミに委託した。発掘調査面積は石船戸東遺跡が上層 1,306㎡、下層が 67㎡、計 1,373㎡、蕪木遺跡が 422㎡、山口野中遺跡が 81㎡である。

4　出土品及び調査・整理に係る資料は、一括して新潟県が新潟県埋蔵文化財センターにおいて保管している。

5　遺物の注記は、調査年度（2022 年度）の下二桁「22」と各遺跡の略称（石船戸東遺跡：「石フナ」、蕪木遺跡：「カフキ」、山口野中遺跡:「ヤマノ」）を組み合わせて「22 石フナ」、「22 カフキ」、「22 ヤマノ」を頭に付し、出土地点（グリッド）・遺構名・層位を併記した。

6　本文の図中で示す方位は、すべて国家座標Ⅷ系の座標北を示す。

7　遺構番号は、種別に関わりなく通し番号とした。詳細は第Ⅰ章 3A に記述している。なお、整理作業の過程で欠番としたものもある。また、本文及び観察表・図面図版・写真図版の番号はすべて一致している。

8　引用文献は、著者及び発行年（西暦）を文中に［　　］で示し、自然科学分析を除き巻末に一括して掲載した。

9　作成した図版のうち、既存の地図を使用した場合は、それぞれにその出典を記した。

10　調査成果の一部は、新潟県埋蔵文化財センター冬季企画展「発掘！新潟の遺跡 2022」、埋文事業団年報（2022 年度）、広報紙『埋文にいがた』第 120 号で公表しているが、本書をもって正式な報告とする。

11　自然科学分析は、放射性炭素年代測定・樹種同定をパリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、分析結果は赤堀岳人・馬場健司・田中義文・東澤　翔が執筆した。

12　墨痕の認められる土器は、浅井勝利氏（新潟県立歴史博物館）に鑑定を依頼し、コメントをいただいた。

13　本書の執筆は荒川隆史（埋文事業団）、藤本隆之・山中悟朗・高野恒一・小村正之（以上、株式会社ノガミ）、赤堀岳人・馬場健司・田中義文・東澤　翔（パリノ・サーヴェイ株式会社）が以下の分担で行った。なお、編集は藤本（株式会社ノガミ）が行った。

荒川　第Ⅰ章１

藤本　第Ⅰ章２・３、第Ⅲ章１・２・４

山中　第Ⅱ章、第Ⅲ章３

藤本・山中　第Ⅲ章６

高野　第Ⅳ章１・２・３・４・６、第Ⅴ章１・2A・3A・４・５

小村　第Ⅴ章 2B・3B

赤堀・馬場・田中・東澤　第Ⅲ章５、第Ⅳ章５

14　遺構図のトレース及び各種図版作成・編集は株式会社ノガミが行った。

15　図書館等（著作権法第 31 条第１項に規定する図書館等をいう）の利用者は、その調査研究の用に供するために、本報告書の全体について、複製することができる。

16　発掘調査から本書の完成に至るまで、下記の方々及び機関から多くの御教示・御協力を賜った。ここに記して厚くお礼申し上げる。（敬称略、五十音順）

浅井勝利　　古澤妥史　　阿賀野川土地改良区　　阿賀野市教育委員会　　阿賀野市建設課

国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所　　小境集落　　新潟県立歴史博物館　　有限会社不二出版

目　　次

第Ⅰ章　序　　章

1　調査に至る経緯 …… 1

2　調査・整理体制 …… 2

3　調査の基本方針 …… 3

A　遺構名の付し方 …… 3

B　土層観察の記載方法 …… 4

C　本書の記述方針 …… 4

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

1　地理的環境 …… 7

A　遺跡周辺の地理的概観 …… 7

B　阿賀野川の河道の変遷 …… 8

2　歴史的環境 …… 9

A　中 世 略 史 …… 9

B　白河荘の中世遺跡 …… 9

C　古代の遺跡 …… 13

D　縄文時代の遺跡 …… 14

第Ⅲ章　石船戸東遺跡Ⅲ

1　調 査 経 過 …… 15

A　試掘確認調査 …… 15

B　本発掘調査（第１～３次調査） …… 16

C　本発掘調査の経過（第４次調査） …… 16

D　下層（縄文時代）の確認調査 …… 17

E　整理作業の経過 …… 18

2　調査の概要 …… 18

A　グリッドと調査区の設定 …… 18

B　基本層序 …… 19

C　遺構・遺物の検出状況 …… 21

3　上層（中世以降）の遺構 …… 21

A　概　　要 …… 21

B　９区の調査 …… 22

C　10 区の調査 …… 23

4　遺　　物 …… 31

A　記述の方法 …… 31

B　土器・陶磁器 …… 31

C　石製品・木製品・金属製品 …… 33

5　自然科学分析 …… 33
A　はじめに …… 33
B　試　　料 …… 33
C　分析方法 …… 33
D　結　　果 …… 34
E　考　　察 …… 35
6　調査のまとめ …… 36

第Ⅳ章　蕪木遺跡Ⅱ

1　調査経過 …… 39
A　試掘確認調査 …… 39
B　本発掘調査（第１・２次調査） …… 40
C　本発掘調査（第３次調査） …… 41
D　整理作業の経過 …… 42
2　調査の概要 …… 43
A　グリッドと調査区の設定 …… 43
B　基本層序 …… 44
C　蕪木遺跡の旧地形について …… 45
3　遺　　構 …… 46
A　概　　要 …… 46
B　掘立柱建物 …… 46
C　土　　坑 …… 46
D　　溝 …… 47
E　　道 …… 50
F　ピット …… 51
G　旧河道 …… 52
H　性格不明遺構 …… 53
I　噴　　砂 …… 53
4　遺　　物 …… 54
A　概　　要 …… 54
B　遺構出土遺物 …… 54
C　遺構外出土遺物 …… 56
5　自然科学分析 …… 56
A　はじめに …… 56
B　試　　料 …… 56
C　分析方法 …… 56
D　結　　果 …… 57
E　考　　察 …… 58
6　調査のまとめ …… 60
A　古　　代 …… 60
B　中　　世 …… 62

第Ⅴ章　山口野中遺跡Ⅴ

1　調査経過 …… 64
A　試掘確認調査 …… 64
B　本発掘調査（第６次調査） …… 65
C　整理作業 …… 65

2　調査の概要 …… 65
A　グリッドと調査区の設定 …… 65
B　基本層序 …… 65

3　遺　　構 …… 67
A　概　　要 …… 67
B　　溝 …… 67

4　遺　　物 …… 68
A　概　　要 …… 68
B　出土遺物 …… 68

5　調査のまとめ …… 68
A　６区・10区との関係 …… 69
B　５区・境塚遺跡との関係 …… 70

《引用・参考文献》 …… 71
《観　察　表》 …… 75

挿図目次

第１図　阿賀野バイパスの路線と遺跡の位置 …… 1
第２図　遺構の平・断面の分類 …… 5
第３図　遺構埋土の堆積形状の分類 …… 5
第４図　掘立柱建物の計測位置 …… 6
第５図　梁間一間型建物の類型 …… 6
第６図　遺跡周辺における阿賀野川の河道の変遷 …… 7
第７図　越後平野の形成過程 …… 8
第８図　周辺の地形と遺跡分布 …… 10
第９図　白河荘復元図 …… 12
第10図　試掘トレンチ位置図 …… 15
第11図　グリッド設定と調査区 …… 18
第12図　基本層序 …… 20
第13図　生材・炭化材の顕微鏡写真 …… 35
第14図　暦年較正結果 …… 35
第15図　調査区内における居住域と生産域 …… 37
第16図　馬小屋と推定される掘立柱建物の報告事例 …… 38
第17図　2009・2010年度の試掘トレンチ位置図 …… 39
第18図　2020年度のトレンチ位置図 …… 40
第19図　2014・2015年度の調査区位置図 …… 40
第20図　調査区位置図 …… 41
第21図　グリッド設定と調査区 …… 43
第22図　基本層序 …… 44
第23図　蕪木遺跡と旧河道 …… 45
第24図　遺跡南部の航空写真 …… 45
第25図　噴砂位置図 …… 53
第26図　生材の顕微鏡写真 …… 58
第27図　暦年較正結果 …… 58
第28図　古代の遺構分布図 …… 61
第29図　中世の遺構分布図 …… 62
第30図　試掘トレンチ位置図 …… 64
第31図　グリッド設定と調査区 …… 66
第32図　基本層序 …… 67
第33図　中世の道推定図 …… 69

挿表目次

第１表　周辺の遺跡…… 11
第２表　測定試料の樹種と放射性炭素年代測定結果
…… 34
第３表　発掘調査・整理作業工程…… 42
第４表　測定試料の樹種と放射性炭素年代測定結果
…… 57

図版目次

［図面図版］
図版１　石船戸東遺跡Ⅲ　調査範囲図
図版２　石船戸東遺跡Ⅲ　遺構全体図
図版３　石船戸東遺跡Ⅲ　９区遺構全体図
図版４　石船戸東遺跡Ⅲ　９区遺構個別図
図版５　石船戸東遺跡Ⅲ　10 区遺構分割図（１）
図版６　石船戸東遺跡Ⅲ　10 区遺構分割図（２）
図版７　石船戸東遺跡Ⅲ　10 区遺構分割図（３）
図版８　石船戸東遺跡Ⅲ　10 区遺構個別図（１）
図版９　石船戸東遺跡Ⅲ　10 区遺構個別図（２）
図版 10　石船戸東遺跡Ⅲ　10 区遺構個別図（３）
図版 11　石船戸東遺跡Ⅲ　10 区遺構個別図（４）
図版 12　石船戸東遺跡Ⅲ　10 区遺構個別図（５）
図版 13　石船戸東遺跡Ⅲ　10 区遺構個別図（６）
図版 14　石船戸東遺跡Ⅲ　10 区遺構個別図（７）
図版 15　石船戸東遺跡Ⅲ　10 区遺構個別図（８）
図版 16　石船戸東遺跡Ⅲ　９･10区 下層トレンチ
図版 17　石船戸東遺跡Ⅲ　出土遺物(１）土器･陶磁器
図版 18　石船戸東遺跡Ⅲ　出土遺物(２）土器･陶磁器･
瓦・石製品・木製品・金属製品
図版 19　蕪木遺跡Ⅱ　調査範囲図
図版 20　蕪木遺跡Ⅱ　遺構全体図
図版 21　蕪木遺跡Ⅱ　遺構分割図（１）
図版 22　蕪木遺跡Ⅱ　遺構分割図（２）
図版 23　蕪木遺跡Ⅱ　遺構分割図（３）
図版 24　蕪木遺跡Ⅱ　遺構個別図（１）
図版 25　蕪木遺跡Ⅱ　遺構個別図（２）
図版 26　蕪木遺跡Ⅱ　遺構個別図（３）
図版 27　蕪木遺跡Ⅱ　遺構個別図（４）
図版 28　蕪木遺跡Ⅱ　遺構個別図（５）
図版 29　蕪木遺跡Ⅱ　遺構個別図（６）
図版 30　蕪木遺跡Ⅱ　遺構個別図（７）
図版 31　蕪木遺跡Ⅱ　出土遺物（１）土器・陶磁器
図版 32　蕪木遺跡Ⅱ　出土遺物（２）土器・土製品・
金属製品・鍛冶関連遺物・木製品
図版 33　山口野中遺跡Ⅴ　調査範囲図
図版 34　山口野中遺跡Ⅴ　遺構全体図
図版 35　山口野中遺跡Ⅴ　遺構分割図･遺構個別図(1)
図版 36　山口野中遺跡Ⅴ　遺構分割図･遺構個別図(2)、
出土遺物

［写真図版］
図版 37　石船戸東遺跡Ⅲ　遺跡遠景
図版 38　石船戸東遺跡Ⅲ　９区完掘・10 区完掘
図版 39　石船戸東遺跡Ⅲ　10 区遺構集中
図版 40　石船戸東遺跡Ⅲ　９区遺構（１）
図版 41　石船戸東遺跡Ⅲ　９区遺構（２）
図版 42　石船戸東遺跡Ⅲ　９区遺構（３）
図版 43　石船戸東遺跡Ⅲ　10 区遺構（１）
図版 44　石船戸東遺跡Ⅲ　10 区遺構（２）
図版 45　石船戸東遺跡Ⅲ　10 区遺構（３）
図版 46　石船戸東遺跡Ⅲ　10 区遺構（４）
図版 47　石船戸東遺跡Ⅲ　10 区遺構（５）
図版 48　石船戸東遺跡Ⅲ　10 区遺構（６）
図版 49　石船戸東遺跡Ⅲ　10 区遺構（７）
図版 50　石船戸東遺跡Ⅲ　10 区遺構（８）
図版 51　石船戸東遺跡Ⅲ　10 区遺構（９）
図版 52　石船戸東遺跡Ⅲ　10 区遺構（10）
図版 53　石船戸東遺跡Ⅲ　10 区遺構（11）
図版 54　石船戸東遺跡Ⅲ　10 区遺構（12）
図版 55　石船戸東遺跡Ⅲ　10 区遺構（13）
図版 56　石船戸東遺跡Ⅲ　出土遺物(１）土器･陶磁器
図版 57　石船戸東遺跡Ⅲ　出土遺物(２）土器･陶磁器･
瓦・石製品・木製品・金属製品
図版 58　蕪木遺跡Ⅱ　調査区遠景
図版 59　蕪木遺跡Ⅱ　調査区全景、遠景
図版 60　蕪木遺跡Ⅱ　調査区全景
図版 61　蕪木遺跡Ⅱ　SB ４・５、噴砂７
図版 62　蕪木遺跡Ⅱ　噴砂９、遺構（１）
図版 63　蕪木遺跡Ⅱ　遺構（２）
図版 64　蕪木遺跡Ⅱ　遺構（３）
図版 65　蕪木遺跡Ⅱ　遺構（４）
図版 66　蕪木遺跡Ⅱ　遺構（５）
図版 67　蕪木遺跡Ⅱ　遺構（６）
図版 68　蕪木遺跡Ⅱ　遺構（７）
図版 69　蕪木遺跡Ⅱ　遺構（８）
図版 70　蕪木遺跡Ⅱ　遺構（９）
図版 71　蕪木遺跡Ⅱ　出土遺物（１）土器・陶磁器
図版 72　蕪木遺跡Ⅱ　出土遺物（２）土器・土製品・
金属製品・鍛冶関連遺物・木製品
図版 73　山口野中遺跡Ⅴ　調査区遠景
図版 74　山口野中遺跡Ⅴ　調査区全景、遺構（１）
図版 75　山口野中遺跡Ⅴ　遺構（２）、出土遺物

第Ⅰ章　序　　章

1　調査に至る経緯

一般国道 49 号（福島県いわき市～新潟市）は、太平洋側と日本海側を結ぶ重要な幹線道路である。新潟県内では、沿線市町村と新潟市を結ぶ地域幹線道路として重要な役割を果たしている。現道は阿賀野市街地を通過しているが、幅員が狭小なため交通混雑と交通騒音、交通事故など生活環境に与える影響が問題となってきた。これらの問題を解消し安全で円滑な交通を実現するため、「安田バイパス」（阿賀野市六野瀬～同市寺社間 5.6km）と「水原バイパス」（阿賀野市寺社～同市下黒瀬間 8.1km）（第１図）が計画された。平成 16（2004）年に市町村合併によって阿賀野市が誕生してからは、両者を合わせて「阿賀野バイパス」と呼称される。水原バイパス部分は、平成 11（1999）年３月に都市計画が決定、翌年４月に事業化された。これを受け、国土交通省北陸地方整備局新潟国道工事事務所（以下、国交省）と新潟県教育委員会（以下、県教委）との間で法線内の遺跡の分布調査・試掘調査に関する協議が本格化した。国交省から委託を受けた県教委は、財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団）に水原バイパスの踏査を依頼した。埋文事業団は平成 15（2003）年 12 月に水原バイパスの踏査を行い、阿賀野市飯森杉～寺社の区間約 470,000㎡について試掘調査が必要な旨を報告した。試掘確認調査は 2005（平成 17）年から 2012（平成 24）年まで断続的に行った。その結果、新発見した村前東Ａ遺跡・村前東Ｂ遺跡・柄目木遺跡・山口遺跡・石船戸東遺跡・新町遺跡・蕪木遺跡・向田遺跡と、阿賀野市教育委員会による 2008（平成 20）年の県営湛水防除事業に伴う試掘調査で発見された山口野中遺跡・境塚遺跡が本調査対象となった。2012（平成 24）年 12 月 10 日に「水原バイパスの建設に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する覚書」を締結し、完成４車線施工時と暫定２車線施工時の本発掘調査（以下、本調査）対象範囲を確定した。バイパスの早期開通のため、当面は暫定２車線施工範囲を対象に調査を実施することとした。

第１図　阿賀野バイパスの路線と遺跡の位置

（国土地理院発行「新潟」「新津」1:50,000 原図）

石船戸東遺跡は、2008・2009（平成 20・21）年度の試掘調査によって新発見し、延べ面積 31,586㎡に対して本調査が必要であること、下層は上層の調査終了後に要否を判断することを県教委に報告した。本調査は 2015・2016・2021

（平成 27・28、令和３）年度に実施した。そして、2022（令和４）年３月９日付け国北整新計第 43 号で国交省から依頼を受けた県教委は、2022 年３月 10 日付け教文第 1423 号で埋文事業団に本調査の実施を依頼した。調査対象面積は農道機能補償道路脇の水路予定地延べ 687㎡である。本調査開始後に、国交省・新潟県・埋文事業団の三者で調査範囲について再協議を行い、当初予定していた道路法線北西側の範囲を本調査から外し、新たに南東側の範囲を追加することとした。これを受け、2022 年８月 30 日付け国北整新計第 12 号で国交省から依頼を受けた新潟県は、2022 年９月１日付け文第 911 号の２で埋文事業団に調査面積を述べ 1,537㎡に変更して本調査を実施するよう依頼した。埋文事業団は 2022 年５月 16 日～８月 22 日、９月 20 日～ 11 月７日に延べ 1,373㎡について本調査を行った。

蕪木遺跡は、2009・2010（平成 21・22）年度の試掘調査によって新発見し、13,325㎡の本発掘調査が必要であることを報告した。本調査は 2014・2015（平成 26・27）年度に実施した。そして、2022 年３月９日付け国北整新計第 43 号で国交省から依頼を受けた県教委は、2022 年３月 10 日付け教文第 1423 号で埋文事業団に本調査の実施を依頼した。調査対象面積は農道機能補償道路脇の水路予定地 589㎡である。埋文事業団は 2022 年５月 13 日～７月５日、９月 26 日～ 11 月 16 日に 422㎡について本調査を行った。

山口野中遺跡は、2008 年度の試掘調査を行い、13,325㎡の本発掘調査が必要であることを報告した。また、2012 年度に JR 羽越本線下に建設する地下歩道用ボックス工事に係り試掘調査を行い、山口野中遺跡の範囲が拡大することを確認した。本調査は 2012・2013・2015・2020・2021（平成 24・25・27、令和２・３）年度に実施した。そして、2022 年３月９日付け国北整新計第 43 号で国交省から依頼を受けた県教委は、2022 年３月 10 日付け教文第 1423 号で埋文事業団に本調査の実施を依頼した。調査対象面積は農道機能補償道路脇の水路予定地 144㎡である。埋文事業団は 2022 年７月 13 日～７月 29 日に 81㎡について本調査を行った。

２　調査・整理体制

試掘確認調査、本発掘調査・整理の体制は以下のとおりである。

試掘確認調査（2008 年度 石船戸東遺跡）

調査期間	2008（平成 20）年６月９日～７月２日 2008（平成 20）年 12 月１日～ 12 月 18 日
調査主体	新潟県教育委員会（教育長　武藤　克己）
調　　査	財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
総　　括	木村　正昭（事務局長）
管　　理	斎藤　　栄（総務課長）
庶　　務	長谷川　靖（班長）
調査総括	藤巻　正信（調査課長）
調査担当	田海　義正（担当課長代理）
調査職員	畠野　義昭（主任調査員）

試掘確認調査（2009 年度 石船戸東遺跡）

調査期間	2009（平成 21）年５月 18 日～６月 17 日
調査主体	新潟県教育委員会（教育長　武藤　克己）
調　　査	財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
総　　括	木村　正昭（事務局長）
管　　理	斎藤　　栄（総務課長）
庶　　務	松原　健二（班長）
調査総括	藤巻　正信（調査課長）
調査担当	田海　義正（担当課長代理）
調査職員	石川　智紀（主任調査員）

試掘確認調査（2009 年度 蕪木遺跡）

調査期間	2009（平成 21）年５月 18 日～６月 17 日
調査主体	新潟県教育委員会（教育長　武藤　克己）
調　　査	財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
総　　括	木村　正昭（事務局長）
管　　理	斎藤　　栄（総務課長）
庶　　務	長谷川　靖（班長）
調査総括	藤巻　正信（調査課長）
調査担当	田海　義正（担当課長代理）
調査職員	畠野　義昭（主任調査員）

試掘確認調査（2010 年度 蕪木遺跡）

調査期間	2010（平成 22）年６月３日～６月 17 日
調査主体	新潟県教育委員会（教育長　武藤　克己）
調　　査	財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
総　　括	木村　正昭（事務局長）
管　　理	斎藤　　栄（総務課長）
庶　　務	松原　健二（班長）
調査総括	藤巻　正信（調査課長）
調査担当	田海　義正（担当課長代理）
調査職員	佐藤　貴亮（班長）

試掘確認調査（2008 年度 山口野中遺跡）

調査期間	2008（平成 20）年５月８日～５月 22 日
調査主体	新潟県教育委員会（教育長　武藤　克己）
調　　査	財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
総　　括	木村　正昭（事務局長）
管　　理	斎藤　　栄（総務課長）
庶　　務	長谷川　靖（班長）
調査総括	藤巻　正信（調査課長）
調査担当	田海　義正（担当課長代理）
調査職員	畠野　義昭（主任調査員）

本発掘調査・整理作業（2022 年度）

調査期間	2022（令和４）年４月 15 日～ 11 月 16 日
整理期間	2022（令和４）年７月　６日～ 2023（令和５）年　３月 31 日
調査主体	公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長　妹尾　浩志）
総　　括	松田　英世（事務局長）
管　　理	五十嵐　大介（総務課長）
庶　　務	伊藤　雅美（総務課 班長）
監　　理	荒川　隆史（調査課長）

石船戸東遺跡（第４次調査）

調査期間	2022（令和４）年５月 16 日～　８月 22 日 2022（令和４）年９月 20 日～ 11 月　７日
整理期間	2022（令和４）年８月 23 日～ 2023（令和５）年　３月 31 日
調　　査	株式会社 ノガミ
調査担当	藤本　隆之
現場代理人	伊藤　正紀
調査員	山中　悟朗
整理作業員	井越　真紀、高橋　雄介

蕪木遺跡（第３次調査）

調査期間	2022（令和４）年４月 15 日～　７月　５日 2022（令和４）年９月 26 日～ 11 月 16 日
整理期間	2022（令和４）年７月　６日～ 2023（令和５）年　３月 31 日
調　　査	株式会社 ノガミ
調査担当	小村　正之
現場代理人	小熊　晋介
調査員	高野　恒一
整理作業員	石倉　栄輝、中野　恵美子

山口野中遺跡（第６次調査）

調査期間	2022（令和４）年７月 13 日～７月 29 日
整理期間	2022（令和４）年７月 30 日～ 2023（令和５）年３月 31 日
調　　査	株式会社 ノガミ
調査担当	小村　正之
現場代理人	小熊　晋介
調査員	高野　恒一
整理作業員	石倉　栄輝、中野　恵美子

3　調査の基本方針

A　遺構名の付し方

遺構名は、遺構種別の略号と通し番号を組み合わせて表記した。遺構番号の略号は、柱穴・ピット =P、井戸 =SE、土坑 =SK、掘立柱建物 =SB、溝 =SD、旧河道 =SR、性格不明遺構 =SX とした。番号は、複

数の遺構の組み合わせからなる掘立柱建物を除き、遺構の種別・検出層位に関わりなく通して付した。また、遺構番号は各遺跡の過年度調査の番号に続けて付した。掘立柱建物を構成する個々の柱穴･ピット（小穴）番号は検出時に付した番号をそのまま用いた。過年度調査と同一の遺構については、その番号を踏襲した。調査後に欠番が生じた場合でも、その後の混乱を避けるため、番号の付け直しは行っていない。したがって、遺構番号の数が、遺構の数を示しているわけではない。なお、通し番号は、概ね調査区ごとでまとめて付した。

B　土層観察の記載方法

土層注記にあたっては、客観性をできるだけ確保するため、次の共通認識のもと記載することとした。

表記の順番は、「土層番号」、「マンセル記号」、「色調」、「土質」、「しまり」、「粘性」、「混入物」の順である。

色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局・（財）日本色彩研究所監修『新版 標準土色帖』［小山・竹原 2000］を使用したが、色調は乾燥や酸化の進行などにより著しく変化する。したがって、湿潤状態で表面を削った直後の新鮮な状態で観察した。また『標準土色帖』の分類上、上下に接する層の色調が同じ分類の場合は、相対的な違いを明記した。

土質は、基本的にはシルトであり、粘性の強い部分と弱い部分があり、「粘性」の強弱で示した。砂は粒度により、極細粒砂、細粒砂、中粒砂、粗粒砂、極粗粒砂、礫に分類した。

しまりに関する記載は、極めて感覚的な要素が強い。沖積地においては特に、乾燥の度合いによって内容が左右される。本書では、湿潤の状態を原則とし、上下との相対差を基準に「強」、「弱」で区別した。程度差において「やや…」を用いている。

混入物は、主に炭化物と地山ブロック等が認められた。混入物の含有率については 1 ～ 9％を「微量」、10 ～ 19% を「少量」、20% を「中量」、21% 以上を「多量」とした。混入物の状態についても併記することとした。ブロックの大きさはφ =mm で表記した。

調査中、常に客観性の確保に努めたが、必ずしも十分とはいえない。そのような状況においても、上下の層位との相対的な相違を表現することに留意した。

C　本書の記述方針

本書では、各遺跡に分けて遺構・遺物の記述を行い、石船戸東遺跡のみ各調査区に分けて提示することとした。遺構・遺物の説明は、本文・観察表・図版・写真図版を用いて行う。遺構は種別ごとに記述し、掲載するものとする。詳細については観察表に委ねることとし、特徴的な点やほかの遺構との関係を中心に述べることとする。遺物は土器類・土製品・石製品・木製品・金属製品の順に種別ごとに記述し、代表的なものを掲載する。

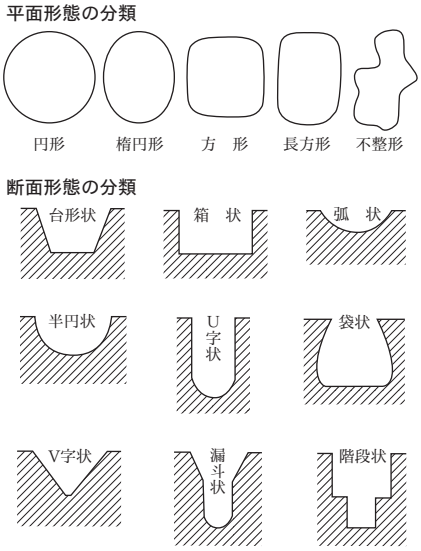
柱穴が方形ないし長方形で一定の間隔で並ぶものを掘立柱建物と認定した。建物型式は宮本［1999］に従い、梁間一間型建物（第５図）と総柱型建物に分類する。各掘立柱建物の計測値について観察表に示した。規模及び面積は、柱穴下端の中心及び柱根下端の中心を基点として計測した（第４図）［荒川ほか 2006］。梁行柱間長及び桁行柱間長は最も長いものを示したが、柱間長の差が大きい場合は複数の長さを記した。下屋がある建物の場合は、下屋長のほか、身舎の面積を計測した。主軸方位は、主軸長の方向について真北を基準として東西に傾く角度を計測した。

遺構の図版は、全体図・分割図・個別図などで構成される。調査範囲図は 1/2,500・1/1,500・

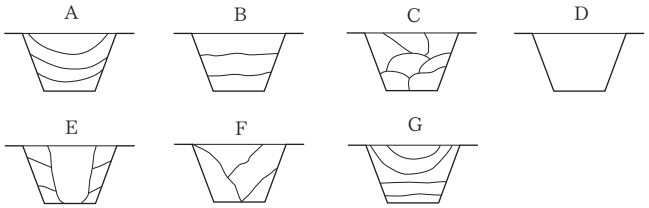
1/1,200、全体図は 1/2,000・1/400・1/200、分割図は 1/200 または 1/100 で表した。個別図は平面図・セクション図・エレベーション図で構成される。掘立柱建物・道・旧河道は平面図・エレベーション図を 1/80、セクション図を 1/40・1/80 で表した。井戸・土坑・ピットは 1/40 の平面図・セクション図で表した。出土状況図は、1/20・1/100 で表した。溝は 1/40・1/100・1/150 の平面図と 1/40 のセクション図で表し、石船戸東遺跡の一部の溝はセクション図のみを個別図版に表し、セクションポイントは分割図に示した。セクション図の土層の色調は『新版標準土色帖』［小山・竹原 2000］に基づいた。写真図版は個別図にある遺構について掲載するよう努めたが、全てを網羅していない。冒頭に全体写真と分割写真を掲載した後に、地区ごとに遺構個別図を掲載した。

観察表の項目は、位置・検出層位・所属時期・形態（第２図）・規模・底面標高・覆土の堆積形状（第３図）・出土遺物・切り合い関係である。検出層位とは遺構を確認した際の遺構上面の層位である。深度は上端標高の最高値から底面標高を引いた数値である。切り合いは「<」・「>」・「=」・「≠」の記号を用いて示した。記号の内容は、「<P100」とは P100 に切られ、「>P100」とは P100 を切っていることを示す。また、「=P100」は P100 と同時期であり、「≠ P100」は P100 と切り合い関係があるものの、新旧が不明なことを示す。

図化遺物の説明は、観察表で全てについて記載し、本文で解説する。土器類は遺構出土のものについて述べた後に遺構外出土のものについて記述し、その他は器種別に記述する。図面図版の縮尺率は、土器を 1/3 で表し、その他は大きさに応じて 1/3・1/4・1/5 で表した。写真図版は図面図版とほぼ同じ縮尺で全てを掲載した。観察表は図版に掲載した全ての遺物について観察項目を設定し、その内容を記した。なお、不明なものは空白とした。出土地点及び層位は全て記した。

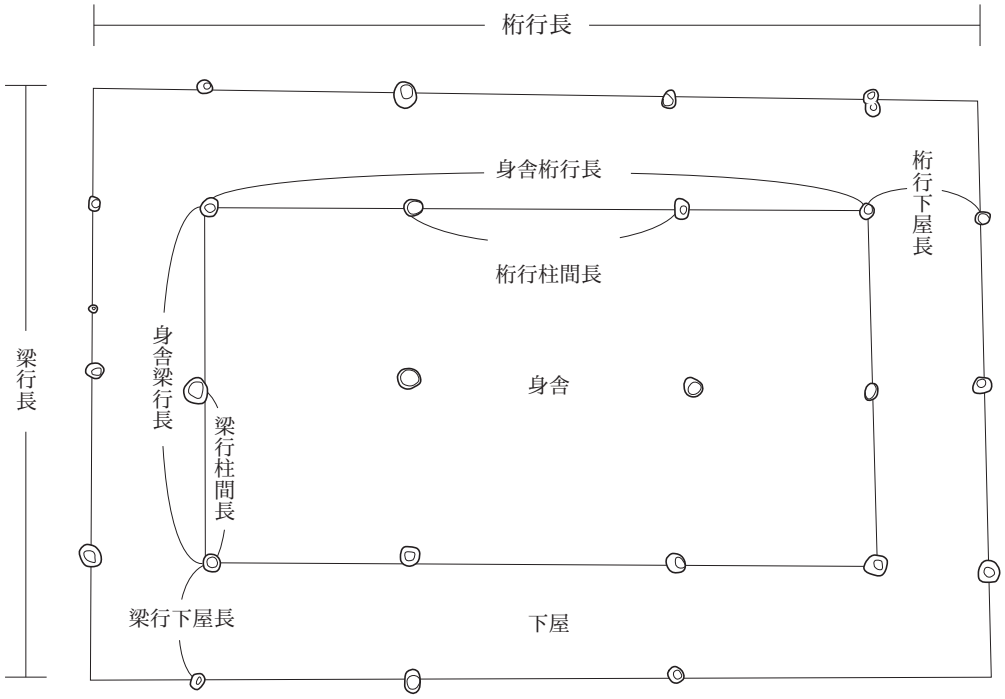


第２図　遺構の平・断面の分類
（加藤・荒川 1999）

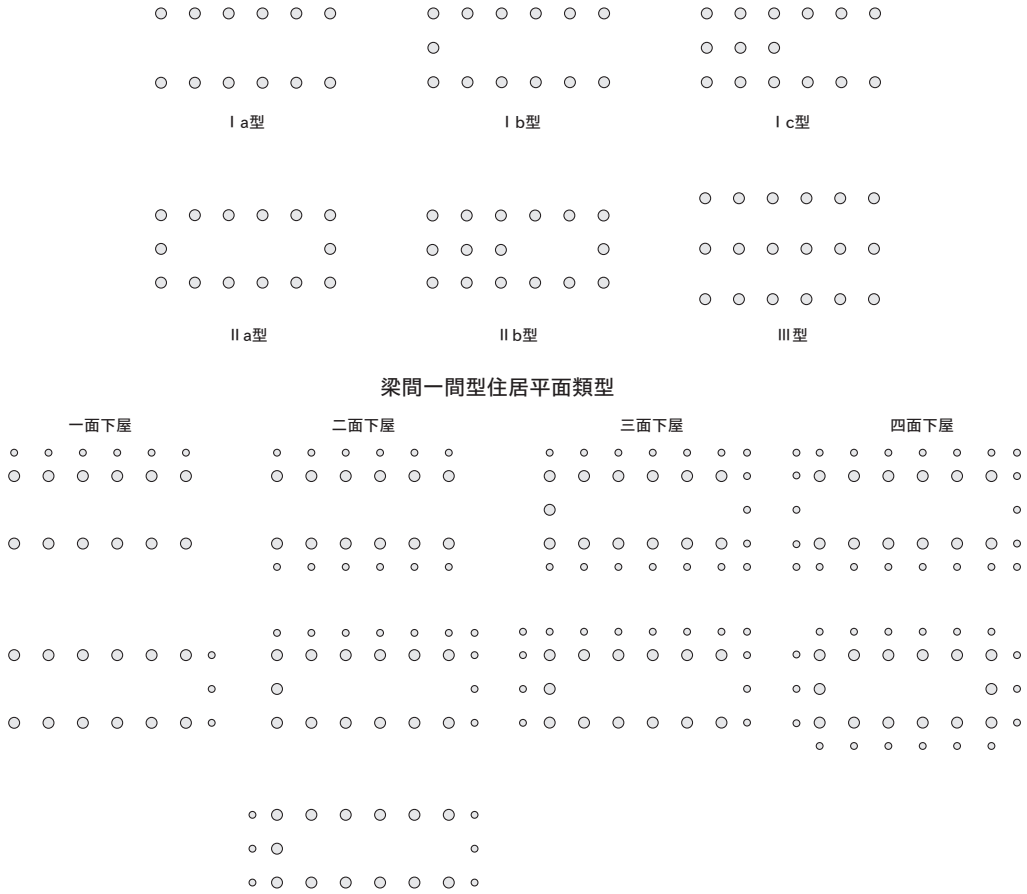


A　レンズ状	複数層がレンズ状に堆積する。
B　水平	複数層が水平に堆積する。
C　ブロック状	ブロック状に堆積する。
D　単層	覆土が単一層のもの。
E　柱痕	柱痕と思われる土層が堆積するもの。
F　斜位	斜めに堆積するもの。
G　水平・レンズ	覆土下位は水平に、上位はレンズ状に堆積するもの。

第３図　遺構埋土の堆積形状の分類
（荒川ほか 2004 を一部改変）



第４図　掘立柱建物の計測位置（荒川ほか 2006 を改変）



第５図　梁間一間型建物の類型（宮本 1999）

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

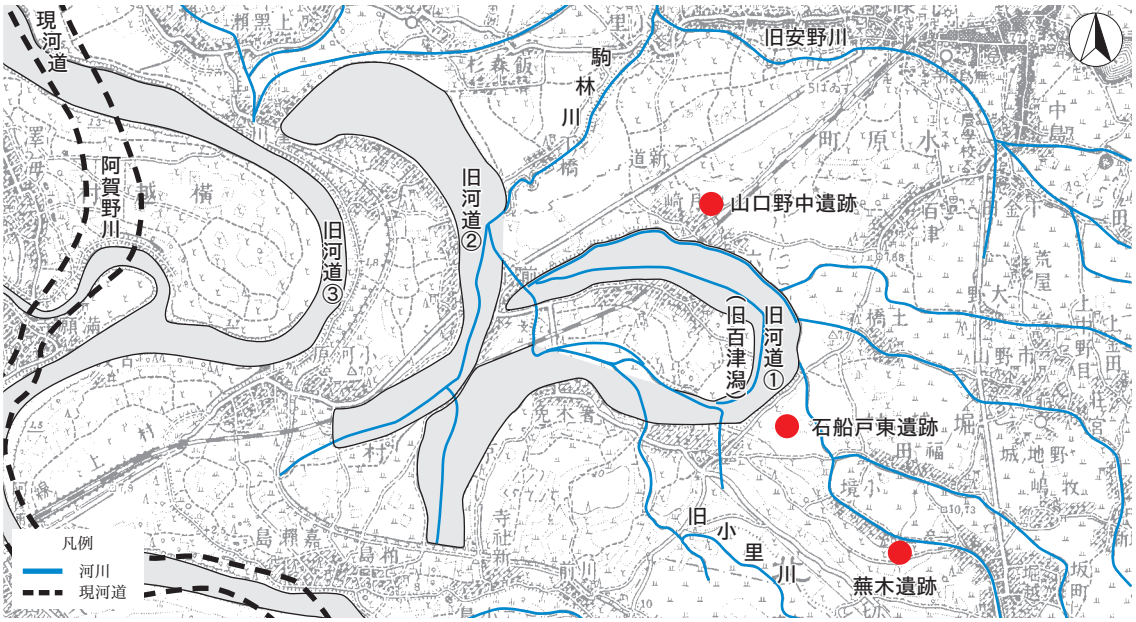
1　地 理 的 環 境

A　遺跡周辺の地理的概観

石船戸東遺跡は、新潟県阿賀野市大字百津字石船戸に所在する。この地は、阿賀野川の旧河道が閉塞されてできあがった旧百津潟の東側自然堤防上に位置している。山口野中遺跡は、この北側にあたる新潟県阿賀野市大字月崎に所在する。蕪木遺跡は、新潟県阿賀野市堀越字蕪木に所在する。この地は、旧百津潟の南から発する旧河道の自然堤防上に位置する小境集落の南側となる。いずれも、阿賀野川の変遷に影響された地形の自然堤防上に位置しており、またその周辺でも遺跡が多く確認されている。

阿賀野市は、新潟市の南方にあたり新潟市秋葉区、江南区、北区、五泉市、新発田市、阿賀町に接している。2004 年（平成 16 年）の平成の大合併により、水原郷といわれた水原町、安田町、京ヶ瀬村、笹神村の２町２村が合併して市制施行された。地形区分では、山地、丘陵、氾濫性低地、阿賀野川からなり、市の南東部には、五頭山地、笹神丘陵が分布する。五頭山地は、金鉢山、松平山、五頭山、菱ヶ岳を含む北北東～南南西に連なる標高 500 ～ 1,000m の山地で、白亜紀の斑状花崗岩からなり崩壊地形が無数に分布している。ここで著しく風化した花崗岩は「まさ（真砂）」となり、頻繁に繰り返された土石流の影響で山地から扇状地を形成し、平野を広げながら日本海へ向かって流出していった。笹神丘陵は、村杉低地帯によって五頭山地から分離した（延長 20km、幅１～ 2km）丘陵で、北限を加治川、南限を阿賀野川に境され、五頭山から流出する河川によって計 11 の単位丘陵に分断されている［高濱・野崎 1981］。この丘陵沿いには古代から中世の須恵器・陶器窯跡や製鉄遺跡が多く分布している。

阿賀野川は、福島県の荒海川などを源流とした阿賀川が新潟県境から阿賀野川と名を変え日本海に注ぐ



第６図　遺跡周辺における阿賀野川の河道の変遷

（大日本帝國陸地測量部発行　大正８年「新潟」「新津」1:50,000 原図、荒川ほか 2016 を一部改変）

一級河川である。水量は信濃川に次ぐ全国第２位で、信濃川とともに新潟平野を形成するのに重要な役割を果たした。遺跡の所在する阿賀野市の平野部は、阿賀野川右岸低地と呼ばれ、阿賀野川が山地から平野に移る地域に形成された扇状地性の氾濫平野である。旧河道は至る所で見られ、形は三日月状を呈し、その自然堤防は連続せず島状に発達し、低地との比高差はおよそ１～2.5m 位となっている［国土地理院 1988］。これは度重なる氾濫の痕跡を示すもので、阿賀野市新保と五泉市清瀬にかかる安田橋から新潟市江南区横越にかかる旧国道 49 号の横雲橋の間約 15km では、阿賀野川流域のなかでも特に乱流の様子を著しく大地に刻んでいる。

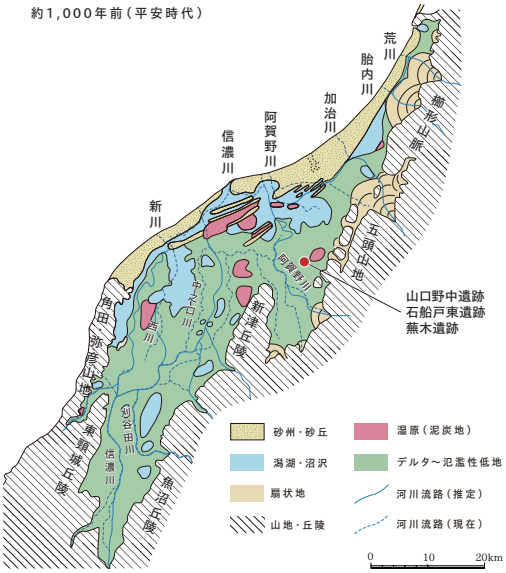
B　阿賀野川の河道の変遷

阿賀野川の河道の変遷は「第 262 集 境塚遺跡Ⅱ」［荒川ほか 2016］から本文を当遺跡に合わせて引用・加除し、文章を追加した。

阿賀野川は 1915（大正４）年～ 1933（昭和８）年を始めとする４回の改修工事が行われ、現在は河道が直線化されている。かつては発達した新潟砂丘によって日本海への流出口を狭められ、河道の変更を伴う大規模な氾濫が起こり、数多くの旧河道や自然堤防が残された。遺跡の周辺には幅 300m 前後の大きな旧河道が３か所認められる（第６図）。ここでは、六日野－七島間を旧河道①、前山－関屋間を旧河道②、下里－沢海間を旧河道③と呼ぶこととする（第６図）。大矢・加藤［1984］はこれらの年代について、旧河道①が 1713（正徳３）年頃、旧河道②が 1762（宝暦 12）年頃、旧河道③が 1911（明治 44）年頃まで流れていたと推測している。しかし、1647（正保４）年「新発田領絵図」には、阿賀野川の東側に「下里村」、西側に「渡り場」・「沢海村」とある。したがって、正保年間には阿賀野川の本流はすでに旧河道③を流れていたことになり、旧河道①・②はこれ以前の可能性が高いものと推測される。また、1645（正保２）年「正保越後国絵図」には六日野の近くに「百津潟」が描かれ、1816（文化 13）年「越後輿地全図」にも旧河道①に該当する部分に「古川蹟」と書かれた三日月状の範囲が記されており、旧河道①が阿賀野川の本流からそれて三日月湖になったものが百津潟と考えられる［成田 2000］。

これらのことから、中世を含むそれ以前の阿賀野川は現在よりも遺跡に近い位置関係にあったと考えられる。そして、上記以外にも旧河道①へと繋がる人工河川以前の旧流路や比較的明瞭な流路の痕跡から、旧河道①は水原以南における各所に点在する遺跡の水運の中継地であった可能性は充分にあると考えられる［小田・浦部 2001］。

また、平安時代頃の越後平野（第７図）は砂丘が海岸線に沿って大きく形成され、この砂丘によって河川から海洋への排水が著しく損なわれたため、砂丘内陸側の潟湖・沼沢が内湾状に広がったとされる［鴨井・安井 2004］。胎内市の南部あたりから長岡市の北部あたりまでかなりの広範囲にわたって水域になって舟が安定して航行できることが前提となるが、冬場に荒れやすい外海を使わずに舟の移動ができる利点は非常に大きい。河川や潟湖・沼沢などで分断されがちな陸路と



第７図　越後平野の形成過程

（鴨井・安井 2004 を基に作成）

比べ、年間を通じて多くの人や物資の輸送が可能になるだけでなく、情報伝達においても近在の有力者にとっては優位性を高めるものになり、遺跡周辺の集落などの形成に影響を与えたと推測される。

2　歴史的環境

歴史的環境はＡ・Ｂを「第 232 集 境塚遺跡」・「第 262 集 境塚遺跡Ⅱ」［荒川ほか 2012・2016］から、Ｃを「第 270 集 柄目木遺跡Ⅲ」［小野本ほか 2017］から、Ｄを「第 278 集 境塚遺跡Ⅲ」［飯坂ほか 2018］から本文、図版を当遺跡に合わせて引用・加除した。

Ａ　中世略史

阿賀野市は、中世に「白河荘（しらかわのしょう）」と呼ばれた範囲にほぼ相当する。白河荘は、1134（長承３）年に皇嘉門院領として立荘され、九条家領として代々伝領されていった。この白河荘の立荘には、阿賀北に大きな勢力のあった城氏が関わっていたと推測されている［樋口 2004］。阿賀野市寺社（じしゃ）には、城氏の拠点と推定される大坪（おおつぼ）遺跡（81）［荒川ほか 2006］や平安時代末期から鎌倉時代初頭の経塚である横峯（よこみね）経塚［川上 1979］がある。城氏が 1201（建仁元）年の鳥坂（とつさか）山の戦いで滅亡すると、その後、越後の荘園には地頭職を得た関東御家人の大見氏が入部する。この頃の白河荘は、上条と下条（げじょう）に大きく二区分されており、下条には山浦（やまうら）四箇条・水原条・船江（ふなえ）条が、上条には安田条が含まれている。鎌倉末期に大見氏は鎌倉幕府の御家人であった安達時顕に白河荘の地頭職を奪われるものの、白河荘に一分地頭職ともいうべき下級の地頭職を保持していた可能性があり、これを根拠として国人領主に成長していった［樋口 2004］。大見氏はやがて、山浦氏、安田氏、水原氏を名乗り国人領主へと転化する。

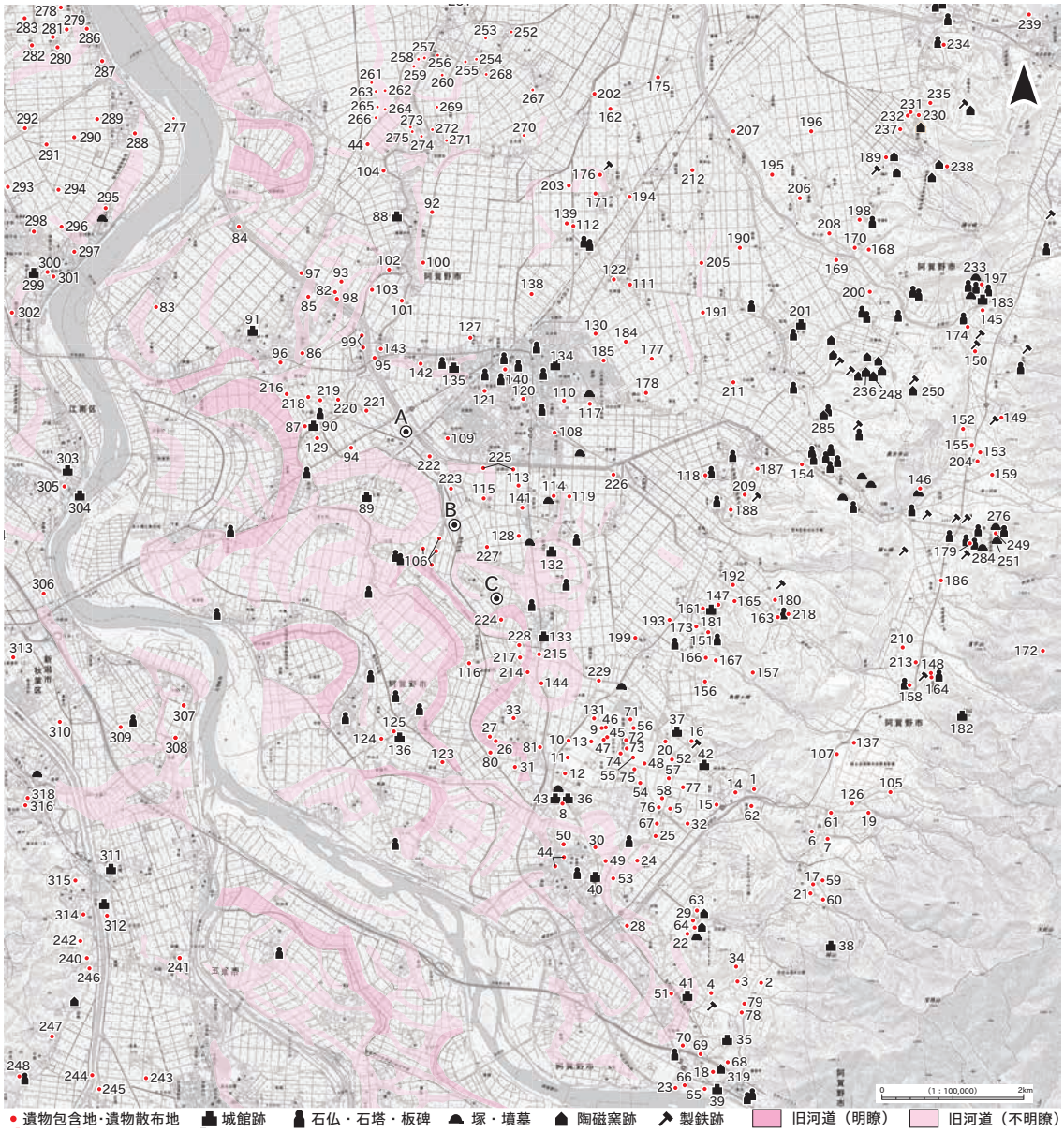
白河荘には安田氏、水原氏以外にも 1504 ～ 1521（永正年間）年に作成された『蒲原郡段銭帳（かんばらぐんたんせんちょう）』に堀越氏や下条氏が存在しており、大見氏一族を含め「白河之面々」と呼ばれる集団をなすようになる。これに対し 14 世紀末、上杉房定が越後守護になると守護勢力の地方扶植が図られ、下条山浦には上杉憲重が入部し、山浦上杉氏となった。越後守護上杉頼方と守護代長尾邦景の争いでは、阿賀北でも国人層を二分した争乱となった。1423（応永 30）年に、大見氏一族を含む白河荘の国人領主「白河之面々」や加地氏、新発田氏が守護代側に寝返り、山浦の守護勢力や中条氏と敵対している。このとき、堀越氏拠点の堀越館に比定される「堀越之要害」が陥落している。この大乱は、上杉房方の敗北によって終結するが、その後も大見氏一族は、阿賀北地方に勢力を伸ばす守護･守護代勢力からの強い影響を受けつつ戦国期を迎える。

Ｂ　白河荘の中世遺跡

阿賀野川右岸における中世遺跡は、福島潟以南の平野部と笹神丘陵、福島潟以東の平野部、新潟砂丘に分布する（第８図）。その多くが近代の集落近くに位置し、当地域においても中世から近世にかけての集村化の動き［坂井 1997］があったものと考えられる。大坪遺跡［荒川ほか 2006］では、12 世紀の水路が明治期まで維持・利用されており、当地域には中世の景観が色濃く残されている。当地域における中世遺跡の概要については、大坪遺跡や山口遺跡（221）［荒谷ほか 2010］などで詳細が記されていることから、ここでは白河荘の区分と遺跡分布について述べることとする。

白河荘の区分を検討した中野豈任［1976］は、山浦四箇条を阿賀野市折居（おりい）から大室（おおむろ）にかけての地域とし、折居川流域をＡ地域（山間部をＡⅠ区、平野部をＡⅡ区）、白川（大荒川）流域をＢ区、安野（あんの）川流域をＣ区とした（第

９図)。また、安田条は旧安田町周辺とした。水原条･船江条は、北限を飯野－舟居（ふない）－飯塚－榎舟渡（えのきふなと）を結ぶ線、東限を榎舟渡－千原（ちわら）－天神堂を結ぶ線、西限を阿賀野川と推定した。そして、安田条との境界に当たる南限は「境塚が一直線上に点在して南境を形成している」として、六日野の南側を通るラインを推定した。同論文にその根拠として写真に示された「下条の境塚」は、境塚遺跡（さかいづか）（222）の北東約 300m にある三辺稲荷神社のことである。この神社は、明治頃に水原の豪農の旧佐藤家（本泉屋）が私邸内の祠をこの地に移したのが始まりで、それ以前は畑だけの土地であった。したがって、中野の言う塚はなかったと判断される。しかし、昭和初期の土地更正図を見ると、この周囲には 1955（昭和 30）年の町村合併以前の水原町大字下条・堀越村大字百津・京ヶ瀬村大字前山の３か所に「境塚」の小字があり、しかも３町村が接する境界に位置する。「境塚」の字名はこれら町村の境界を指し示し、さらに中世白河荘の水原条と安田条の境界に由来する可能性はあろう。推定されたこれらの区域には、いくつかの遺跡集中域を見いだすことができる（第８図)。



第８図　周辺の地形と遺跡分布

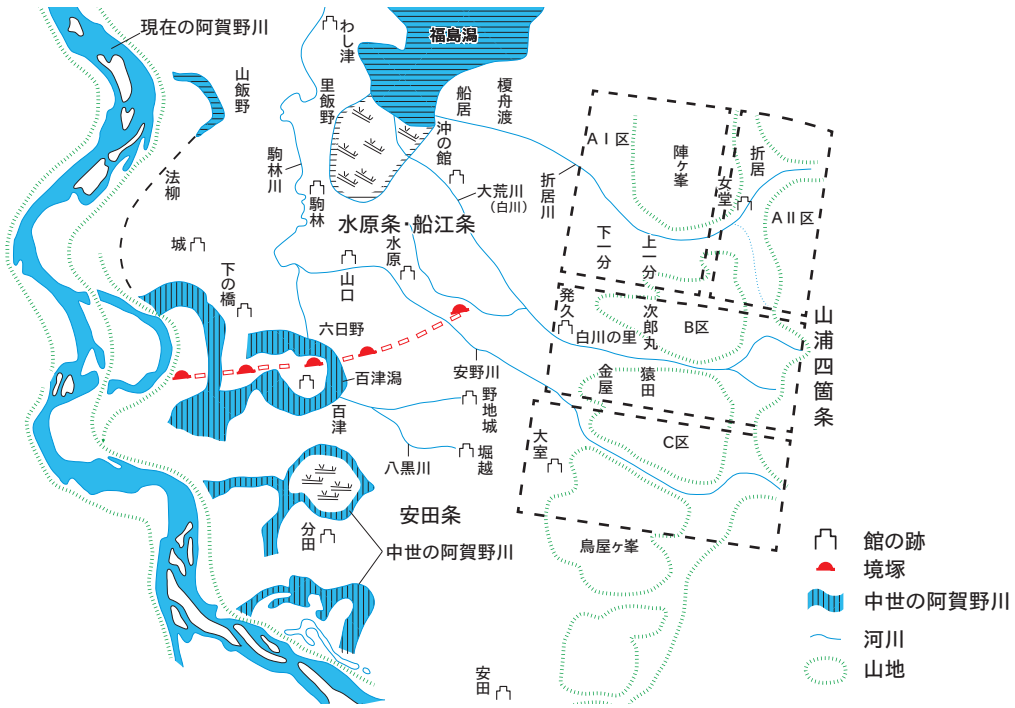
（国土地理院発行　電子地形図　1：25,000 原図、旧河道は大矢・加藤 1984 を参照。）

No.	名称	時代	No.	名称	時代	No.	名称	時代	No.	名称	時代
A	山口野中	縄・古・鎌～室	80	六九	平・中	158	村杉	縄	240	下野山	縄
B	石船戸東	縄・平・室	81	大坪	縄・弥・平・中	159	畑江	縄	241	下条館跡	不明
C	蕪木	平・中	82	猫山	弥	160	川端Ｂ	縄	242	小実山	縄・弥・古
1	石仏野	旧	83	曽根	平	161	大室	縄	243	中野	古
2	野中	縄	84	下谷地	中	162	小曽根	平	244	筧下	古
3	徳正寺	縄	85	曽郷前	中	163	川端Ａ	縄	245	村付	古
4	新割	縄・平	86	本田裏	中	164	薬師平Ｂ	縄	246	山崎平	不明
5	上野林Ａ	縄	87	紺屋	中	165	下里Ｂ	縄	247	櫟谷	不明
6	中山	縄	88	駒林要害跡	室	166	貝喰	縄	248	兎沢中世窯跡	室
7	ツベタ	縄	89	七島館跡	不明	167	十二神	縄	249	華報寺	
8	山ノ下	縄	90	下の橋館跡	室	168	下一部	縄・平	250	背中炙窯跡	鎌
9	横峰Ｃ	縄	91	城館跡	平	169	砂子	平	251	目洗沢中世墓域	鎌～室
10	小山崎	縄	92	千刈	平	170	宮前	平	252	豊栄長場	墳・近
11	中道	縄	93	善四郎谷内	平	171	沖ノ館	平	253	真那板倉	古
12	藤堂	縄	94	掛上り	不明	172	葎沢	平	254	一本柳	古
13	行塚	縄	95	はがい畑	不明	173	山王田	平	255	五本柳Ｂ	古
14	家添	縄	96	町道上	中	174	女堂金屋原	平	256	鷲津	平
15	家裏	縄	97	村下	平	175	未明	平	257	川東	古
16	手城山	縄	98	大割	中	176	塚田	平	258	中道Ａ	古
17	丸山	縄	99	大曲川端	平	177	諏訪田	平	259	中道Ｂ	古
18	赤坂山	縄	100	土居内西	平・中	178	卯ノ明	平	260	長場	平
19	日陰平	縄	101	善四郎谷内Ｂ	不明	179	伝・蓮台山正智院跡	鎌～江	261	城の潟	平
20	二本松	縄	102	轟	平・中	180	アバヤシキ	室	262	大夫曽根	平
21	保田新割	縄	103	善四郎谷内Ｃ	平・中	181	大室城跡	室	263	山飯野神田Ａ	古
22	山下Ａ	弥	104	山鳥屋敷	墳・古・中	182	村杉城跡	室	264	山飯野神田Ｂ	古
23	六野瀬	縄・弥	105	大日ヶ原Ⅱ	縄	183	女堂館跡	室	265	桜曽根Ａ	古
24	雲雀田	墳	106	石船戸	縄	184	六反田	平	266	並柳	古
25	岩野Ａ	奈	107	大日ヶ原Ⅰ	縄	185	堤下	平	267	桜曽根Ｂ	古
26	寺社家浦Ａ	平	108	下金田	弥	186	布依徒塚	縄	268	狐川渡	平
27	花田	平	109	三辺稲荷	古・中	187	金屋中道	平	269	五本柳Ａ	古
28	八百刈	平	110	中島	平	188	山浦城跡	室	270	居浦	墳
29	山下Ｂ	平	111	堂前	平	189	滝沢貝喰	縄	271	上大月	古
30	宮ノ越	平・鎌	112	滑橋	平	190	発久	平	272	岡新田	平
31	六九寺跡	不明	113	市野山大坪	平	191	滝沢屋敷跡	室	273	里飯野	平
32	下篭田	不明	114	久祢添	縄・平	192	上小中山	縄	274	池田Ｂ	古
33	寺社家浦Ｂ	室	115	土橋	縄・平	193	鶴渕	縄・室	275	上堀田	平
34	伝・徳正寺跡	不明	116	熊居上の山	縄・平	194	元屋敷	平	276	経沢中世墓域	鎌～室
35	ハチマキ山城跡	不明	117	四ツ橋長者屋敷	平・鎌	195	上高関	平～室	277	縄内	平
36	物見山砦跡	不明	118	田向	平	196	真木野	平	278	小杉中洲	墳
37	手代山砦跡	不明	119	細田	平	197	女堂上ノ山	縄	279	中山	縄・墳・古
38	赤松山城跡	不明	120	薬師島	平	198	徳昌寺前	室	280	城山	縄・墳・平・鎌
39	赤坂山砦跡	不明	121	庚町	平	199	大室堤下	縄	281	笹山前	縄・弥・墳・古
40	安田城跡	室～江	122	唐着	平・室	200	家の前	南	282	神明社裏	平
41	六野瀬館跡	南～室	123	成田屋敷	室	201	笹岡城跡	南	283	平山	平
42	源直屋敷跡	不明	124	内山王	室	202	榎木大割	縄	284	蓮台野中世墓域	鎌～室
43	字見屋敷跡	不明	125	新明野	室	203	台田	平	285	権兵衛沢窯跡	室
44	火除土手	江	126	滝山	室	204	横道下南	旧	286	直り山Ａ	平
45	横峰Ａ	縄	127	居浦	室	205	下福岡	平	287	居附Ｂ	不明
46	横峰Ｂ	縄	128	原	南・室	206	前田	墳～奈	288	居附Ｃ	不明
47	横峰Ｄ	旧	129	藤の木	室	207	腰廻	墳～中	289	松韻寺	平
48	上野林Ｂ	縄	130	十ヶ袋	室	208	壱本杉	平・鎌	290	居附Ａ	古・中
49	門前	室	131	山本新家浦	室	209	宮下	縄	291	山のハサバ	平
50	後興野	不明	132	野地城跡	室	210	苗畑下	不明	292	小杉上田	縄・古
51	北郷	平～南	133	堀越館跡	室	211	上山屋	平	293	江尻	平
52	上野林Ｃ	平	134	水原館跡	室	212	高畑	平	294	新田郷	平
53	竜下	南	135	下条館跡	室	213	苗畑	平	295	宮尻郷	古
54	上野林Ｄ	不明	136	分田館跡	室	214	庚塚	古・中	296	下郷	平
55	上野林Ｅ	旧・縄	137	大平	旧	215	鴨深北	古・中	297	曽我墓所	平
56	上野林Ｆ	不明	138	永室	平	216	村前	中	298	下郷南	平・中・近
57	上野林Ｇ	不明	139	中谷内	平	217	狐塚	弥・中	299	新田郷南	墳・平
58	上野林Ｈ	不明	140	七面堂	中	218	村前東Ａ	古・中	300	横越館跡	室
59	吉ヶ沢平	不明	141	大坪南	平	219	村前東Ｂ	不明	301	上郷Ｄ	平
60	中峯下	縄	142	土居内	中	220	柄目木	古・中	302	上郷北	平
61	ツベタＢ	平	143	羽萱場	中	221	山口	縄・弥・古・鎌・室	303	上郷Ｂ	古
62	篭田中山	縄	144	鴨深甲	平・中	222	境塚	縄・弥・古・中・近	304	居屋敷跡	墳・平・中・近
63	蔵敷林	縄・平	145	木倉山	旧・縄	223	新町	縄・平・鎌・室	305	長崎（城跡）	室
64	用水林	縄	146	真光寺Ａ	旧	224	向野	古・中	306	寺島	平・鎌
65	渡場赤坂Ａ	縄	147	下里Ａ	旧	225	土橋北	縄	307	中新田久保	平
66	渡場赤坂Ｂ	縄	148	薬師平Ａ	旧	226	外輪橋	古	308	下久保	平
67	岩野Ｂ	不明	149	岩倉Ａ	旧	227	村北	縄	309	道上	平
68	赤坂山Ｂ	縄	150	湯沢	旧	228	砂田	古・中	310	細池寺道上	平・中・近
69	官林	縄	151	王ヶ峯	縄	229	山本	縄	311	西江浦	平
70	萩野	縄	152	畑井	縄	230	堤上窯跡	縄・弥・平	312	大開館跡	中
71	上野林Ⅰ	縄	153	横道下	縄	231	堤下Ａ	縄	313	諏訪畑	平
72	上野林Ｊ	旧・縄・平	154	浦林	縄	232	堤下Ｂ	平	314	大野中	縄・平
73	上野林Ｋ	縄	155	中野	旧・縄	233	上の山塚群	室	315	平	縄
74	上野林Ｌ	縄・平	156	貝喰平	縄	234	一本松	不明	316	居平	縄
75	上野林Ｍ	縄・平	157	風吹沢	縄	235	源氏山	縄・中	317	愛宕澤	縄・平・中
76	上野林Ｎ	縄	154	浦林	縄	236	狼沢中世窯跡	室	318	草水町２丁目窯跡	旧・縄・平
77	上野林Ｏ	縄	155	中野	旧・縄	237	坂下	縄・古	319	赤坂山中世窯跡	中
78	円山	旧・縄	156	貝喰平	縄	238	オガノＢ	不明			
79	獅子沢	縄～弥	157	風吹沢	縄	239	月岡カリオンパーク	旧・中			

第１表　周辺の遺跡

水原条･船江条の範囲では、阿賀野川旧河道右岸、駒林川流域、そして水原市街に集中域が認められる。阿賀野川旧河道②右岸（第６図）には、下の橋館跡（90）を中心として町道上遺跡（96）･柄目木遺跡（220）･村前東Ａ遺跡（218）などの集落遺跡が集中する。町道上遺跡は 13 ～ 15 世紀の方形竪穴状遺構や井戸などがあり［古澤 2002］、村前東Ａ遺跡では 13 世紀中葉～ 14 世紀前半の掘立柱建物を中心とする集落である［加藤ほか 2010］。また、町道上遺跡・柄目木遺跡・村前東Ａ遺跡・山口遺跡［荒谷ほか 2010］で道跡が見つかっていることは陸上交通を知る上で注目される。駒林川流域には、駒林要害跡（88）を中心に土居内西遺跡（100）がある。土居内西遺跡は、14 世紀を中心とし方形縦板組井戸が検出されている［古澤 2005］。旧水原町の中心である水原市街には、水原氏の居館と推定される水原館跡（134）と下条氏の居館とされる下条館跡（135）を核とし、遺物散布地や石仏が数多く残る。水原館跡は、壕、溝、柵列、掘立柱建物、ピットが検出され、13 ～ 15 世紀の珠洲焼、瓷器系陶器、常滑系陶器、瀬戸美濃焼、茶臼などが出土している［川上 1977］。水原条・船江条と安田条との境界に位置する境塚遺跡の周辺には、ほぼ同時期の山口野中遺跡（Ａ）や三辺稲荷遺跡（109）､15 世紀後半を主体とする新町遺跡（223）のほか、百津潟を挟んだ西側に七島館跡（89）がある。山口野中遺跡では、境塚遺跡Ｄ区で見つかった道１の続きが確認されている［古澤ほか 2011］。

安田条の範囲では、野地城跡（132）・堀越館跡（133）・大坪遺跡と西側の旧河道に沿って南北に遺跡が集中する。大坪遺跡は 11 世紀後半～ 12 世紀を中心とし、四面廂付総柱建物や屋敷墓と見られる木棺墓など多数の遺構が検出された［荒川ほか 2006］。遺跡の時期と城氏の盛衰が一致することから、同時期の横峯経塚を含めて城氏に関係した遺跡と推定された［荒川 2007］。遺跡の南地区では、13 世紀後半～ 14 世紀の竪穴状遺構も見つかっている。堀越館は、1423（応永 30）年に陥落した「堀越之要害」に比定され、堀跡・区画溝・廃棄土坑・土坑墓とともに白磁・青磁・中国天目茶椀などの舶載品や茶入れ・茶壺・香炉・水注・茶臼などの茶道具が出土している［小田・浦部 2001］。近接する鴨深甲遺跡（144）も堀越館跡と同時期の集落である［高橋保雄ほか 2006］。西側の阿賀野川右岸には分田館跡（136）を中心に遺跡



第９図　白河荘復元図　（中野 1976 を基に作成）

集中域があり、玉泉寺の石仏など多くの石仏が散在している［小松ほか1995］。旧安田町の中心街には、安田氏の居城とされる安田城跡（40）を中心に遺跡集中域が認められる。さらに南側には、六野瀬館跡（41）や赤坂山砦跡（39）を中心に遺跡集中域があり、笹神古窯のひとつで13世紀中頃～後半に操業した瓷器系窯の赤坂山中世窯跡（319）［小田ほか2002］とその製品の積み出し場と推定される六野瀬遺跡（23）［石川ほか1992］を含んでいる。

山浦四箇条の範囲のうち折居川流域のＡⅠ区には、女堂館跡（183）や上の山塚群（233）を中心に石仏や製鉄跡が分布する。一方、ＡⅡ区には北側の北沢窯に代表される一群と南側の狼沢中世窯跡（236）をはじめとする一群の窯跡があり、笹神古窯の大半が集中する。これらのうち、北沢窯・背中炙窯跡（250）は須恵器系窯、狼沢１号窯・兎沢中世窯跡（248）・堤上窯跡（230）は瓷器系窯である。また、これらの周囲には製鉄跡も多数分布しており、この地区が大規模な生産域であったことが分かる。山浦四箇条の中心とされるＢ区は、寺社・墓・石仏といった宗教関連遺跡が多数集中する。華報寺（249）はその中心的な寺院であり、境内には多数の石仏や1299（永仁７）年銘時宗板碑、鎌倉期の大見行定の塔と推定される法篋印塔などの石造物がある。華報寺背後の急斜面には目洗沢中世墓域（251）や経沢中世墓域（276）、前面には蓮台野中世墓域（284）が営まれた。1283（弘安６）年の「大見行定譲状」では笹神丘陵での殺生禁断が記されているが、この背景にはこの地が霊場であることが考えられる。蓮台野では戦後の開墾の際に多数の石仏が出土しており、石仏の生産地と推定されている［中川1959］。また、阿賀野市内にある石仏207基のうち203基が華報寺周辺にある120基と同一型式であり、華報寺周辺で作られた石仏が白河荘や周辺に広がっていた可能性がある［水澤2002］。本地域には製鉄跡も数多くあるが、窯跡は瓷器系窯である権兵衛沢窯跡（285）のみが確認できる。Ｃ区では、平野部側の大室城跡（181）及び五頭山麓の村杉城跡（182）の周辺に製鉄跡や石仏が分布するが、窯跡は確認できない。

以上のように、各地域で認められた多数の遺跡集中域は、中世白河荘の代表的な村落を示しているものと考えられ、城館・集落遺跡・石仏などで構成され、地域によって窯跡・製鉄跡・石仏・塚が集中するなどの特徴がある。そして、こうした遺跡集中域は、境塚遺跡と山口野中遺跡とを結ぶ幹線道路に代表される陸上交通と、河川や潟を利用した内水面交通と有機的に結びついていたものと推測される。

Ｃ　古代の遺跡

律令期の遺跡周辺は越後国沼垂郡に属したと考えられる。『倭名類聚抄』によれば、沼垂郡には足羽・沼垂・加地の３郷があったとされるが、所在地については諸説あり一致を見ない。福島潟の東岸に立地する曽根遺跡（83）は、掘立柱建物を主体とする奈良・平安時代の大規模集落遺跡であり、円面硯、墨書土器、木簡などの存在から官衙関連遺跡と考えられる。福島潟へ流れ込む小河川の上流に位置する笹神丘陵には古代の窯業・製鉄遺跡が多く分布し、曽根遺跡ではその焼き損じも出土していることから、手工業製品の流通拠点としての役割も想定される［鶴巻2015］。発久遺跡（190）からも大量の木簡や墨書土器が出土しており、特に健児の在勤を示す木簡の存在が注目される［相澤2004］。また、「水人」と記された墨書土器の存在は、遺跡と水運との関連を示唆する。柄目木遺跡は小河川によって福島潟南岸と結ばれており、曽根遺跡と同様、水運と結びついた官衙関連遺跡と考えられる。阿賀野市域でも阿賀野川の氾濫原に近い旧水原町・京ヶ瀬村のエリアでは、一般国道49号阿賀野バイパス関連の発掘調査によって古代の遺跡分布の様相が判明してきた。山口遺跡では、石製巡方や国内で初例となる唐三彩の玩具が出土した［荒谷ほか2010、（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団2011］。蕪木遺跡（Ｃ）では、桁行６間で総柱の大型掘立柱

建物を検出した［鈴木・荒川ほか2018］。また、三辺稲荷遺跡では、竪穴建物から多くの墨書土器や緑釉陶器が出土した［阿賀野市教育委員会2008］。これらの遺跡は、官衙関連あるいは有力者の居住地と推定される。一方、柄目木遺跡や村前東Ａ遺跡［加藤ほか2010］は竪穴建物を主体とする小規模な集落遺跡であり、一般的なムラと評価できよう。なお、古代の遺構を伴う遺跡でなくても、発掘調査において古代の土器は普遍的に出土していることから、周辺に多くの集落が存在する可能性は高いと言える。

Ｄ　縄文時代の遺跡

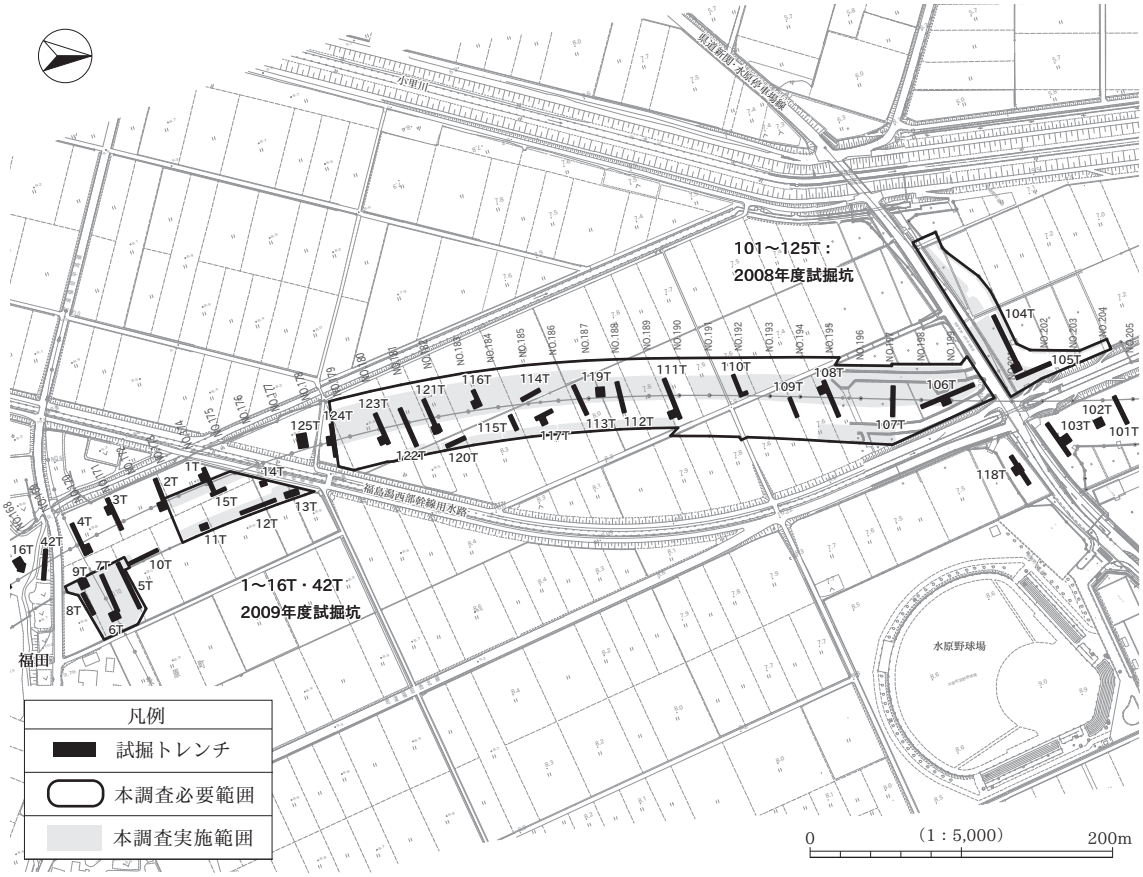
山口野中遺跡・石船戸東遺跡（Ｂ）の遺跡周辺は、土橋（どばし）北遺跡（225）・村北（むらきた）遺跡（227）など、阿賀野川の旧河道が形成した自然堤防上に立地する縄文時代の後・晩期の遺跡が発見されている。山口野中遺跡では、晩期後葉の竪穴建物、堅果類・魚類などの食物残滓を燃焼した炭化物の集積、埋設土器などが検出された［村上ほか2015］。石船戸東遺跡は、明瞭な遺構は検出されなかったが、晩期前半と晩期後半の遺物が出土している［小野本・石川・加藤ほか2019］。土橋北遺跡は、後期と晩期の２面の遺構面があり、そのうち晩期の遺構・遺物は縄文時代から平安時代まで継続して流れていた小河川の周辺に多く、土器集中・炭化物集中・炉跡・埋設土器などが見つかっている［佐藤ほか2019］。

第Ⅲ章　石船戸東遺跡Ⅲ

1　調　査　経　過

A　試掘確認調査

当遺跡にかかる範囲の試掘確認調査は、2008・2009（平成 20・21）年度に行った。2008 年度は６～７月と 12 月の２回実施した。６～７月は、小里川～県道新関・水原停車場線間が対象で、はじめて当遺跡に係る範囲が試掘調査対象となった。当遺跡が新発見されたのは、調査対象地の南端にあたる。県道新関・水原停車場線より北側（新潟市側）の 3,366㎡において古代の遺構・遺物を検出したが、遺跡の縁辺部と考えられ、詳細を明らかにできなかった。遺跡は県道を挟んだ南側（福島県側）に広がることが想定されたため、遺跡範囲の確定と名称は今後の調査で検討されることになった。12 月は、県道新関・水原停車場線～福島潟西部幹線用水路間を対象に調査を行われた。対象面積 23,450㎡に対し、20 か所のトレンチを任意に設定。実質調査面積は、826㎡で確認率は 3.5% であった。表土直下から古代・中世の遺構を検出し、下位から縄文時代晩期と縄文時代中期～後期の遺物包含層を検出した。縄文時代の遺物包含層は、調査対象地の広範囲に広がるが、遺物の出土は散発的であった。よって、上層（古代・中世）の本発掘調査終了後、下層（縄文時代）の確認調査を実施して取り扱いを判断することが必要とされた。この結果を



第 10 図　試掘トレンチ位置図

（原図：国土交通省提供　小野本・石川・加藤ほか 2019 を一部改変）

受け、県道北側も含めた全体を石船戸東遺跡として周知化し、杭 No.178+10 ～ 204 付近の計 24,126 ㎡に対して本発掘調査が必要であると報告した。2009 年度は、福島潟西部幹線用水路～福田・小境地区の試掘調査を実施した。対象面積 50,715㎡に対し、63 か所のトレンチを任意に設定。実質調査面積は、2065.4㎡で確認率は 4.1% である。このうち、福田集落近接部まで石船戸東遺跡からの広がりが認められた。11 か所のトレンチから計 3,730㎡の範囲で古代・中世の遺構・遺物を検出し、その下位に縄文時代の遺構・遺物も検出した。この結果を受け、延べ面積 7,460㎡（3,730㎡×２面）の本発掘調査が必要と判断されている［小野本・石川・加藤ほか 2019］。

Ｂ　本 発 掘 調 査（第１～３次調査）

石船戸東遺跡の本発掘調査対象範囲は、総延長 700m にも及ぶ広大な範囲である。そこで、農道･水路･工事用道路を境に１～７区に設定した（図版１・２）。試掘調査の結果から、上層の遺構密度は高く、下層にも遺物包含層が良好に存在すると考えられた。よって年度当初は１・２・３区の上層と７区の上層・下層のみ約 12,000㎡が調査対象となったが、2015（平成 27）年度は最終的には延べ 19,000㎡（9,500㎡×２層）の調査を終了している。2016（平成 28）年度は、約 4,500㎡が調査対象となった。最終的に延べ 3,826㎡（上層 2,782㎡＋下層 844㎡）の調査を実施し、2012（平成 24）年の覚書に基づく暫定２車線施工分の調査を終了している。2018（平成 30）年度、図版作成・原稿執筆等は、現地作業と併行して実施した整理作業でほぼ終了していたことから、一部の原稿執筆と遺物写真撮影を実施した。遺物のトレース及び全体の編集作業は、民間業者に委託して編集・校正作業の終了後、2019（平成 31）年３月に報告書を刊行した［小野本・石川・加藤ほか 2019］。また、2016 年度に調査した北西側を 2021 年度に石船戸東遺跡Ⅱ第３次調査（８区）として 160㎡の追加調査を行った。報告書は 2023（令和５）年度に刊行した。

遺跡は、阿賀野川の右岸、標高約７m の低地に立地する。現況は水田である。縄文時代晩期、古代には遺物の出土はあるものの、遺構もほとんどなく、散発的で集落の形成は認められない。中世（13 ～ 14 世紀）に入ると集落を形成する。遺跡内で約 400m 離れた二つの調査区で建物、井戸等が確認され、集落が２か所存在したことが判明した。４～６調査区では掘込田と思われる凹地遺構が確認され、集落と農地がセットとなった中世前期に特徴的な散村的な景観が広がっていたものと思われる。集落内の井戸側に転用された丸木舟は非常に保存状態が良く、内水面交通の利用を示す重要な資料である。15 世紀には集落が断絶するが、一方で「火葬土坑」を用いた荼毘場としても利用されていた［小野本・石川・加藤ほか 2019］。

Ｃ　本発掘調査の経過（第４次調査）

2022（令和４）年度の調査は、1,373㎡を対象に５月 16 日から 11 月７日まで実施した。調査地は２調査区に分かれており、現地調査では北側の調査区をＡ区、南側をＢ区として調査を進めたが、報告書作成段階で過年度調査との統一性を図るため、Ａ区を９区、Ｂ区を 10 区と改めた（図版１）。５月上旬から９区の調査準備に着手。草刈りや調査範囲の設定、搬入路の確保、機材の搬入を行った。５月 16 日から重機にて表土掘削を行い、後追いで順次、整地作業、遺構検出を行った。検出状況の空中写真をドローンにて撮影。オルソ画像から略図を作成し、検出状況図として遺構番号を付した。土層堆積状況が把握できるように断面観察ベルトを設定または半截して、遺構の掘削を移植ゴテや竹ベラ等を用いて行った。記録作成については随時、遺構断面および完掘写真をデジタルカメラで撮影した。図面の作成は、断面図は手

測り、平面図はトータルステーションにて計測した。調査中の遺構の保護は、コンパネとブルーシートを用いて養生した。

6月24日から10区一部（北半）の表土掘削を行い、9区と並行しながら調査を行った。7月4日、9区上層の完掘写真撮影をラジコンヘリコプターで行った。9区の補足調査、遺構計測を終えて、同月13日より下層の掘削に着手した。標高7.8mの現地表面から約－2.0mの標高6.0mまで掘削して遺構検出を試みたが遺構、遺物ともに確認できなかった。記録を作成した後、同月19日に終了確認を終えた。9区の調査面積は上層572㎡、下層38㎡である。翌日から埋め戻しを行い、同月28日、9区の調査を終了した。

9区終了後は、10区の調査に専念した。表土掘削を行った北半は8月9日に完掘、同月22日に測量を終え、北半の調査を終了した。残りの南半については、稲作中の水田が東側に隣接するため、崩落等の安全を考慮して稲刈り後の9月20日から表土掘削を行い、同月26日より作業員を再度動員して作業を再開した。10区のラジコンヘリコプターでの完掘写真を10月27日に行った。同月28・31日に下層の確認調査を行った。標高8.6mの現地表面から約－2.4mの標高6.2mの砂礫層まで掘削したが、遺構、遺物ともに確認できなかった。10区の調査面積は上層734㎡、下層29㎡である。11月1日には新潟県観光文化スポーツ部文化課（以下、新潟県とする）による終了確認を終えた。若干の補足調査などを行って、同月7日に現地調査を終え、同月15日に埋め戻しを終了した。

D　下層（縄文時代）の確認調査

【9区】（図版2・16）

15N～17N、15O～17Oグリッドに東西5.3m、南北22.9mのトレンチを設定した。掘削は重機で慎重に行いⅩⅠ層およびⅩⅢ層の縄文時代晩期の遺物包含層と遺構の確認を行った。調査面積は38㎡となる。標高6.8～6.5mに堆積するⅩⅠ層は10YR6/1～6/2褐灰色シルトで僅かに炭化物を含む有機土壌で暗色帯となる。標高6.7～6.3mに堆積するⅩⅢ層は10YR6/1～6/2褐灰色シルトで部分的に炭化物を多く含む有機土壌の暗色帯となる。過年度調査のⅩⅠ層・ⅩⅢ層に対応していると考えるが、遺構、遺物ともに確認できなかった。ⅩⅢ層以下、標高6.2～6.0mでⅩⅥ層5Y6/1灰色細粒砂～中粒砂となり、これより下層には遺物、遺構ともに存在しないと判断した。なお、ⅩⅦ層は砂脈として上昇し、Ⅵ層下面、Ⅷ層上面で噴出する噴砂を観察した。砂脈の北側には褶曲（しゅうきょく）のような不自然な堆積が観察できた。Ⅷ層の時期は特定できないが、周辺の事例から9世紀後半に発生した地震の可能性が高い。

【10区】（図版16）

39N・40N、39O・40Oグリッドに東西4.2m、南北17.6mのトレンチを設定した。掘削は重機で慎重に行いⅩⅠ層およびⅩⅢ層の縄文時代晩期の遺物包含層と遺構の確認を行った。調査面積は29㎡となる。標高7.0～6.9mに堆積するⅩⅠ層は10YR5/2灰黄褐色シルト～粘質土で極僅かに炭化物を含む有機土壌で暗色帯となる。標高6.8～6.7mに堆積するⅩⅢ層は10YR6/2灰黄褐色粘質土で極僅かに炭化物を含む有機土壌の暗色帯となる。9区同様、過年度調査のⅩⅠ層・ⅩⅢ層に対応していると考えるが、遺構、遺物ともに確認できなかった。また、ⅩⅢ層以下、標高6.3～6.6mでⅩⅥ層10YR4/6褐色粗粒砂～極粗粒砂（砂礫）直径1～10cm程の石が10%以上、これより下層には遺物、遺構ともに存在しないと判断した。

E　整理作業の経過

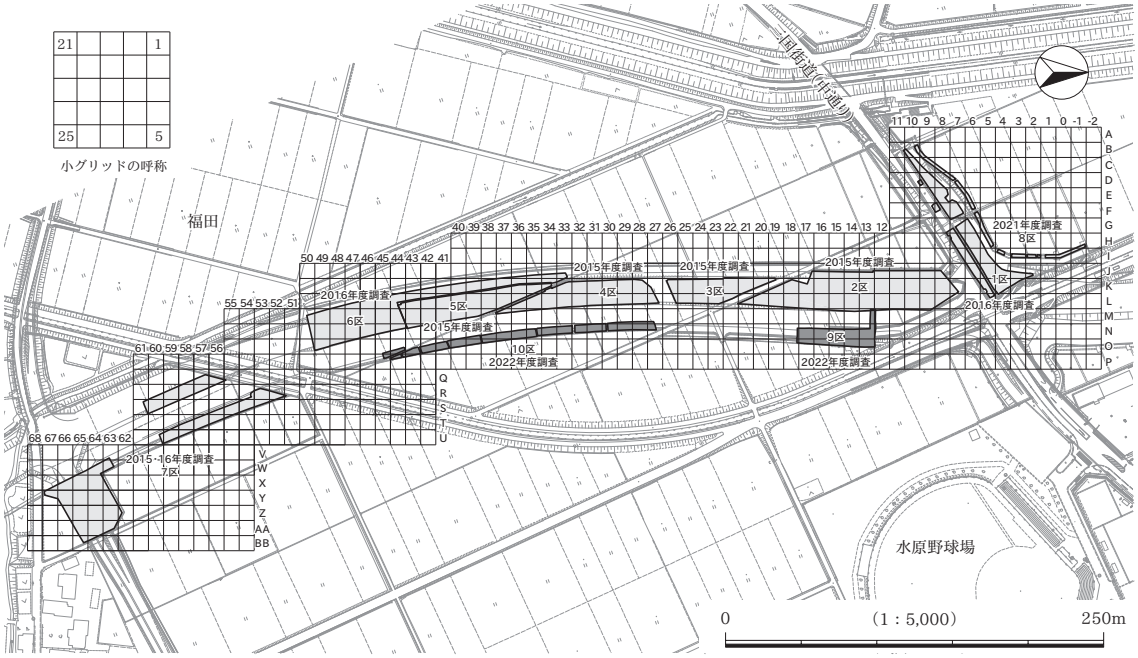
整理作業は、調査と並行しながら、記録類（図面･写真）の整理、遺物の洗浄･注記を現場事務所で行った。発掘調査了後の 11 月下旬以降は、新潟市江南区曽川甲に所在する株式会社ノガミ整理作業所に移転して遺構図版の作成、遺物のトレース・図版作成、本文の執筆などの報告書作成を行った。本文・遺構・遺物の図版及び写真図版の作成及び編集は、テキストデータ・挿図原図・遺構測量データ・遺構原図・遺物トレース図・レイアウト図案を作成、印刷用データで納品した。2023 年度は印刷用データの確認・調整等を行い、株式会社ウィザップに印刷用データを支給して印刷製本し、報告書を刊行した。

報告書作成段階で過年度調査との統一性を図るためＡ区を９区、Ｂ区を 10 区と改め、本書では９・10 区を用いているが、現地調査で作成した記録類は書き写し等の過誤を防ぐため改めていない。

2　調 査 の 概 要

A　グリッドと調査区の設定（第 11 図）

調査区の呼称は便宜上、北に位置する調査区を９区（Ａ区）、南の調査区を 10 区（Ｂ区）とした。グリッドの設定は、2015・2016 年度の調査で設定したものを踏襲した。国家座標Ⅷ系に沿って 10m の方眼を組み込み、これを大グリッドとした。大グリッドの呼称は、北から南へアラビア数字で 12 ～ 45、西から東へアルファベットの大文字でＬ～Ｐとした記号を組み合わせ、12L・13L……、12 M・13 M……、12N・13N……のように表示した。さらに大グリッド内を 25 分割し、北西隅を１、北東隅を５、南西隅 21、南東隅を 25 となるように番号を付し、大グリッド番号との組み合わせで「12L25」等と表した。10 区に近い 35L グリッド北西隅の座標は、X=201,990、Y=62,930 である。



第 11 図　グリッド設定と調査区

（原図：国土交通省提供　小野本・石川・加藤ほか 2019 を一部改変）

Ｂ　基　本　層　序（図版 16・42・55）（第 12 図）

過年度調査において、基本層序はⅠ層～ⅩⅥ層に分層されており［小野本・石川・加藤ほか 2019］、今回の調査もその層序を踏襲する（第 12 図）。今回の調査地 9・10 区ではⅡ層（中世遺物包含層）・Ⅲ層（漸移層）はほ場整備による削平が著しく検出できなかった（第 12 図 No.22・23）。遺構の検出面はⅠ層（表土）下のⅣ層上面となる。Ⅶ層とⅨ層も今回の調査では確認できなかった。炭化物を有する暗色帯はⅥ・Ⅸ・ⅩⅠ・ⅩⅢ層である。また、地震痕跡が顕著に認められ、ⅩⅦ層は砂脈として上昇し、Ⅵ層下面、Ⅷ層上面で噴出する噴砂を確認した。下層の遺物包含層は、ⅩⅠ層とⅩⅢ層とされている。遺構・遺物が存在する可能性を考慮しながら慎重に掘削を進めたが、今回の調査では、ⅩⅠ・ⅩⅢに対応する炭化物を含む有機土壌の暗色帯は確認できたが、遺構・遺物ともに確認できなかった。暗色帯の堆積時期は一定期間、地表面であった可能性が高く、一方、暗色帯間の間層は炭化物や混入物を含まない均質なシルトであった。これは洪水性の堆積物である可能性が高く、洪水を繰り返すような土地であったと考えられる。阿賀野川は、かつて遺跡近くの旧百津潟付近を流れており、現在より洪水災害を被る頻度が高かったと推測される。

Ⅰ層　灰色シルト　表土（現代の水田耕作土）

Ⅱ層　暗褐色シルト　ほ場整備により削平されたため、基本的には残存しない。上層の遺構覆土と共通しており、上層（中世）の遺物包含層に相当すると考えられる。今回の調査では確認していない。

Ⅲ層　黄褐色シルト　上層の遺物包含層であるⅡ層と、地山であるⅣ層の間に部分的に認められる漸移層。Ⅳ層より、ややくすむ。ほ場整備により削平されているため、基本的には残存しない。

Ⅳ層　明黄褐色砂質シルト～にぶい黄色シルト 2.5Y6/3 ～ 6/2　黄色系。上層の遺構検出面。

Ⅴ層　灰白色粘質シルト～灰黄色シルト 2.5Y6/2　灰色系。粒子が細かく粘性が強い。均質。

Ⅵ層　にぶい黄褐色シルト～灰黄褐色シルト 10YR4/2 ～ 5/2　褐色系の暗色帯。炭化物をまばらに極僅か含む。

Ⅶ層　にぶい褐色シルト 7.5YR5/4 ～ 5/6

Ⅷ層　灰黄色シルト～黄褐色シルト 2.5Y5/3　暗色帯間の間層。均質。

Ⅸ層　浅黄色シルト 2.5Y7/3 ～ 6/3　褐色系の暗色帯。炭化物をごくまばらに含む有機土壌。

Ⅹ層　浅黄色シルト 2.5Y7/3　暗色帯間の間層。Ⅸ層と比べると色調が明るい。均質。

ⅩⅠ層　褐灰色シルト 10YR6/1 ～ 6/2　粘性が強い。褐色系の暗色帯。炭化物をごくまばらに含む有機土壌。

ⅩⅡ層　浅褐色シルト 2.5Y7/3 ～ 6/3　粘性が強い。

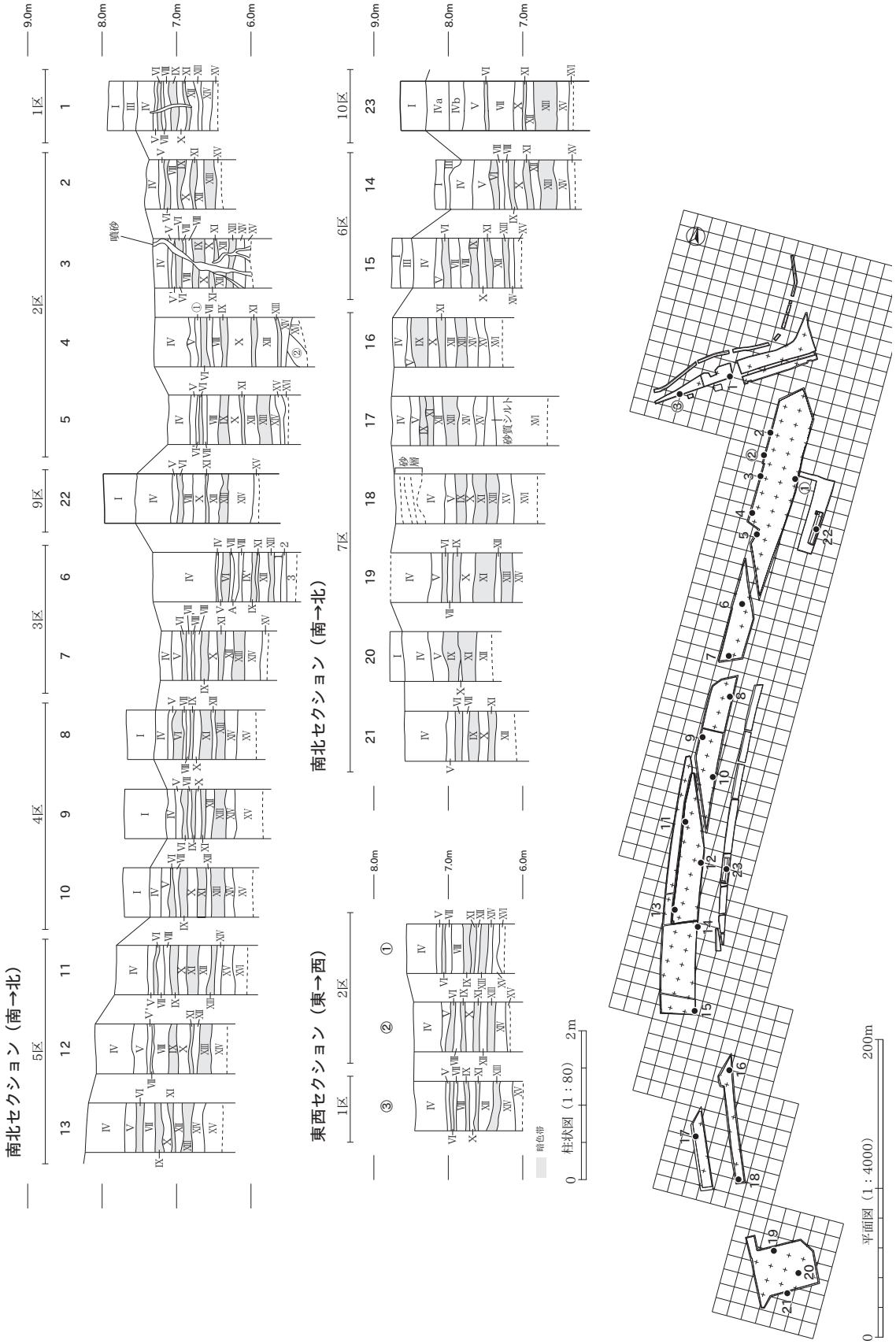
ⅩⅢ層　褐灰色シルト 10YR6/1 ～ 6/2　褐色系の暗色帯。部分的に炭化物を多く含む有機土壌。

ⅩⅣ層　褐灰色シルト 10YR6/1 ～ 7/1　粘性が強い。ⅩⅢ層と比べると明るい色調。

ⅩⅤ層　灰色細粒砂混シルト 2.5Y6/2 ～ 7/2　均質な砂混シルト。混入物はない。

ⅩⅥ層　灰色細粒砂 5Y6/1 ～褐色粗粒砂～極粗粒砂（砂礫）10YR4/6　部分的にグライ化作用により青灰色を帯びる。

ⅩⅦ層　明褐色細～中粒砂 7.5Y5/4 ～ 5/6（噴砂）



第 12 図　基本層序　　（小野本・石川・加藤ほか 2019 に加筆）

C　遺構・遺物の検出状況

遺跡は、阿賀野川の旧河道にできた旧百津潟の縁に広がる。掘削前の標高は８ｍ程で若干の比高差はあるがほぼ平坦である。調査対象範囲の総延長は南北に 650m にも及ぶ広範囲である。過年度調査では、１ｍ程の間層を挟み、大きく上層と下層に分かれる。上層の遺構は表土（耕作土）下で検出しており、いずれも中世（12 ～ 14 世紀）のものである。過年度調査では、下層の遺物包含層は間層を挟んで上下に細分され、上位のＸＩ層からは縄文時代晩期後半、下位のＸⅢ層からは縄文時代晩期前半の遺物が出土している。掘り込みを持つ明瞭な遺構は確認されず、土器が散在するのみと報告されている。

【上層】

中世(12～14 世紀)の掘立柱建物６棟、井戸１基、中世および近世以降の土坑 37 基、溝 53 条、ピット（小穴）308 基、性格不明遺構１基を検出した。中世の遺構は 10 区の中央に集中する傾向があり、９区は希薄である。近世以降の遺構については詳細を割愛する。

９区の遺構は主に溝である。過年度調査の溝に続く可能性がある。10 区の遺構は、掘立柱建物、井戸、土坑、溝、ピット（小穴）群と集落を構成した遺構と捉えられる。遺構の時期は 12 世紀～ 14 世紀と考えられる。

遺物は珠洲焼・青磁・白磁・土師質土器・砥石・鉄製品などが遺構内及び遺構検出面から出土した。土器類はいずれも小片で器種や形態、時期の特定が困難であるが、近世以降を除いて概ね 12 ～ 14 世紀の範疇で大過ないと考えられる。数は少ないものの、青磁や白磁の存在を勘案すると、相応な階層の存在をうかがい知ることができる。

【下層】

過年度調査において、ＸＩ層は縄文時代晩期後半、下位のＸⅢ層は縄文時代晩期前半とされている。今回の調査では辛うじて対応する層位を確認することはできたが、炭化物等の有機質の含有率も少なく、遺構や遺物の確認には至らなかった。

3　上層（中世以降）の遺構

A　概　　要

発掘調査は対象範囲を９区・10 区の２区に分けて行なった。遺構番号は過年度調査に続けて 2101 番から各区共通で通し番号を付した。基本層序Ⅳ層の上面で中世以降の遺構を検出した。このうち中世に属するものは、掘立柱建物６棟、井戸１基、土坑 37 基、溝 32 条、ピット（小穴）308 基（掘立柱建物を含む）、性格不明遺構１基とした。なお、調査範囲のほぼ全域でほ場整備等による削平を受けているため、Ⅳ層上面が中世の生活面というわけではない。また、調査範囲は南北方向が長いものの、東西方向が狭く、遺構の全容をつかめないものが多々あった。９区では全域で遺構を確認することができたが、遺構密度は低い。10 区は遺構の分布に粗密があるものの、35N グリッドから 41O グリッドにかけて今回調査のほとんどの遺構が集中した。標高は９区北端部が 7.3m、10 区南端部では 8.4m、調査範囲の南北間約 330m の比高差は 1.1m あり、Ⅳ層の土質は北から南に向かってシルトから極細粒砂の割合が高くなっていく。中世遺構の年代は出土遺物が少なく明瞭ではないが、過年度調査や覆土などを参考に検討を行ったところ 12 ～ 14 世紀に属すると考えられる。以下、中世帰属の遺構について述べる。また、近世以降の溝と判

断されるものは、図版で上端のみを図示した。

Ｂ　９区の調査

１）　遺構の検出状況

検出した遺構は、土坑２基、ピット（小穴）21 基、溝 20 条を数える。このうち、土坑２基とピット（小穴）21 基、溝 10 条は中世に帰属すると判断した。ここでは主な遺構について記述する。

２）　土　　坑

土坑は２基検出した。

SK2116（図版４）

13N グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径 78cm、深さ 24cm を測る。覆土は２層でレンズ状に堆積する。断面形は台形状で、側壁は急斜度・緩やかに立ち上がる。SD2117 と重複し、これより新しい。

SK2141（図版４・40）

16N グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径 119cm、深さ 66cm を測る。覆土は８層でブロック状に堆積する。断面形は台形状で、側壁は垂直に立ち上がる。

３）　溝

溝は 10 条が中世に帰属すると判断した。SD1 は 2015 年度調査２区で検出された溝の延長である。

SD1（図版３・４・40）

12M、13M グリッドを北西 - 南東方向に伸びる。覆土は２層でレンズ状に堆積する。断面は台形状で、壁面は急斜度に立ち上がる。土師質土器、石製品が出土した。

SD2104（図版３・４・40）

13M グリッドを北西 - 南東方向に伸びる。覆土は２層でレンズ状に堆積する。断面は台形状で、壁面は急斜度に立ち上がる。

SD2105（図版３・４・40）

15O グリッドを北東 - 南西方向に伸びる。覆土は２層で斜位に堆積する。断面は台形状で、壁面は南面が緩やか、北面が急斜度に立ち上がる。

SD2106（図版３・４・40）

15N・O グリッドを北東 - 南西方向に伸びる。覆土は１層のみで暗褐色シルトが主体である。断面は漏斗状で、壁面は垂直・緩やかに立ち上がる。遺物は、石製品（軽石）が出土した。

SD2107（図版３・４・40）

15・16O グリッドを北西 - 南東方向に伸びる。覆土は１層のみで暗褐色シルトが主体である。断面は台形状で、壁面は急斜度に立ち上がる。

SD2109（図版３・４・40・41）

15N、16N・O グリッドを北西 - 南東方向に伸びる。覆土は２層でレンズ状に堆積する。断面は半円状で、壁面は急斜度に立ち上がる。北端は 15N19 グリッドで収束するが、同一線上 2m 先に SD2133 の南端がある。西側に SD2110、東側に SD2107 が存在し、約 2m の間隔で並行関係にある。遺物は、須

恵器壺甕類（図版 17- 1）、土師質土器、珠洲焼壺・甕（図版 17- 2 ・ 3）・片口鉢が出土した。

SD2110（図版 3 ・ 4 ・40・41）

15N、16N・O、17N・O グリッドを北西 - 南東方向に伸びる。覆土は 5 層でブロック状に堆積する。断面は階段状で、壁面は急斜度に立ち上がる。SD2134 と重複し、ほぼ同時期に機能したと思われる。SD2109・SD2133 と約 2m の間隔で並行関係にあり、15N13 グリッドで SD2134 と直角に交わる。未調査部分を挟むため関連性は不明だが、北西の同一線上に SD1 が位置している。遺物は、土師質土器杯（図版 17- 4 ～ 6）、珠洲焼片口鉢・壺甕類（図版 17- 7 ～ 11）、白磁（図版 17-12）、珠洲焼転用砥石（図版 17-13）出土した。 2 層から出土した炭化材の樹種はカツラで、年代は 13 ～ 14 世紀との結果を得ている（本章 5 ）。

SD2117（図版 3 ・ 4 ・42）

13N・O グリッドを西からやや南東に湾曲している。覆土は 2 層でレンズ状に堆積する。断面は台形状で、底面はやや凹凸があり、壁面は急斜度に立ち上がる。SK2116、P2119 と重複し、SK2116 より古く、P2119 より新しい。

SD2133（図版 3 ・ 4 ・41・42）

14・15N グリッドを北西 - 南東方向に伸びる。覆土は 2 層でレンズ状に堆積する。断面は漏斗状で、壁面は緩やかに立ち上がる。SD2134 と重複し、ほぼ同時期に機能したと思われる。15N 8 ・ 9 グリッドで SD2134 と直角に交わる。同一線上に SD2109 の北端がある。遺物は、土師質土器、土製品が出土した。

SD2134（図版 3 ・ 4 ・41・42）

15N グリッドを北東 - 南西方向に伸びる。覆土は 2 層でレンズ状に堆積する。断面は半円状で、壁面は急斜度に立ち上がる。SD2110、SD2133 と重複し、ほぼ同時期に機能したと思われる。これらとは 15N 8 ・ 9 グリッドでそれぞれ直角に交わる。

C　10 区の調査

1）　遺構の検出状況

上層で検出した遺構は、掘立柱建物 6 棟、井戸 1 基、土坑 35 基、溝 33 条、ピット（小穴）287 基、性格不明遺構 1 基を数える。このうち、溝 11 条を除く遺構は中世に帰属すると判断した。調査区は南北に細長く、幅 4m 前後、長さ 190m 超である。27N ～ 34N グリッドまで遺構は疎らで、土坑 1 基、溝 4 条、ピット（小穴）3 基のみである。35N ～ 38O グリッド間では、掘立柱建物 5 棟、井戸 1 基など多数の遺構が検出されている。調査区西側の約 12.5m 先には 2015 年度に調査された 4 ・ 5 ・ 6 区が位置している。この 5 区は遺構が集中しており、中世に帰属する掘立柱建物 1 棟、土坑 21 基、ピット（小穴）205 基、溝 18 条、火葬関連遺構 10 基を検出している。 5 区北側から中央部にかけて北西から南東へ SD838、SD839 などの溝が走り、その西側にピット（小穴）が集中している。10 区はその東側に位置し、西と南の溝を境にした遺構集中域となっている。ここでは主な遺構について記述する。

2）　掘 立 柱 建 物

掘立柱建物は 6 棟検出した。SB13 を除き、SB14 ～ 18 は調査区外へ展開する。建物型式の内訳は、SB13 の二面下屋付梁間一間型建物 1 棟が型式分類が可能で、残る 5 棟は梁間一間型建物 1 棟、一面以上

の下屋付梁間一間型建物１棟、二面下屋付梁間一間型建物２棟、総柱型建物１棟と推測され、梁間一間型建物が主体を占めると考えられる。長軸方向は９～ 54°東偏するものと、15 ～ 23°西偏するものがある。面積は調査区内の現状推定でSB14の4.88㎡が最も小さく、SB18の47.47㎡が最も大きい。SB16は、「馬小屋・厩舎の判断基準」［篠崎 2010］に基づくと馬小屋の可能性がある。

SB13（図版８・43）

35・36N グリッドに位置する。梁間１間、桁行１間、二面下屋付梁間一間型建物Ⅰａ型である。梁行長は 2.10m、桁行長は 2.85m、面積は 5.98㎡である。桁行柱間長は 1.90 ～ 2.13m である。主軸は 16°西偏する。SK2317 と SD2429 と重複し、SD2429 より古く、SK2317 は不明である。柱穴の平面形は円形・楕円形である。

SB14（図版 12・43）

36N グリッドに位置する。梁間１間、桁行１間以上の梁間一間型建物で類型はⅡａ型と推定される。SB15 と重複し、これより古い。梁行長は 3.07m、桁行長は 1.65m 以上、面積は 4.88㎡以上である。梁行柱間長は 1.47 ～ 1.57m である。主軸は 15°西偏する。柱穴の平面形は円形・楕円形・方形である。

SB15（図版８・43）

36N グリッドに位置する。梁間１間、桁行１間以上の二面下屋付梁間一間型建物Ⅰｃもしくは Ⅱｂ型と推定される。SK2318、SB14 と重複し SK2318 は新旧不明、SB14 より新しい。梁行長は 2.20m 以上、桁行長は 5.60m 以上、面積は 21.29㎡以上である。桁行柱間長は 2.34 ～ 2.41m である。主軸は 54°東偏する。柱穴の平面形は円形・楕円形である。

SB16（図版９・43）

36・37N グリッドに位置する。梁間１間以上、桁行２間の一面以上の下屋付梁間一間型建物Ⅰａ型またはⅠｂ型と推定される。SD2172 と重複し、これらより古い。桁行長は 8.15m、梁行長は 3.35m 以上、面積は 27.3㎡以上である。身舎桁行長は 6.80m である。桁行柱間長は 3.12 ～ 3.74m である。主軸は 23°西偏する。柱穴の平面形は円形・楕円形である。身舎柱間に土坑３基（SK2180・2236・2308）と柱穴４基（P2230・2302・2304・2314）が等間隔で一直線上に配置されている。

SB17（図版 10・44）

37N・O、38N・O グリッドに位置する。梁間２間、桁行３間の二面下屋付梁間一間Ⅰｃもしくは Ⅱｂ型と推定される。片側の妻側面に妻柱 P2249 を持つ。梁行長 3.92m 以上、桁行長 5.08m、面積 37.2㎡である。梁行柱間長は 1.40 ～ 1.80m、桁行柱間長は 1.80 ～ 3.07m である。主軸は９°東偏する。柱穴の平面形は円形・楕円形である。また、建物範囲内に SE2161・SK2241 が存在する。SE2161 は建物内北側に位置し、柱筋とも重複しないことから同一時期に機能していた可能性がある。

SB18（図版 11・44）

40・41O グリッドに位置する。梁間２間、桁行４間の総柱建物と推定される。推定値は梁行長 5.86m 桁行長 8.10m 面積は 47.47㎡である。桁行柱間長は 1.52 ～ 2.00m、梁行柱間長は 2.60 ～ 2.87m である。主軸は 21°東偏する。柱穴の平面形は円形・楕円形である。

３）井　　戸

井戸は１基検出した。2015、2016 年度調査では２区で３基、７区で５基を検出している。SE2161 の検出面は標高 8.08 ～ 8.14m、深さ 221cm で、標高 5.9m あたりで地下水位にあたる。過年度調査で

報告された標高 5.5 ～ 5.7m 以下で地下水が豊富に含まれるという記述と大きな差はない。

SE2161（図版 12・45）

37N・O、38N・O グリッドに位置し、SB17 の建物範囲内にある。井戸枠の無い素掘りの井戸である［宇野 1982］。覆土は 13 層で水平・レンズ状・水平に堆積する。１・２層は暗褐色シルト、３・４層は黒褐色シルト、５・７・８層は炭化物層である。水溜りである 11 層中から曲物が出土し、掘方は中～粗粒砂を含むオリーブ灰～緑灰色シルトであった。底部 13 層は礫敷である。平面形は円形で、断面形は台形状である。規模は上端長径 136cm、深さ 221cm を測る。遺物は１層から砥石（図版 18-35・36）、５層から珠洲焼細片、曲物直上の 10 層底部から木製紡錘車（図版 18-37）が出土した。曲物の樹種はスギで、破片の年代は 11 ～ 12 世紀との結果を得ている（本章５）。

４）土　　坑

土坑は 35 基検出した。SK2180・SK2236・SK2308 は SB16 に付属すると推測される。SK2318 は被熱面、炭化物層を持つが上部のほとんどは削平を受けているため使用目的は不明である。

SK2157（図版 12・45）

33N グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径 96cm、深さ 20cm を測る。覆土は１層で褐灰色シルト～極細砂が主体である。断面形は台形状で、側壁は急斜度に立ち上がる。

SK2160（SB16）（図版 12・45）

37N グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径 117cm、深さ 39 ～ 50cm を測る。覆土は３層でレンズ状に堆積し、１層下部で炭化物を確認した。2・3 層は炭化物を微量に含む。断面形は台形状で、側壁は緩やかに立ち上がる。SD2172、SD2519 と重複し、これらより古い。遺物は、土師質土器、鉄製品、種子が出土した。

SK2162（図版 12・46）

39N グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径 127cm、深さ 36cm を測る。覆土は１層で暗褐色シルトが主体である。断面形は台形状で、側壁は急斜度に立ち上がる。遺物は、須恵器が出土した。

SK2164（図版 12・46）

35N グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径 82cm、深さ 26cm を測る。覆土は１層で 10mm の炭化物を微量に含む。断面形は台形状で、側壁は急斜度に立ち上がる。P2171 と重複し、これより古い。

SK2165（図版 12・46）

35N グリッドに位置する。ほ場の排水設備があったため全掘には至っていないが、畔の反対側には平面、断面上とも遺構は認められなかった。平面形は方形もしくは長方形で、規模は長径 190cm、深さ 13cm を測る。覆土は３層でブロック状に堆積する。断面形は階段状で、側壁は緩やかに立ち上がる。P2524 と重複し、これより古い。付帯する溝、ピットは認められなかった。

SK2175（図版 13・48）

35N グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径 133cm、深さ 10cm を測る。覆土は１層で暗褐色シルトが主体である。断面形は不整形で、側壁は緩やかに立ち上がる。P2195 と重複し、これより新しい。

SK2180（SB16）（図版９・46）

37N グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径 145cm、深さ 32cm を測る。覆土は２層でレンズ状に堆積する。断面形は台形状で、側壁は急斜度に立ち上がる。

SK2190（図版６・46）

36N グリッドに位置する。平面形は不整形で、規模は長径 53cm、深さ 19cm を測る。覆土は１層で暗褐色シルトが主体である。断面形は台形状で、側壁は急斜度に立ち上がる。

SK2200（図版 13）

39N グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径 71cm、深さ 22cm を測る。覆土は１層で暗褐色シルトが主体である。断面形は台形状で、側壁は急斜度に立ち上がる。

SK2210（図版 13・46）

35N、36N グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径 113cm、深さ 34cm を測る。覆土は３層でブロック状に堆積し、２層は炭化物を微量に含む。断面形は台形状で、側壁は急斜度に立ち上がる。P2316、P2508 と重複し、これらより古い。遺物は、土師質土器が出土した。

SK2234（図版 13・47）

36N グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径 93cm、深さ 38cm を測る。覆土は２層でレンズ状に堆積する。断面形は箱状で、側壁は垂直に立ち上がる。P2216、P2445 と重複し、P2216 より古く、P2445 より新しい。

SK2236（SB16）（図版９・47）

37N グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径 140cm、深さ 27cm を測る。覆土は３層でレンズ状に堆積し、２層は炭化物を微量に含む。断面形は台形状で、側壁は急斜度に立ち上がる。SK2303・P2320・P2328 と重複し、SK2303 より新しく、P2320・P2328 と同時期か新しい。遺物は、珠洲焼片口鉢が出土した。

SK2241（図版 13）

38O グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径 75cm、深さ 7cm を測る。覆土は１層で暗褐色シルトが主体である。断面形は台形状で、側壁は緩やかに立ち上がる。P2315 と重複し、これより古い。

SK2283（図版 13）

37N グリッドに位置する。平面形は不整形で、規模は長径 98cm、深さ 29cm を測る。覆土は３層でレンズ状に堆積し、２層は炭化物を微量に含み、３層は主に炭化物である。断面形は半円状で、側壁は急斜度に立ち上がる。P2527・P2528 と重複し、これらより新しい。

SK2286（図版 13・47）

36N グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径 105cm、深さ 32cm を測る。覆土は１層で、5mm の焼土ブロック、炭化物を微量に含む。断面形は箱状で、側壁は垂直に立ち上がる。P2287、P2480 と重複し、P2287 より古く、P2480 より新しい。

SK2303（図版 13・47）

37N グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径 60cm、深さ 21cm を測る。覆土は１層で、上半は炭化物を微量に含む。断面形は台形状で、側壁は緩やか・急斜度に立ち上がる。SK2236、P2304 と重複し、これらより古い。

SK2308（SB16）（図版９・47）

36N、37N グリッドに位置する。平面形は不整形で、規模は長径 137cm、深さ 30 ～ 59cm を測る。覆土は５層でブロック状に堆積し、２層は炭化物を微量に含む。断面形は台形状で、側壁は急斜度に立ち上がる。P2230 と重複し、これより古い。遺物は、土師質土器、鉄製品（図版 18-38）が出土した。

SK2317（図版 13・48）

35N、36N グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径 102cm、深さ 32cm を測る。覆土は２層でレンズ状に堆積する。断面形は階段状で、側壁は垂直に立ち上がる。遺物は、土師質土器が出土した。

SK2318（図版 13・48）

36N グリッドに位置する。平面形は不整形で、規模は長径 177cm、深さ８～ 16cm を測る。覆土は５層で水平に堆積し、１層は炭化物主体で、２層・３層は炭化物を微量に含む。３層上面の一部に被熱が見られ、底面は凹凸がある。断面形は台形状で、側壁は緩やかに立ち上がる。

SK2335（図版７・48）

40O グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径 110cm、深さ 19cm を測る。覆土は１層で暗褐色シルトが主体である。断面形は不整形で、側壁は垂直・急斜度に立ち上がる。P2515 と重複し、これより古い。

SK2384（図版 13・48）

41O グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径 143cm、深さ 44cm を測る。覆土は２層でレンズ状に堆積する。断面形は階段状で、側壁は急斜度に立ち上がる。P2495、P2496、P2497、P2498 と重複し、これらより新しい。

SK2397（図版 14・48）

43O グリッドに位置する。平面形は方形で、規模は長径 97cm、深さ 42cm を測る。覆土は３層で水平・レンズ状に堆積する。断面形は台形状で、側壁は急斜度に立ち上がるが、東壁面上部は半円状に広がる。SD2403 と重複し、これより新しい。

SK2404（図版 14）

44P グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径 90cm、深さ 15cm を測る。覆土は２層で斜位に堆積する。断面形は台形状で、側壁は急斜度に立ち上がる。遺物は、土師器が出土した。

SK2411（図版 14・48）

44O グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径 68cm、深さ 15cm を測る。覆土は２層でレンズ状に堆積する。断面形は台形状で、側壁は急斜度に立ち上がる。

SK2422（図版 14）

45O・P グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径 57cm、深さ 10cm を測る。覆土は１層で５～ 20mm の炭化物を含む。断面形は弧状で、側壁は緩やか・急斜度に立ち上がる。

SK2477（図版 14・49）

37N・O グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径 165cm、深さ 63cm を測る。覆土は３層でブロック状に堆積する。断面形は階段状で、側壁は急斜度に立ち上がる。SD2192 と重複し、これより新しい。遺物は、土師質土器・種子が出土した。

SK2479（図版 14）

37O グリッドに位置する。平面形は不整形で、規模は長径 100cm、深さ 20cm を測る。覆土は１層で褐色シルトが主体である。断面形は台形状で、側壁は緩やかに立ち上がる。SD2457 と重複し、これより新しい。

SK2483（図版 14）

35N グリッドに位置する。平面形は円形である。規模は長径 32cm、深さ７cm を測る。覆土は１層で 20 ～ 30mm の焼土ブロック、炭化物を微量に含む。断面形は台形状で、壁面は垂直に立ち上がる。SD2182 と重複し、これより新しい。

SK2484（図版 14・48）

35N グリッドに位置する。平面形は不整形である。規模は長径 80cm、深さ 14cm を測る。覆土は１層で、５mm 以下の炭化物を微量に含む。断面形は台形状で、壁面は急斜度・垂直に立ち上がる。SD2182 と重複し、これより新しい。

SK2490（図版 14・48）

38N グリッドに位置する。平面形は不整形で、規模は長径 277cm、深さ 70cm を測る。覆土は３層で水平・レンズ状に堆積する。断面形は台形状で、側壁は緩やか・急斜度に立ち上がる。SD2167 と重複し、これより新しい。

SK2499（図版 15）

38O グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径 156cm、深さ 70cm を測る。覆土は２層でレンズ状に堆積する。断面形はＶ字状で、側壁は緩やかに立ち上がる。SD2192・P2510 と重複し、SD2192 より新しく、P2510 より古い。遺物は、珠洲焼片口鉢が出土した。

SK2509（図版 14）

38O グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径 120cm、深さ 29cm を測る。覆土は１層で褐色シルトが主体である。断面形は弧状で、側壁は急傾斜に立ち上がる。SD2167 と重複し、これより古い。

SK2511（図版 15）

38O グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径 55cm、深さ 26cm を測る。覆土は１層で暗褐色シルトが主体である。断面形は階段状で、側壁は緩やかに立ち上がる。SD2192 と重複し、これより古い。

SK2519（図版 12）

37N グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径 62cm、深さ 26cm を測る。覆土は２層で斜位に堆積する。断面形は漏斗状で、側壁は急傾斜・垂直に立ち上がる。SK2160、P2309 と重複し、これらより新しい。

５）　溝

溝は 33 条を検出した。このうち 22 条が中世に帰属すると判断した。これら溝の方向は大きく分けて５つに分かれる。東西をほぼ直線に走るものは、SD2163・2170・2466 で 90°± 2°以内である。北西寄りに向くものは、SD2457 で 76°である。北東寄りに向くものは、SD2149・2156・2172・2182・2420 で 61 ～ 76°である。SD2192・2396・2401・2402・2403・2410 は、17 ～ 25°西偏し、

SD2192 を除いて 10 区南端に集中する。この SD2192 の北端は SD2420 の西端と直行し、同一の機能を持つ溝の可能性がある。緩やかに湾曲する溝は SD2167・2169・2191 がある。SD2163 と SD2167 はその位置関係から、2015 年度調査 5 区の SD838、SD839 と連続する可能性を持つ。

SD2145（図版 5 ）

29M･N グリッドを西 - 東方向に伸びる。覆土は 1 層のみで黄灰色シルトが主体である。断面は台形状で、壁面は急斜度に立ち上がる。

SD2149（図版 5 ・15・49）

31N グリッドを西 - 東方向に伸びる。覆土は 6 層でブロック状に堆積する。断面は弧状で、壁面は緩やか･急斜度に立ち上がる。SD2148 と重複し、これより新しい。

SD2151（図版 5 ）

31N グリッドを西 - 東方向に伸びる。覆土は 1 層のみで暗灰黄色シルトが主体である。断面は台形状で、壁面は急斜度に立ち上がる。

SD2156（図版 5 ・15・49）

33N グリッドを南西 - 北東方向に伸びる。覆土は 2 層で水平に堆積する。断面は台形状で、壁面は緩やか･急斜度に立ち上がる。SD2158 と並行する。

SD2163（図版 6 ・14・50）

39N・O グリッドを西 - 東方向に伸びる。覆土は 3 層でレンズ状に堆積する。断面は半円状で、壁面は急斜度に立ち上がる。遺物は、珠洲焼片口鉢･壺甕類（図版 17-14 ～ 20）、青磁、石製品（砥石）が出土した。

SD2167（図版 6 ・14・50）

38N・O グリッドを西 - 東方向に伸びる。覆土は 3 層で水平に堆積する。断面は台形状で、壁面は急斜度に立ち上がる。P2240、P2344、SK2490、SK2509 と重複し、SK2509 より新しく、P2240、P2344、SK2490 より古い。遺物は須恵器壺甕類（図版 18-22）、土師質土器、珠洲焼壺甕類（図版 18-21・23）、石製品（軽石）が出土した。

SD2169（図版 6 ・15・50）

39N・O グリッドを西 - 東方向に伸びる。覆土は 1 層のみで暗褐色シルトが主体である。断面は台形状で、壁面は垂直・急斜度に立ち上がる。遺物は陶器が出土した。

SD2170（図版 6 ・15・50）

39N・O、40O グリッドを西 - 東方向に伸びる。覆土は 1 層のみで灰黄褐色シルトが主体である。断面は半円状で、壁面は急斜度に立ち上がる。

SD2172（SB16）（図版 6 ・ 9 ・15）

37N・O グリッドを南西 - 北東方向に伸びる。覆土は 1 層のみで暗灰黄色シルト～極細粒砂が主体である。断面は台形状で、壁面は急斜度・内傾に立ち上がる。SK2160、P2454、P2518 と重複し、これらより新しい。

SD2182（図版 6 ・14・50）

35N グリッドを南西 - 北東方向に伸びる。覆土は 1 層のみで暗褐色シルトが主体である。断面は箱状で、壁面は垂直に立ち上がる。P2183、SK2483、SK2484 と重複し、SK2483、SK2484 より古く、P2183 より新しい。

SD2191（図版６・15）

39N・O グリッドを南西 - 北東方向に伸びる。覆土は１層のみで暗褐色シルトが主体である。断面は台形状で、壁面は急斜度に立ち上がる。SD2466 と重複し、これより新しい。遺物は土師質土器杯（図版 18-24）、珠洲焼甕（図版 18-25）、石製品（砥石）が出土した。

SD2192（図版６・15・49・51）

37N・O、38O グリッドを北西 - 南東方向に伸びる。覆土は１層で暗褐色シルトが主体である。断面は台形状で、壁面は垂直・急斜度に立ち上がる。SE2161、P2458、P2459、SK2477、P2491、P2492、SK2499、P2505、P2510、SK2511、P2520、P2521、P2522 と重複し、SK2511 を除いてこれらより古い。遺物は、土師質土器杯（図版 18-26）が出土した。

SD2396（図版７）

43O グリッドを北西 - 南東方向に伸びる。覆土は３層でレンズ状に堆積する。断面は台形状で、壁面は急斜度に立ち上がる。SD2401、SD2402、SD2403 と並行する。

SD2401（図版 ７・15・51）

43O グリッドを北西 - 南東方向に伸びる。覆土は１層のみで褐色シルトが主体である。断面は弧状で、壁面は緩やかに立ち上がる。SD2403 と重複し、これより新しい。SD2396、SD2402、SD2403 と並行する。

SD2402（図版７・15・51）

43O グリッドを北西 - 南東方向に伸びる。覆土は１層のみで暗オリーブ褐色シルトが主体である。断面は弧状で、壁面は緩やかに立ち上がる。SD2403 と重複し、これより新しい。SD2396、SD2401、SD2403 と並行する。

SD2403（図版７・15・51）

43O グリッドを北西 - 南東方向に伸びる。覆土は２層で斜位に堆積する。断面は弧状で、壁面は緩やかに立ち上がる。SK2397、SD2401、SD2402 と重複し、これらより古い。SD2396、SD2401、SD2402 と並行する。

SD2410（図版７・15）

44P グリッドを北西 - 南東方向に伸びる。覆土は１層のみで、暗褐色シルトが主体である。断面は台形状で、壁面は垂直・急斜度に立ち上がる。

SD2420（図版７・15）

37N グリッドを南西 - 北東方向に伸びる。覆土は１層のみで、暗褐色シルトが主体である。断面は台形状で、壁面は急斜度に立ち上がる。SD2192 と直角に接する。SD2172 と並行する。

SD2429（図版６・15）

35N、36N グリッドを西 - 東方向に伸びる。覆土は１層のみで、黒褐色シルトが主体である。断面は弧状で、壁面は急斜度・緩やかに立ち上がる。P2430 と重複し、これより新しい。

SD2457（図版６）

37O グリッドを北西 - 南東方向に伸びる。覆土は１層のみで、暗褐色シルトが主体である。断面は半円状で、壁面は急斜度に立ち上がる。SK2479 と重複し、これより古い。遺物は珠洲焼片口鉢（図版 18-29）、鉄製品（図版 18-39）が出土した。

SD2466（図版６・15）

39O グリッドを西 - 東方向に伸びる。覆土は１層のみで、暗褐色シルトが主体である。断面は台形状で、壁面は緩やかに立ち上がる。SD2191 と重複し、これより古い。

SD2517（図版６・14）

37O グリッドを南西 - 北東方向に伸びる。覆土は２層で褐色シルトが主体である。断面は階段状で、壁面は急斜度に立ち上がる。SK2479 と重複し、これより新しい。

６）性格不明遺構

性格不明遺構は１基検出した。長さ 7.05m、幅 6.5m の浅い皿状の凹みで、SB16 の付属施設の可能性がある。

SX2529（図版６・９）

36･37N グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径 705cm、短径 292cm、深さ 7cm を測る。覆土は１層で黒褐色シルトが主体である。断面形は台形状で、側壁は緩やかに立ち上がる。

４　遺　　物

A　記述の方法

土器・陶磁器の説明は、原則として本文・観察表・図面図版・写真図版を用いて行う。観察表で全てについて記載を行い、代表的なものについて本文で解説することとする。図面図版の縮尺率は基本的に 1/3 で表した。口径が推測可能な資料はできるだけ復元した。また、実測図及び断面図の実存部分は細線でくくり、推定部分と実存部分の境界は間隔を空けた。写真図版も図面図版と同じ縮尺になるように掲載した。観察表は、図版に掲載した全ての土器について観察項目を設定してその内容を記し、不明なものは空白とした。口径は器形の外寸を計測し、器高・口縁部径・底部径などを cm 単位で記した。色調は内外面の色調を『新版 標準土色帖』［小山・竹原 2000］に基づき記した。胎土は金雲母・雲母・長石・石英・角閃石・海綿骨針などの鉱物を中心に記した。なお、種類不明の不透明な白色の粒は白色粒子として表した。外面及び内面の調整・施文等は部位別に記した。使用痕跡は主に二次的に付着した炭化物等について記した。備考は上記以外の特徴について記した。

須恵器・土師質土器、珠洲焼、輸入陶磁器（白磁・青磁）があり、器形により大別した。分類・年代観については、珠洲焼は吉岡康暢［吉岡 1994］、13 世紀以前の青磁は山本信夫［山本 2000］、14 世紀以降の青磁は上田秀夫［上田 1982］、白磁は森田勉［森田 1982］各氏の論考に準じた。

B　土器・陶磁器（図版 17・18・56・57）

１）遺　構　出　土（1 ～ 32）

SD2109（１～３）

１は壺甕類の体部片、外面は格子状タタキ、内面には平行する条線状の当て工具痕がみられる。須恵器または瓷器系陶器か。２・３は珠洲焼の壺甕類である。２は壺の頸部で、３は甕の体部片である。ともに外面は平行タタキ、内面には円形の当て工具痕がみられる。

SD2110（４～13）

４～６は土師質土器の杯である。４は口縁部が外傾する。５は口縁部が外反する。６は口縁部が大きく外傾する。復元口径は 12.4 ～ 13.2cm、器高は 2.9 ～ 3.2cm とほぼ同じであるが、底径は４・５が 9.6cm・9.0cm に対して６が 6.8cm と小さい。７～ 11 は珠洲焼である。７は片口鉢の口縁部で４目以上の卸目が確認できる。復元口径は 28.2cm と大きい。８は壺の頸部から肩部で外面に綾杉状の平行タタキを施す。Ｖ字状のヘラ記号が確認できる。内面は円形の当て工具痕がみられる。９・10 は壺の体部で９は外面に綾杉状の平行タタキ、10 は斜方向の平行タタキ、内面はともに円形の当て工具痕がみられる。11 は壺の底部か。12 は白磁の皿で口縁部が無釉の所謂、口禿である。13 は壺甕類の体部片を転用した砥石である。使用面は外面の約 2/3 のみである。

SD2152（27）

27 は肥前産染付磁器皿、内面に雪輪文と竹笹文、外面に抽象文を描く。

SD2163（14 ～ 20）

14 ～ 20 はすべて珠洲焼と考えられる。14 ～ 16 は片口鉢の口縁部、17 は体部である。14 の推定口径は 31.5cm となる。内面に 13 目１単位、15 は８目以上の卸目が確認できる。16 は小片のため、卸目の有無は確認できなかった。17 は底部に近い体部片で８目１単位の卸目がある。また使用により滑面を成す。18・19 は壺甕類の体部片である。

18 の外面は平行タタキ、19 の調整痕は不明。18･19 の内面は円形の当て工具痕か。20 は壺の底部片、推定底径は 13.4cm となる。

SD2167（21 ～ 23）

21 は珠洲焼の大甕口縁部である。頸部は短く端部は丸く肥厚する。内面には円形の当て工具痕がみられる。吉岡編年Ⅳ期頃の所産か。22 は須恵器の壺甕類体部片、外面に平行タタキ、内面に同心円の当て工具痕がみられる。23 は珠洲焼の壺甕類の体部片、外面は綾杉状のタタキ、内面は円形の当て工具痕がみられる。

SD2191（24・25）

24 は土師質土器の杯、底部から直線的に外傾して立ち上がり、口縁部は細く窄まる。復元すると口径は 12.0cm、底径 9.2cm、器高 3.5cm となる。25 は珠洲焼甕の口縁部、頸部は短く端部は丸く肥厚する。外面に平行タタキ、内面は円形の当て工具痕がみられる。吉岡編年Ⅲ～Ⅳ期頃の所産か。

SD2192（26）

26 は土師質土器の杯の底部、底径は 6.2cm を測る。外面には糸切痕が残る。

SD2122（28）

28 は近代以降の平瓦と考えられる。赤褐色の顔料を化粧掛けして焼成している。径 0.3cm の小穴を焼成前に穿つ。厚さは 1.85cm を測る。

SD2457（29）

29 は珠洲焼の片口鉢、内面に 14 目１単位の卸目がある。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部はやや外反する。復元口径は 26.8cm となる。

P2184（31）

31 は須恵器の壺甕類体部片、外面に平行タタキ、内面に同心円の当て工具痕がみられる。

P2320（30）

30 は珠洲焼の片口鉢口縁部、内面に５目以上の卸目が確認できる。復元口径は 25.7cm となる。

P2369（32）

32 は青磁椀、外面には鎬連弁文が微かに確認できる。龍泉窯系、14 世紀頃の所産か。

２）遺構外出土（33・34）

33 は内外面ともに調整不明、在地産の笹神系窯の瓷器か。34 は珠洲焼壺甕類の体部片である。外面に平行タタキ、内面に円形の当て工具痕がみられる。

C　石製品・木製品・金属製品（図版 18・57）

SE2161（35 ～ 37）

35･36 は扁平な砥石であるが両方とも欠損、欠失している。35 は一側面に縦位の使用痕が確認できる。37 は木製の紡錘車で直径 5.6cm、厚さ 0.5cm を測る。遺存状態が悪く図示していないが、曲物が出土している。曲物は２段が遺存しており底板はない。径 36.7 ～ 38.1cm、残存高 22.0cm、厚さ 0.3cm を測る。内面は基段部に縦ケビキ、２段目には斜め方向のケビキが施される。

SK2308（38）

38 は現状での長さ 26.3cm、最大幅 2.9cm、最大厚 2.7cm を測る。全体的に錆膨れが著しい。大きさや形状から刀子の可能性が高い。

SD2457（39）

39 は現状での長さ 9.8cm、高さ 8.7cm、幅 15.1cm を測る。全体的に錆膨れが著しい。一方向に突起が確認できることから、鉄鍋の可能性が考えられる。

5　自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

A　はじめに

石船戸東Ⅲ遺跡では、曲物と炭化材が出土している。今回は、これらの樹種同定および放射性炭素年代測定を行い、材質や年代に関する情報を得る。

B　試　　料

試料の詳細は、測定結果と共に第２表に示す。試料は、SE2161 より出土した曲物の板材および SD2110 の覆土２層より出土した炭化材の２点である。

C　分析方法

１）樹種同定

剃刀を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の各切片を作成し、生物顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察して、特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。なお、木材組織の名称や特徴は島地･伊東［1982］、

Wheeler ほか［1998］、Richter ほか［2006］を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林［1991］や伊東［1995,1996,1997,1998,1999］を参考にする。

2）放射性炭素年代測定

木片の周囲を削り落として付着物を除去し、50mg 程度に試料を調整する。塩酸（HCl）により炭酸塩など酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム（NaOH）により腐植酸などアルカリ可溶成分を除去、塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩など酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理 AAA:Acid Alkali Acid）。濃度は塩酸、水酸化ナトリウム共に 1mol/L である。試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化（鉄を触媒とし水素で還元）は Elementar 社の vario ISOTOPE cube と Ionplus 社の Age3 を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を NEC 社製のハンドプレス機を用いて内径 1mm の孔にプレスし、測定試料とする。測定はタンデム加速器をベースとした ^{14}C-AMS 専用装置（NEC 社製）を用いて、^{14}C の計数、^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C）、^{14}C 濃度（^{14}C/^{12}C）を測定する。AMS 測定時に、米国国立標準局（NIST）から提供される標準試料（HOX- Ⅱ）、国際原子力機関から提供される標準試料（IAEA-C6 等）、バックグラウンド試料（IAEA-C1）の測定も行う。δ ^{13}C は試料炭素の ^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表したものである。放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う［Stuiver & Polach 1977］。暦年較正は Oxcal4.4［Bronk,2009］、較正曲線は Intcal20［Reimer et al.,2020］を用いる。

D　結　　果

1）樹　種　同　定

SE2161 の曲物はスギ、SD2110 の炭化材はカツラに同定される（第 2 表）。以下に木材解剖学的所見を述べる。

・スギ（*Cryptomeria japonica*（L. f.）D. Don）　スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1 分野に 2 個が多い。放射組織は単列、1 ～ 10 細胞高。

第 2 表　測定試料の樹種と放射性炭素年代測定結果

試料名	性状	分析方法	測定年代 yrBP	δ ^{13}C（‰）	暦年較正用	暦年較正年代 年代値													確率	Code No.	
SE2161 曲物	木材（スギ）	AAA（1M）	940 ± 20	-26.209 ± 0.35	938 ± 20	σ	cal	AD	1044	-	cal	AD	1053	906	-	897	calBP	0.085	pal-14570	YU-17691
							cal	AD	1075	-	cal	AD	1106	875	-	844	calBP	0.240		
							cal	AD	1118	-	cal	AD	1157	832	-	793	calBP	0.357		
						2 σ	cal	AD	1037	-	cal	AD	1160	913	-	790	calBP	0.954		
SD2110 2 層	炭化材（カツラ）	AAA（1M）	630 ± 20	-26.2452 ± 0.34	631 ± 20	σ	cal	AD	1303	-	cal	AD	1321	647	-	629	calBP	0.331	pal-14571	YU-17692
							cal	AD	1358	-	cal	AD	1368	592	-	582	calBP	0.164		
							cal	AD	1380	-	cal	AD	1391	570	-	559	calBP	0.188		
						2 σ	cal	AD	1296	-	cal	AD	1329	654	-	621	calBP	0.401		
							cal	AD	1341	-	cal	AD	1396	609	-	554	calBP	0.554		

1）年代値の算出には、Libby の半減期 5,568 年を使用。
2）yrBP 年代値は、1950 年を基点として何年前であるかを示す。
3）付記した誤差は、測定誤差 σ（測定値の 68% が入る範囲）を年代値に換算した値。
4）AAA は酸－アルカリ－酸処理、AaA はアルカリの濃度を薄くした処理、HCl は塩酸処理、Edg はエッジング処理、CoEx はコラーゲン抽出処理を示す。
5）暦年の計算には、Oxcal4.3 を使用。
6）暦年の計算には表に示した丸める前の値を使用している。
7）1 桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1 桁目を丸めていない。
8）統計的に真の値が入る確率は σ は 68%、2 σ は 95% である。

・カツラ（*Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc.）　カツラ科カツラ属

散孔材で、道管はほぼ単独で散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性、1-2 細胞幅、1-30 細胞高。

２）放射性炭素年代測定

放射性炭素年代値を第２表に併記する。また、暦年較正結果を第 14 図に示す。各遺跡の試料全てが定法での処理が可能であり、年代測定に必要な炭素量が回収できた。

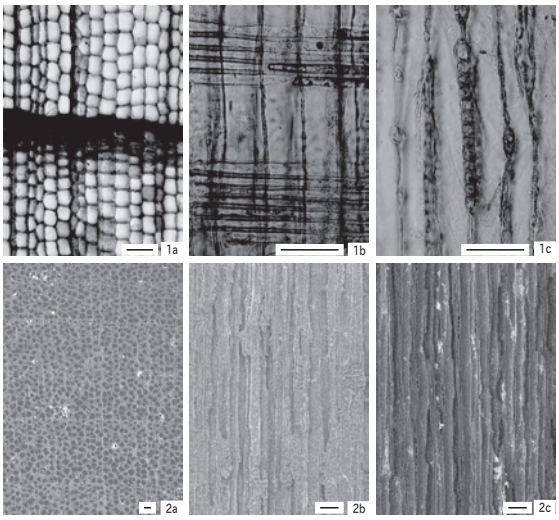
同位体補正を行った年代値は、SE2161 より出土した曲物が 940 ± 20BP、SD2110 の覆土２層より出土した炭化物が 630 ± 20BP である。

暦年較正は、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、その後訂正された半減期（^{14}C の半減期 5730 ± 40 年）を較正することによって、暦年代に近づける手法である。2 σの値は SE2161 より出土した曲物が calAD1037-1160、SD2110 の覆土２層より出土した炭化物が calAD1296-1396 である。

E　考　　察

石船戸東Ⅳ遺跡の SE2161 より出土した曲物は、スギであった。スギは太く真っ直ぐな材が得やすいこと、軽軟で加工が容易であること、水湿に強いこと、木目が美しいことなどから、様々な用途で多用される良材である。建築材としての利用も多く、柱や板材、土台などに利用されている。この暦年較正結果は 12 世紀代を示すものと思われる。また調査区周辺から得られたものとすれば、調査区付近に自生していたと考えられる。

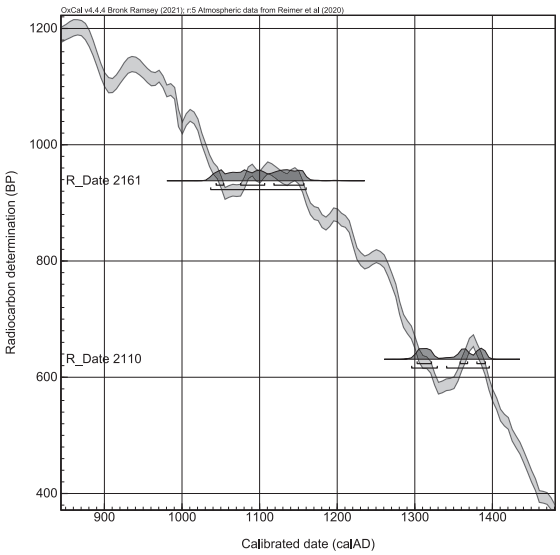
SD2110 の覆土２層より出土した炭化材は、カツラであった。カツラは、やや柔軟で割裂性が大きく、切削など加工しやすく、狂いが少ない。主に器具材や建築材などで利用される。出土木製品用材データベース［伊東・山田編 ,2012］によれば、建築材や非加工材（自然木や流木など）としての出土が多い。この暦年較正結果は、14 世紀代を示すものと思われる。この炭化材についても、周辺から得たとすれば調査区付近の生育と考えられる。



1.スギ(SE2161 曲物)
2.カツラ(SD2110 2層)

a:木口　b:柾目 c:板目
スケールは100μm

第 13 図　生材・炭化材の顕微鏡写真



第 14 図　暦年較正結果

今回の年代測定結果や植生、植物利用については、今後さらに発掘調査所見を含めて検討する必要があろう。

引用文献

Bronk RC.　2009 「Bayesian analysis of radiocarbon dates」『Radiocarbon』51　337-360.
林　昭三　1991 『日本産木材顕微鏡写真集』 京都大学木質科学研究所 .
伊東隆夫　1995 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ」『木材研究・資料』31　京都大学木質科学研究所　81-181.
伊東隆夫　1996 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ」『木材研究・資料』32　京都大学木質科学研究所　66-176.
伊東隆夫　1997 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ」『木材研究・資料』33　京都大学木質科学研究所　83-201.
伊東隆夫　1998 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ」『木材研究・資料』34　京都大学木質科学研究所　30-166.
伊東隆夫　1999 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ」『木材研究・資料』35　京都大学木質科学研究所　47-216.
伊東隆夫・山田昌久（編） 2012 『木の考古学 出土木製品用材データベース』 海青社　449p.
Reimer P., Austin W., Bard E., Bayliss A., Blackwell P., Bronk Ramsey, C., Butzin M., Cheng H., Edwards R., Friedrich M., Grootes P., Guilderson T., Hajdas I., Heaton T., Hogg A., Hughen K., Kromer B., Manning S., Muscheler R., Palmer J., Pearson C., van der Plicht J., Reimer R., Richards D., Scott E., Southon, J. Turney, C. Wacker, L. Adolphi, F. Buentgen U., Capano M., Fahrni S., Fogtmann-Schulz A., Friedrich R., Koehler P., Kudsk S., Miyake F., Olsen J., Reinig F., Sakamoto M., Sookdeo A., & Talamo S.　2020　The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve（0–55 cal kBP）. Radiocarbon, 62　1-33..
Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（編） 2006 『針葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト』伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部　久・内海泰弘（日本語版監修） 海青社　70p.［Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（2004）IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification］.
Stuiver M., & Polach AH.　1977　Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of ^{14}C Data. Radiocarbon, 19, 355-363.
島地　謙・伊東隆夫　1982 『図説木材組織』 地球社　176p.
Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編） 1998 『広葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト』伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩（日本語版監修） 海青社　122p.［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（1989）IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.

6　調査のまとめ

遺構の分布について

今年度の調査（第４次調査）では、２か所の調査区（９・10 区）で中世の時期と考えられる掘立柱建物６棟、井戸１基、土坑 37 基、溝 32 条、ピット（小穴）308 基、不明遺構１基を検出した。過年度調査との重複は２区と９区の一部のみであり（図版１・２）、調査範囲で完結する井戸や土坑などの遺構を除き、過年度調査で確認された溝などの連続性はほとんど確定できなかった。

過年度調査の報告では中世期の遺構分布として、３つの居住域と１つの生産域を指摘している［小野本・石川・加藤ほか 2019］。居住域は「２区北東側」、「４区南側～５区」、「７区③の北側」の３つの居住域が想定されており、いずれも溝が境界と考えられている（第 15 図）。今回の調査（10 区）には遺構が集中する範囲があり、掘立柱建物を６棟想定している（図版５～ 11）。６棟の掘立柱建物は、極めて狭小な範囲に集中しており、位置関係から過年度調査の居住域「４区南側～５区」に含まれると考えられる。

石船戸東遺跡では、既に報告されているとおり、各調査区で遺構の密度や種類は異なり、時代毎に居住域と田畑などの生産域など用途別の区域が存在することが明らかになっている。今回の調査では、遺構の

希薄な範囲の用途については詳細を解明できなかったが、居住域については、過年度調査の見識を補完する調査結果となった。

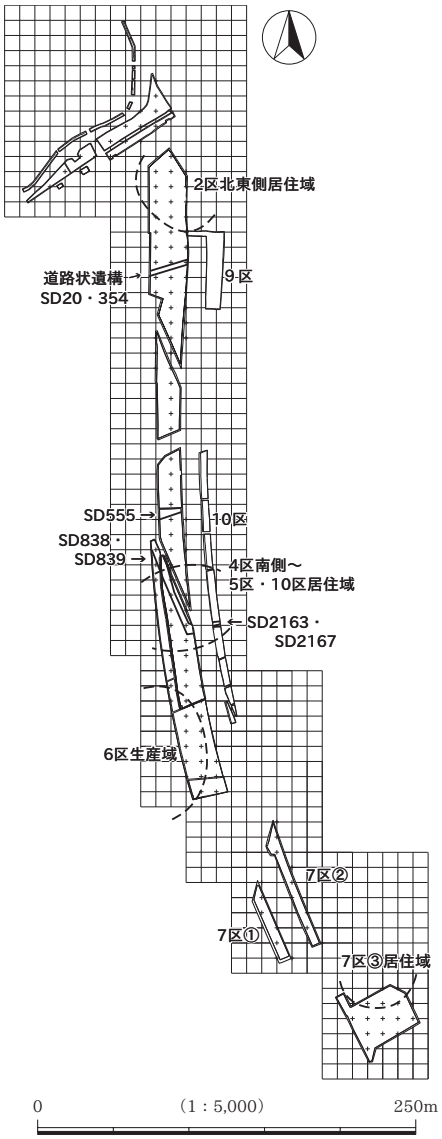
掘立柱建物（ＳＢ 16・ＳＢ 17）について

前述のとおり、今年度の調査（10 区）において、６棟の掘立柱建物を想定した（図版５～ 11）。個々の詳細については、本報告書の第Ⅲ章３項Ｃ節、遺構観察表「石船戸東遺跡 10 区 掘立柱建物」に委ねるが、６棟すべて同一面での検出であり、時期を特定する遺物もほとんど皆無であった。柱穴の覆土が近世以降の遺構とは明らかに異なるため、中世の遺構と判断したが、詳細な時期は不明である。ただ、主軸は西偏（N -15°～ 36° - W）するＳＢ 13・14・15・16 と東偏（N - 9°～ 21° - E）するＳＢ 17・18 に大別でき、時期差や性格の違いを推察できる。

特筆すべきは、土坑や井戸が建物範囲と重複、隣接する掘立柱建物ＳＢ 16・ＳＢ 17 であり（図版９・10）、同時期に併存していれば、特別な性格を有する建物と考えられる。井戸や土坑、竪穴状遺構を伴う掘立柱建物の事例は、新潟県村上市の古渡路（ふるとろ）遺跡や新潟県上越市の堂古（どうこ）遺跡に類例があり、馬小屋または馬洗い場遺構の可能性を指摘している［土橋ほか 2011・中尾 2012・佐藤ほか 2022］。報告事例（第 16 図）では、東京都日野市の南広間地遺跡９次２号厩舎のように大きな竪穴（土坑）を有する［篠崎 2015］。また 18 世紀半ばのものとなるが東京都文京区の東京大学本郷構内の遺跡の個室に横板と尿溜まりを持つ厩舎の形状に類似する［東京大学埋蔵文化財調査室 1990］。前述の新潟県村上市の古渡路遺跡では、二重溝で囲まれた竪穴を持つ掘立柱建物や大きな土坑を持つＳＢ 2768 が検出され、これを馬小屋と推測している［土橋ほか 2011・中尾 2012］。

当遺跡は阿賀野川右岸の沖積地に位置し、阿賀野川の旧河道にできた旧百津潟の自然堤防上に所在している。故に水資源の供給は容易であったと考えられ、多量の水が必要である馬の飼養施設の可能性の検討を試みた。馬小屋の判断要件は、１．カマド・炉がない、２．竪穴が設けられている、３．床面が傾斜している、４．尿溜めがある、５．張り出しが付くものがある、６．スロープが設けられているものがある、７．柱が個室の周囲を方形に巡る、としている［篠崎 2010・2015］。

ＳＢ 16（図版９）は、桁行 8.5 m、梁行 3.35 m以上の規模である。隣接または重複する遺構に溝１条、土坑４基、性格不明遺構（竪穴状土坑）、さらに関係すると考えられるピット（柱穴）がある。溝（ＳＤ 2172）は梁行南西側の雨落溝と考えられる。土坑は、４基存在しており、内３基（ＳＫ 2180・ＳＫ 2236・ＳＫ 2308）はすべて平面形が楕円形で同規模である。桁行北西側の柱間に等間隔に並ぶ。残る土坑（ＳＫ 2160）は、平面



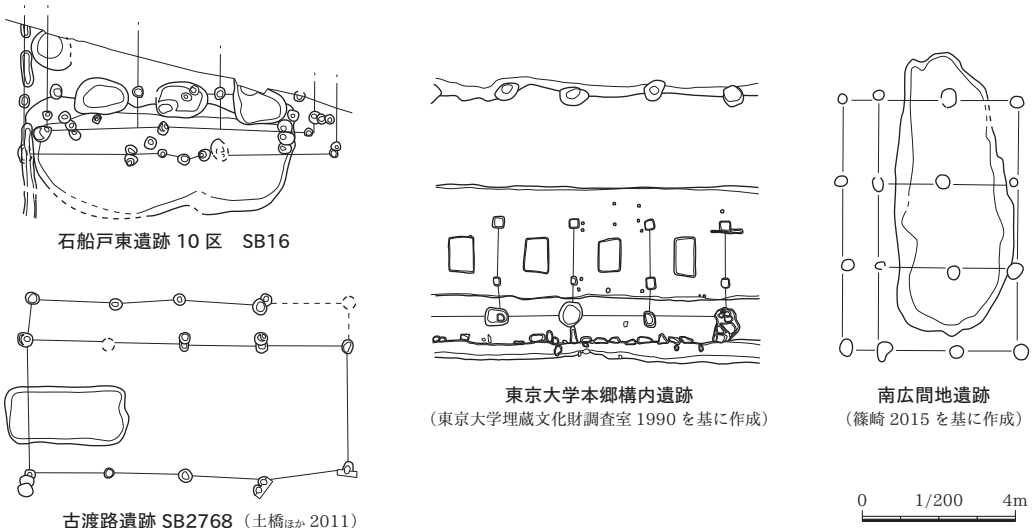
第 15 図　調査区内における居住域と生産域

（小野本・石川・加藤ほか 2019 を一部改変）

形はほぼ円形であり、底面付近に全面に広がる炭（灰）層を確認している。性格不明遺構（ＳＸ 2529）は、浅い凹み状の土坑で平面形は長楕円形を成す。桁行北西側に位置しており、先の３土坑に切られる。これらの隣接または重複する遺構がＳＢ 16 に伴うと仮定すれば、建物内４基のピット（Ｐ 2314・Ｐ 2304・Ｐ 2302・Ｐ 2230）に腰板を設けて個室となる馬房を構成した可能性がある。また土坑（ＳＫ 2180・ＳＫ 2236・ＳＫ 2308）は、等間隔に配置されており、前述の個室（馬房）の尿溜めと考えられる。土坑（ＳＫ 2160）は、炭化物層を内包しており、蠅・蚊・虻などの害虫を燻り出すために草木を焚いた痕跡と考えられる。性格不明遺構（ＳＸ 2529）は、その規模から竪穴状遺構と捉えることもできる。この竪穴状遺構は、馬が横になったのちに自力で起きやすくするために側壁を利用して傾斜をつくり、馬の蹄は尿のアルカリに弱く劣化することから保護を目的に竪穴に藁などを敷き詰めた施設の可能性がある。この馬の糞尿は敷き藁が吸収し、のちに良質な厩肥として利用が可能であるという［篠崎 2010］。桁行北西側の外側には８基以上のピット（小穴）が存在しており、個室の周囲を巡る庇的な機能を有する可能性もある。これらの重複、隣接する遺構を検討した結果、馬小屋の７つの判断要件のうち４要件を満たしており、他の３要件についても不明であるがまったく否定するものでもない。故に馬小屋としての可能性も充分考えられる。

ＳＢ 17（図版 10）は、梁間２間、桁行３間で、梁行 3.92m 以上、桁行 5.08m の規模である。北側半分に土間のような空間を持つ構造で、この土間にあたる空間に井戸（ＳＥ 2161）を検出した。掘立柱建物と井戸が同時期の所産であるとすれば、位置関係から井戸を有する掘立柱建物の可能性があり、馬洗い場遺構の可能性が考えられる。

これらの２棟の掘立柱建物は近接しており、推測の域を出ないが、馬の飼養に関する施設の可能性がある。自然堤防上に立地する本遺跡は、過年度調査から田畑などの生産域が存在したと考えられている。水田で根刈りした藁は馬小屋に運び込み厩肥生産に用いられ、厩肥は再び耕作に用いられただろう。また収穫した農作物の運搬に馬が用いられたと考えられる。本遺跡はこうした阿賀野川周辺における中世農村集落の様相の一端を示しているといえる。



第 16 図　馬小屋と推定される掘立柱建物の報告事例

第Ⅳ章　蕪 木 遺 跡 Ⅱ

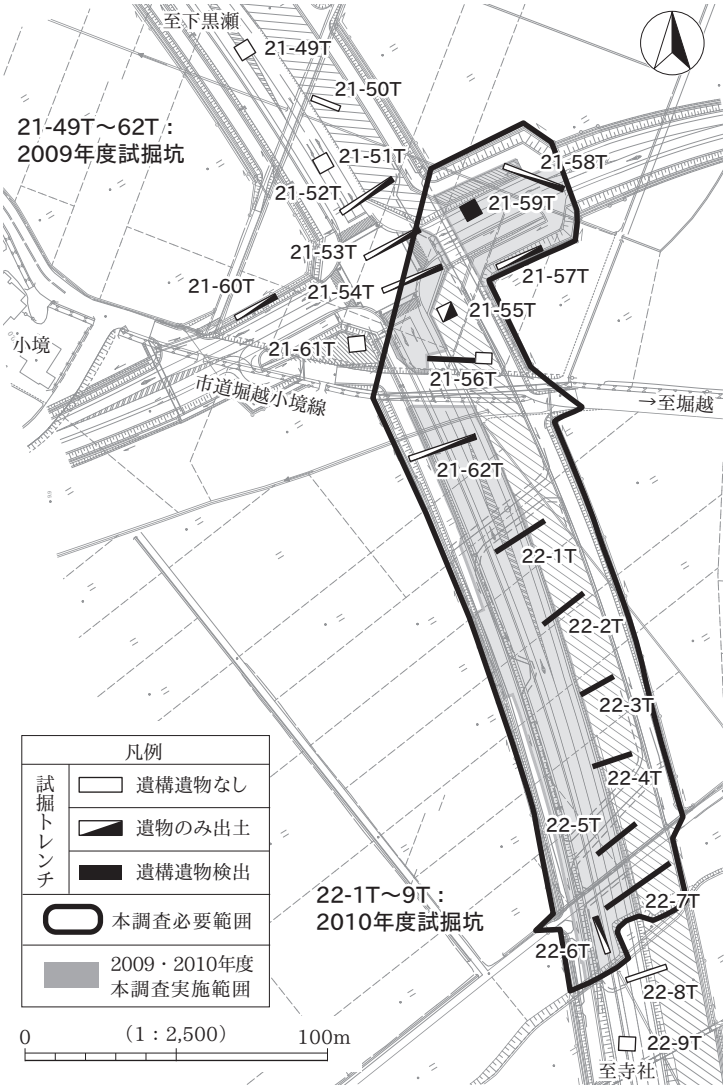
1　調　査　経　過

A　試掘確認調査

1）2009 年度・2010 年度 試掘調査

蕪木遺跡に関わる試掘調査は、埋文事業団が 2009・2010（平成 21・22）年度の 2 か年にわたり行った。調査期間は、2009 年 5 月 18 日から 6 月 17 日の 23 日間、2010 年 6 月 3 日から 6 月 17 日の 11 日間である。調査地点は、一般国道 49 号阿賀野バイパス用地である福田集落近くの福島潟西部幹線用水路から小里川間である。試掘調査は、調査対象地に調査坑を任意に設定し、重機及び人力による掘削・精査を行い遺構・遺物の有無を確認した。その後、土層堆積状況、トレンチ位置、遺構・遺物の検出状況等を図面・写真等に記録した。2009 年度は 50,715㎡を調査対象面積とし、63 か所に試掘トレンチを設定した（21-1T ～ 62T、20-124T 再試掘）。実質調査面積は 2,065.4㎡で、試掘率は 4.1% である。2010 年度は 29,163㎡を調査対象面積とし、26 か所に試掘トレンチを設定した（22-1T ～ 26T）。実質調査面積は 907.7㎡で、試掘率は 3.1% である。

調査の結果、福田集落北西側、小境集落東側、市道南耕堀越線の北側の大きく 3 つの範囲で遺構・遺物を検出した。このうち福田集落北西側は、2008 年度の試掘調査で新発見した石船戸東遺跡の範囲拡大である。また、市道南耕堀越線の北側は向野遺跡として登録したが、2014（平成 26）年度の再試掘調査の内容から本発掘調査は不要とされた［佐藤 2015］。蕪木遺跡は、市道堀越小境線を挟んだ 21- 55 ～ 59T・62T、22-1 ～ 7T の区域で（第 17 図）、22-1 ～ 7T



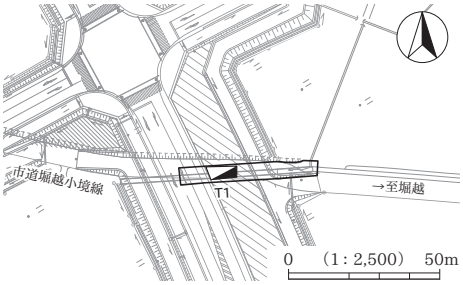
第 17 図　2009・2010 年度の試掘トレンチ位置図

（原図：国土交通省提供　鈴木・荒川ほか 2018 を一部改変）

では表土直下から土坑・溝・ピットなどを検出し、遺構の分布密度が比較的高い。遺物は古代の土師器・須恵器を主体とし、このほかは中世の青磁・珠洲焼などが少量出土した。以上から、蕪木遺跡は 21-55 ～ 59・62T、22-1 ～ 7T の範囲とし、本発掘調査必要面積は 13,325㎡とした［鈴木・荒川ほか 2018］。

2）2020 年度 確認調査

2020 年 12 月 4 日、県教委による確認調査が行われた。調査対象地に 1 か所のトレンチを設定し、調査が行われた（第 18 図）。調査面積は 40㎡である。調査の結果、遺物が２点出土したが、遺構は確認されなかった。出土した遺物は、いずれも二次堆積物であり、対象範囲については本発掘調査不要と判断された［加藤ほか 2021］。



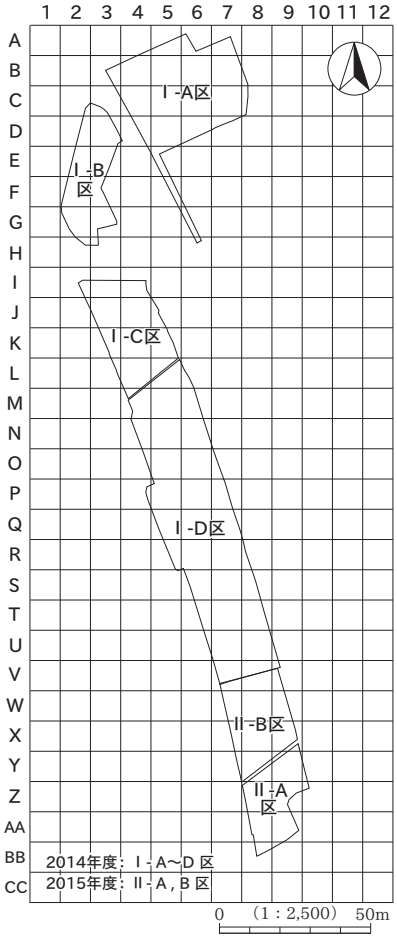
第 18 図　2020 年度のトレンチ位置図

（原図：国土交通省提供）

B　本 発 掘 調 査（第１・２次調査）

2014 年度と 2015 年度の本発掘調査は 2014 年 7 月 28 日から 11 月 30 日、2015 年 9 月 7 日から 11 月 17 日の期間に行われた。

調査地点は、市道堀越小境線を挟んだ南北の区域で、国家座標のＸ座標 =201,160.000（北緯 37 度 48 分 38.23413 秒）、Ｙ座標 =63,480.000（東経 139 度 13 分 15.44538 秒）を基点（1A 杭）とする 10m 方眼のグリッドを設定し、調査が行われた（第 19 図）。2014 年度の調査区は、市道堀越小境線と工事用道路により 4 つに分断されるため、これらを境界に北からＩ－Ａ区・Ｉ－Ｂ区・Ｉ－Ｃ区・Ｉ－Ｄ区と便宜的に呼称し、2015 年度の調査区は、調査区中央部を東西に横切る用排水路を境に南をⅡ－Ａ区、北をⅡ－Ｂ区と便宜的に呼称した（第 19 図）。調査方法は、バックホー及び人力による掘削･精査を行い、遺構･遺物の有無を確認し、土層堆積状況、遺構・遺物の検出状況等を図面・写真等に記録した。調査面積は、2014 年度は 5,915㎡、2015 年度は 1,048㎡である。



第 19 図　2014･2015 年度の調査区位置図

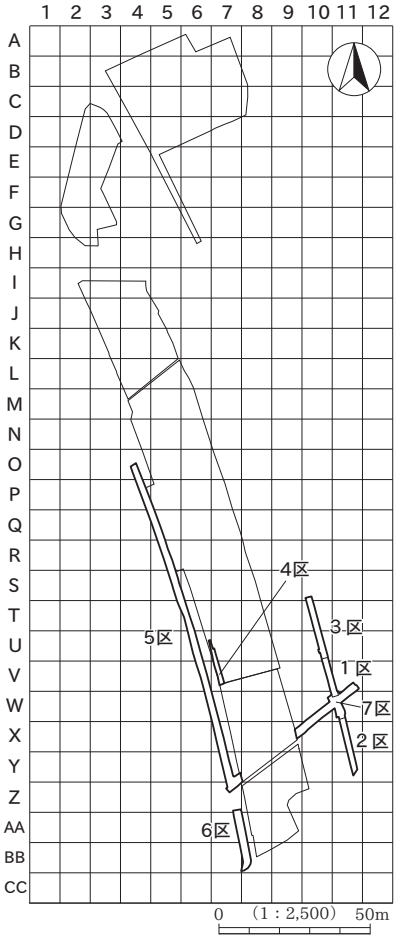
（鈴木・荒川ほか 2018 に加筆）

調査の結果、古墳時代から近・現代に至るまでの遺構・遺物を検出し、中心時期は平安時代（9 世紀後葉）であることが確認された。平安時代の遺構は、掘立柱建物を 5 棟検出し、なかには 140㎡を超える大型建物が存在することが確認された。建物の規模から、検出した建物群は、郡の関連施設ないしは在地有力者の居宅などが想定されている［鈴木・荒川ほか 2018］。遺物は、土師器椀を中心に須恵器の各器種や黒色土器が多数出土したほか、稀少品の耳皿･灰釉陶器皿･アスファルト塊などがわずかに出土した。中世の遺構は、13 ～ 14 世紀頃の井戸・火葬土坑などが検出されており、珠洲焼、瓷器

系陶器、曲物や漆器椀などが出土した。

C　本 発 掘 調 査（第３次調査）

本発掘調査は 2022 年４月 15 日から７月５日、９月 26 日から 11 月 16 日の期間で行った。調査区は、幅 2m ほどの溝状に設定され総延長約 230m に及ぶため、地点ごとに調査を進めた。調査区の呼称は、調査を開始した順番に１～７区と便宜的に呼称した（第 20 図）。また、調査は前半・後半に分かれ、調査区が現在の水田の畔にかかる５・６区と、排水溝を撤去する必要がある７区については、隣接する水田の稲刈り後に調査を開始した。



第 20 図　調査区位置図

（鈴木・荒川ほか 2018 に加筆）

４月 15 日、トータルステーションを用いて全調査区の位置出しを行い、５月 13 日に１区の表土掘削を開始した。５月 17 日から作業員を入れて、遺構検出から作業を進めた。遺物包含層は残存しておらず、現地表面の直下で古代～中世の溝跡･ピット・土坑を検出した。埋土は前回までの調査成果を元に、褐灰色シルトを主体とするものは近世以降、暗褐色シルトを主体とするものは中世、にぶい黄褐色シルトを主体とするものは古代に属するものと考えた。５月 25 日に１区の遺構掘削が完了し、２区の表土掘削を開始した。６月１日、２区の北部で、古代から中世と思われる道を検出した。６月９日に２区の遺構掘削が完了し、６月 13 日から３・４区の表土掘削を開始した。６月 16 日、３区の遺構検出を行い、建物の柱穴が想定される P2035・P2037 などを検出した。６月 24 日、４区の遺構検出を行なったが、昭和初期のほ場整備に伴う削平が地山の深い部分まで及んでおり、遺構は確認されなかった。６月 29 日、１～４区の航空写真撮影を行った。その後、３区で検出した P2035 の埋土に柱根が残存し、調査区外に延びていたことから、７月１日から５日にかけて、調査区を 1.0 m × 0.35m の範囲で拡張し、新たに検出した部分の柱穴の平面形と埋土を記録し、木製品の取上げを行った。７月５日、前半分の調査が終了した。

約２か月半の中断期間を経て、９月 26 日に後半分の調査を開始した。９月 26 日から５区、９月 29 日から６区の表土掘削を開始した。10 月３日、６区の遺構検出を行い、中・近世の溝跡や旧河道を検出した。10 月５日、５区の遺構検出を開始した。５区は 2014 年度・2015 年度の調査区と隣接することから、遺構分布状況も類似し、5Q ～ S グリッドにかけて古代の遺構が集中し、これ以外では希薄となる状況を確認した。また、5R グリッドで検出した P2089 は、2014 年度の調査で検出した SB5 に付属する柱穴と思われ、SB5 はさらに本調査区の西側に延びている可能性があることを確認した。10 月 24 日、５区南部にかかるＵ字溝の除去作業を行い、Ｕ字溝部分の表土掘削と遺構検出を行ったが、地山が大きく削られており、この地点から新たな遺構は検出されなかった。10 月 26 日、７区の表土掘削を開始した。10 月 28 日、７区の遺構検出を行い、灰釉陶器などを含む９世紀代の遺物や、大規模地震の痕跡と思わ

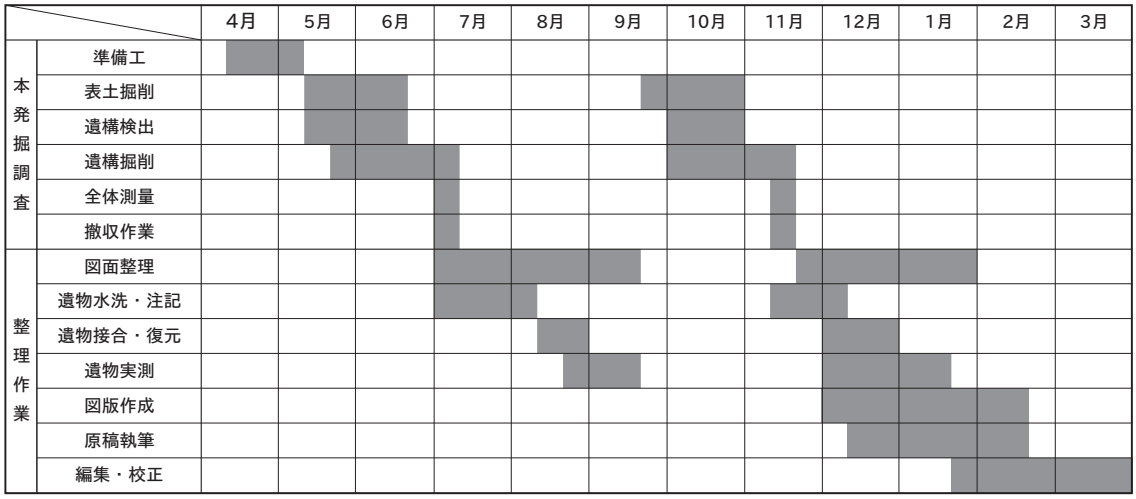
れる多数の砂脈を検出した。11 月 11 日に５～７区の航空写真撮影を行った。11 月 14 日から 16 日にかけて、全体測量と下層の確認調査などを行った。下層の確認調査では、6T グリッドで検出した砂脈の両側で層の高さがずれていることを確認した。11 月 16 日、新潟県が終了確認を行い、現地での調査は全て終了した。

D　整理作業の経過

整理作業は 2022（令和４）年７月から９月と、11 月から 2023（令和５年）３月の期間に行った。７月４日、現場事務所において遺物の洗浄を開始した。７月６日、図面修正、写真整理、遺構台帳の作成を開始した。８月１日、遺物の接合と注記を開始した。遺物の接合については、土師器、須恵器等に分類し、接合作業を実施した。８月 25 日、遺物の実測と写真撮影を開始した。実測遺物の抽出については、遺構に伴う遺物が少ないことから、古代から中世の遺物については、遺構外出土であっても器種が判別できるものを中心に抽出した。また、実測作業が終了した遺物から観察表の作成を開始した。９月 22 日、現場再開のため整理作業を中断した。

11 月 14 日、現場事務所において後半分の遺物洗浄を開始した。11 月 25 日、遺物および資器材を株式会社ノガミ整理作業所へ搬出し、11 月 28 日以降は同所において整理作業を行った。12 月５日、遺構図のデジタルトレースを開始した。12 月 14 日、原稿執筆を開始した。遺物の洗浄・注記・接合作業は、12 月に終了した。１月 11 日、P2035・P2120 から出土した木製品について、パリノ・サーヴェイ株式会社に自然科学分析を委託した。１月 20 日、遺物の実測が終了し、順次遺物実測図のデジタルトレースを開始した。報告書作成のためのトレース図の編集作業、版組レイアウトの作成は１月から開始し、本調査における遺構平面図・断面図・微細図等は、発掘調査中に図化した図面を基に修正を加え、本書の挿図とした。３月末、編集・校正作業が終了した。

第３表　発掘調査・整理作業工程

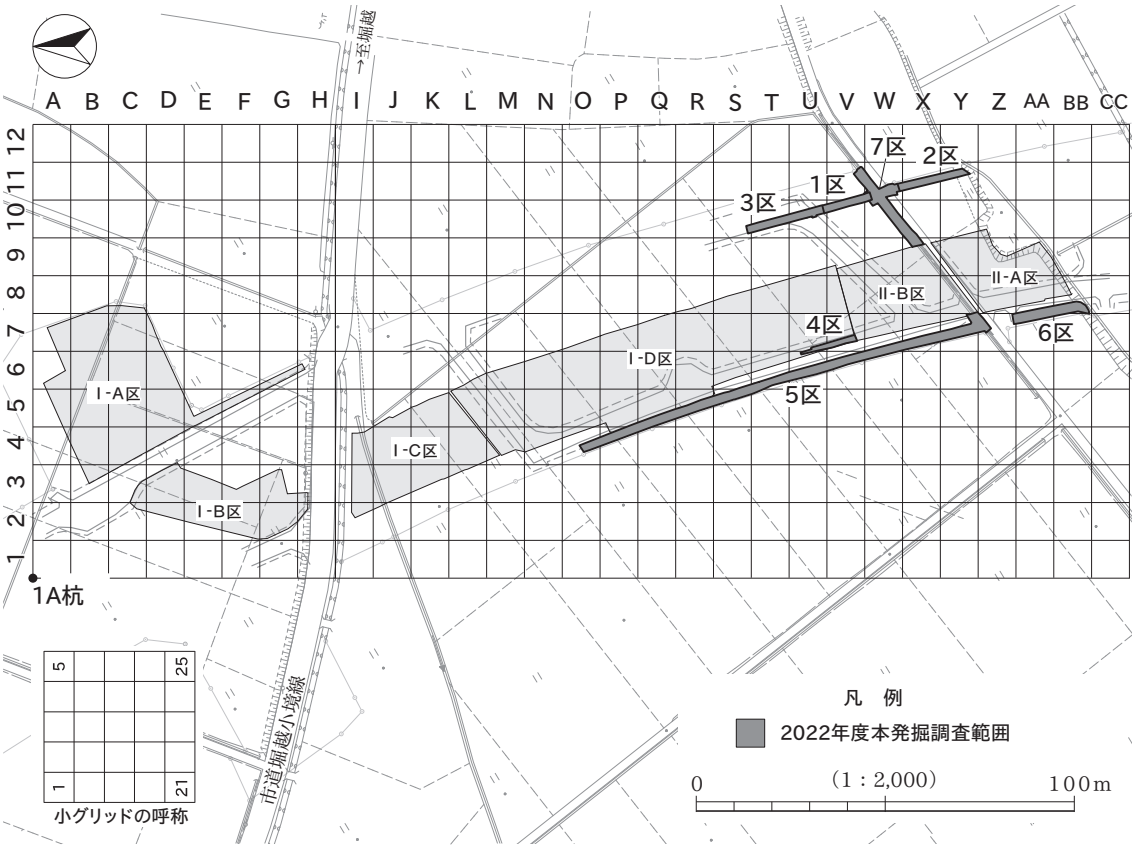


2　調 査 の 概 要

A　グリッドと調査区の設定

蕪木遺跡の阿賀野バイパス建設予定地内における総面積は13,325㎡であり、このうち2014年度に5,915㎡、2015年度に1,048㎡の調査を行った。今回は３度目の本発掘調査で、調査面積は422㎡である。調査区は、７か所の地点に区切って調査を行なったため、開始した順番に１～７区と便宜的に分けた（第21図）。

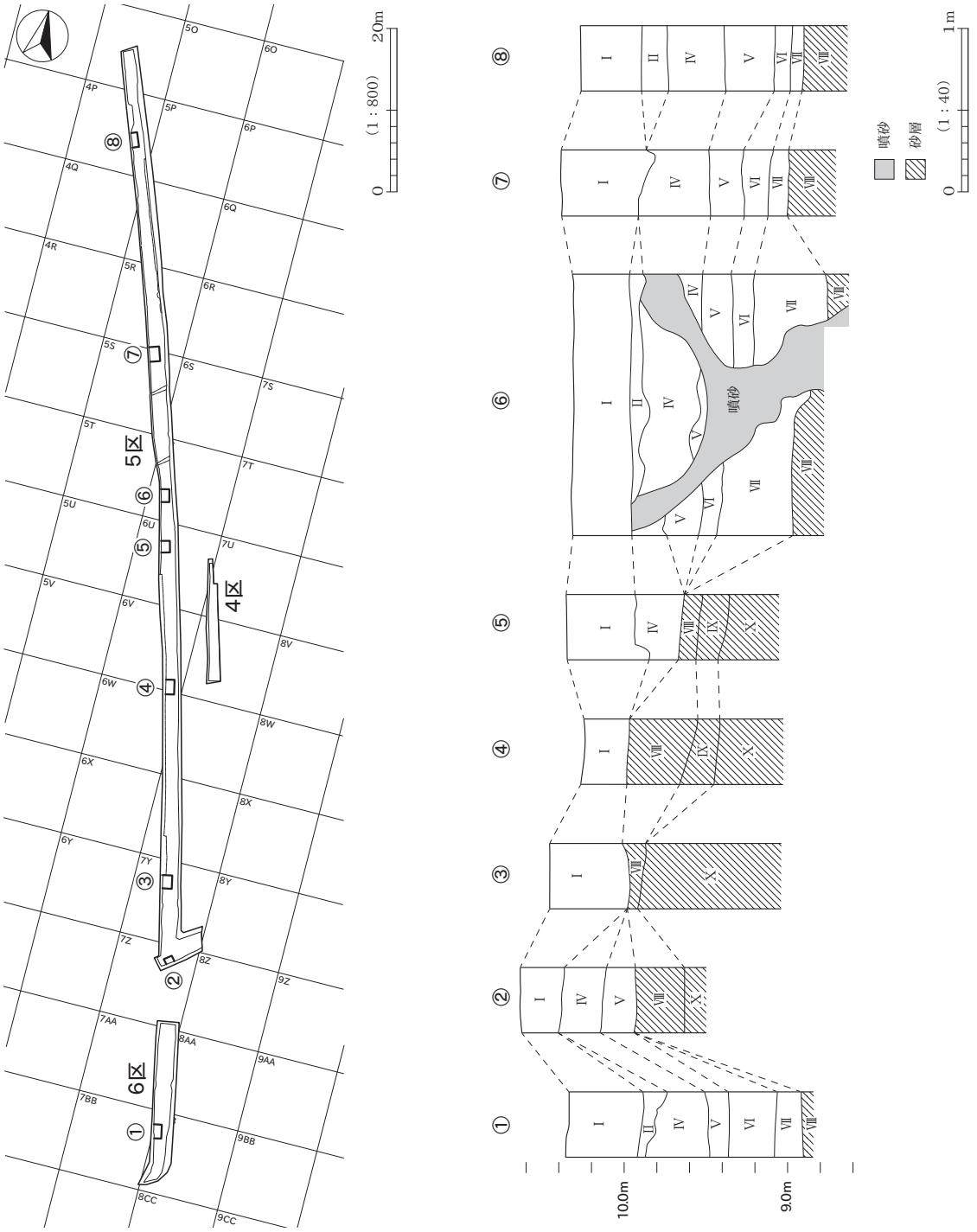
グリッドの設定は、2014年度の調査で設定されたものを踏襲した（第21図）。国家座標のＸ座標=201,160.000（北緯37度48分38.23413秒）、Ｙ座標=63,480.000（東経139度13分15.44538秒）を基点（1A杭）とし、南北・東西それぞれ10mの方眼を組み、大グリッドとした。大グリッドの呼称は、遺跡を覆う方眼を西から東へ向けて算用数字（１・２・３…）、北から南へ向けてアルファベット（Ａ・Ｂ…Ｚ、AA、BB…）を付し、これを組み合わせた。両者の組み合わせにより「10T」「7AA」のように表示した。小グリッドは大グリッドの中を2m四方に25分割した。小グリッドには１～25の番号を付し、北西隅を１、南東隅を25となるように配列した。グリッドは、大グリッドと小グリッドを組み合わせ、「10T2」「7AA20」のように表記した。５区の6T1北西隅はＸ座標=200,970.000、Ｙ座標=63,530.000、７区付近の10X1北西隅はＸ座標=200,930.000、Ｙ座標=63,570.000である。



第21図　グリッド設定と調査区　（原図：国土交通省提供）

B　基　本　層　序

蕪木遺跡は、阿賀野川右岸の沖積地に立地し、標高は 9.6 ～ 10.6m を測る。本調査区は昭和初期のほ場整備により、遺物包含層の大部分が削平されており、基本的には表土直下が古代から中世の遺構検出面となる。基本層序は、下層確認調査により表土から約 1.5m 下までの土層を確認し、2014 年度・2015 年度の調査に準じてⅠ～Ⅹ層に大別した(第 22 図)。遺構検出面はⅣ層上面である。Ⅴ層以下は無遺物層で、Ⅷ層以下は砂層である。なお、今回の調査でⅢ層は確認されていない。



第 22 図　基本層序

Ⅰ層　表土、現代の耕作土・水田床土。

Ⅱ層　褐灰色シルト（5YR4/1）。部分的に浅黄橙色シルトとなる。Ⅱ層は残存状況が希薄で、Ⅰ層の形成に伴い削平されたものと考えられる。近世陶磁器が出土しており、近世～近代の耕作土と考えられる。

Ⅳ層　明黄褐色シルト（10YR6/6）。Ⅳ層上面は古代・中世の遺構検出面で、層厚は約 40cm を測る。⑤～⑧では、部分的に粘性の弱い砂質土層となる。

Ⅴ層　灰白色シルト（10YR8/1）。層厚は約 20cm を測る。Ⅵ層よりも粘性・しまりが強い。Ⅴ層は③～⑤では認められない。

Ⅵ層　橙色砂質シルト（7.5YR6/6）。層厚は約 15cm を測る。Ⅵ層は②～⑤では認められない。

Ⅶ層　緑灰色粘質シルト（10GY6/1）。層厚は約 10cm ～ 45cm を測る。部分的に鉄分を多く含み、橙色シルトとなる。Ⅶ層は②～⑤では認められない。

Ⅷ層　明褐色砂（7.5YR5/6）。層厚は 10 ～ 40cm を測る。直径 1 ～ 10cm の亜円礫を含み、部分的に青灰色砂となる。

Ⅸ層　浅黄色砂（5Y7/3）。層厚は約 15cm を測る。部分的に緑灰色粘質シルトとなる。

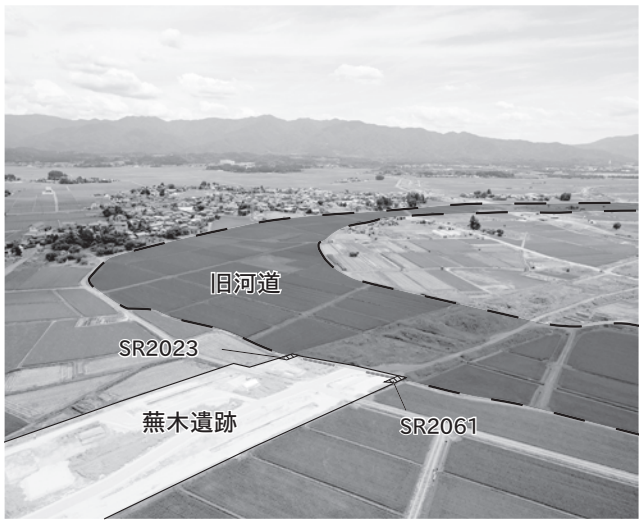
Ⅹ層　暗赤褐色砂（5YR3/6）。直径 1 ～ 20cm の亜円礫を多量に含む。

C　蕪木遺跡の旧地形について

今回の調査では、旧地形の確認のため調査区内の 8 地点で深掘りを行った（第 22 図）。なお、Ⅶ層までは昭和初期のほ場整備による削平の影響を受けており、旧地形の確認はⅧ層以下に着目した。

遺跡周辺の地形は、調査区外の南側に旧河道の痕跡が認められる（第 23・24 図）。この旧河道は、庚塚（かのえづか）遺跡の調査成果から、古代に機能していたものと推測されており［佐藤ほか 2009］、この旧河道右岸の斜面と思われる SR2023 と SR2061 を今回の調査で検出している。このうち SR2061 は、第 22 図①と同一地点にあり、Ⅷ層上面の標高値はこの SR2061 から北側に向かって徐々に高くなり、②から④の範囲が最も高くなることを確認した。さらに④の北側は徐々に低くなり、⑥の北側は比較的平坦である。以上から、今回の調査区内における蕪木遺跡の旧地形は、②から④の範囲に旧河道に沿う自然堤防の頂部が存在し、その北側には比較的平坦な微高地が広がっていたものと推測される。

第 23 図　蕪木遺跡と旧河道
（国土地理院発行「新津」1:25,000 原図に加筆）



第 24 図　遺跡南部の航空写真（北西から）

３　遺　　構

Ａ　概　　要

2022年度の調査区は、2014年度調査のⅠ－Ｄ区、2015年度調査のⅡ－Ａ・Ｂ区の東側と西側に位置し、主に南北に伸びる溝状に設定された。検出した遺構は、掘立柱建物２棟、土坑14基、溝25条、道１条、ピット77基、性格不明遺構１基で、このほか旧河道と地震痕跡である噴砂や砂脈を検出している。

遺構番号は2001から付し、道は道１とした。掘立柱建物は過年度調査と同一遺構と考えられたため踏襲した。中心となるのは古代と中世で、そのほか近世から近・現代の遺構を確認している。

分布状況は、古代の遺構は5Q～S、10T～X、11V～Xグリッドに比較的集中し、中世以降は6V・W、7W・Zグリッドを除く全域に分布する。以下に遺構種別ごとに記述する。

Ｂ　掘 立 柱 建 物

掘立柱建物は2014年度調査で検出したSB4・SB5の西側を新たに確認した。建物型式は［宮本1999］に従った（第５図）。

SB4（図版23・24・61・69）

５・6Rグリッドに位置し、南側は調査区外へ伸びる。位置関係からSB5と重複する。構成ピットはP2090と、2014年度調査のP371・378・377・380である。梁間１間、桁行３間の梁間一間型住居Ⅰａ型と思われる。

SB5（図版23・24・61・69）

５・6R、５・6Sに位置し、西側と南側は調査区外へ伸びる。位置関係からSB4と重複する。構成ピットはP2086・P2089と、2014年度調査のP369・374・376・379である。梁間２間、桁行３間の梁間一間型住居と思われる。遺物はP2086から土師器無台椀（図版31-21）、P2089の柱痕から土師器無台椀（図版31-22）と土師器片３点、黒色土器片１点、掘方埋土から土師器片１点が出土した。

Ｃ　土　　坑

土坑は14基検出した。出土遺物・埋土などの特徴から、古代に所属するものは10基（SK2010・2020・2024・2038・2050・2057・2060・2076・2101・2102）、中世以降は４基（SK2011・SK2095・2104・2106）と判断した。ここでは古代の建物に伴う可能性のあるものと、堆積物に特徴があるものを記す。

SK2010（図版21・25・62）

10V5グリッドに位置し、西側の大半は調査区外となる。P2006と重複し、これより古い。平面形は不整形と推測され、埋土は褐灰色シルトの単層である。底面はやや凹凸があり、側壁は緩やかに立ち上がる。

SK2011（図版21・25・62）

11X18・19グリッドに位置し、東端は調査区外となる。平面形は楕円形である。埋土は３層からなるレンズ状堆積である。１・２層は暗褐色シルトを主体とし、３層はにぶい黄褐色砂質シルトである。底面は平坦で、側壁は急斜度に立ち上がる。

SK2024（図版21・25・62）

10T6・７グリッドに位置し、西側の大半は調査区外となる。平面形は楕円形と推定される。P2056と

重複し、これより新しい。埋土は水平堆積で、６層に分層した。１層が褐灰色のシルト層で、２～６層がにぶい黄褐色・灰黄褐色のシルト層である。底面は平坦で、側壁は急斜度に立ち上がる。遺物は、１層から須恵器横瓶（図版 31-3）と、土師器長胴甕（図版 31-1）、土師器片２点が出土した。

SK2038（図版 21・25・63）

10T22・23 グリッドに位置し、西側の大半は調査区外となる。平面形は楕円形と推定される。P2036 と重複し、これより古い。埋土はブロック状堆積で、２層に分層でき、灰黄褐色シルトを主体とする。底面はやや凹凸があり、側壁は急斜度に立ち上がる。

SK2050（図版 21・25・63）

10U19・24 グリッドに位置し、西側の大半は調査区外となる。平面形は楕円形と推定される。P2055 と重複し、これより新しい。埋土は４層からなる水平堆積である。１層が黒褐色のシルト層で、２～４層がにぶい黄褐色シルトを主体とする。底面は凹凸があり、側壁は緩やかに立ち上がる。

SK2057（図版 21・25・63）

10U3 グリッドに位置する。平面形は楕円形である。P2046 と重複し、これより古い。埋土は灰褐色シルトの単層で、土師器片１点出土した。底面はやや凹凸があり、側壁は緩やかに立ち上がる。

SK2076（図版 23・25・63）

5Q22 グリッドに位置し、南西端は調査区外となる。平面形は方形である。埋土は３層からなるレンズ状堆積で、にぶい黄橙色・灰黄褐色のシルト層である。底面は中央が一番深く、側壁は急斜度に立ち上がる。

SK2101（図版 21・25・63）

11V24、11W4 グリッドに位置し、南東部の大半は調査区外となる。平面形は不整形である。埋土は水平堆積で、５層に分層した。１・２層は黒褐色シルトを主体とし、３～５層はにぶい褐色シルトを主体とする。底面は凹凸があり、側壁は急斜度に立ち上がる。土坑としたが、柱穴が２基切り合っている可能性も考えられる。遺物は、須恵器杯（図版 31-5）と土師器片 12 点が出土した。

SK2102（図版 21・25・63）

11W3・４グリッドに位置し、南東部の大半は調査区外となる。平面形は不整形である。埋土は水平堆積で、５層に分層した。１層は黒褐色シルトで、２～５層はにぶい褐色シルトを主体とする。底面は凹凸があり、側壁は急斜度に立ち上がる。規模・形態が SK2101 と類似しており、土坑としたが、柱穴が２基切り合っている可能性も考えられる。遺物は、黒色土器椀（図版 31-7）と土師器片９点が出土した。

SK2104（図版 21・25・64）

10W17・18・22 グリッドに位置し、北西部の大半は調査区外となる。平面形は楕円形と推定される。埋土は水平堆積である。５層に分層でき、褐灰色シルトを主体とする。底面は平坦で、側壁は急斜度に立ち上がる。

D　溝

道の側溝を除く溝は 25 条検出した。出土遺物が僅かであるため詳細な時期は不明だが、埋土の特徴などから古代に所属するものは２条（SD2042・2058）で、その他は中世以降と判断した。

SD2001（図版 21・26・64）

10U・V、10・11W グリッドに位置する。P2006・P2059・SK2060 と重複し、これらより新しい。ほぼ南北方向に伸びる。調査区内の全長は24.20m を測り、幅は1.12～0.36m、深度は19～29cm を測る。

断面形は北部が弧状、南部が台形状で、立ち上がりは急斜度である。底面は若干傾斜しており南部の方が低くなる。埋土は２層に分層でき、１層が灰褐色シルトで、２層は明黄褐色シルトである。10W10 グリッドに土坑状の付属施設を持ち、長径 1.09m、短径 0.94m で、深さは遺構底面から 20cm である。そのほか 10W10 グリッドでは、遺構底面から噴砂を検出した。この噴砂脈を本遺構が切っていることから、SD2001 の構築前または埋没前に吹き上がったものとみられる。遺物は１層から青磁椀（図版 31-8・9）、土師器片９点、須恵器片１点が、２層から土師器片１点が出土した。

SD2002（図版 21・26）

10W5、11W1 グリッドに位置する。東西方向に伸びる溝と推測する。検出した全長は 2.00m で東側・西側は調査区外へ続く。幅は 0.48m、深度は 6cm を測る。断面形は台形状で、立ち上がりは急斜度である。埋土はにぶい黄褐色シルトの単層である。

SD2021（図版 21・26）

11X23・24、11Y3・４グリッドに位置する。東西方向に伸びる溝と推測する。検出した全長は 1.91m で東側・西側は調査区外へ続く。幅は 1.10m、深度は 5cm 程である。断面形は弧状で、立ち上がりは緩やかである。埋土は灰黄褐色砂質シルトの単層である。遺物は１層から土師器の細片が２点出土している。

SD2030（図版 21・26・64）

10S22、10T2・７・８・12・13・18 グリッドに位置する。SD2031・SD2058 と重複し、これらより新しい。ほぼ南北方向に伸び、SD 2031 と併走する。検出した全長は 8.60m で北側は調査区外へ続く。幅は 0.34 ～ 0.60m、深度は 21cm を測る。断面形は半円状で、立ち上がりは急斜度である。埋土は２層に分層でき、１層が褐灰色、２層はにぶい黄橙色の粘質シルト層である。遺物は１層から土師器片３点、須恵器片４点が、２層から土師器片１点が出土した。

SD2031（図版 21・26・64）

10S22、10T2・７・12 グリッドに位置する。SD2030・SD2058 と重複し、SD2058 より新しく、SD2030 より古い。ほぼ南北方向に伸び、SD2030 と併走する。検出した全長は 6.04m で北側は調査区外へ続く。幅は 0.29m、深度は 6cm を測る。断面形は弧状で、立ち上がりは緩やかである。埋土は灰黄褐色シルトの単層である。

SD2034（図版 21・26・64）

10U3・４グリッドに位置する。東西方向に伸びる溝と推測する。検出した全長は 2.31m で東側・西側は調査区外へ続く。幅は 0.36m、深度は 16cm を測る。断面形は半円状で、立ち上がりは急斜度である。埋土は２層に分層でき、１層が黒褐色・にぶい黄褐色のシルト層である。遺物は１層から土師器片が２点出土している。

SD2040（図版 21・26・64）

10T17・18・22・23 グリッドに位置する。調査区壁断面では P2049 と重複することが確認され、これより新しい。東西方向に伸びる溝と推測する。検出した全長は 1.40m で北側は調査区外へ続く。幅は 0.48m、深度は 15cm を測る。断面形は半円状で、立ち上がりは急斜度である。埋土は暗褐色シルトの単層である。また、本遺構底面において連続するピット４基を検出した。いずれも径 10 ～ 20cm、溝底面からの深さ８cm を測る。

SD2042（図版 21・27・64）

10T12 グリッドに位置する。東西方向に伸びる溝と推測する。検出した全長は 0.92m で西側は調査区

外へ続く。幅は 0.28m、深度は 11cm を測る。断面形はU字状で、立ち上がりは急斜度である。埋土は３層に分層でき、灰褐色シルトを主体とする。遺物は１層から土師器片が１点出土している。

SD2058（図版 21・27・65）

10S21・22、10T1・２グリッドに位置する。SD2030・SD2031 と重複し、これらより古い。東西方向に伸びる溝と推測する。調査区内の全長は 1.80m を測り、幅は 0.66m、深度は 9cm を測る。断面形は半円状で、立ち上がりは急斜度である。埋土は２層に分層でき、にぶい黄橙色・明褐灰色のシルト層である。

SD2062（図版 22・27・65）

７・8AA グリッドに位置する。東西方向に伸びる溝と推測され、SD2063 と併走する。検出した全長は 2.10m で東側と西側は調査区外へ続く。幅は 0.65m、深度は 14cm を測る。断面形は半円状で、立ち上がりは緩やかである。埋土は３層に分層でき、灰褐色シルトを主体とする。

SD2063（図版 22・27・65）

７・8AA グリッドに位置する。東西方向に伸びており、SD2062 と併走する。2015 年度調査の SD1301 と一連の溝と思われる。検出した全長は 2.34m で東側と西側は調査区外へ続く。幅は 1.42m、深度は 36cm を測る。断面形は半円状で、立ち上がりは急斜度である。北側の壁面にピット状の付属施設が３基認められ、いずれも幅は 22 ～ 28cm、深度は 13 ～ 20cm を測る。埋土は３層に分層でき、黒褐色・暗褐色・にぶい黄橙色のシルト層である。

SD2064（図版 22・27）

7AA グリッドに位置する。東西方向に伸びる。2015 年度調査の SD1303 と一連の溝と思われる。検出した全長は 2.11m で東側と西側は調査区外へ続く。幅は 0.77m、深度は 10cm を測る。断面形は弧状で、立ち上がりは緩やかである。埋土は２層に分層でき、黒褐色・にぶい黄橙色のシルト層である。

SD2068（図版 23・27・65）

6U グリッドに位置する。北東－南西方向に伸びる。2014 年度調査の SD35 と一連の溝と思われる。調査区内の全長は 2.16m を測り、北東側と南西側は調査区外へ続く。幅は 0.92m、深度は 12cm を測る。断面形は弧状で、立ち上がりは緩やかである。埋土は４層に分層でき、１・２層が黒褐色シルトを主体とし、３層がにぶい黄橙色の砂質シルト層、４層はにぶい黄橙色のシルト層である。

SD2070（図版 23・27・65）

5R グリッドに位置し、東西方向に伸びる。2014 年度調査の SD20 と一連の溝と思われる。調査区内の全長は 2.25m を測り、幅は 1.40m、深度は 10cm を測る。断面形は弧状で、立ち上がりは緩やかである。底面には凹凸がある。埋土は３層に分層でき、暗褐色・褐灰色・にぶい黄橙色のシルト層である。遺物は１層から土師器片４点、３層から土師器片１点が出土した。

SD2071（図版 23・27）

5R グリッドに位置する。東西方向に伸びる。2014 年度調査の SD22 と一連の溝で、6R4・９グリッドで SD2072 と合流する。調査区内の全長は 1.61m を測り、幅は 0.53m、深度は 15cm を測る。断面形は半円状で、立ち上がりは急斜度である。埋土は３層に分層でき、黒褐色・灰黄褐色・にぶい黄橙色のシルト層である。遺構底面からは噴砂を検出した。この噴砂脈を本遺構が切っているため、遺構の構築前または埋没前に吹き上がったものとみられる。遺物は１層から須恵器片１点が出土した。

SD2072（図版 23・27・65）

5R グリッドに位置する。東西方向に伸びる。2014 年度調査の SD22 と一連の溝で、6R4・９グリッドで SD2071 と合流する。調査区内の全長は 1.61m を測り、幅は 0.68m、深度は 18cm を測る。断面形は台形状で、立ち上がりは急斜度である。埋土は２層に分層でき、灰黄褐色・にぶい黄褐色のシルト層である。遺物は土師器片２点が出土した。

SD2073（図版 23・27・65）

5Q グリッドに位置する。北西－南東方向に伸びる。2014 年度調査の SD23 と一連の溝である。SD2074 と重複し、これより古い。この結果、SD2074 と一連の溝である SD14 は SD23 より新しいことが確認できた。調査区内の全長は 2.27m を測り、幅は 0.62m、深度は 8cm を測る。断面形は弧状で、立ち上がりは緩やかである。埋土は２層に分層でき、１層が黒褐色のシルト層、２層がにぶい黄褐色の砂質シルトである。

Ｅ　道

旧河道（SR2023・SR2061）右岸の自然堤防頂部と思われる位置で道１を検出した。後世の削平があり、路面を確認することはできなかったが、道１の側溝は、2015 年度調査で検出した SD1308・SD1309 の東側と西側にそれぞれ位置することから、SD1308･SD1309 は道１の側溝の一部である可能性が高い。ここでは、道１の東部と西部が同一遺構である確証がないため、道１東・道１西と分けて記述する。

道１東（図版 21・28・65・66）

９～ 11X､11W グリッドに位置する。調査区内の全長は 16.90m を測り､主軸方向は N-77°-E を示す。北側溝 SD2054、南側溝 SD2013 の掘り直し等から、２時期の変遷が確認できる。

１期は SD2054B･SD2013B を両側溝とし、側溝中心間は 4.0m を測る。側溝底面は若干傾斜があり、東部の方が低くなる。SD2054B は、幅 1.70m、深度 48cm を測る。断面形は台形状で、立ち上がりは急斜度である。埋土は３層に分層でき、褐灰色シルトが主体で上層には砂が混入する。遺物は須恵器無台杯（図版 31-16）、須恵器甕の転用研磨具（図版 32-46）のほか、土師器片が 10 点、須恵器片が２点、黒色土器片が１点出土した。SD2013B は､幅 1.00m､深度 16cm を測る。断面形は弧状で､底面に凹凸がある。立ち上がりは緩やかである。埋土は４層に分層でき、主体となるのはにぶい黄橙色シルトで、にぶい赤褐色の砂層を含む。

２期は SD2054A・SD2013A を両側溝とする。ほぼ１期の位置を踏襲するが、20 ～ 40cm ほど南側へ移動する。側溝中心間は 4.10m を測る。SD2054A は、幅 1.90m、深度 30cm を測る。断面形は台形状で、立ち上がりは急斜度である。埋土は２層に分層でき、暗褐色シルトが主体である。遺物は土師器片が１点出土した。SD2013A は、幅 1.20m、深度 26cm を測る。断面形は台形状で立ち上がりは北側が緩やかで南側が急斜度である。埋土は６層に分層でき、主体となるのは暗褐色シルトで、褐色の砂層を含む。両側溝間の路面に相当する部分には 5cm 程のシルト質の盛土が確認されたが、硬化面は認められなかった。

道１西（図版 22・28・66）

7X・Ｙグリッドに位置する。調査区内の全長は 2.02m を測り、主軸方向は N-70°-E を示す。SD2079 を北側溝、SD2066 を南側溝とする。側溝中心間は 5.10m を測る。SD2079 は、幅 0.94m、深度 15cm を測る。断面形は台形状で、立ち上がりは急斜度である。埋土は３層に分層でき、暗褐色シ

ルトが主体である。SD2066 は、幅 1.08m、深度 46cm を測る。断面形は台形状で、立ち上がりは急斜度である。埋土は２層に分層でき、１層が黒褐色のシルト層、２層が黒褐色の砂質シルト層である。遺物は土師器片が 14 点出土した。

F　ピ　ッ　ト

掘立柱建物の柱穴を除くピットは 77 基検出した。調査区幅が 2m ほどであるため、建物を組むことは出来なかったが、10U グリッドで検出した P2006・2035・2037 などは、平面形が方形で比較的深く、柱痕も確認できることから建物の存在が想定される。ここでは、建物に伴う可能性の高いものを中心に記す。

P2006（図版 21・29・62・69）

10U23･24、10V3･４グリッドに位置し、西部の大半は調査区外となる。SK2010･SD2001 と重複し、SK2010 より新しく、SD2001 より古い。平面形は方形と推定され、深度は 46cm を測る。埋土は４層に分層でき、１層は黒褐色のシルト層、２・３層はにぶい黄褐色・褐灰色のシルト層、４層は灰白色の粘質シルト層である。１層は柱痕と思われ、径 15 ～ 20cm ほどの柱が据えられていたと推測される。

P2025（図版 21・29・66・69）

10U19 グリッドに位置し、西部は調査区外となる。平面形は楕円形で、深度は 30cm を測る。埋土は５層に分層した。１層は黒褐色のシルト層、２～５層はにぶい黄褐色を主体とするシルト層で、１層が柱痕と思われる。

P2035（図版 21・29・66・67・69）

10U18･19 グリッドに位置する。平面形は方形で、深度は 83cm を測る。埋土は 11 層に分層でき、1・２層は褐灰色を主体とするシルト層、３・４層は黒褐色を主体とするシルト層、５層は黒色の粘質シルト層、６～９層は灰褐色・黒褐色・にぶい黄橙色・灰黄褐色のシルト層、10 層は灰白色粘質シルト層、11 層は灰白色の粘土層である。３～５層は柱痕で、５層下部には柱根が残存する。また、柱根の底面には礎板の痕跡が認められ、柱根の側面からは板材が出土した。柱根と板材の材質はスギで、放射性炭素年代測定の結果、暦年較正年代が 11 ～ 12 世紀とされる（本章５）。

P2036（図版 21・29・63・69）

10T23 グリッドに位置する。西部の大半は調査区外となる。SK2038 と重複し、これより新しい。平面形は楕円形と推定され、深度は 46cm を測る。埋土は６層に分層した。１層は黒褐色のシルト層、２・３層は暗褐色・浅黄橙色・にぶい黄褐色のシルト層、５層は灰白色の粘質シルト層で、１層が柱痕と思われる。

P2037（図版 21・29・67・69）

10U8・９グリッドに位置する。平面形は方形で、深度は 46cm を測る。遺構の形状と主軸方向が P2035 と類似する。埋土は５層に分層でき、１層は黒褐色シルト、２～４層は黄褐色を主体とするシルト層、５層は灰白色の粘質シルト層である。１層は柱痕と思われ、径 15 ～ 20cm ほどの柱が据えられていたと推測される。

P2041（図版 21・29・67・69）

10U3 グリッドに位置する。平面形は楕円形で、深度は 49cm を測る。埋土は６層に分層した。１・２層は黒褐色を主体とするシルト層、３・４層は黒色・褐灰色の粘質シルト層、５・６層はにぶい黄褐色

を主体とするシルト層で、１・２層が柱痕と思われる。

P2044（図版 21・29・67・69）

10U8 グリッドに位置する。平面形は楕円形で、深度は 55cm を測る。埋土は４層に分層した。１層は黒褐色のシルト層、２層はにぶい黄褐色の粘質シルト層、３・４層は暗褐色・にぶい黄褐色の砂質シルト層で、１層が柱痕と思われる。

P2045（図版 21・29・68・69）

10U19 グリッドに位置に位置する。平面形は隅丸方形で、深度は 35cm を測る。埋土は５層に分層した。１層は黄褐色のシルト層、２層は黒褐色のシルト層、３・４層は灰黄褐色のシルト層、５層は灰白色の粘質シルト層で、２層が柱痕と思われる。

P2046（図版 21・29・68・69）

10T23、10U3 グリッドに位置する。SK2057 と重複し、これより新しい。平面形は楕円形で、深度は 53cm を測る。埋土は３層に分層した。１層は黒褐色のシルト層、２層は褐灰色のシルト層、３層は灰黄褐色のシルト層で、１層が柱痕と思われる。

P2059（図版 21・29・68・69）

10U4・９グリッドに位置する。東部の大半は調査区外となる。SD2001 と重複し、これより古い。平面形は楕円形と推定され、深度は 52cm を測る。埋土は６層に分層した。１～４層は黒褐色シルトを主体とし、５層は褐灰色の粘質シルト層、６層はにぶい黄橙色のシルト層で、４層が柱痕と思われる。

P2120（図版 21・30・69）

11W2・3・7・8 グリッドに位置する。平面形は楕円形で、深度は 26cm を測る。埋土は５層に分層でき、１層はにぶい黄褐色のシルト層、２層は黄褐色の砂層、３層は黒褐色の粘質シルト層、４層は灰黄褐色のシルト層、５層はにぶい黄褐色のシルト層である。２層には木材が残存し、底面に刺さった状態で出土した。この木材は放射性炭素年代測定により近世以降の年代が得られているが、現代の地下水などが浸透したことによる誤測定の可能性もある（本章５）。なお、遺構底面と側面からは噴砂が検出された。噴砂の砂は２層にも含まれていたが、埋没時に周囲の噴砂が入ったものと考えられる。

G　旧　河　道

調査区の南端において旧河道を２地点で検出した。調査区外の南側には現在の地形にも旧河道の痕跡が認められており（第 23・24 図）、今回検出した SR2023 と SR2061 はこの旧河道右岸の斜面と思われる。

SR2023（図版 21・30・69）

11Y グリッドに位置し、東西方向に伸びる。検出最大幅は 6.97m、検出長は 1.92m を測る。周辺の地形から流路は東から西に流れていたと思われる。埋土は２層に分層でき、１層は灰白色砂質シルト、２層はにぶい橙色砂である。遺物は出土しなかったが、埋土中に杭とも思える木材の痕跡が認められた。

SR2061（図版 22・30・70）

7・8BB グリッドに位置する。北東－南西方向に伸びる。検出最大幅は 6.07m、検出長は 2.12m を測る。周辺の地形から流路は北東から南西に流れていたと思われる。埋土は４層に分層でき、１層は明褐灰色粘質シルト、２層は明赤褐色砂質シルト、３層は青灰色砂質シルト、４層は青灰色粘質シルトである。遺物は出土しなかった。

H　性格不明遺構

掘り込みが不明瞭で、埋土に炭化物を多く含む遺構を性格不明遺構とした。

SX2124（図版 21・30・70）

11・12V グリッドに位置する。北西部の大半は調査区外となり、南東部は攪乱に切られる。確認できた範囲が一部であるため不明な点が多いが、長径 2.50m 以上、短径 2.30m 以上で、深さは 30cm を測る。立ち上がりは急斜度で、底面には凹凸がある。埋土は８層に分層でき、１～７層が黒褐色を主体とするシルト層、８層はにぶい黄橙色のシルト層でしまりが強い。３層を除き３～ 20mm の炭化物を含む。出土した遺物は 56 点で、須恵器の杯類（図版 31-26 ～ 34）、須恵器の甕（図版 31-35・36）、土師器の椀類（図版 31-24）、土師器の長胴甕（図版 31-25）、製鉄炉の炉壁片（図版 32-48）などが出土した。

I　噴　　砂

遺構検出面（Ⅳ層上面）において地震痕跡である噴砂７～ 11 を検出した（第 25 図）。2014 年度調査で確認された噴砂３～５は、残留磁化測定により噴砂３が A.D.800 － 900 年、噴砂４、５が A.D.850 － 1000 年の年代が推定されている［酒井ほか 2018］。全ての噴砂脈はおおむね東西方向に走り、土層断面の観察では陥没や断層が認められる。

噴砂７（図版 21・61）

10W・11V・W グリッドに位置する。調査区内の全長は 12.6m で、東西方向を蛇行しながら走る砂脈である。SK2102・SD2001・SD2009・P2007・P2120・P2023・P2122・SX2124 と切り合いがあり、全ての遺構に切られており、これらの遺構の構築前または埋没前に吹き上がったものと思われる。

噴砂８（図版 23）

6U グリッドに位置する。調査区内の全長は 2.19m で、北西－南東方向に走る。2014 年度調査の噴砂３と関連する砂脈と思われる。

噴砂９（図版 23・62）

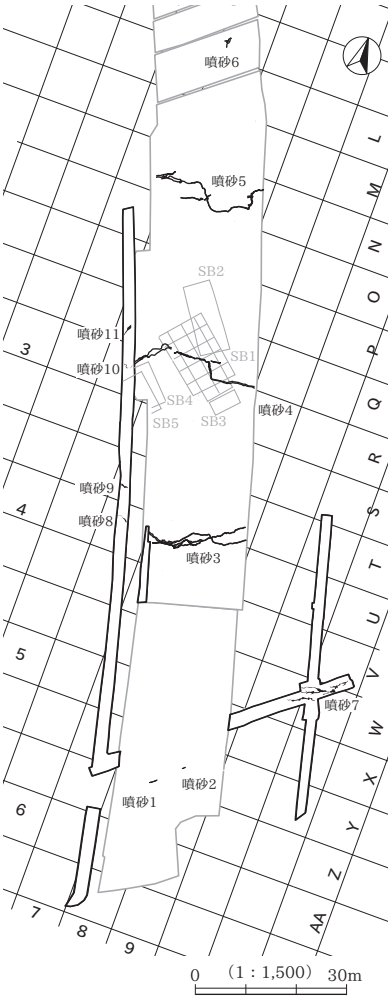
6T グリッドに位置する。調査区内の全長は 1.54m で、北西－南東方向に走る。2014 年度調査の噴砂３と一連の砂脈と思われる。断層が認められ、砂脈の両側で層の高さが約 25cm ずれている。

噴砂 10（図版 23）

5R グリッドに位置する。調査区内の全長は 1.69m で、東西方向を蛇行しながら走る。2014 年度調査の噴砂４と一連の砂脈である。SD2071 と切り合いがあり、これに切られる。

噴砂 11（図版 23）

5Q グリッドに位置する。調査区内の全長は 2.31m で、北東－南西方向に走る砂脈である。



第 25 図　噴砂位置図

（鈴木・荒川ほか 2018 に加筆）

４　遺　　物

Ａ　概　　要

遺物は、古代の土器 230 点・灰釉陶器１点・土製品１点・鍛冶関連遺物１点・木製品３点と、中世以降の遺物 37 点が出土した。古代の土師器・須恵器については９世紀代のものが主体となっている。出土遺物の器種分類や年代観については、古代の土器は［春日 1999］、貿易陶磁の分類は［山本 2000］を参考にした。墨痕が認められる須恵器（図版 31-27・30）については、新潟県立歴史博物館に赤外線鑑定を依頼し、墨痕の有無を確認した。

Ｂ　遺構出土遺物（図版 31・32・71・72）

SK2024（図版 31・71）

１は土師器甕類で、内外面はロクロナデ、口縁端部が直立する。２は長胴甕の体部片で、内外面にカキメがあり、外面にススが付着する。３は須恵器横瓶で、外面に格子目タタキ、内面に同心円の当て工具痕があり、一部自然釉がかかる。小泊窯産。

SK2101（図版 31・71）

４は土師器椀の口縁部片で、ロクロ成形されている。５は須恵器杯で、胎土は精良で白色粒子を含む。

SK2102（図版 31・71）

６はロクロ成形の土師器椀で、器壁はやや薄手である。７は黒色土器の椀で、内面と外面の口縁部にミガキの後、黒色処理される。

SD2001（図版 31・71）

８・９は龍泉窯系の青磁椀で、いずれも外面に鎬蓮弁文が施される。８は口縁が外反し釉は厚く均一である。椀Ⅲ類に比定でき、13 世紀中頃から 14 世紀初頭前後の所産と考えられる。

SD2030（図版 31・71）

10 は土師器長胴甕の胴部である。体部外面に平行タタキがみられる。11 は須恵器の瓶類で、全体の器形は不明だが内面にロクロナデの凹凸が顕著に残り、外面に一部自然釉がかかる。12 は須恵器の甕類で胎土に砂粒を多く含む。

SD2034（図版 31・71）

13 は土師器の小片で、鍋と思われる。焼成が不良で摩耗が著しい。口縁部がやや肥厚し、端部は上方につまみ上げられる。

SD2070（図版 31・71）

14 は土師器無台椀である。内外面はロクロナデで、底部の切り離しは摩耗が著しく不明である。

SD2071（図版 31・71）

15 は須恵器甕の小片で、内面は当て工具痕、外面は格子目タタキがみられる。胎土には砂粒を含む。

道１（図版 31・32・71・72）

16 は須恵器無台杯である。口縁部を欠損し、底部の切り離しは回転ヘラ切りである。胎土は精良で白色粒子を含み、器壁が薄く底面は凹凸が著しい。春日編年Ⅳ１期に位置付けられる。

46 は道１の北側溝（SD2054B）から出土した須恵器甕体部片で、砥石として二次利用している。外面タ

タキ部分と破断面一か所の二面を砥面とする。

P2008（図版 31・71）

17 は須恵器の甕類で、内面は同心円の当て工具痕、外面は平行タタキとカキメがみられる。胎土には砂粒を含む。

P2033（図版 31・71）

18 は土師器の小片で、長胴甕または鍋と思われる。口縁端部は僅かに上方に屈曲する。

P2035（図版 32・72）

49 はスギの板目材を使用した柱根である。底面は鋸歯状に切り落とされている。50 は柱根の側面に据えられていた板材である。上面側の木口は腐食し失われている。

P2044（図版 31・71）

19 は須恵器無台杯の体部片である。胎土は精良で白色粒子を含む。

P2046（図版 31・71）

20 は須恵器杯の口縁部片である。胎土は精良で白色粒子を含む。

P2086（図版 31・71）

21 はロクロ成形の土師器無台椀で、やや内湾しながら立ち上がる。

P2089（図版 31・71）

22 はロクロ成形の土師器無台椀で、やや厚手で、口縁端部は丸くおさめられる。

P2120（図版 32・72）

51 はマツ属の板目材を使用した柱根で、底面が尖る。中央に穴が開いているが、腐食によるものと思われる。

P2123（図版 31・71）

23 は灰釉陶器皿である。器壁はやや薄く、口縁の外反は弱い。底部は欠損するが、底部付近は内外面とも露胎である。

SX2124（図版 31・32・71・72）

24 はロクロ成形の土師器椀で、器壁が薄くやや内湾しながら立ち上がる。25 は土師器長胴甕で、口縁端部はやや内側へ短く屈曲し、体部外面にはカキメがみられる。26 は須恵器無台杯で口縁部が僅かに外反する。胎土と器形から阿賀北で生産されたものと考えられる。27 は須恵器無台杯で、内面にわずかに墨痕がみられ、器面には使用による摩耗痕跡がみられる。立ち上がりは直線的で、底部の切り離しは回転ヘラ切りである。28 は須恵器無台杯で、底部の切り離しは回転ヘラ切りで、切り離し後にその痕跡をナデ消している。器面にはロクロナデの凹凸が顕著に残り、胎土は精良で白色粒子を含む。29 は須恵器無台杯で、底部は回転ヘラ切りである。内面には指頭圧痕が残る。30 は内面に墨痕が認められる須恵器無台杯で、立ち上がりは直線的である。不明瞭であるため墨痕としたが、墨書である可能性もある。31・34 は須恵器無台杯で、34 は器面には使用による摩耗痕がみられる。32・33 は須恵器杯で、いずれも底部は欠損する。35・36 は須恵器の甕または横瓶で、いずれも内面は同心円の当て工具痕、外面は平行タタキとカキメがみられる。35 は小泊窯産で外面に自然釉が認められる。48 は炉壁片である。表面が溶融し、多数の気泡を有する。溶融面側は黒色で、破損面側は赤褐色である。

SX2124 からは９世紀後半の土師器長胴甕（25）や、９世紀第２四半期と考えられる在地産の須恵器無台杯（26）、小泊窯産の須恵器無台杯（27・29）が出土している。春日編年に照らし合わせればⅤ２期か

らⅥ1期に位置づけられるものと思われる。

C　遺構外出土遺物（図版32・72）

37は土師器無台椀で、内外面はロクロナデ、底部には糸切り痕がみられる。38は土師器の小甕で、口縁端部は上方につまみ上げられ、割れ口を含めて内面に黒色付着物がみられる。39は土師器長胴甕の口縁部片で、口縁端部が上方に短く屈曲する。40は土師器鍋で、内面に素文の当て工具痕とカキメ、外面に格子目タタキがみられる。41は黒色土器の椀である。42～44は須恵器の甕または横瓶で、いずれも内面には同心円の当て工具痕があり、外面には42・44は平行タタキとカキメ、43は格子目タタキがみられる。45は須恵器の甕類で、胎土に細かい長石粒を含む。47は断面方形の和釘で、頭は折れ曲がるが明瞭ではない。

5　自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

A　は　じ　め　に

蕪木遺跡Ⅱでは、柱材が出土している。このうち、P2035の覆土5層では柱の下部に横から支えるような形で板が見られた。またP2120では柱の上位や周囲に噴砂とみられる堆積構造が認められた。今回は、柱材などの樹種同定および放射性炭素年代測定を実施して、柱などの材質や年代に関する情報を得る。

B　試　　料

試料の詳細は、測定結果と共に第4表に示す。

蕪木遺跡Ⅱの試料はP2035の覆土5層より出土した柱材および覆土6層より出土した柱横の支え板と考えられる木材、P2120の覆土2層より出土した柱材の合計3点である。

C　分　析　方　法

1）樹　種　同　定

剃刀を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の各切片を作成し、生物顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察して、特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東［1982］、Wheeler他［1998］、Richter他［2006］を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林［1991］や伊東［1995,1996,1997,1998,1999］を参考にする。

2）放射性炭素年代測定

木片の周囲を削り落として付着物を除去し、50mg程度に試料を調整する。塩酸（HCl）により炭酸塩など酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム（NaOH）により腐植酸などアルカリ可溶成分を除去、塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩など酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理 AAA:Acid Alkali Acid）。濃度は塩酸、水酸化ナトリウム共に1mol/Lである。

試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化（鉄を触媒とし水素で還元）はElementar社のvario

ISOTOPE cube と Ionplus 社の Age3 を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を NEC 社製のハンドプレス機を用いて内径 1mm の孔にプレスし、測定試料とする。測定はタンデム加速器をベースとした ^{14}C-AMS 専用装置（NEC 社製）を用いて、^{14}C の計数、^{13}C 濃度（$^{13}C/^{12}C$）、^{14}C 濃度（$^{14}C/^{12}C$）を測定する。AMS 測定時に、米国国立標準局（NIST）から提供される標準試料（HOX- Ⅱ）、国際原子力機関から提供される標準試料（IAEA-C6 等）、バックグラウンド試料（IAEA-C1）の測定も行う。$\delta^{13}C$ は試料炭素の ^{13}C 濃度（$^{13}C/^{12}C$）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表したものである。放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う［Stuiver & Polach 1977］。暦年較正は Oxcal4.4［Bronk,2009］、較正曲線は Intcal20［Reimer et al.,2020］を用いる。

D　結　　果

1）樹　種　同　定

結果を表４に示す。蕪木遺跡Ⅱの試料のうち、P2035 の柱材および板と考えられる木材はいずれもスギ、P2120 の覆土２層より出土した柱材はマツ属複維管束亜属に同定される。

以下に検出された種類の木材解剖学的所見を述べる。

第４表　測定試料の樹種と放射性炭素年代測定結果

試料名	性状	分析方法	測定年代 yrBP	δ 13 C (‰)	暦年較正用	暦年較正年代				Code	No.
							年代値		確率		
No.51 P2035（5 層）柱	木材（スギ）	AAA (1M)	965 ± 20	-25.17 0.43	965 ± 20	σ	cal AD 1032 - cal AD 1047	918 - 903 calBP	0.163	pal-14567	YU-17688
							cal AD 1083 - cal AD 1127	867 - 823 calBP	0.439		
							cal AD 1140 - cal AD 1149	810 - 801 calBP	0.081		
						2 σ	cal AD 1026 - cal AD 1054	924 - 896 calBP	0.234		
							cal AD 1075 - cal AD 1158	875 - 792 calBP	0.720		
No.53 P2035（6 層）柱（支え板）	木材（スギ）	AAA (1M)	905 ± 20	-24.60 0.39	906 ± 20	σ	cal AD 1050 - cal AD 1081	900 - 869 calBP	0.352	pal-14568	YU-17689
							cal AD 1152 - cal AD 1177	798 - 773 calBP	0.262		
							cal AD 1193 - cal AD 1202	757 - 748 calBP	0.069		
						2 σ	cal AD 1045 - cal AD 1086	905 - 864 calBP	0.381		
							cal AD 1092 - cal AD 1105	858 - 845 calBP	0.033		
							cal AD 1120 - cal AD 1215	830 - 735 calBP	0.540		
No.151 7 区 P2120（2 層）柱	木材（マツ属複維管束亜属）	AAA (1M)	140 ± 20	-26.23 0.38	138 ± 20	σ	cal AD 1683 - cal AD 1699	267 - 251 calBP	0.095	pal-14569	YU-17690
							cal AD 1722 - cal AD 1735	228 - 215 calBP	0.077		
							cal AD 1803 - cal AD 1814	147 - 136 calBP	0.067		
							cal AD 1835 - cal AD 1886	115 - 64 calBP	0.314		
							cal AD 1909 - cal AD 1935	41 - 15 calBP	0.130		
						2 σ	cal AD 1675 - cal AD 1766	275 - 184 calBP	0.315		
							cal AD 1774 - cal AD 1776	176 - 174 calBP	0.004		
							cal AD 1798 - cal AD 1895	152 - 55 calBP	0.453		
							cal AD 1902 - cal AD 1943	48 - 7 calBP	0.183		

1）年代値の算出には、Libby の半減期 5,568 年を使用。
2）yrBP 年代値は、1950 年を基点として何年前であるかを示す。
3）付記した誤差は、測定誤差 σ（測定値の 68% が入る範囲）を年代値に換算した値。
4）AAA は酸－アルカリー酸処理、AaA はアルカリの濃度を薄くした処理、HCl は塩酸処理、Edg はエッジング処理、CoEx はコラーゲン抽出処理を示す。
5）暦年の計算には、Oxcal4.3 を使用。
6）暦年の計算には表に示した丸める前の値を使用している。
7）1 桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1 桁目を丸めていない。
8）統計的に真の値が入る確率は σ は 68%、2 σ は 95% である。

・マツ属単維管束亜属（*Pinus subgen. Haploxylon*）　マツ科

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やかで、晩材部の幅は狭い。垂直樹脂道は晩材部に近い場所に認められる。放射組織は、仮導管、柔組織、水平樹脂道、エピセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁は滑らかで鋸歯は認められない。放射組織は単列、1-15 細胞高。

・スギ（*Cryptomeria japonica*（L. f.）D. Don）　スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔

はスギ型で、1 分野に 2 個が多い。放射組織は単列、1 ～ 10 細胞高。

2）放射性炭素年代測定

放射性炭素年代値を第 4 表に併記する。また、暦年較正結果を第 27 図に示す。

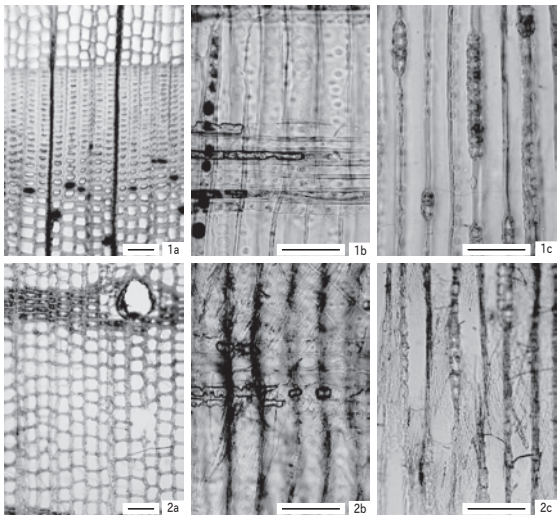
各遺跡の試料全てが定法での処理が可能であり、年代測定に必要な炭素量が回収できた。同位体補正を行った年代値は、P2035 の柱材が 965 ± 20BP、柱横の木材が 905 ± 20BP、P2120 の柱材が 140 ± 20BP である。

暦年較正は、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、その後訂正された半減期（^{14}C の半減期 5730 ± 40 年）を較正することによって、暦年代に近づける手法である。2 σの値は、P2035 の柱材が calAD1026-1158、柱横の木材が calAD1045-1215、P2120 の柱材が calAD1675-1943 である。

E　考　　察

P2035 の柱材および柱横の木材はスギであった。スギは太く真っ直ぐな材が得やすいこと、軽軟で加工が容易であること、水湿に強いこと、木目が美しいことなどから、様々な用途で多用される良材である。建築材としての利用も多く、柱や板材、土台などに利用されている。一方、P2120 の覆土 2 層より出土した柱材はマツ属複維管束亜属であった。これは痩地でも生育が可能で、植生破壊が進んだ場所に先駆的に侵入して二次林を構成し、人里近くに多い樹木である。強度があり、建築材や土木材として利用されることが多い。出土木製品用材データベース［伊東・山田編 ,2012］によれば、スギは様々な用途での材が出土しており、建築材としての出土もある。マツ属複維管束亜属はスギと同様で、建築材や施設材、土木材としての出土が多い。

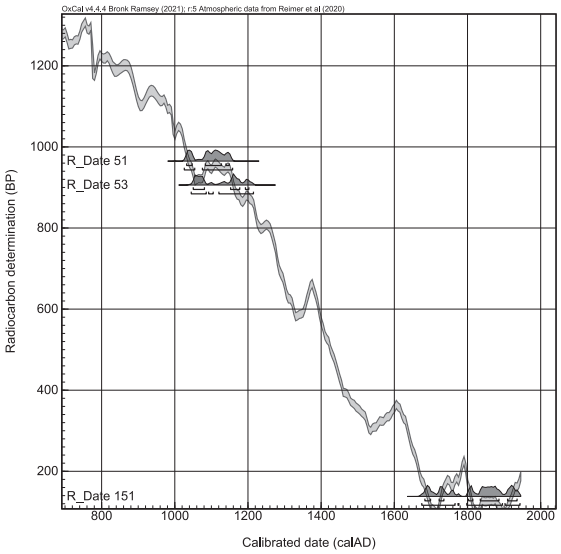
P2035 出土の木材は、暦年較正結果が 11 ～ 12 世紀を示す。一方、P2120 の柱材は近世～現代に当たる。覆土には噴砂の痕跡が認められている。残留磁気による推定年代は AD800 ～ 1,000 であり、AD863 年の中越・越後地震に伴う可能性が指摘されている［酒井ほか ,2018］。ただし、現代の地下水などが浸透することで、元来の年代を示さないことも考えられる。そのため、今回の測定結果については今後さらに発



1.スギ(No.53)
2.マツ属複維管束亜属(No.151)

a:木口　b:柾目 c:板目
スケールは100μm

第 26 図　生材の顕微鏡写真



第 27 図　暦年較正結果

掘調査所見を含めて検討する必要があろう。

引用文献

Bronk RC.　2009　Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon,51　337-360.

林　昭三　1991 『日本産木材顕微鏡写真集』 京都大学木質科学研究所 .

伊東隆夫　1995 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ」『木材研究・資料』31　京都大学木質科学研究所　81-181.

伊東隆夫　1996 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ」『木材研究・資料』32　京都大学木質科学研究所　66-176.

伊東隆夫　1997 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ」『木材研究・資料』33　京都大学木質科学研究所　83-201.

伊東隆夫　1998 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ」『木材研究・資料』34　京都大学木質科学研究所　30-166.

伊東隆夫　1999 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ」『木材研究・資料』35　京都大学木質科学研究所　47-216.

伊東隆夫・山田昌久（編） 2012 『木の考古学　出土木製品用材データベース』 海青社 ,449p.

Reimer P., Austin W., Bard E., Bayliss A., Blackwell P., Bronk Ramsey, C., Butzin M., Cheng H., Edwards R., Friedrich M., Grootes P., Guilderson T., Hajdas I., Heaton T., Hogg A., Hughen K., Kromer B., Manning S., Muscheler R., Palmer J., Pearson C., van der Plicht J., Reimer R., Richards D., Scott E., Southon, J. Turney, C. Wacker, L. Adolphi, F. Buentgen U., Capano M., Fahrni S., Fogtmann-Schulz A., Friedrich R., Koehler P., Kudsk S., Miyake F., Olsen J., Reinig F., Sakamoto M., Sookdeo A., & Talamo S.　2020　The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve（0–55 cal kBP）. Radiocarbon, 62　1-33..

Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（編） 2006 『針葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト』伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部　久・内海泰弘（日本語版監修） 海青社　70p.［Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（2004）IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification］.

酒井英男・石田桃子・泉　吉紀・菅頭明日香・卜部厚志　2018 「阿賀野市蕪木遺跡で認められた噴砂の磁化研究」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 277 集 蕪木遺跡』 新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団　62-66.

Stuiver M., & Polach AH.　1977　Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of ^{14}C Data. Radiocarbon, 19　355-363.

島地　謙・伊東隆夫　1982 『図説木材組織』 地球社　176p.

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編） 1998 『広葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト』伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩（日本語版監修） 海青社　122p.［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（1989）IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.

6　調査のまとめ

蕪木遺跡は、阿賀野川の右岸、標高 9.6 ～ 10.6m の沖積低地に立地している。第１次調査は 2014 年７月から 11 月、第２次調査は 2015 年９月から 11 月にかけて、併せて 6,963㎡を対象に実施している。第１・２次調査では掘立柱建物５棟（古代５）、井戸１基（中世）、火葬土坑１基（中世）、土坑 41 基（古代 23、中世～近世 12、近・現代６）、溝 26 条（古代５、近・現代 21）、道路状遺構１条（中世～近世１）、柵１条（中世～近世１）、ピット 200 基（古代 172、中世～近世 28）、性格不明遺構 10 基（中世～近世６、近・現代４）が確認され、９世紀中葉～後葉にある程度の社会的地位を持つ有力者が造営したと思われる大型建物群が存在したこと、13 世紀から 15 世紀に井戸や火葬土坑が存在し、周囲に集落の存在が伺えることなどが確認された［鈴木・荒川ほか 2018］。また、2020 年には埋文事業団１Ａ区の北東部に隣接する位置で阿賀野市教育委員会（以下、市教委とする）による調査が行なわれた。第１・２次調査で確認された遺構に先行する９世紀前半の掘立柱建物や井戸状遺構などが確認され、春日編年［春日 1999］のⅥ１期頃に遺跡内で集落が断絶または再編があった可能性が考えられている［古澤ほか 2022］。

今回の第３次調査は、第１・２次調査で設定された調査区の東と西に溝状に設けられた調査区 422㎡を対象に実施し、ここから第１次調査で確認された SB4・SB5 の西側と、土坑 14 基（古代９、中世～近世５）、溝 25 条（古代２、中世～近世 17、近・現代６）、道１条（古代～中世）、ピット 77 基（古代 39、中世～近世 38）、旧河道、性格不明遺構１基（古代１）を検出している。ここでは過去の調査成果を踏まえながら古代・中世の遺構について概要を述べ、若干の考察を交えまとめとする。

Ａ　古　　代

蕪木遺跡でこれまでに検出した古代の遺構は全て９世紀代に属しており、当遺跡において９世紀代は最も盛んに土地利用がなされていた時期と想定される。また、調査区内には大規模地震の痕跡である砂脈が 11 地点で確認されており、遺構との重複関係や残留磁化測定の結果［酒井ほか 2018］などから、地震は９世紀代に発生した可能性が高いと考えられる。以下では第 28 図に示した掘立柱建物群、土坑・ピット群、旧河道・道に分けて概括する。

掘立柱建物群

第１次調査では大型の掘立柱建物群（第 28 図）が確認されている。今回は、このうち第１次調査時に調査区外であった SB4 と SB5 の西側の調査を行い、そこから P2086・P2089・P2090 を検出している。遺構の位置関係や規模、埋土などから、P2086・P2089 は SB5、P2090 は SB4 に付属するものと考えられ、いずれも梁間一間型建物であると推定される。SB4・SB5 からは年代の根拠となる遺物が出土しなかったが、過去の調査において SB2・３・４ → SB1・５と変遷することが推定されている［鈴木・荒川ほか 2018］。また、出土遺物から SB1 の年代が、春日編年のⅥ２期頃と考えられることや、周囲から V2 期まで遡る遺物がみられないこと等から、SB4 の年代はⅥ１～２期頃、SB5 はⅥ２～３期頃である可能性が考えれる。

土坑・ピット群

今回は、11V・Wグリッドにおいて多数のピット・土坑・性格不明遺構がまとまって確認された（第 28 図 土坑・ピット群１）。このうち、P2123 の埋土から９世紀後半と思われる灰釉陶器皿（図版 31-23）が

出土するなど、出土遺物には官衙的色彩を有するものが若干含まれる。SX2124 からは９世紀後半の土師器長胴甕（図版 31-25）が出土したが、須恵器は小泊窯産が約 75％、在地産が約 25% で、須恵器の無台杯は春日編年の V2 期に位置づけられるものが主体となっている。このことから SX2124 はⅥ１期頃までには埋没したものと考えられる。

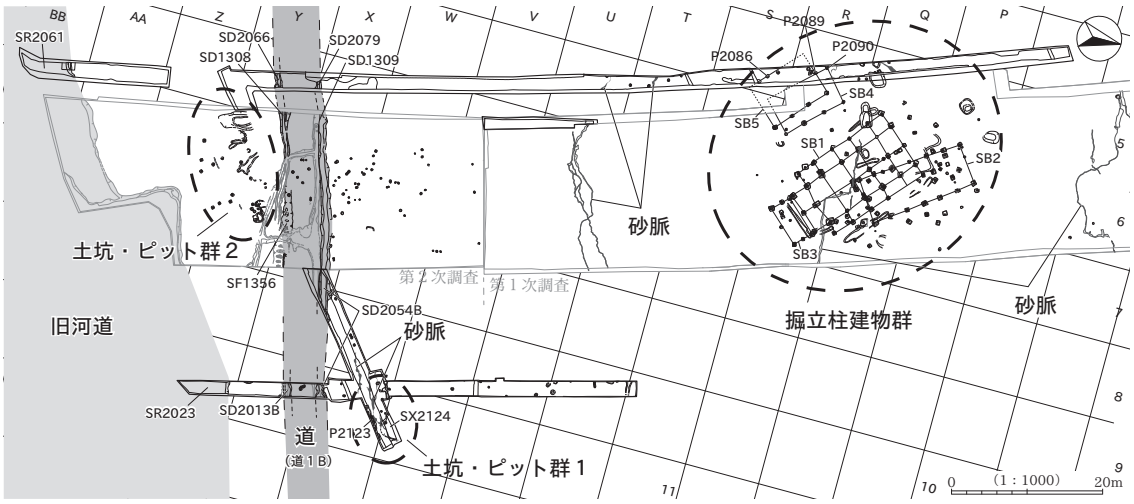
第２次調査では、8Y・Z、9Y・Zグリッドにおいて柱痕をもつ多数のピットがまとまって確認された（第 30 図 土坑・ピット群２）。建物は復元されなかったが、柱穴の規模や並びから建物域１よりかなり小型の建物があったことが推定されており［鈴木・荒川ほか 2018］、付近の土坑からは墨書土器などが出土している。

この２つの土坑・ピット群はいずれも自然堤防の微高地頂部手前に位置しており、頂部に存在したと思われる道との関わりが注目される。

旧河道・道

調査区南部で旧河道と道を検出している（第 28 図 旧河道、道）。このうち旧河道は、2007 年に行なわれた庚塚遺跡の調査において流路の底に９世紀後半から 10 世紀初頭の土器を含む層が良好に残っていたことから、古代に機能していたものと推定されている［佐藤ほか 2009］。今回の調査で確認された道１は、この旧河道に沿う自然堤防微高地の頂部（第 22 図 ②から④の範囲）にあり、旧河道と併走するように東西方向に延びている。側溝中心間は４～５ｍほどで、SD2054・SD2079 を北側溝、SD2013・SD2066 を南側溝とし、道１の東部では両側溝に２回の掘り直しがあることを確認した。北側溝は、第２次調査で確認された SD1309 と接しており、SD2054 → SD1309 → SD2079 と繋がるものと考えられる。北側溝の埋土には亜円礫が含まれており、この礫は道路通行部の構築に使用された可能性が考えられる。南側溝は、埋土や壁面の立ち上がりに若干ばらつきがあるが、道が延びる方向などから SD2013 → SD1308 の一部 → SD2066 と繋がる可能性が考えられる。

今回の調査において道１には２時期の変遷があることが確認され、埋土・出土遺物などから古い道が古代（道１Ｂ）、新しい道が中世（道１Ａ）であると考えられる。道１Ｂの北側溝の埋土には古代の遺物包含層土である黒褐色シルトが含まれる。古代の遺物包含層は、今回の調査区では 10W、11V・Wグリッドのみ調査区壁断面で確認されており、2020 年の市教委調査区で確認されたⅢ層（黒色土）と同一のものである可能性が考えられる。市教委調査区で確認されたⅢ層は、出土した炭化材の放射性炭素年代測定の



第 28 図　古代の遺構分布図

結果、７世紀後半から８世紀後半の年代が得られている［古澤ほか2022］。また、この道を挟んだ北と南に古代のピットと土坑、性格不明遺構が点在していることからも、当該期の道の存在が推定される。

遺物は、道１Ｂの北側溝から、春日編年のⅥ１期に位置づけられる小泊窯産の須恵器無台杯（図版31-16）が出土している。

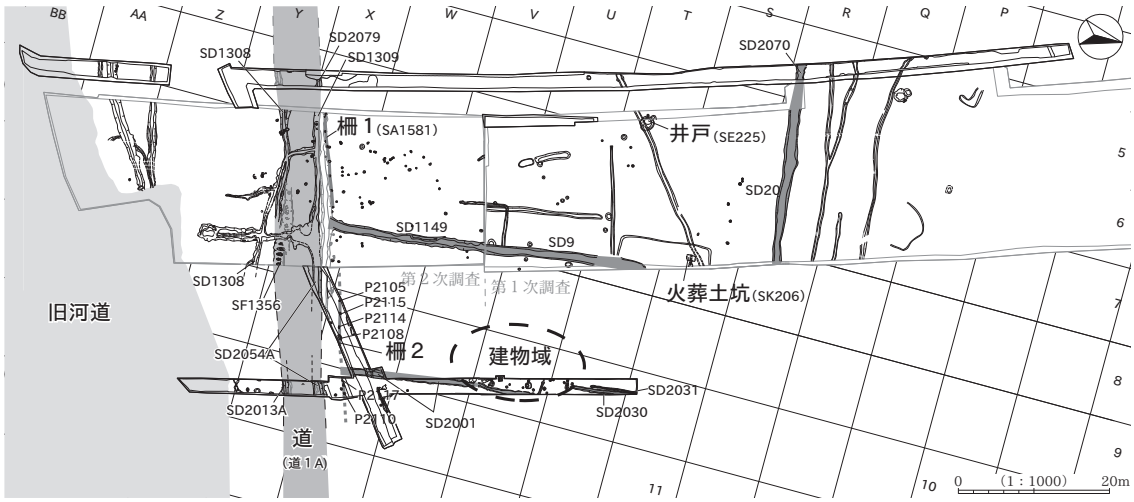
以上の状況から、蕪木遺跡は旧河道に近接した場所で営まれた集落跡と考えられ、今回の調査で、旧河道と掘立柱建物群との間に古代の道が存在することが確認された。遺跡内からは墨書土器や墨痕の認められる須恵器が出土していることから、集落内で文字が使用されたことが伺え、当集落内における上層階級者の存在が推定される。また､SX2124から出土した須恵器無台杯は春日編年Ｖ２期のものが主体であり、2020年の市教委調査区で確認された遺構の時期と一部重なる可能性が高い。市教委調査区はSX2124から約230m北北東に位置することを踏まえると、蕪木遺跡で営まれた９世紀代の集落の痕跡は未調査区域の広い範囲に及ぶ可能性が考えられる。

Ｂ　中　　世

調査区南部の旧河道沿いに中世の道が確認され、道の250m北には建物域が存在することが確認された。道沿いには柵が設けられた痕跡があり、そのほか第１次調査では13～15世紀の井戸と火葬土坑が確認されている。なお、調査区の南側にある旧河道は平安期から近世のいずれかの時期に本遺跡の約900m西へ河川の流路が変わったと推定されているが［潮田2014］、その後も小規模な河川や潟として残存した可能性が考えられる。以下では第29図に示した建物域、道・柵、溝について概括する。

建物域

10T～Ｖグリッドでは、柱痕をもつピットがまとまって確認された（第29図建物域）。このうちP2035からは柱根と柱の支え板と考えられる板材が出土しており、柱材にはスギが使用され、柱の太さは約15cmである。出土した柱根と板材は放射性炭素年代測定により11世紀から12世紀の年代が得られている（本章５）。第１次調査ではこの建物域から約380m西で13世紀後半から14世紀末の井戸（第29図井戸）が確認され、250m北西で13世紀末から15世紀初頭の火葬土坑（第29図火葬土坑）が確認されている［鈴木・荒川ほか2018］。今回出土した柱材の年代は建物の構築時期の参考年代であるため、第１次調査で確認された井戸・火葬土坑と大きな時期差がない可能性も考えられる。



第29図　中世の遺構分布図

調査範囲が狭く建物を復元することは出来なかったが、周囲で検出している区画溝と同様に建物の主軸方向はの N-7°-W 前後である可能性等が考えられる。

道・柵

古代の道（道１Ｂ）とほぼ同じ位置で中世の道（道１Ａ）を検出している（第 29 図道）。第２次調査では、これとは別に道と推定される遺構（SF1356）を検出しているが、この遺構は重複関係から、道１Ａの一部か、道１Ａと道１Ｂの中間期に存在した道と思われる。また、8Y グリッドにおいて道１の南側溝と考えられる SD1308 が分岐して途中から二手に分かれていることから、道は継続的に機能し位置を変えながらさらにいくつかの段階を得ている可能性が考えられる。

道１の北側で柵と考えられる多数のピットを検出した（第 29 図柵１・柵２）。これらのピットは概ね 1.7 ～ 2.0m 間隔で並び、道１Ａに併走する。道と屋敷地等の区画である可能性が考えられる。

溝

中･近世の遺構には、多くの溝が検出されている。このうち SD2001（第 29 図）は、南北方向に延びる溝で、埋土中から中世の青磁椀が出土している。出土した青磁椀（図版 31-8）は体部外面に鎬連弁文が施される龍泉窯系のもので、時期は 13 世紀中頃から 14 世紀初頭前後と考えられる。

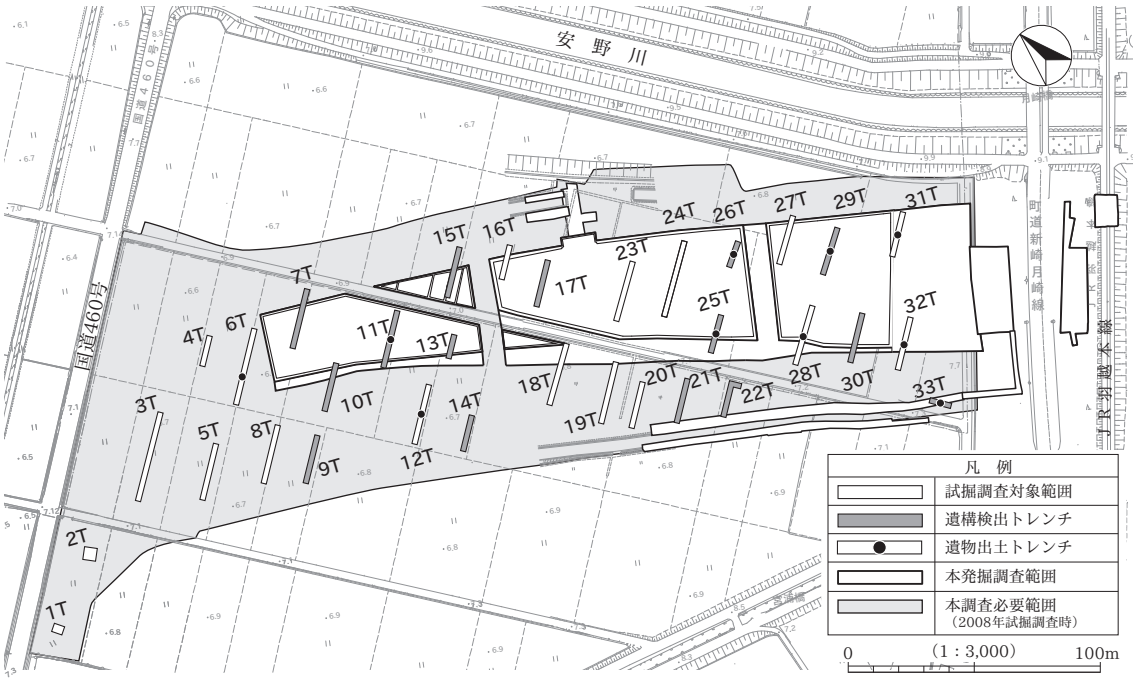
SD2001 は、SD2030・SD2031 や第１・２次調査で確認された SD9・SD1149（第 29 図）とは主軸が類似し、SD20・SD2070（第 29 図）とは主軸が直交する。このことから、これらの溝はひとつのまとまりである可能性があり、柵と同様に何らかの区画を示すことが考えられる。

第Ⅴ章　山口野中遺跡Ⅴ

1　調　査　経　過

A　試掘確認調査

山口野中遺跡のバイパス法線に関わる試掘調査は、埋文事業団が2008年5月8日から5月22日に行った。調査地点は国道460号からJR羽越本線の間である（第30図）。調査対象面積は35,960㎡、実質調査面積は1,042㎡、試掘確認率は2.9%である。試掘調査は、調査対象地に試掘坑を任意に設定し、重機（バックホー）及び人力による掘削・精査を行い、遺構・遺物の有無を確認した。その後、土層堆積状況、トレンチ位置、遺構・遺物の検出状況等を図面・写真に記録する方法で行った。試掘トレンチは33か所設定し、遺物はトレンチ西端から2m単位で取り上げた。



第30図　試掘トレンチ位置図

（原図：国土交通省提供　村上ほか2015を一部改変）

調査の結果、北西側の7～15T、17T付近と南東側の21～26T、29～33Tの大きく4つの範囲で遺構を検出した。9・10Tでは柱穴・土坑・土坑状炭窯・溝を検出した。出土遺物から中世集落の一部とみられる。また、このほかは溝を主体に検出した。溝の覆土は灰色系と灰褐色・褐色系に2分できる。中世の遺物が方眼される遺構は後者、近世以降の遺物が出土する遺構は前者であり、こうした傾向は本発掘調査の結果と整合する。

以上から、山口野中遺跡は試掘トレンチでの遺構検出を基に4か所（7～15T、17T付近、21～26T、29～33T周辺）を範囲とし、本発掘調査必要面積は20,785㎡として、平成20年8月7日付、新理第172号で県教委に試掘調査報告書を提出した（第30図）［村上ほか2015］。

B　本 発 掘 調 査（第６次調査）

令和４年度の調査区は令和３年度調査までの呼称を継承して 12 区とし、本発掘調査は 2022（令和４）年７月 13 日から７月 29 日まで行った。当初、調査面積は 144㎡であったが、本調査区の南東側を走る市道七島月崎線に近い場所は、安全を確保するため道路から一定幅を残して掘削を行う必要があったため、国土交通省との協議のうえで調査範囲を調整し、最終的な調査面積は延べ 81㎡となった。

７月 13 日から重機を用いて表土掘削を開始し、７月 20 日から作業員を入れて遺構検出から作業を進めた。遺物包含層は残存しておらず、現地表面の直下で中・近世と思われる溝跡などを検出した。７月 29 日に新潟県が終了確認を行い、同日ラジコンヘリコプターによる空撮を行った。８月２日に埋め戻しを行い、全ての作業を終了した。

C　整　理　作　業

整理作業は、８月１日から現場事務所において遺物の洗浄・注記等の基礎的な作業を行った後、８月８日から株式会社ノガミ整理作業所において遺構図面の整理、遺物の実測、本文の原稿執筆等の作業を行った。遺構図面は、台帳作成などの基礎的な整理を行なった後、平･断面図の校正とデジタルトレースを行った。出土した遺物は３点であったが、このうち器種が判別できる２点について、写真撮影と実測を行った。その後、報告書の図面図版・写真図版のレイアウトを行い、2023 年３月末、編集・校正作業が終了した。

2　調 査 の 概 要

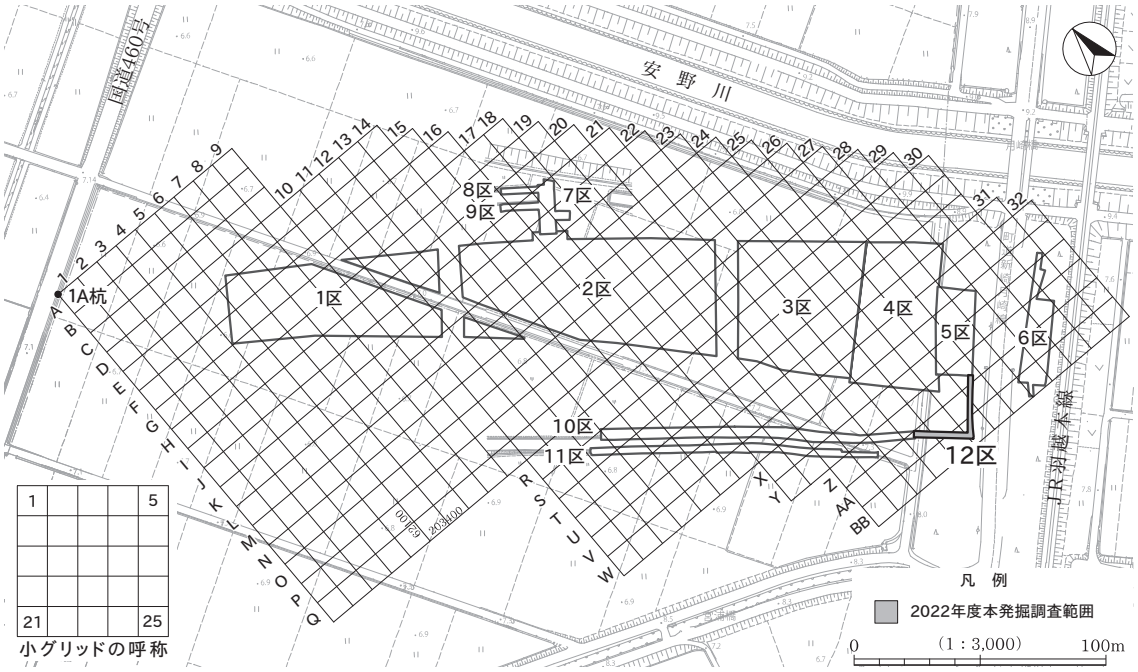
A　グリッドと調査区の設定

調査区の呼称は、従来の区分を継承し 12 区とした。本調査区は、Ｌ字状に調査区が設けられており、北東端では 2015 年度に調査が行われた５区と接し、北西端では 2021 年度に調査が行われた 10 区と接している。

グリッドの設定は、2012 年度の調査で設定したものを踏襲した（第 31 図）。国家座標のＸ座標 =202,570.000（北緯 37 度 49 分 56.75682 秒）、Ｙ座標 =62,050.000（東経 139 度 12 分 17.72584 秒）を基点（1A 杭）とし、南北・東西それぞれ 10m の方眼を組み、大グリッドとした。大グリッドの呼称は、遺跡を覆う方眼を西から東へ向けて算用数字（１・２・３…）、北から南へ向けてアルファベット（Ａ・Ｂ…Ｚ、AA、BB…）を付し、これを組み合わせた。両者の組み合わせにより「26Z」「23AA」のように表示した。小グリッドは大グリッドの中を 2m 四方に 25 分割した。小グリッドには１～ 25 の番号を付し、北西隅を １、南東隅を 25 となるように配列した。グリッドは、大グリッドと小グリッドを組み合わせ、「26Z23」「23AA9」のように表記した。12 区付近の 25BB1 北西隅はＸ座標 =203,300.000、Ｙ座標 =62,290.000 である。

B　基　本　層　序

遺跡は、阿賀野川右岸の自然堤防上に位置する。現況は調査区の東側は市道新崎月崎線沿いに雑木等が生い茂っていた。西側は工事用の砕石が敷き詰められており、工事が入る以前は水田であった。調査前の標高は砕石直下で 7.4 ～ 7.5m を測る。調査区は昭和初期の耕地整理・開田によりⅡ層及びⅢ層は削平されている。このため表土や耕作土の直下が遺構検出面となる。また調査区全体が攪乱の影響を受けており、



（原図：国土交通省提供）

第 31 図　グリッド設定と調査区

（原図：国土交通省提供　小野本ほか 2016 を一部改変）

とくに西側の 24BB グリッド以北は大きな攪乱によってⅣb 層上面まで失われている。

基本層序は新潟県埋蔵文化財調査事業団による山口野中遺跡の発掘調査報告書（『山口野中遺跡』［村上ほか 2013］、『山口野中遺跡Ⅱ』［村上ほか 2015］、『山口野中遺跡Ⅲ』［小野本ほか 2016］）を参照とした。このうち、2015 年度調査の 5 区の基本層序は、今回の調査区に隣接するため直接の基準とした。ただし、遺跡全体の土層は複雑であり、調査地点が離れると層もかなり変化する。その結果、一部の層は前回調査と一致しない個所もあるため、標高や土質等で判断した。なお第 32 図には 2015 年度調査の 5 区（2015 − 1T）の基本層序も比較のため掲載した。

Ⅰ層　表土・耕作土

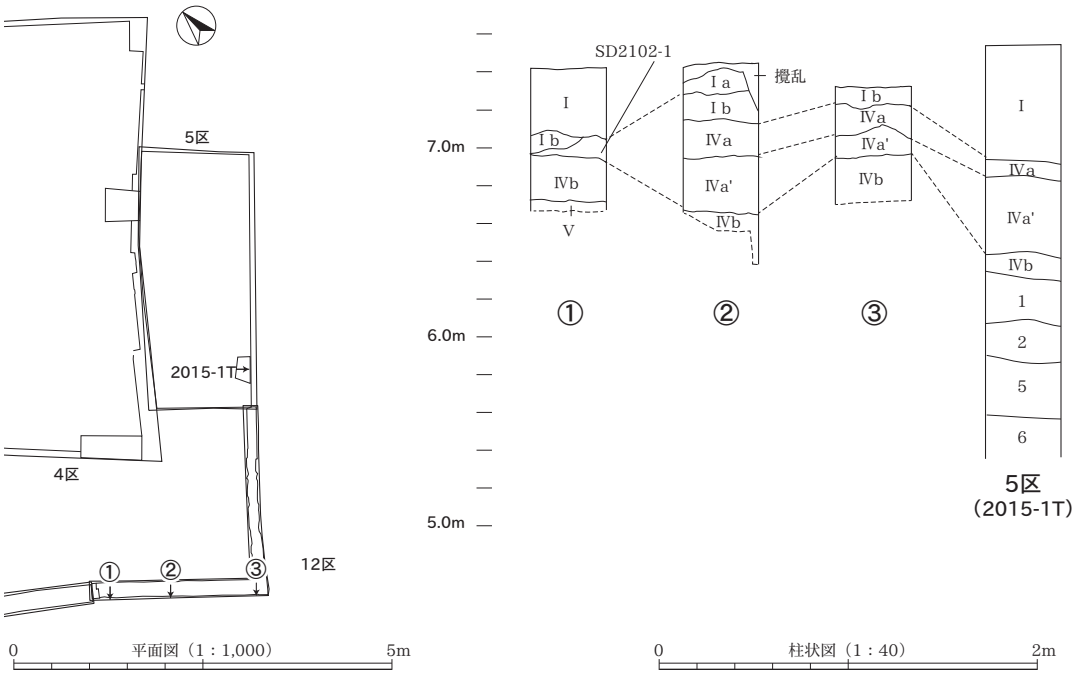
調査区の西側は水田耕作土と考えられる、Ⅰa 層褐灰色シルト（10YR6/1）が主体となる。層厚は 10 ～ 20cm を測り、下半部には酸化鉄の影響による赤色粒子が認められる。調査区の東側は雑木林になっていたため、Ⅰb 層灰黄褐色砂質シルト（10YR4/2）が主体である。層厚は 30 ～ 40cm を測る。

Ⅳ層

にぶい黄褐色から黄褐色のシルトである。Ⅳ層はその粒径からさらに 3 層に分層され、上層から下層に向かって粒径が粗くなっている。標高 7.3 ～ 6.9m にはⅣa 層にぶい黄褐色粘質シルト（10YR4/3）が確認され、その上面は中世の遺構確認面である。層厚は 15 ～ 25cm を測る。その下の標高 7.1 ～ 6.9m にはⅣa' 層にぶい黄褐色シルト（10YR5/4）が確認される。Ⅳa 層より粒径が大きく、粘性が弱くなる。層厚は 15 ～ 30cm を測る。その下の標高 6.9 ～ 6.6m にはⅣb 層黄褐色砂質シルト（10YR5/6）が確認される。Ⅳa' よりさらに粒径が大きくなり、砂に近くなる。層厚は 20 ～ 30cm を測る。

Ⅴ層

褐灰色砂質シルト（10YR6/1）である。Ⅳb 層と粒径はほぼ同じである。標高 6.7 ～ 6.5m で、層厚は 15cm 以上を測る。確認した個所は調査区の北西端の大きな攪乱の下位である。



第 32 図　基本層序

3　遺　　構

A　概　　要

今回の調査区は 2015 年度調査の５区、2021 年度調査の 10 区と隣接する。検出した遺構は、溝６条、ピット１基で、遺構番号は 2101 から付した。出土遺物・埋土などの特徴から溝の所属時期はいずれも中世から近世と思われる。全ての溝は並行関係にあり、主軸方位Ｎ－ 69°～ 82°－Ｗの範囲にまとまる。規模は、上端幅 1m 以上が５条、1m 以下が１条となっており、以下ではこれらの溝について述べる。

B　溝

SD2102（図版 35・74）

23AA グリッドに位置する。東西方向に伸びる溝と推測する。北西･南東側は調査区外へ続く。幅 1.18m、深度は 34cm を測る。断面形は半円状で、立ち上がりは急斜度である。埋土は３層に分層でき、１層はにぶい黄橙色粘質シルト、２層は灰黄褐色粘質シルト、３層は褐灰色粘質シルトである。

SD2103（図版 35・74）

23・24AA グリッドに位置する。東西方向に伸びる溝と推測する。北西・南東側は調査区外へ続く。西側の大半は攪乱で失われ、底面付近がわずかに残存する。幅 1.08m、深度 45cm を測る。断面形は台形状で、立ち上がりは急斜度である。埋土は４層に分層でき、１～３層は褐灰色･淡黄色の粘質シルトで、４層が灰白色の粘質シルト～粘土である。

SD2105（図版 35・36・75）

25AA グリッドに位置する。東西方向に伸びる溝と推測する。北西･南東側は調査区外へ続く。幅 2.06m、深度 71cm を測る。断面形は漏斗状で、立ち上がりは北側では緩やか、南側では急斜度である。埋土は

４層に分層でき、１～３層が灰黄褐色･にぶい黄褐色シルトで、４ 層は黄褐色砂質シルトである。遺物は、４層から珠洲焼片口鉢（図版 36-1）が出土した。

SD2106（図版 36・75）

25・26AA グリッドに位置する。東西方向に伸びる溝と推測する。北西・南東側は調査区外へ続く。北側が一部 SD2109 と重複しており、本遺構の方が新しい。幅 93cm、深度 33cm を測る。底面はやや凹凸があり、断面形は半円状～台形状で、立ち上がりは緩やかである。埋土は灰黄褐色シルトの単層である。

SD2107（図版 35・75）

25AA･BB グリッドに位置する。東西方向に伸びる溝と推測する。北西･南東側は調査区外へ続く。幅 1.85 m、深度 45cm を測る。断面形は半円状で、立ち上がりは急斜度である。埋土は５層に分層でき、レンズ状に堆積する。１～３層が灰黄褐色・にぶい黄褐色・にぶい黄橙色シルト、４層は灰黄褐色粘質シルト、５層は黄褐色シルトである。

SD2109（図版 36・75）

25・26AA グリッドに位置する。東西方向に伸びる溝と推測する。北西・南東側は調査区外へ続く。SD2106 と重複しており、本遺構の方が古い。底面はほぼ平坦で、側壁は段を持ちながら立ち上がる。埋土は３層に分層でき、１・２層が灰黄褐色・にぶい黄褐色シルト、３ 層はにぶい黄褐色粘質シルトである。遺物は３層から土師器の細片が出土しているが、埋土の特徴から遺構に伴うものではなく、混入したものと考えられる。

4　遺　　物

A　概　　要

SD2105 から中世の珠洲焼１点、SD2109 から土師器１点、遺構外から縄文土器１点が出土した。出土遺物は破片のみで全形を知り得るものはない。珠洲焼の器種分類･年代観は［吉岡 1994］を参考にした。

B　出　土　遺　物（図版 36・75）

SD2105（１）

１は、珠洲焼片口鉢の底部である。底部の径が小さいことから、中・小鉢と思われる。内面には卸し目がみられ、７目を一単位とする。焼成は良好で黄灰色を呈する。Ⅲ～Ⅳ期に比定でき、13 世紀中葉～ 14 世紀中葉頃の所産と考えられる。

遺構外（２）

２は、縄文土器の破片で、体部外面には浮線文が施される。鳥屋２式に比定される。

5　調査のまとめ

山口野中遺跡は、標高 6.4 ～ 7.5m の旧百津潟の自然堤防上に立地する。第１次調査（１・２区）は 2012 年４月から９月、第２次調査（３・４区）は 2013 年４月から 11 月、第３次調査（５・６区）は 2015 年４月から８月、第４次調査（７区）は 2020 年２月から３月、第５次調査（８～ 11 区）は 2021 年９月から 11 月に、併せて 26,301㎡を対象に実施している。これまでの調査で、縄文時代晩期の集落跡、

平安時代の集落跡が確認されたほか、中世の掘立柱建物、井戸、道、火葬土坑などが確認され、13 世紀後半を中心に居住域が展開し、14 世紀後半以降は火葬場へと変遷するものと考えられている［小野本ほか 2016］。

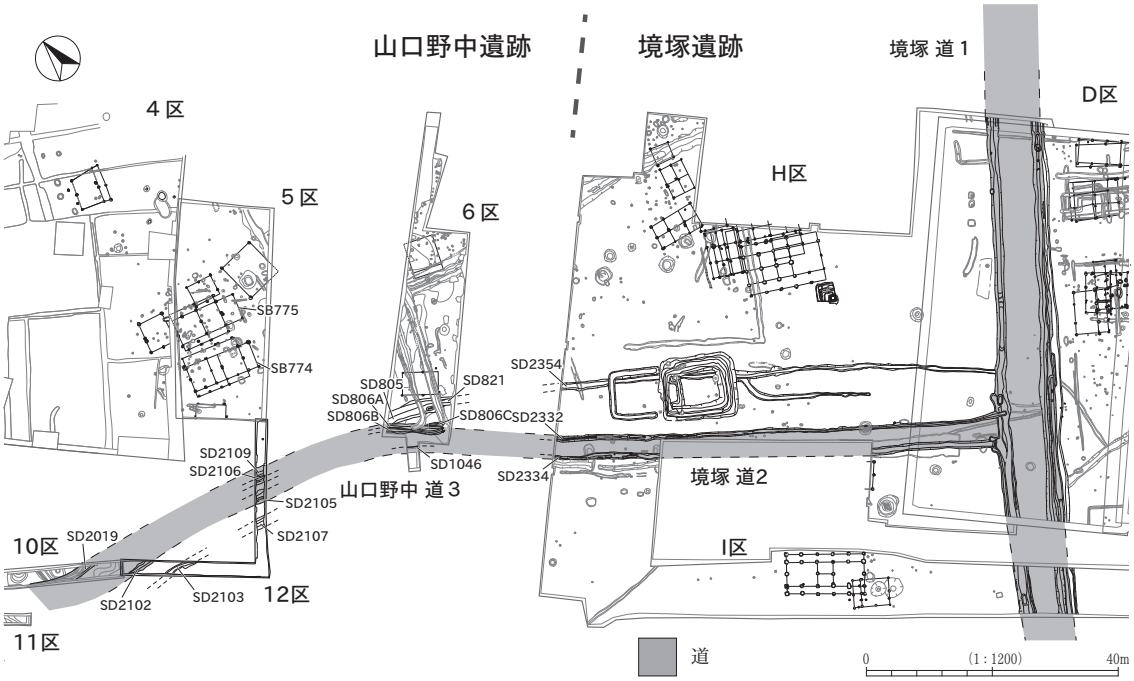
今回の第 6 次調査では 2022 年 7 月 13 日から 7 月 29 日の期間に、12 区とした 81㎡の調査区において、中世の溝 6 条、ピット 1 基を検出した。調査面積が狭いことから溝の全容は不明な点が多いが、周辺には北東に 5 区、北西に 10 区、東に 6 区、さらに南東には境塚遺跡が存在するため、ここでは周辺の調査成果との関連を踏まえながら概要を述べる。

A　6 区・10 区との関係

今回の調査では、調査区西部で SD2102・SD2103、調査区東部で SD2105・SD2106・SD2107 を検出した（第 33 図）。このうち SD2102 と SD2105、SD2103 と SD2107 は溝の規模や方向などから同一の溝と考えられる。

山口野中遺跡の 6 区では、SD806A を北東側溝、SD1046 を南西側溝とする道 3（第 33 図 山口野中道 3）が確認されている。道 3 は北西 - 南東方向に伸び、側溝中心間は約 3m で、北東側溝は 2 回の掘り直しがあることが確認されている（第 33 図 SD806B・C）［小野本ほか 2016］。

今回の調査では SD2106 と SD2109 が掘り直された同一の溝と思われ、断面形や深度、重複関係から SD806A と SD2109、SD806B と SD2106 がそれぞれ対応する溝と推定される。10 区では、この北西側溝が伸びる延長線上に SD2019 があり（第 33 図）、道 3 の北東側溝は SD806A → SD2109 → SD2019 と繋がる可能性が考えられる。道 3 の北西側溝と推定した溝の特徴は、埋土がにぶい黄褐色シルトを主体とし、底面が平坦で壁面が急斜度で立ち上がる事などが挙げられる。なお、SD2109 の 2 層には径 5 ～ 15cm ほどの亜円礫が含まれており、この礫は道路通行部の構築に使用された可能性が考えられる。



第 33 図　中世の道推定図

（村上ほか 2015・小野本ほか 2016・飯坂ほか 2018・伊藤ほか 2023 から作成）

道３の南西側溝は、６区のSD1046が大きく攪乱されているため不明な点が多いが、道が伸びる方向などからSD1046 → SD2105 → SD2102と繋がる可能性が考えられる。SD2105は下層から13世紀中葉～14世紀中葉に比定できる珠洲焼片口鉢が出土している。

Ｂ　５区・境塚遺跡との関係

道３は、境塚遺跡Ｄ・Ｈ区で確認された道２（第33図 境塚道２）と同一遺構と考えられ、今回の調査でこの道が10区の西側まで伸びる可能性が高いことが確認された。境塚遺跡の道２は、道１（第33図 境塚道１）から枝分かれし、北西 - 南東方向に直線的に伸びる。道が機能した時期は13世紀後半～14世紀前半と考えられている［飯坂ほか2018］。境塚遺跡から山口野中遺跡６区まで直線的に伸びる道３は、６区と12区の間で緩やかに曲がり、12区では東西方向となる。さらに10区の西壁際では主軸を北西 - 南東方向に戻すように再び緩やかに曲がる様子がうかがえる。また、５区では大型の掘立柱建物であるSB774・SB775が確認されている（第33図）。掘立柱建物の主軸方向はいずれもN-70°-Wで、12区における道３と主軸方向がほぼ一致することが確認された。このことから掘立柱建物は道に沿って計画的に配置された可能性が考えられる。

以上から、今回の調査では、当初直線的に伸びると考えられた道３が、途中で緩やかに蛇行すること、５区で検出した大型の掘立柱建物は、蛇行する道３に主軸を合わせて造られた可能性があることが新たに確認された。

引用・参考文献

相澤　央　　2004　「蝦夷『征伐』と発久遺跡」『笹神村史』通史編　新潟県笹神村

相田泰臣ほか 2015　『大沢谷内遺跡Ⅳ 第 19・20・21 次調査』 新潟市教育委員会

阿賀野市教育委員会　2008　『阿賀野市文化財年報』3

秋山泰利ほか 2016　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 263 集 新町遺跡』 新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史ほか 2004　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 133 集 青田遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史ほか 2006　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 153 集 大坪遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史　　2007　「阿賀北・大坪遺跡－中世初頭の居館跡－」『御館の時代』 高志書院

荒川隆史ほか 2012　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 232 集 境塚遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史ほか 2016　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 262 集 境塚遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史　　2019　「阿賀野バイパスの調査成果」『第 23 回遺跡発掘調査報告会シンポジウム「白河荘の考古学」』 新潟県埋蔵文化財センター

荒谷伸郎ほか 2010　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 215 集 山口遺跡』 新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

愛知県史編さん委員会　2007　『愛知県史 別編 窯業２中世・近世瀬戸系』 愛知県

飯坂盛泰ほか 2018　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 278 集 境塚遺跡Ⅲ』 新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

諫山えりか　2004　『新潟市山木戸遺跡』 新潟市教育員会

石川日出志ほか 1992　『六野瀬遺跡 1990 年調査報告書』 新潟県安田町教育委員会

伊藤啓雄　　2006　「新潟県における中世土師器と輸入陶磁器・瀬戸美濃製品－中世後半～近世初頭の様相－」『中世北陸のカワラケと輸入陶磁器・瀬戸美濃製品』 北陸中世考古学研究会

伊藤正志ほか 2023　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 264 集 山口遺跡Ⅲ第４次調査・山口野中遺跡Ⅳ第４・５次調査・境塚遺跡Ⅴ第５次調査・新町遺跡Ⅱ第２次調査・石船戸東遺跡Ⅱ第３次調査』（公財）新潟埋蔵文化財調査事業団

宇野隆夫　　1982　「井戸考」『史林』65-5　史学研究会

上田秀夫　　1982　「14 ～ 16 世紀の青磁椀の分類」『貿易陶磁研究』第２号　日本貿易陶磁研究会

潮田憲幸　　2014　「第Ⅶ章総括 第３節まとめ １）遺跡の立地について」『細池寺道上遺跡Ⅱ 第 25 次調査』 新潟県新潟市教育委員会

大矢正彦・加藤康彦　1984　『阿賀野川水害地形分類図説明書』 建設省北陸地方建設局阿賀野川工事事務所

小田由美子　1999　「第５章 第５節　五頭山麓古窯跡群」『新潟県の考古学』

小田由美子・浦部頼之　2001　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 99 集 堀越館跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

小田由美子ほか 2002『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 117 集 赤坂山中世窯跡・赤坂山Ｂ遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

小野本敦ほか 2016 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 266 集 山口野中遺跡Ⅲ』 新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

小野本敦ほか 2017 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 270 集 柄目木遺跡Ⅲ』 新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

小野本敦･石川智紀･加藤　学ほか 2019 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 279 集 石船戸東遺跡』 新潟県教育委員会･（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

春日真実 1999 「第４章 古代 第２節 土器編年と地域性」『新潟県の考古学』 高志書院

春日真実 2004 「報告編 第１章 阿賀北地域の環境」『越後阿賀北地域の古代土器様相』 新潟古代土器研究会

加藤　学・荒川隆史 1999 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 93 集 和泉Ａ遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

加藤　学ほか 2010 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 223 集 村前東Ａ遺跡・村前東Ｂ遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

加藤　学 2013 「貞観五年越中・越後地震に関する一考察」『研究紀要７』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

加藤　学ほか 2013 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 237 集 柄目木遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

加藤　学ほか 2021 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 290 集 令和元・２年度県内遺跡試掘・確認調査報告書』 新潟県教育委員会

金内　元・飯坂盛泰 2018 「第Ⅶ章 まとめ」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 278 集 境塚遺跡Ⅲ』 新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

鴨井幸彦・安井　賢 2004 「古地理でたどる越後平野の生い立ち」『土と基礎 地盤工学会誌 52 号』（公社）地盤工学会

川上貞雄 1977 『水原城館址及水原代官所址発掘調査報告書』 新潟県水原町教育委員会

川上貞雄 1979 「安田町文化財調査報告４ 上野林丘陵埋蔵文化財発掘調査報告書１ 横峯経塚群」 安田町教育委員会

小池義人 1994 「中世の凹地遺構と溝について」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 59 集 細池遺跡寺道上遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

国土地理院 1988 『土地条件図「新津」解説面』 国土地理院

小松　彰ほか 1995 『新潟県歴史の道調査報告書第８集 三国街道中通り』 新潟県教育委員会

小山正忠・竹原秀雄 2000 『新版 標準土色帖』 日本色研事業株式会社

（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団 2011 『唐三彩 報道資料』

斎藤慎一 2010 『中世東国の道と城館』（財）東京大学出版会

酒井英男ほか 2013 「山口野中遺跡で認められた噴砂の磁化の研究」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 248 集 山口野中遺跡』 新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

酒井英男ほか 2018 「阿賀野市蕪木遺跡で認められた噴砂の磁化研究」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 277 集 蕪木遺跡』 新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

坂井秀弥 1997 「中世集落の展開と城館の動向」『中・近世の北陸―考古学が語る社会史―』 桂書房

佐藤友子ほか 2009 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 203 集 庚塚遺跡・狐塚遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

佐藤友子ほか 2010 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 216 集 柄目木遺跡Ⅰ』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

佐藤友子 2015 「一般国道 49 号阿賀野バイパス関係」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 260 集 平成 26 年度県内遺跡 試掘・確認調査』 新潟県教育委員会

佐藤友子ほか 2019 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 282 集 土橋北遺跡』 新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

佐藤友子ほか 2022 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 292 集 堂古遺跡Ⅱ 第 3 次調査』 新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

篠崎譲治 2010 『馬小屋の考古学』 高志書院

篠崎譲治 2015 『竪穴を持つ中世の厩舎遺構』土曜考古 第 37 号 土曜考古学研究会

鈴木俊成・荒川隆史ほか 2018 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 277 集 蕪木遺跡』 新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

高橋 保ほか 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 157 集 住吉遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

高橋保雄ほか 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 172 集 鴨深甲遺跡』 新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

高橋保雄ほか 2010 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 215 集 山口遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

高濱信行・野崎 保 1981 「新潟平野東縁 , 五頭山地西麓の土石流発達史」『地質学雑誌 第 87 巻 第 12 号』（一社）日本地質学会

田村 裕 2004 「南北朝・室町前期の白河荘」『笹神村史』通史編 新潟県笹神村

立木宏明ほか 2019 『細池寺道上遺跡Ⅷ 第 48 次調査』 新潟市教育委員会

立木宏明ほか 2019 『細池寺道上遺跡Ⅹ第 29・31 次調査』 新潟市教育委員会

鶴巻康志 2005 「新潟県北部の中世陶器窯」『全国シンポジウム 中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～資料編』 全国シンポジウム「中世窯業の諸相 - 生産技術の展開と編年 -」実行委員会

鶴巻康志 2015 「新潟平野の潟に面した古代集落―新潟県曽根遺跡―」『入り海の記憶 知られざる出雲の面影』島根県立古代出雲歴史博物館

東京大学埋蔵文化財調査室 1990 『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 4 東京大学本郷構内の遺跡 山上会館・御殿下記念館地点 第 2 分冊 御殿下記念館地点の調査』 東京大学埋蔵文化財調査室

土橋由理子ほか 2011 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 221 集 古渡路遺跡』 新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

中尾七重 2012 『中世館外の厩集落 新潟県古渡路（ふるとろ）遺跡 武蔵大学総合研究所紀要 No.21』 武蔵大学総合研究所

中川成夫 1959 「笹神村権兵衛沢窯址の調査」『水原郷』 新潟県教育委員会

中野豈任 1976 「白河荘について」『社会科研究』第 12 集 新潟県高等学校教育研究会社会科部会

成田國之 2000 「百津潟を探し求めて」『水原郷土誌料』第 28 集 新潟県水原町教育委員会

新潟県立歴史博物館編　2006 『中世人の生活と信仰－越後・佐渡の神と仏－展示図録』

樋口真巳　2004 「白河荘の成立と城氏の展開」「鎌倉期の白河荘」『笹神村史』通史編　新潟県笹神村

藤沢良祐　2008 『中世瀬戸窯の研究』 高志書院

古澤妥史　2002 『京ヶ瀬村埋蔵文化財発掘調査報告書第１集 町道上遺跡』 新潟県京ヶ瀬村教育委員会

古澤妥史　2005 『阿賀野市埋蔵文化財発掘調査報告書第１集 土居内西遺跡』 新潟県阿賀野市教育委員会

古澤妥史ほか 2011 『阿賀野市埋蔵文化財発掘調査報告書第４集 県営湛水防除事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅲ 境塚遺跡・山口野中遺跡・三辺稲荷遺跡』 阿賀野市教育委員会

古澤妥史ほか 2016 『阿賀野市埋蔵文化財発掘調査報告書第 10 集 市道安野川右岸線道路改良工事に伴う遺跡発掘調査報告書 山口野中遺跡』 阿賀野市教育委員会

古澤妥史ほか 2018 『阿賀野市埋蔵文化財発掘調査報告書第 11 集 県営湛水防除事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅳ 石船戸遺跡』 阿賀野市教育委員会

古澤妥史ほか 2022 『阿賀野市埋蔵文化財発掘調査報告書第 16 集 蕪木遺跡』 阿賀野市教育委員会

細野高伯ほか 2012 『大沢谷内遺跡Ⅱ 第７・９・11・12・14 次調査』 新潟市教育委員会

水澤幸一　2002 「阿賀北の中世石佛」『新潟考古』第 13 号　新潟県考古学学会

水澤幸一　2005 「越後の中世土器」『新潟考古』第 16 号　新潟県考古学学会

水澤幸一　2007 「中世越後の土器と陶磁器－ 11 ～ 14c. 前半」『中世北陸のカワラケと輸入陶磁器･瀬戸美濃製品』北陸中世考古学研究会

水澤幸一　2009 『日本海流通の考古学－中世武士団の消費生活－』 高志書院

宮本長二郎　1999 「日本中世住居の形成と発展」『建築史の空間』 中央公論美術出版

村上章久ほか 2013 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 248 集 山口野中遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

村上章久ほか 2015 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 258 集 山口野中遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

森田　勉　1982 「14 ～ 16 世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究』第２号　日本貿易陶磁研究会

山本信夫　2000 『大宰府条坊跡ＸＶ－陶磁器編－』 太宰府市教育委員会

安田町史編さん委員会　1997 『安田町史 中世編』 安田町

吉岡康暢　1994 『中世須恵器の研究』 吉川弘文館

吉岡康暢　2003 「珠洲焼概論」『平成 15 年度 文化財専門職員研修「講義」・「事例報告」資料集』 新潟県教育庁文化行政課

石船戸東遺跡９区　土坑 観察表

遺構番号	グリッド	検出層位	変遷時期	形態			規模（cm）					底面標高（m）	覆土堆積状況	主軸方向	出土遺物	切り合い
				平面	断面	立ち上り	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深度					
2116	13N20	Ⅳ	中世	楕円形	台形状	急斜度・緩やか	78	51	55	31	24	6.991	A	N-53°-E		>SD2117
2141	16N2	Ⅳ	中世	（円形）	台形状	垂直	（119）	（39）	（100）	（27）	66	6.876	C	N-2°-W		

石船戸東遺跡９区　溝 観察表

遺構番号	グリッド	検出層位	変遷時期	形態		規模（cm）					底面標高（m）	覆土堆積状況	主軸方向	出土遺物	切り合い	備考
				断面	立ち上り	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深度						
1	12M,13M	Ⅳ	中世	台形状	急斜度	（313）	96	（320）	58	38	6.915	A	N-23°-W	土師質土器，石製品	<SD3	
3	12M,13M	Ⅳ	近世	弧状	緩やか・階段	（417）	320	（252）	97	37	7.070	A	N-22°-E		>SD1	
2104	13M	Ⅳ	中世	台形状	急斜度	（41）	32	（34）	18	10	7.213	A	N-7°-W			
2105	15O	Ⅳ	中世	台形状	緩やか・急斜度	200	47	175	19	17	7.128	F	N-81°-E			
2106	15N,15O	Ⅳ	中世	漏斗状	垂直・緩やか	（482）	58	（420）	23	24	7.157	D	N-81°-E	石製品（軽石）		
2107	15O,16O	Ⅳ	中世	台形状	急斜度	459	42	445	25	10	7.374	D	N-21°-W			
2108	16O,17O	Ⅳ	近世	台形状	垂直・急斜度	（1752）	33	（1650）	15	5～9	7.295	D	N-12°-E		>SD2109、>SD2110	
2109	15N,16N,16O	Ⅳ	中世	半円状	急斜度	（1435）	83	（1457）	40	31～46	6.988	A	N-24°-W	須恵器，土師質土器，珠洲焼	<SD2108、<SD2135	
2110	15N,16N,16O,17O	Ⅳ	中世	階段状	急斜度	（2625）	125	（2500）	70	44～52	6.281	C	N-20°-W	珠洲焼，土師質土器，白磁，炭化物	<SD2108、<SD2132、≒SD2134、<SD2135、<SD2142	
2117	13N,13O	Ⅳ	中世	台形状	急斜度	（700）	56	（674）	32	7～20	7.102	A	N-78°-W		<SK2116、>P2119	
2118	13N,13O	Ⅳ	近世	台形状	急斜度	（772）	160	（750）	130	6～16	7.080	A	N-69°-W	磁器，陶器，石製品（砥石），瓦		
2122	12N,13N	Ⅳ	近世	台形状	急斜度	（491）	175	（471）	121	20～31	7.036	A	N-62°-W N-27°-E	陶器	≒SD2123	
2123	13N	Ⅳ	近世	（台形状）	緩やか	（387）	（83）	（265）	（71）	25	7.087	A	N-68°-W		≒SD2122	
2126	14N	Ⅳ	近世	箱状	垂直	347	67	330	52	16	7.104	A	N-25°-E			
2128	14N	Ⅳ	近世	台形状	急斜度	379	63	335	40	20	7.066	A	N-17°-E	磁器	<P2129	
2132	14N,15N	Ⅳ	近世	台形状	急斜度	（434）	56	348	45	16	7.044	A	N-16°-E		>SD2110、>SD2133	
2133	14N,15N	Ⅳ	中世	漏斗状	緩やか	（872）	85	（735）	43	45	6.761	A	N-24°-W	土師質土器，土製品	<SD2132、≒SD2134	
2134	15N	Ⅳ	中世	半円状	急斜度	（192）	57	（212）	32	22	7.027	A	N-56°-E		≒SD2110、≒SD2133	
2135	15N,16N,17N	Ⅳ	近世	台形状	急斜度	2500	30	2485	20	6～11	7.260	B・D	N-10°-E	陶器，磁器	>SD2109、>SD2110	
2142	15N,16N	Ⅳ	近世	弧状	緩やか	310	19	298	10	2	7.374	D	N-11°-E		>SD2110	

石船戸東遺跡９区　ピット 観察表

遺構番号	グリッド	検出層位	規模（cm）			底面標高（m）	覆土堆積状況	出土遺物	切り合い	備考
			上端長径	上端短径	深度					
2101	12M21,13M1	Ⅳ	38	（20）	26	7.293	E			
2103	13M8	Ⅳ	（22）	-	20	7.310	D			
2111	14O17	Ⅳ	39	38	79	6.451	E			
2112	14O21	Ⅳ	28	22	7	7.262	D			
2113	14O22	Ⅳ	36	32	19	7.127	E			
2114	16N5	Ⅳ	35	25	13	7.325	E			
2115	16O16	Ⅳ	30	28	16	7.238	F			
2119	13N14	Ⅳ	48	36	15	6.986	G		<SD2117	
2120	13N14・19	Ⅳ	37	28	16	7.090	E			
2121	14N9	Ⅳ	28	24	18	7.094	E			
2124	12N21	Ⅳ	25	（10）	15	7.155	A			
2125	14N19	Ⅳ	38	20	8	7.210	F			
2127	14N25	Ⅳ	41	27	21	7.077	F	須恵器		
2129	14N13	Ⅳ	52	37	11	7.098	C		>SD2128	
2130	14N24	Ⅳ	24	24	8	7.217	D			
2131	14N24	Ⅳ	27	26	7	7.208	D			
2136	15N15・20	Ⅳ	46	42	19	7.176	E			
2137	15N20	Ⅳ	43	30	13	7.281	A			
2138	16N5	Ⅳ	26	25	22	7.229	E			
2139	16N3	Ⅳ	33	30	24	7.160	C			
2140	16N22	Ⅳ	（31）	（18）	32	7.116	A			

石船戸東遺跡 10 区　掘立柱建物 観察表

遺構番号	形式	グリッド	梁行（間）	桁行（間）	梁行長（m）	身舎梁行長（m）	梁行柱間長（m）	梁行下屋長（m）	桁行長（m）	身舎桁行長（m）	桁行柱間長（m）	主軸方向	身舎（㎡）	全体（㎡）	変遷時期
13	二面下屋付梁間一間型	35N、36N	1	1	2.10	1.90	1.90～1.88	0.52～0.45	2.85	2.13	2.13～1.90	N-16°-W	4.04	5.98	中世
14	梁間一間型	36N	1	（1）	3.07	（3.07）	1.57～1.47		（1.65）	（1.65）	1.61	N-15°-W	（4.88）	（4.88）	中世
15	二面下屋付梁間一間型	36N	1	（1）	（2.20）	2.27	2.27～2.00	0.90～0.60	5.60	（3.95）	2.41～2.34	N-54°-E	（12.71）	（21.29）	中世
16	一面下屋付梁間一間型	36N、37N	（1）	2	3.35	（2.50）		0.70～0.55	8.15	6.80	3.74～3.12	N-23°-W	（17.00）	（27.30）	中世
17	二面下屋付梁間一間型	37N、37O、38N、38O	2	3	（3.92）	3.44	1.80～1.40	0.88～0.48	5.08	6.99	3.07～1.80	N-9°-E	24.04	37.2	中世
18	総柱建物	40O、41O	2	4	（5.86）	（5.86）	2.87～2.60		（8.10）	（8.10）	2.00～1.52	N-21°-E	（47.47）	（47.47）	中世

石船戸東遺跡 10 区　井戸 観察表

遺構番号	グリッド	検出層位	変遷時期	形態			規模（cm）					底面標高（m）	覆土堆積状況	主軸方向	出土遺物	切り合い
				平面	断面	立ち上り	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深度					
2161	37N,37O,38N,38O	Ⅳ	中世	円形	台形状	急斜度	(136)	133	50	50	221	5.727	A・G		珠洲焼 , 石（砥石）	>SD2192

石船戸東遺跡 10 区　土坑 観察表

遺構番号	グリッド	検出層位	変遷時期	形態			規模（cm）					底面標高（m）	覆土堆積状況	主軸方向	出土遺物	切り合い
				平面	断面	立ち上り	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深度					
2157	33N17	Ⅳ	中世	(円形)	台形状	急斜度	96	(48)	68	(26)	20	7.653	D	N-12° -W		
2160	37N8・9・13・14	Ⅳ	中世	(円形)	台形状	緩やか	117	(65)	68	(40)	39 ～ 50	7.597	A	N-28° -E	土師質土器 , 鉄製品 , 種子	<SD2172、<SD2519
2162	39N10・15	Ⅳ	中世	(楕円形)	台形状	急斜度	(127)	127	(100)	94	36	7.131	D	N-82° -E	須恵器	
2164	35N18	Ⅳ	中世	楕円形	台形状	急斜度	82	56	53	24	26	7.604	D	N-0°		<P2171
2165	35N9・13・14	Ⅳ	中世	(方形)(長方形)	階段状	緩やか	190	(103)	166	(95)	13	7.833	C	N-82° -E		<SD2426、<P2524
2175	35N19	Ⅳ	中世	(長方形)	不整形	緩やか	133	(60)	106	(50)	10	7.881	D	N-7° -W		>P2195
2180	37N9	Ⅳ	中世	楕円形	台形状	急斜度	145	103	105	60	32	7.562	A	N-37° -W		≦ SX2529
2190	36N9・10	Ⅳ	中世	不整形	台形状	急斜度	53	43	14	12	19	7.552	D	N-26° -W		
2200	39N15・20	Ⅳ	中世	楕円形	台形状	急斜度	71	(41)	38	(23)	22	7.835	D	N-11° -W	土製品	
2210	35N23,36N3・4	Ⅳ	中世	長方形	台形状	急斜度	(113)	85	72	(67)	34	7.378	C	N-25° -W	土師質土器	<P2316、<P2508
2234	36N4・5・9・10	Ⅳ	中世	円形	箱状	垂直	93	(91)	72	54	38	7.531	A	N-61° -W		<P2216、>P2445
2236	37N3・4	Ⅳ	中世	楕円形	台形状	急斜度	140	96	115	71	27	7.585	A	N-27° -W	珠洲焼	>SK2303、≧ P2320、≧ P2328、≦ SX2529
2241	38O11	Ⅳ	中世	(円形)	台形状	緩やか	75	(50)	61	40	7	8.075	D	N-7° -W		<P2315
2283	37N4・5・9・10	Ⅳ	中世	不整形	半円状	急斜度	98	62	45	31	29	7.497	A	N-38° -E		>P2527、>P2528
2286	36N18・19	Ⅳ	中世	楕円形	箱状	垂直	105	39	61	19	32	7.686	D	N-78° -E		<P2287、>P2480
2303	37N4・8・9	Ⅳ	中世	楕円形	台形状	緩やか・急斜度	(60)	56	39	33	21	7.667	D	N-5° -W		<SK2236、<P2304
2308	36N23・24,37N3	Ⅳ	中世	不整形	台形状	急斜度	137	(122)	105	(102)	30 ～ 59	7.584	C	N-25° -W	土師質土器 , 鉄製品	<SD2299、<P2230、≦ SX2529
2317	35N23,36N3	Ⅳ	中世	楕円形	階段状	垂直	102	83	72	48	32	7.522	A	N-35° -E	土師質土器	
2318	36N13・14	Ⅳ	中世	不整形	台形状	緩やか	(177)	110	(160)	86	8 ～ 16	7.833	B	N-79° -E		
2326	39O1・6	Ⅳ	中世	不整形	台形状	急斜度	66	47	50	40	13	7.959	D	N-8° -W		
2335	40O13・18	Ⅳ	中世	(楕円形)	不整形	垂直・急斜度	(110)	(70)	73	30	19	8.066	D	N-83° -E		<P2515
2384	41O17・18	Ⅳ	中世	楕円形	階段状	急斜度	143	111	69	64	44	7.826	A	N-52° -W		>P2495、>P2496、>P2497、>P2498
2397	43O25	Ⅳ	中世	方形	台形状	緩やか・急斜度	97	84	60	54	42	7.970	G	N-71° -W		>SD2403
2404	44P11	Ⅳ	中世	楕円形	台形状	急斜度	90	71	64	44	15	8.257	F	N-50° -E	土師器	
2411	44O14・19	Ⅳ	中世	(円形)	台形状	急斜度	68	(33)	47	(26)	15	8.233	A	N-16° -W		
2422	45O10・15,45P6・11	Ⅳ	中世	(楕円形)	弧状	緩やか・急斜度	(57)	52	(46)	32	10	8.359	D	N-86° -E		
2477	37N20・25,37O16・21	Ⅳ	中世	(楕円形)	階段状	急斜度	(165)	(138)	(109)	(48)	63	7.799	C	N-9° -W	土師質土器・種子	<SD2166、>SD2192
2479	37O11・16	Ⅳ	中世	(不整形)	台形状	緩やか	100	(28)	88	(22)	20	8.066	D	N-9° -W		>SD2457
2483	35N14	Ⅳ	中世	(円形)	台形状	垂直	(32)	(25)	(27)	(20)	7	7.847	D	N-84° -E		>SD2182
2484	35N14	Ⅳ	中世	(不整形)	台形状	急斜度・垂直	80	(16)	66	(12)	14	7.843	D	N-7° -W		>SD2182
2490	38N19・20・24・25	Ⅳ	中世	(不整形)	台形状	緩やか・急斜度	277	(152)	214	(77)	70	7.450	G	N-10° -W		>SD2167、<SD2168
2499	38O1・6	Ⅳ	中世	(長方形)	V 字状	緩やか	(156)	(29)	(60)	(9)	70	7.602	A	N-8° -W	珠洲焼	>SD2192、<P2510
2509	38O11・12・16・17	Ⅳ	中世	(楕円形)	弧状	急斜度	(120)	77	(70)	(16)	29	7.918	D	N-33° -W		<SD2167
2511	38O11・12	Ⅳ	中世	(長方形)	階段状	緩やか	(55)	(25)	(26)	20	26	7.886	D	N-13° -W		<SD2192
2519	37N8・9・13・14	Ⅳ	中世	(長方形)	漏斗状	急斜度・垂直	(62)	(60)	(24)	7	26	7.662	F	N-45° -W		<SK2160、>P2309

石船戸東遺跡 10 区　溝 観察表

遺構番号	グリッド	検出層位	変遷時期	形態		規模（cm）					底面標高（m）	覆土堆積状況	主軸方向	出土遺物	切り合い	備考
				断面	立ち上り	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深度						
2145	29M,29N	Ⅳ	中世	台形状	急斜度	(445)	92	(430)	58	24	7.464	D	N-79° -W			
2146	29N,30N	Ⅳ	近世	台形状	急斜度	(853)	40	(814)	20	23	7.479	A	N-5° -E			
2147	30N	Ⅳ	近世	台形状	急斜度	(353)	34	(325)	20	16	7.600	D	N-10° -E			
2148	30N,31N	Ⅳ	近世	台形状	急斜度	(403)	48	(381)	25	10	7.610	D	N-3° -E		<SD2149	
2149	31N	Ⅳ	中世	弧状	緩やか・急斜度	(435)	155	(401)	55	41 ～ 50	7.247	C	N-76° -E		>SD2148	
2151	31N	Ⅳ	中世	台形状	急斜度	(74)	50	(62)	37	10	7.691	D	N-85° -E			
2152	31N,32N	Ⅳ	近世	階段状	緩やか・急斜度	(798)	34	(749)	16	10 ～ 20	7.653	D	N-82° -E N-7° -W	磁器	<SD2153	
2153	31N,32N	Ⅳ	近世	台形状	急斜度	(851)	38	(846)	25	13	7.634	D	N-83° -E N-2° -W		>SD2152	
2156	33N	Ⅳ	中世	台形状	緩やか・急斜度	(394)	132	(396)	105	20	7.620	B	N-72° -E			
2158	33N	Ⅳ	近世	箱状	垂直	(64)	31	(60)	20	10	7.906	D	N-67° -E			
2163	39N,39O	Ⅳ	中世	半円状	急斜度	(541)	215	(305)	57	52	7.645	A	N-88° -W	須恵器，土師質土器，珠洲焼，青磁，石（砥石），鉄製品		
2166	37N,37O	Ⅳ	近世	台形状	垂直・急斜度	(487)	54	(480)	28	22 ～ 43	7.626	A	N-90°	鉄製品	>SK2477、>P2421	
2167	38N,38O	Ⅳ	中世	(台形状)	(急斜度)	(458)	176	(297)	62	65 ～ 82	7.375	B	N-83° -E	須恵器，土師質土器，珠洲焼，石（軽石）	<SD2168、<P2240、<P2344、<SK2490	
2168	38N,38O	Ⅳ	中世	台形状	緩やか・急斜度	(516)	93	(470)	28	34	7.752	A	N-85° -W	珠洲焼，磁器	>SD2167、>SK2490	
2169	39N,39O	Ⅳ	中世	台形状	垂直・急斜度	(485)	95	(475)	40	17	6.301	D	N-87° -W	陶器		
2170	39N,39O,40O	Ⅳ	中世	半円状	急斜度	(485)	95	(467)	26	23	7.859	D	N-89° -W			
2172	37N,37O	Ⅳ	中世	台形状	急斜度・内傾	(506)	32	(500)	20	17	7.566	D	N-66° -E		>SK2160、>P2454、>P2518、≦ SX2529	
2182	35N	Ⅳ	中世	箱状	垂直	(216)	73	(194)	52	26	7.736	D	N-66° -E		>P2183、<SD2426、<SK2483、<SK2484	
2191	39N,39O	Ⅳ	中世	台形状	急斜度	(467)	111	(462)	54	32	6.414	D	N-81° -E	土師質土器，珠洲焼，石製品（砥石）	>SD2466	
2192	37N,37O,38O	Ⅳ	中世	台形状	垂直・急斜度	930	38	894	22	17 ～ 60	7.725	D	N-17° -W	土師質土器	<SE2161、<P2458、<P2459、<SK2477、<P2491、<P2492、<SK2499、<P2505、<P2510、>SK2511、<P2520、<P2521、<P2522	
2299	36N,36O,37N,37O	Ⅳ	近世	台形状	垂直・急斜度	(506)	68	(497)	36	26 ～ 30	7.714	D	N-86° -W		>SK2308、>P2482、>P2507、≦ SX2529	
2356	40O	Ⅳ	近世	台形状	急斜度	(460)	68	(455)	39	32	6.216	D	N-88° -W		>P2353、>P2354、>P2359、>P2360	
2396	43O	Ⅳ	中世	台形状	急斜度	170	66	54	52	20 ～ 42	7.803	A	N-25° -w			
2401	43O	Ⅳ	中世	弧状	(緩やか)	(740)	(46)	(500)	(20)	31	8.043	D	N-20° -W	磁器	>SD2403	
2402	43O	Ⅳ	中世	弧状	緩やか	233	40	211	18	13	8.116	D	N-21° -W		>SD2403	
2403	43O	Ⅳ	中世	弧状	緩やか	(192)	(60)	(110)	17	27	8.110	F	N-19° -W		<SK2397、<SD2401、<SD2402	
2410	44P	Ⅳ	中世	台形状	垂直・急斜度	148	(34)	125	(22)	17	8.334	D	N-20° -W			
2420	37N	Ⅳ	中世	台形状	急斜度	(68)	26	(59)	16	4 ～ 7	7.950	D	N-61° -E			
2426	35N	Ⅳ	近世	台形状	急斜度	(246)	45	(246)	21	20	7.768	D	N-89° -W		>SK2165、>SD2182	
2429	35N,36N	Ⅳ	中世	弧状	急斜度・緩やか	60	(42)	(42)	35	19 ～ 21	7.814	D	N-87° -E		>P2430	
2457	37O	Ⅳ	中世	半円状	急斜度	92	41	(55)	16	42	7.850	D	N-76° -W	珠洲焼，鉄製品	<SK2479	
2466	39O	Ⅳ	中世	台形状	緩やか	(74)	(68)	(44)	(31)	20	8.016	D	N-90°		<SD2191	
2517	37O	Ⅳ	中世	階段状	急斜度	(60)	40	(52)	26	28 ～ 36	7.995	E	N-57° -E		>SK2479	

石船戸東遺跡 10 区　性格不明遺構 観察表

遺構番号	グリッド	検出層位	変遷時期	形態			規　模（cm）					底面標高（m）	覆土堆積状況	主軸方向	出土遺物（礫は除く）	切り合い
				平面	断面	立ち上がり	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深度					
2529	36N19・23・24・25,37N3・4・5・9・10・14・15	Ⅳ	中世	長方形	台形状	緩やか	705	(292)	650	250	7	7.851		N-19° -W		≧ SD2172、≧ SK2180、≧ SK2236、≧ P2275、≧ P2276、≧ P2282、≧ SK2283、≧ P2292、≧ P2293、≧ P2294、≧ P2295、≧ P2296、≧ P2297、≧ P2298、<SD2299、≧ P2305、≧ P2306、≧ P2307、≧ SK2308、≧ P2312、≧ P2313、≧ P2314、≧ P2417、≧ P2418、≧ P2419、≧ P2482、≧ P2507、≧ P2512、≧ P2527、≧ P2528

石船戸東遺跡 10 区　ピット 観察表（1）

遺構番号	グリッド	検出層位	規模（cm）			底面標高（m）	覆土堆積状況	出土遺物	切り合い	備考
			上端長径	上端短径	深度					
2150	31N13	Ⅳ	25	23	35	7.420	E			
2154	31N16	Ⅳ	25	19	14	7.642	E			
2155	32N22,33N2	Ⅳ	29	29	21	7.621	D			
2159	38N9	Ⅳ	36	33	33	7.791	E			
2171	35N18・23	Ⅳ	30	22	16	7.774	E		>SK2164	
2173	35N23	Ⅳ	49	41	57	7.220	E			
2174	35N23	Ⅳ	32	31	35	7.472	E			
2176	36N3	Ⅳ	15	(8)	24	7.790	D			
2177	35N24・25	Ⅳ	50	42	42	7.613	E			
2178	35N23	Ⅳ	34	25	22	7.661	D		>P2179	
2179	35N23	Ⅳ	27	(15)	24	7.610	E		<P2178	
2181	35N24,36N4	Ⅳ	39	(22)	31	7.573	E		<P2184	
2183	35N14	Ⅳ	24	23	32	7.379	D		<SD2182	
2184	35N24,36N4	Ⅳ	48	39	39	7.513	E	須恵器	>P2181	
2185	36N3	Ⅳ	25	20	17	7.655	E			
2186	36N3	Ⅳ	27	23	22	7.550	E			
2187	36N8	Ⅳ	27	24	40	7.435	D			
2188	35N18・19	Ⅳ	33	32	20	7.728	E		>P2440、>P2441	
2189	36N10	Ⅳ	25	22	15	7.757	E			
2193	36N8	Ⅳ	20	19	13	7.723	E			
2194	36N8	Ⅳ	25	18	22	7.627	E			
2195	35N19	Ⅳ	44	(37)	43	7.468	E		<SK2175	
2196	35N19	Ⅳ	30	28	37	7.536	E			
2197	35N19・24	Ⅳ	55	48	44	7.418	E	土製品	<P2319	
2198	35N24	Ⅳ	28	27	26	7.647	C			
2199	36N4	Ⅳ	49	44	70	7.701	E	土師質土器		
2201	36N14・15	Ⅳ	26	25	30	7.484	E			
2202	36N14・15	Ⅳ	38	28	10	7.795	E		<P2203	
2203	36N14・15	Ⅳ	36	31	46	7.328	E		>P2202	
2204	36N8・9・13・14	Ⅳ	30	26	35	7.483	E			
2205	36N13	Ⅳ	34	23	21	7.652	E			
2206	35N18	Ⅳ	24	10	19	7.674	C			
2207	36N13	Ⅳ	20	19	19	7.816	E			
2208	35N18	Ⅳ	24	20	7	7.796	E			
2209	35N23・24	Ⅳ	44	37	25	7.557	E			
2211	36N4	Ⅳ	27	22	32	7.550	D			
2212	36N9	Ⅳ	21	19	13	7.707	E			
2213	36N4	Ⅳ	40	32	19	7.665	E			
2214	36N4・9	Ⅳ	24	24	24	7.339	D			
2215	36N9	Ⅳ	23	21	32	7.491	D			
2216	36N9	Ⅳ	34	(30)	31	7.550	A		>SK2234	
2217	36N9	Ⅳ	33	29	37	7.473	E			
2218	36N9・10	Ⅳ	25	19	32	7.588	E			
2219	36N9	Ⅳ	25	20	15	7.745	D			
2220	36N9・14	Ⅳ	22	19	27	7.575	E			
2221	36N14	Ⅳ	18	15	39	7.511	D			
2222	36N14	Ⅳ	19	18	7	7.822	E			
2223	36N15・20	Ⅳ	28	23	48	7.482	D			
2224	36N20	Ⅳ	27	24	45	7.767	D			
2225	36N20	Ⅳ	33	30	50	7.447	E			
2226	36N20	Ⅳ	26	25	14	7.854	E		>P2284	
2227	36N20・25	Ⅳ	43	(20)	45	7.537	E			
2228	36N18	Ⅳ	25	23	44	7.741	D			
2229	36N18	Ⅳ	22	20	15	7.764	D			
2230	36N23	Ⅳ	27	(14)	76	7.317	E		>SK2308	
2231	36N4	Ⅳ	44	(42)	43	7.403	E		<P2232	
2232	36N4	Ⅳ	42	40	44	7.457	E		>P2231	
2233	36N4	Ⅳ	28	24	10	7.768	D			
2235	38N4	Ⅳ	30	27	45	7.451	E	土師器		
2237	38N20	Ⅳ	32	28	20	7.953	D		>P2238	
2238	38N20	Ⅳ	28	(23)	18	7.931	D		<P2237	
2239	38N19	Ⅳ	28	22	19	7.966	E			
2240	38O16	Ⅳ	30	22	25	7.908	D		>SD2167	
2242	38O11	Ⅳ	24	21	10	8.040	D			
2243	38O11	Ⅳ	29	25	14	8.034	D			
2244	38N15,38O11	Ⅳ	39	30	20	7.927	E			
2245	38N15	Ⅳ	42	30	26	7.925	A			
2246	38N15	Ⅳ	28	24	66	7.511	D			
2247	38N15	Ⅳ	23	23	26	7.820	D			
2248	38N15	Ⅳ	30	27	27	7.786	E			
2249	38N15	Ⅳ	30	26	35	7.757	D			
2250	38N15	Ⅳ	30	26	39	7.779	E			
2251	38O6・11	Ⅳ	33	(31)	18	7.945	E		<P2252	
2252	38O6	Ⅳ	34	32	22	7.947	E		>P2251	
2253	38O6	Ⅳ	28	23	13	8.007	D			
2255	38O6	Ⅳ	30	(20)	35	7.805	D		<P2256	
2256	38N10,38O6	Ⅳ	40	34	27	8.023	D		>P2255	
2257	38N10	Ⅳ	49	38	38	7.763	D			
2258	38N10	Ⅳ	30	29	33	7.832	E			
2259	38N10	Ⅳ	31	21	8	8.022	D			
2260	38N10	Ⅳ	29	28	46	7.606	D			
2261	38N10	Ⅳ	28	22	15	7.947	D			

石船戸東遺跡 10 区　ピット 観察表（2）

遺構番号	グリッド	検出層位	規模（cm）			底面標高（m）	覆土堆積状況	出土遺物	切り合い	備考
			上端長径	上端短径	深度					
2262	38N9・10	Ⅳ	37	30	26	7.839	E		>P2263	
2263	38N9	Ⅳ	39	(26)	17	7.848	E		<P2262	
2264	38N14	Ⅳ	31	28	13	7.972	D			
2265	38N5,38O1	Ⅳ	30	28	17	7.901	D			
2266	38N5	Ⅳ	27	27	20	7.909	D			
2267	38N5	Ⅳ	40	37	30	7.793	E			
2268	38N5	Ⅳ	27	24	37	7.482	E	鉄製品		
2269	38N4	Ⅳ	29	26	30	7.729	E			
2270	38N4	Ⅳ	27	22	19	7.829	D			
2271	36N4	Ⅳ	40	34	20	7.582	E			
2272	36N14	Ⅳ	32	25	29	7.574	E		>P2273	
2273	36N14・15	Ⅳ	(23)	22	30	7.642	D		<P2272	
2274	37N20	Ⅳ	51	32	42	7.569	E			
2275	37N15	Ⅳ	50	41	52	7.429	E		≦ SX2529	
2276	37N9	Ⅳ	25	21	22	7.621	D		≦ SX2529	
2277	37N20	Ⅳ	26	22	23	7.798	D			
2278	37N19	Ⅳ	32	25	23	7.804	D			
2279	37N20・25	Ⅳ	35	30	33	7.716	D			
2280	37N14	Ⅳ	35	27	21	7.737	E			
2281	37N14	Ⅳ	27	23	23	7.746	D			
2282	37N14・15	Ⅳ	25	25	32	7.621	D			
2284	36N20	Ⅳ	(15)	(15)	20	7.780	F		<P2226、<P2285	
2285	36N20	Ⅳ	33	(25)	22	7.767	E		>P2284	
2287	36N18・19	Ⅳ	23	(20)	27	7.650	D		<P2288、>P2480	
2288	36N18	Ⅳ	26	22	20	7.741	A		>P2287、>P2480	
2289	36N18	Ⅳ	26	23	16	7.778	D		>P2290	
2290	36N18	Ⅳ	27	(23)	10 ～ 13	7.806	F		<P2289、>P2291	
2291	36N18	Ⅳ	32	(27)	12	7.814	D		<P2290	
2292	37N5	Ⅳ	38	30	18	7.715	E		≦ SX2529	
2293	37N5	Ⅳ	40	35	18	7.759	D		≦ SX2529	
2294	37N4・5	Ⅳ	44	32	43	7.474	D		≦ SX2529	
2295	37N4	Ⅳ	32	28	39	7.492	E		≦ SX2529	
2296	36N24,37N4	Ⅳ	32	30	29	7.409	A		≦ SX2529	
2297	37N4	Ⅳ	23	21	12	7.755	A		≦ SX2529	
2298	37N4	Ⅳ	35	28	40	7.442	E		≦ SX2529	
2302	37N3	Ⅳ	33	27	60	7.547	E			
2304	37N9	Ⅳ	30	30	40	7.471	D		>SK2303	
2305	36N24	Ⅳ	33	(25)	25	7.557	E		<P2306、≦ SX2529	
2306	36N23・24	Ⅳ	44	33	32	7.381	E		>P2305、>P2307、≦ SX2529	
2307	36N23	Ⅳ	39	(33)	31	7.430	E		<P2306、≦ SX2529	
2309	37N8	Ⅳ	40	(15)	54	7.610	C		<SK2519	
2312	37N10	Ⅳ	26	20	14	7.788	D		≦ SX2529	
2313	37N4	Ⅳ	31	30	28	7.564	C	土師質土器，土製品	≦ SX2529	
2314	37N14	Ⅳ	38	31	60	7.359	D		≦ SX2529	
2315	38O11	Ⅳ	28	25	48	7.670	D		>SK2241	
2316	36N3・4	Ⅳ	54	46	36	7.488	A		>SK2210、>P2508	
2319	35N24	Ⅳ	52	(45)	55	7.297	D		<P2197	
2320	37N3	Ⅳ	24	24	15	7.519	F	珠洲焼	≦ SK2236	
2321	35N23	Ⅳ	20	15	31	7.599	D			
2322	35N23	Ⅳ	25	20	11	7.772	D			
2323	36N19	Ⅳ	37	30	25	7.689	D			
2324	36N19	Ⅳ	15	15	18	7.772	D			
2327	36N3・8	Ⅳ	36	34	19	7.487	E			
2328	37N3・4	Ⅳ	29	20	13	7.526	E		≦ SK2236	
2329	39N25,39O21,40N5,40O1	Ⅳ	31	21	33	7.738	D			
2330	40O1	Ⅳ	30	25	23	7.841	B			
2331	40O1・6	Ⅳ	24	24	29	7.815	D			
2332	40O6	Ⅳ	31	30	31	7.837	D			
2333	40O7・12	Ⅳ	42	40	39	7.647	E			
2334	40O7・8	Ⅳ	22	20	31	7.884	D			
2336	40O17・18	Ⅳ	42	29	32	8.017	A			
2337	40O17	Ⅳ	30	28	32	7.763	D			
2338	40O18	Ⅳ	34	33	40	7.724	D			
2339	40O21・22	Ⅳ	36	33	32	7.444	D			
2340	40O17・18	Ⅳ	32	30	34	7.861	A			
2341	40O17	Ⅳ	25	21	22	7.930	E			
2342	40O17	Ⅳ	26	23	19	7.973	D			
2343	40O12	Ⅳ	30	25	19	7.848	F			
2344	38O16	Ⅳ	29	(13)	(41)	7.616	D		>SD2167	
2345	40O23	Ⅳ	56	48	47	7.660	C		<P2347、<P2464	
2346	40O23	Ⅳ	25	(10)	-	-	D			
2347	40O23	Ⅳ	28	23	20	7.971	D		>P2345	
2348	40O23	Ⅳ	28	25	40	7.784	D			
2349	40O22	Ⅳ	36	28	17	7.962	D			
2350	40O22	Ⅳ	29	22	12	7.972	D			
2351	40O21	Ⅳ	24	22	25	7.715	D			
2353	40O16	Ⅳ	32	(27)	20	7.949	E		<SD2356、>P2368	
2354	40O17	Ⅳ	32	30	36	7.711	A		<SD2356、>P2359	
2355	40O22	Ⅳ	24	20	22	7.899	D			
2357	37N24	Ⅳ	32	31	48	7.563	E			
2358	37N24	Ⅳ	31	23	22	7.751	D			

石船戸東遺跡 10 区　ピット 観察表（3）

遺構番号	グリッド	検出層位	規模（cm）			底面標高（m）	覆土堆積状況	出土遺物	切り合い	備考
			上端長径	上端短径	深度					
2359	40O17	Ⅳ	(31)	30	32	7.699	D		<P2354、<SD2356	
2360	40O17	Ⅳ	15	11	8	7.732	D		<SD2356	
2361	41O3	Ⅳ	36	28	40	7.731	E		>P2362、>P2364、>P2365	
2362	41O3	Ⅳ	36	30	41	7.691	E		<P2361、<P2363、>P2364、>P2365	
2363	41O2・3	Ⅳ	26	22	20	7.917	D		>P2362	
2364	41O3	Ⅳ	24	(19)	10	8.132	D		<P2361、<P2362	
2365	41O3	Ⅳ	25	(19)	19	8.090	E		<P2361、<P2362	
2366	41O3	Ⅳ	23	18	21	7.904	D			
2367	41O3	Ⅳ	22	17	20	7.917	D			
2368	40O16	Ⅳ	46	(36)	36	8.142	E		<P2353	
2369	41O8・9	Ⅳ	48	40	30	8.194	E	青磁	>P2475	
2370	41O8	Ⅳ	48	41	30	7.971	E			
2371	41O7・8	Ⅳ	51	42	30	7.980	E			
2372	41O7	Ⅳ	84	77	54	7.725	E			
2373	41O8	Ⅳ	66	48	32	7.968	E			
2374	41O7・8	Ⅳ	75	72	57	7.720	E			
2376	41O12・13	Ⅳ	66	65	45	7.768	E			
2377	41O8・13	Ⅳ	53	46	30	7.655	E			
2378	41O8・9・13・14	Ⅳ	79	71	36	7.747	E		<P2476	
2379	41O13	Ⅳ	53	46	51	7.717	E		>P2380、>P2381	
2380	41O13	Ⅳ	42	(25)	11	7.979	E		<P2379、<P2381	
2381	41O13・18	Ⅳ	45	39	35	7.753	E		<P2379、>P2380	
2382	41O18・19	Ⅳ	46	44	34	7.979	E			
2383	41O18	Ⅳ	48	40	35	7.990	E		>P2381	
2385	41O18	Ⅳ	63	53	39	7.856	E			
2386	41O19	Ⅳ	62	60	53	7.818	E		>P2387	
2387	41O18・19	Ⅳ	63	62	30	8.019	E		<P2386	
2388	41O24	Ⅳ	46	42	24	8.119	E			
2389	41O24	Ⅳ	50	48	37	8.002	E			
2390	41O23	Ⅳ	47	45	33	7.983	E			
2391	42O9	Ⅳ	48	46	39	7.872	E			
2395	43O9	Ⅳ	41	33	14	8.061	E			
2398	43O25,44O5	Ⅳ	37	31	9	8.301	D			
2406	44P12	Ⅳ	23	19	22	8.159	D			
2407	44P11	Ⅳ	25	(16)	18	8.232	D			
2408	44P11	Ⅳ	34	29	27	8.069	D			
2409	44P16・17	Ⅳ	35	28	47	7.934	D			
2414	45P6	Ⅳ	36	31	27	8.164	A			
2415	44P17	Ⅳ	30	(21)	52	7.946	D	黒色土器		
2416	36N14・19	Ⅳ	24	21	18	7.708	D			
2417	37N9	Ⅳ	31	30	34	7.592	D		>P2418、≦ SX2529	
2418	37N9・10	Ⅳ	(28)	25	15	7.728	D		>P2419、<P2417、≦ SX2529	
2419	37N9・10	Ⅳ	28	27	15	7.735	D		<P2418、≦ SX2529	
2421	37N24	Ⅳ	23	(10)	59	7.581	D		<SD2166	
2423	42O3・8	Ⅳ	82	60	40	7.759	F			
2424	42O8	Ⅳ	40	38	24	7.870	D			
2425	36N18	Ⅳ	33	25	11	7.806	E			
2428	44P17	Ⅳ	22	(13)	22	8.166	D			
2430	36N5	Ⅳ	55	40	60	7.432	D		<SD2429	
2431	36N5	Ⅳ	47	33	13	7.915	D			
2432	36N10	Ⅳ	32	(15)	59	7.483	D			
2433	36N15	Ⅳ	36	(20)	52	7.547	D			
2434	36N20	Ⅳ	37	(27)	27	7.768	D			
2435	36N20	Ⅳ	25	22	14	7.886	D			
2436	36N20	Ⅳ	27	25	16	7.851	D			
2437	36N25	Ⅳ	50	(17)	12	7.894	D			
2438	36N25	Ⅳ	22	(18)	15	7.858	D			
2439	36N25	Ⅳ	31	30	7	7.940	D			
2440	35N13・18	Ⅳ	32	(32)	19	7.748	E		<P2188	
2441	35N18・19	Ⅳ	42	41	19	7.692	E		<P2188	
2442	35N24・25	Ⅳ	41	38	17	7.723	E			
2444	36N3	Ⅳ	40	36	9	7.721	E			
2445	36N4・9・10	Ⅳ	30	24	11	7.453	D		<SK2234	
2447	37N5,37O1	Ⅳ	44	35	55	7.396	E			
2448	37N5,37O1	Ⅳ	44	35	52	7.495	E		>P2493	
2450	37N5・10,37O1・6	Ⅳ	42	35	46	7.565	E		>P2494	
2451	37N10,37O6	Ⅳ	70	53	31	7.716	D			
2452	37O6	Ⅳ	30	22	14	7.948	D			
2454	37O6・11	Ⅳ	30	20	7	8.024	D		<SD2172	
2455	37O11	Ⅳ	80	(47)	56	7.387	E		>P2456	
2456	37N15,37O11	Ⅳ	(41)	(32)	41	7.728	D		<P2455、<P2514	
2458	38O1	Ⅳ	37	(15)	29	7.953	D		>SD2192	
2459	38O6	Ⅳ	44	28	28	7.576	D		>SD2192	
2463	40O8・13	Ⅳ	55	28	54	7.731	D			
2464	40O23	Ⅳ	50	(25)	15	8.133	D		>P2345	
2465	40O23	Ⅳ	62	(27)	10	8.180	D			
2467	41O3	Ⅳ	30	22	18	8.090	D			
2468	41O2・3	Ⅳ	86	63	72	7.558	C			
2469	36N5・10	Ⅳ	34	(24)	21	7.875	D			
2470	36N10	Ⅳ	36	(20)	44	7.394	B		<P2481	

石船戸東遺跡 10 区　ピット 観察表（4）

遺構番号	グリッド	検出層位	規模（cm）			底面標高（m）	覆土堆積状況	出土遺物	切り合い	備考
			上端長径	上端短径	深度					
2471	36N10	Ⅳ	26	(20)	39	7.701	D			
2472	36N10	Ⅳ	31	(22)	34	7.730	D			
2473	35N20	Ⅳ	50	42	10	7.901	D			
2474	35N20・25	Ⅳ	22	18	10	7.915	D			
2475	41O3・4・8・9	Ⅳ	67	57	58	7.917	E		<P2369	
2476	41O8・9	Ⅳ	51	40	50	7.947	E		>P2378	
2478	41O12・13	Ⅳ	64	55	50	7.856	E			
2480	36N18	Ⅳ	(28)	(23)	16	7.683	A		<SK2286、<P2287、<P2288	
2481	36N10	Ⅳ	28	(10)	43	7.664	E		>P2470	
2482	36N24	Ⅳ	40	35	35	7.499	E		<SD2299、≦ SX2529	
2485	36N15	Ⅳ	33	31	45	7.640	D			
2486	36N10・15	Ⅳ	28	(14)	22	7.873	D			
2491	37N15・20	Ⅳ	25	22	21	7.817	D		>SD2192、>P2492	
2492	37N15・20	Ⅳ	40	(33)	24	7.797	D		>SD2192、<P2491	
2493	37N5	Ⅳ	26	(15)	21	7.797	D	土師質土器	<P2448	
2494	37N5,37O1	Ⅳ	24	(19)	31	7.700	E		<P2450	
2495	41O17・18	Ⅳ	21	20	14	7.708	D		<SK2384	
2496	41O17	Ⅳ	18	15	16	7.668	D		<SK2384	
2497	41O17	Ⅳ	20	15	16	7.704	D		<SK2384	
2498	41O17	Ⅳ	16	14	14	7.847	D		<SK2384	
2500	41O18・23	Ⅳ	43	43	25	8.078	E			
2501	41O12	Ⅳ	62	50	36	7.859	E			
2502	38N14	Ⅳ	37	(27)	11	7.919	E			
2503	38N9	Ⅳ	30	27	14	7.884	E			
2504	38O6	Ⅳ	38	(15)	26	7.853	E			
2505	38O1	Ⅳ	30	23	19	7.692	E		>SD2192	
2506	43P21	Ⅳ	36	(29)	45	7.960	D			
2507	36N24,37N4	Ⅳ	58	42	34	7.446	E	土製品	<SD2299、≦ SX2529	
2508	36N3	Ⅳ	52	38	63	7.205	D		>SK2210、<P2316	
2510	38O1	Ⅳ	28	(13)	44	7.769	D		>SD2192、>SK2499	
2512	36N23	Ⅳ	32	28	40	7.539	E		≦ SX2529	
2514	37O11	Ⅳ	43	30	30	7.849	D		>P2456	
2515	40O13・18	Ⅳ	43	25	21	7.871	D		>SK2335	
2516	40O23	Ⅳ	39	35	34	7.730	D			
2518	37N15	Ⅳ	49	38	25	7.741	D		<SD2172	
2520	38O1	Ⅳ	(40)	(20)	13	8.110	D		>SD2192、<P2521	
2521	38O1	Ⅳ	24	16	58	7.643	D		>SD2192、>P2520、>P2522	
2522	38O1	Ⅳ	27	24	12	8.106	D		>SD2192、<P2521	
2523	38O11・12	Ⅳ	32	20	20	8.005	D			
2524	35N13・14	Ⅳ	35	(10)	25	7.574	D		>SK2165	
2525	35N2・3	Ⅳ	34	30			D			
2526	35N4	Ⅳ	32	32			D			
2527	37N5	Ⅳ	35	30	24	7.678	D		<SK2283、>P2528、≦ SX2529	
2528	37N4・5・9・10	Ⅳ	31	(26)	23	7.479	D		<SK2283、>P2527、≦ SX2529	

石船戸東遺跡 10 区　掘立柱建物の柱穴 観察表（1）

SB13

遺構番号	グリッド	規模（cm）			底面標高（m）	出土遺物	柱痕	切り合い
		上端長径	上端短径	深度				
2173	35N23	49	41	57	7.220			
2174	35N23	32	31	35	7.472		有	
2197	35N19・24	55	48	44	7.418	土製品	有	<P2319
2199	36N4	49	44	70	7.701	土師質土器	有	
2231	36N4	44	(42)	43	7.403		有	<P2232
2232	36N4	42	40	44	7.457		有	>P2231
2271	36N4	40	34	20	7.582		有	
2316	36N3・4	54	46	36	7.488			>SK2210、>P2508
2319	35N24	52	(45)	55	7.297			<P2197
2508	36N3	52	38	63	7.205			>SK2210、<P2316

SB14

遺構番号	グリッド	規模（cm）			底面標高（m）	出土遺物	柱痕	切り合い
		上端長径	上端短径	深度				
2203	36N14・15	36	31	46	7.328		有	>P2202
2223	36N15・20	28	23	48	7.482			
2226	36N20	26	25	14	7.854			>P2284
2436	36N20	27	25	16	7.851			
2486	36N10・15	28	(14)	22	7.873			

石船戸東遺跡 10 区　掘立柱建物の柱穴 観察表（2）

SB15

遺構番号	グリッド	規模（cm）			底面標高（m）	出土遺物	柱痕	切り合い
		上端長径	上端短径	深度				
2187	36N8	27	24	40	7.435			
2189	36N10	25	22	15	7.757		有	
2194	36N8	25	18	22	7.627		有	
2201	36N14・15	26	25	30	7.484		有	
2204	36N8・9・13・14	30	26	35	7.483		有	
2212	36N9	21	19	13	7.707		有	
2214	36N4・9	24	24	24	7.339			
2218	6N9・10	25	19	32	7.588		有	
2219	36N9	25	20	15	7.745			
2220	36N9・14	22	19	27	7.575		有	
2221	36N14	18	15	39	7.511			
2222	36N14	19	18	7	7.822		有	
2228	36N18	25	23	44	7.741			
2233	36N4	28	24	10	7.768			
2272	36N14	32	25	29	7.574		有	>P2273
2416	36N14・19	24	21	18	7.708			
2430	36N5	55	40	60	7.432			<SD2429
2432	36N10	32	(15)	59	7.483			
2445	36N4・9・10	30	24	11	7.453			<SK2234
2481	36N10	28	(10)	43	7.664		有	>P2470
2485	36N15	33	31	45	7.640			

SB16

遺構番号	グリッド	規模（cm）			底面標高（m）	出土遺物	柱痕	切り合い
		上端長径	上端短径	深度				
2229	36N18	22	20	15	7.764			
2230	36N23	27	(14)	76	7.317		有	>SK2308
2275	37N15	50	41	52	7.429			≦ SX2529
2276	37N9	25	21	22	7.621		有	≦ SX2529
2280	37N14	35	27	21	7.737			
2282	37N14・15	25	25	32	7.621			≦ SX2529
2287	36N18・19	23	(20)	27	7.650			<P2288、>P2480
2288	36N18	26	22	20	7.741			>P2287、>P2480
2289	36N18	26	23	16	7.778			>P2290
2290	36N18	27	(23)	10 ～ 13	7.806		有	<P2289、>P2291
2291	36N18	32	(27)	12	7.814			<P2290
2295	37N4	32	28	39	7.492		有	≦ SX2529
2296	36N24,37N4	32	30	29	7.409			≦ SX2529
2297	37N4	23	21	12	7.755			≦ SX2529
2298	37N4	35	28	40	7.442		有	≦ SX2529
2302	37N3	33	27	60	7.547			
2304	37N9	30	30	40	7.471			>SK2303
2306	36N23・24	44	33	32	7.381		有	>P2305、>P2307、≦ SX2529
2307	36N23	39	(33)	32	7.381		有	<P2306、≦ SX2529
2313	37N4	31	30	28	7.564	土師質土器，土製品		≦ SX2529
2314	37N14	38	31	60	7.359			≦ SX2529
2417	37N9	31	30	34	7.592			>P2418、≦ SX2529
2418	37N9・10	(28)	25	15	7.728			>P2419、<P2417、≦ SX2529
2419	37N9・10	28	27	15	7.735			<P2418、≦ SX2529
2507	36N24,37N4	58	42	34	7.446			<SD2299、≦ SX2529
2512	36N23	32	28	40	7.539		有	≦ SX2529
2518	37N15	49	38	25	7.741			<SD2172
2527	37N5	35	30	24	7.678			<SK2283、>P2528、≦ SX2529
2528	37N4・5・9・10	31	(26)	23	7.479			<SK2283、>P2527、≦ SX2529

石船戸東遺跡 10 区　掘立柱建物の柱穴 観察表（3）

SB17

遺構番号	グリッド	規模（cm）			底面標高（m）	出土遺物	柱痕	切り合い
		上端長径	上端短径	深度				
2159	38N9	36	33	33	7.791		有	
2235	38N4	30	27	45	7.451	土師器	有	
2242	38O11	24	21	10	8.040			
2243	38O11	29	25	14	8.034			
2244	38N15,38O11	39	30	20	7.927		有	
2245	38N15	42	30	26	7.925			
2247	38N15	23	23	26	7.820			
2248	38N15	30	27	27	7.786		有	
2249	38N15	30	26	35	7.757			
2251	38O6・11	33	(31)	18	7.945		有	<P2252
2252	38O6	34	32	22	7.947		有	>P2251
2253	38O6	28	23	13	8.007			
2256	38N10,38O6	40	34	27	8.023			>P2255
2258	38N10	30	29	33	7.832		有	
2259	38N10	31	21	8	8.022			
2260	38N10	29	28	46	7.606			
2261	38N10	28	22	15	7.947			
2264	38N14	31	28	13	7.972			
2265	38N5,38O1	30	28	17	7.901			
2266	38N5	27	27	20	7.909			
2267	38N5	40	37	30	7.793		有	
2268	38N5	27	24	37	7.482	鉄製品	有	
2269	38N4	29	26	30	7.729		有	
2270	38N4	27	22	19	7.829			
2274	37N20	51	32	42	7.569		有	
2277	37N20	26	22	23	7.798			
2278	37N19	32	25	23	7.804			
2279	37N20・25	35	30	33	7.716			
2315	38O11	28	25	48	7.670			>SK2241
2357	37N24	32	31	48	7.563		有	
2459	38O6	44	28	28	7.576			>SD2192
2502	38N14	37	(27)	11	7.919		有	
2503	38N9	30	27	14	7.884		有	
2504	38O6	38	(15)	26	7.853		有	
2505	38O1	30	23	19	7.692		有	>SD2192
2510	38O1	28	(13)	44	7.769			>SD2192、>SK2499
2521	38O1	24	16	58	7.643			>SD2192、>P2520、>P2522
2522	38O1	27	24	12	8.106			>SD2192、<P2521

SB18

遺構番号	グリッド	規模（cm）			底面標高（m）	出土遺物	柱痕	切り合い
		上端長径	上端短径	深度				
2348	40O23	28	25	40	7.784			
2369	41O8・9	48	40	30	8.194	青磁	有	>P2475
2372	41O7	84	77	54	7.725		有	
2377	41O8・13	53	46	30	7.655		有	
2381	41O13・18	45	39	35	7.753		有	<P2379、>P2380
2382	41O18・19	46	44	34	7.979		有	
2383	41O18	48	40	35	7.990		有	>P2381
2385	41O18	63	53	39	7.856		有	
2389	41O24	50	48	37	8.002		有	
2468	41O2・3	86	63	72	7.558		有	
2478	41O12・13	64	55	50	7.856		有	
2500	41O18・23	43	43	25	8.078		有	

石船戸東遺跡Ⅲ　土器・陶磁器 観察表

（胎土：砂：砂粒、英：石英、雲：金雲母、角：角閃石、黒：黒色粒子、海：海綿骨針、長：長石、チ：チャート）

報告番号	出土位置（グリッド）	遺構 / 層位		種類	器種 / 時期		法量（cm）			内面色調	外面色調	胎土	調整 / 文様	使用痕跡	備考
							口径	器高	底径						
1	16O11	SD2109	1	須恵器	壺甕類					灰白色	灰色	砂	内面：平行アテ工具痕 外面：格子状タタキ		体部
2	16O17	SD2109	1	珠洲焼	壺					灰色	灰色	雲、海	内面：円形状アテ工具痕 外面：平行タタキ		頸部
3	16N5	SD2109	1	珠洲焼	甕					黄灰色	灰色	角、海	内面：円形状アテ工具痕 外面：平行タタキ		
4	15N24	SD2110	3	土師質土器	杯		13.2	3.1	9.6	褐灰色	浅黄橙色	僅かに砂	内面：ナデ 外面：ナデ		全体的に摩耗
5	15N24	SD2110	3	土師質土器	杯		12.4	2.9	9.0	褐灰色	灰色		内面：ナデ 外面：ナデ		全体的に摩耗
6	15N25	SD2110	3	土師質土器	杯		12.6	3.2	6.8	褐灰色	にぶい黄橙色	砂	内面：ナデ 外面：ナデ		全体的に摩耗、底部糸切か
7	15N4	SD2110	1	珠洲焼	片口鉢		28.2			灰色	灰色	角、海	内面：4 条以上の卸目 外面：ナデ		残存率 1/9 以下
8	15N25	SD2110	1	珠洲焼	壺					灰色	灰色	砂、角、海	内面：円形状アテ工具痕 外面：（上部）平行タタキ、（下部）綾杉状タタキ		頸部
9	17N5	SD2110	1	珠洲焼	壺甕類					灰白色	灰白色	砂、角	内面：円形状アテ工具痕 外面：綾杉状タタキ		体部
10	17O12	SD2110	2	珠洲焼	壺					灰色	灰色	砂、角	内面：円形状アテ工具痕 外面：平行タタキ		体部、粘土継目痕あり
11	15N18	SD2110	3	珠洲焼	壺					灰色	灰色	砂、角	内面：ナデ 外面：不明		底部
12	17O1	SD2110	1	白磁	皿		10.0			灰白色	灰白色		内面：1 条の圏線 外面：ナデ		口禿
13	16N20	SD2110	1	珠洲焼	転用砥石					灰色	褐灰色	黒	内面：円形状アテ工具痕 外面：平行タタキ		一面（外面）のみ使用痕
14	39N5	SD2163	1	珠洲焼	片口鉢		31.5			黄灰色	灰白色	砂、海	内面：13 条以上の卸目 外面：ナデ	内面：炭化物	
15	39N5	SD2163	1	珠洲焼	片口鉢					灰色	灰色	砂、黒	内面：8 条以上の卸目 外面：ナデ		
16	39N5	SD2163	1	珠洲焼	片口鉢					褐灰色	褐灰色	砂	内面：ナデ 外面：ナデ		
17	39N5	SD2163	1	珠洲焼	片口鉢					褐灰色	灰色	砂、海	内面：8 条以上の卸目 外面：ナデ		体部、内面：使用により平滑
18	39N5	SD2163	1	珠洲焼	壺甕類					灰色	灰色	砂	内面：円形状アテ工具痕 外面：平行タタキ	内面：鉄分？	体部
19	39O1	SD2163	1	珠洲焼	壺甕類					灰色	灰白色	砂	内面：円形状アテ工具痕 外面：不明		体部
20	39N5	SD2163	1	珠洲焼	壺					灰色	灰色		内面：ナデ 外面：		底部
21	38O16	SD2167	1	珠洲焼	甕					褐灰色	灰色	砂、黒	内面：円形状アテ工具痕 外面：平行タタキ？		口縁部、推定口径 109.5cm
22	38N20	SD2167	1	須恵器	壺甕類					灰色	灰色	僅かに砂	内面：円形状アテ工具痕 外面：平行タタキ		体部
23	38N25	SD2167	2	珠洲焼	壺甕類					灰色	灰色		内面：円形状アテ工具痕 外面：（上部）平行タタキ、（下部）綾杉状タタキ	内面：炭化物	体部
24	39O16	SD2191	2	土師質土器	杯		12.0	3.5	9.2	にぶい褐色	にぶい橙色	砂	内面：ナデ 外面：ナデ	内面：煤？	残存率 1/6 以下
25	39O16	SD2191	1	珠洲焼	甕					灰色	灰色	砂、黒	内面：円形状アテ工具痕 外面：平行タタキ？		口縁部
26	38O6	SD2192	1	土師質土器	杯				6.2	橙色	橙色	僅かに砂	内面：ナデ 外面：（底部）糸切痕		底部のみ
27	32N2	SD2152	1	磁器	皿		13.2			灰白色	灰白色		内面：圏線、竹笹文、雪輪文 外面：圏線、抽象文		肥前　なます皿
28	13N2	SD2122	1	陶器	瓦					暗赤褐色	にぶい赤褐色		内面：顔料塗布 外面：顔料塗布		近代？
29	37N16	SD2457	1	珠洲焼	片口鉢		26.8			灰色	灰色	僅かに黒	内面：14 条以上の卸目 外面：ナデ		
30	37N3	P2320	1	珠洲焼	片口鉢		25.3			灰色	灰色	僅かに砂	内面：5 条以上の卸目 外面：ナデ		
31	35N24	P2184	1	須恵器	壺甕類					灰色	暗灰色		内面：円形状アテ工具痕 外面：平行タタキ		体部
32	41O8	P2369	1	青磁	碗	14 世紀				明オリーブ灰色	明オリーブ灰色		内面： 外面：鎬連弁文		龍泉窯系
33	35N14	遺構外	Ⅳ	瓷器？	甕					灰色	灰色	砂	内面：ナデ？ 外面：		体部、笹神窯系か
34	35N20	遺構外	Ⅳ	珠洲焼	壺甕類					暗灰色	暗灰色	砂	内面：同心円状アテ工具痕 外面：平行タタキ		体部

石船戸東遺跡Ⅲ　石製品 観察表

報告番号	器種	出土地			法量（cm・g）				石材	付着物	使用痕 など	遺存状況	備考
		グリッド	遺構	層位	長さ	幅	厚さ	重さ					
35	砥石	38N5	SE2161	1	(8.65)	3.4	1.4	39.7	粘板岩 or 頁岩		擦痕	片端部欠失	仕上砥
36	砥石	38N5	SE2161	1	(3.7)	5.0	1.3	25.9	凝灰岩		擦痕	片端部欠失	中砥

石船戸東遺跡Ⅲ　木製品 観察表

報告番号	器種	出土地			法量（cm）			遺存状況	木取り	備考
		グリッド	遺構	層位	長さ	幅	厚さ			
37	紡錘車	37N25	SE2161	10	5.6	(4.8)	0.45 ～ 0.5	一部欠失	柾目	

石船戸東遺跡Ⅲ　金属製品 観察表

報告番号	器種	出土地			法量（cm）				遺存状況	備考
		グリッド	遺構	層位	長さ	幅	厚さ	重さ		
38	刀子？	36N	SK2308	2	26.3	2.9	2.7		錆膨れ	
39	鉄鍋？	37O	SD2457	1	9.8	15.1	（高さ）8.7		錆膨れ	

蕪木遺跡Ⅱ　掘立柱建物 観察表

遺構番号	形式	グリッド	桁行（間）	梁行（間）	梁行長（m）	身舎梁行長（m）	梁行柱間長（m）	梁行下屋長（m）	桁行長（m）	身舎桁行長（m）	梁行桁行長（m）	主軸方向	身舎（㎡）	面積（㎡）	変遷時期
SB4	梁間一間型	5・6R	3	1	5.02	5.02	5.02	-	8.66	8.66	2.84 ～ 2.96	N-43° -W	43.0	43.0	古代
SB5	梁間一間型	5・6R 5・6S	3	2	(6.16)	(6.1)	3.12	-	8.38	8.38	2.68 ～ 2.88	N-47° -W	52.0	52.0	古代

蕪木遺跡Ⅱ　掘立柱建物の柱穴 観察表

SB4

遺構番号	グリッド	検出層位	規模（cm）			底面標高（m）	覆土	出土遺物	切り合い
			上端長径	上端短径	深度				
2090	5R13	Ⅳ	(49)	41	21	9.590	E		

SB5

遺構番号	グリッド	検出層位	規模（cm）			底面標高（m）	覆土	出土遺物	切り合い
			上端長径	上端短径	深度				
2086	5S9	Ⅳ	46	42	53	9.259	B	土師器椀	
2089	5R18	Ⅳ	76	44	58	9.229	E	土師器椀、黒色土器片	

蕪木遺跡Ⅱ　土坑 観察表

遺構番号	グリッド	検出層位	変遷時期	形態			規模（cm）					底面標高（m）	覆土	主軸方向	出土遺物	切り合い
				平面	断面	立ち上がり	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深度					
2010	10V5	Ⅳ	古代	不整形	弧状	緩やか	(73)	(20)	(63)	(13)	28	9.736	D	N-16° -W		<P2006
2011	11X18・19	Ⅳ	中・近世	楕円形	半円状	急斜度	78	(56)	50	(43)	21	9.698	A	N-24° -W		
2020	11X23	Ⅳ	古代	楕円形	弧状	緩やか・急斜度	(116)	(15)	(90)	(15)	13	9.848	D	N-12° -W		
2024	10T6・7	Ⅳ	古代	楕円形	台形状	急斜度	(95)	(32)	(82)	(22)	34	9.638	B	N-18° -W	須恵器横瓶，土師器長胴甕，土師器片	>P2056
2038	10T22・23	Ⅳ	古代	楕円形	台形状	急斜度	(42)	(41)	(32)	(30)	30	9.669	C	N-78° -W		<P2036
2050	10U19・24	Ⅳ	古代	楕円形	弧状	緩やか	(106)	(55)	(27)	(25)	27	9.545	B	N-38° -W		>P2055
2057	10U3	Ⅳ	古代	楕円形	弧状	緩やか	(75)	45	49	25	11	9.674	D	N-58° -W	土師器片	<P2046
2060	10U14	Ⅳ	古代	円形	半円状	急斜度	(28)	(16)	(12)	(10)	41	9.607	A	N-20° -W		<SD2001
2076	5Q22	Ⅳ	古代	方形	弧状	急斜度	94	(81)	(64)	58	29	9.634	A	N- 8° -E		
2095	4O23・24	Ⅳ	近・現代	楕円形	台形状	急斜度	(95)	63	(70)	39	17	9.414	A	N-53° -W		<SD2077
2101	11V24、11W4	Ⅳ	古代	不整形	半円状	急斜度	(95)	(27)	(55)	(9)	39	7.734	B	N-53° -E	土師器杯，須恵器杯，土師器片	
2102	11W3・4	Ⅳ	古代	不整形	半円状	急斜度	(129)	(44)	(92)	(11)	51	9.660	B	N-55° -E	土師器椀，黒色土器椀，土師器片	
2104	10W17・18・22	Ⅳ	中・近世	楕円形	台形状	急斜度	135	(38)	114	(34)	22	9.793	B	N-58° -E		
2106	10W18	Ⅳ	中・近世	長方形	半円状	急斜度	103	(35)	88	(27)	11	9.844	A	N-59° -E		>P2107・P2116

蕪木遺跡Ⅱ　溝 観察表

遺構番号	グリッド	検出層位	変遷時期	形態			規模（cm）					底面標高（m）	覆土	主軸方向	出土遺物	切り合い
				平面	断面	立ち上がり	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深度					
2001	10U・V、10・11W	Ⅳ	中世	-	弧状・台形状	急斜度	(2420)	36 ～ 112	(2393)	20 ～ 74	19 ～ 29	9.434 ～ 9.851	A	N- 7° -W	土師器片，須恵器片，青磁椀	>P2006 >P2059 >SK2060
2002	10W5、11W1	Ⅳ	中・近世	-	台形状	急斜度	(200)	48	(200)	34	6	9.838	D	N-68° -E		
2009	11V・W	Ⅳ	近世	-	台形状	急斜度	(354)	41	(344)	25	8 ～ 12	9.800	A	N-56° -E	磁器，金属製品	>P2112・P2131
2021	11X23・24、11Y3・4	Ⅳ	中・近世	-	弧状	緩やか	(191)	110	(187)	55	5	9.830	D	N-68° -E	土師器片	
2030	10S22、10T2・7・8・12・13・18	Ⅳ	中・近世	-	半円状	急斜度	(860)	34 ～ 60	(804)	18 ～ 28	21	9.402 ～ 9.734	A	N- 8° -W	土師器片，須恵器片	>SD2031 >SD2058
2031	10S22、10T2・7・12	Ⅳ	中・近世	-	弧状	緩やか	(604)	29	(598)	8 ～ 18	6	9.586 ～ 9.748	D	N- 7° -W		<SD2030 >SD2058
2034	10U3・4	Ⅳ	中世	-	半円状	急斜度	(231)	36	(218)	20	16	9.680	A	N-83° -W	土師器片	
2040	10T17・18・22・23	Ⅳ	中世	-	半円状	急斜度	(140)	48	(130)	18	15	9.476	D	N-84° -E		>P2049
2042	10T12	Ⅳ	古代	-	U 字状	急斜度	(92)	28	(82)	16	11	9.623	A	N-71° -E	土師器片	
2058	10S21・22、10T1・2	Ⅳ	古代	-	半円状	急斜度	(180)	66	(180)	44	9	9.623	F	N-81° -E		<SD2030 <SD2031
2062	7・8AA	Ⅳ	中・近世	-	半円状	緩やか	(210)	65	(210)	34	14	9.730	A	N-76° -E		
2063	7・8AA	Ⅳ	中・近世	-	半円状	急斜度	(234)	142	(192)	39	36	9.489	A	N-72° -E		
2064	7AA	Ⅳ	中・近世	-	弧状	緩やか	(211)	77	(211)	41	10	9.855	A	N-76° -E		
2068	6U	Ⅳ	中・近世	-	弧状	緩やか	(216)	92	(202)	50	12	9.736	A	N-50° -E		
2069	5・6S	Ⅳ	近・現代	-	V 字状	急斜度	(248)	94	(185)	25	74	9.023	A	N-82° -W	土師器片，須恵器片，ガラス製品	
2070	5R	Ⅳ	中・近世	-	弧状	緩やか	(225)	140	(216)	114	10	9.659	A	N-87° -E	土師器無台椀，土師器片	
2071	5R	Ⅳ	中・近世	-	半円状	急斜度	(161)	53	(158)	28	15	9.660	A	N-75° -E	須恵器甕	
2072	5R	Ⅳ	中・近世	-	台形状	急斜度	(161)	68	(155)	45	18	9.577	C	N-68° -E	土師器片	
2073	5Q	Ⅳ	中・近世	-	弧状	緩やか	(227)	62	(204)	39	8	9.680	A	N-75° -W		<SD2074
2074	5Q	Ⅳ	近・現代	-	半円状	急斜度	(142)	50	(135)	24	16	9.645	A	N-80° -E		>SD2073
2075	4・5Q	Ⅳ	近・現代	-	半円状・台形状	急斜度	210	(180)	(128)	66	43	9.398	A	N-84° -E		
2077	4O・P	Ⅳ	近・現代	-	台形状	急斜度	(626)	358	(585)	327	42	9.025 ～ 9.311	B	N-10° -E	土師器片，磁器，瓦	>SK2095 >SD2094
2078	4O	Ⅳ	近・現代	-	半円状	急斜度	(163)	69	(156)	45	8	9.432	B	N-87° -E		
2092	4P	Ⅳ	近・現代	-	弧状	緩やか	(312)	139	(264)	125	16	9.473	A	N-62° -W		
2094	4P	Ⅳ	近・現代	-	弧状	緩やか・急斜度	(213)	49	(182)	24	10	9.499	A	N-44° -W		<SD2077

蕪木遺跡Ⅱ　道 観察表

遺構番号	グリッド	検出層位	変遷時期	形態			規模（cm）					底面標高（m）	覆土	主軸方向	出土遺物	切り合い
				平面	断面	立ち上がり	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深度					
2013A	11X	Ⅳ	中世	-	台形状	緩やか・急斜度	（178）	120	（174）	32	26	9.711	C	N-77°-E		>2013B
2013B	11X	Ⅳ	古代	-	弧状	緩やか	（178）	100	（174）	46	16	9.760	C	N-77°-E		<2013A
2054A	11W、9・10・11X	Ⅳ	中世	-	台形状	急斜度	（1690）	190	（1690）	36～80	30	9.520～9.746	A	N-78°-E	土師器片	>2054B
2054B	11W、9・10・11X	Ⅳ	古代	-	台形状	急斜度	（1690）	170	（1690）	100～180	48	9.403～9.586	A	N-78°-E	土師器片，須恵器無台杯，須恵器片，黒色土器片，転用砥石	<2054A >P2128
2066	7Y	Ⅳ	古代	-	台形状	急斜度	（202）	108	（183）	42	46	9.573	A	N-70°-E	土師器片	
2079	7X・Y	Ⅳ	古代	-	台形状	急斜度	（114）	94	（98）	45	15	9.606	F	N-70°-E		

蕪木遺跡Ⅱ　自然流路跡 観察表

遺構番号	グリッド	検出層位	規模（cm）					底面標高（m）	主軸方向	出土遺物	切り合い
			上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深度				
2023	11Y	Ⅳ	（697）	（192）	（630）	（178）	32～114	8.770～9.580	N-80°-E		
2061	7・8BB	Ⅳ	（607）	（212）	（530）	（205）	21～115	8.720～9.640	N-61°-E		

蕪木遺跡Ⅱ　性格不明遺構 観察表

遺構番号	グリッド	検出層位	変遷時期	形態			規模（cm）					底面標高（m）	埋土堆積状況	主軸方向	出土遺物	切り合い
				平面	断面	立ち上がり	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深度					
2124	11・12V	Ⅳ	古代	不整形	台形状	急斜度	（250）	（230）	（315）	（75）	30	9.700	C	N-52°-E	須恵器杯，須恵器甕，須恵器片，土師器椀，土師器長胴甕，土師器片，炉壁片	

蕪木遺跡Ⅱ　ピット 観察表

遺構番号	グリッド	検出層位	規模（cm）			底面標高（m）	覆土	出土遺物	切り合い
			上端長径	上端短径	深度				
2003	11W1	Ⅳ	38	25	20	9.675	E		
2004	10V10	Ⅳ	40	36	17	9.658	A	土師器片	
2005	11W1	Ⅳ	27	18	14	9.836	D		
2006	10U23・24、10V3・4	Ⅳ	(96)	(56)	46	9.544	E	土師器片	>SK2010、<SD2001
2007	11W1・6	Ⅳ	49	36	17	9.712	F		
2008	11V16・21	Ⅳ	28	26	16	9.740	B	須恵器片	
2012	11X23・24	Ⅳ	50	35	19	9.747	A		
2014	11X2	Ⅳ	26	23	5	9.820	D		>P2015
2015	11X2	Ⅳ	69	35	9	9.790	F		<P2014・P2016
2016	11X2	Ⅳ	43	36	7	9.809	D		>P2015
2017	11X23・24、11Y3・4	Ⅳ	74	45	12	9.792	A		>SD2021
2018	11X8・13	Ⅳ	(26)	(26)	26	9.740	A		
2019	11X18	Ⅳ	(50)	(19)	22	9.765	A		
2022	11X13	Ⅳ	(57)	(27)	22	9.770	C	土師器片	
2025	10U19	Ⅳ	(32)	(26)	30	9.560	E		
2026	10U14	Ⅳ	27	20	17	9.675	F		
2027	10U9	Ⅳ	25	24	12	9.703	E		
2028	10U3・4・8・9	Ⅳ	31	28	42	9.442	E		
2029	10U3・4	Ⅳ	27	25	19	9.551	E		
2032	10U4	Ⅳ	44	38	16	9.707	D	須恵器片	
2033	10T23	Ⅳ	64	60	12	9.632	D	土師器片，須恵器片，磁器	
2035	10U18・19	Ⅳ	61	58	83	9.010	E	須恵器片，柱根，板材	
2036	10T23	Ⅳ	(38)	(32)	46	9.519	E		>SK2038
2037	10U8・9	Ⅳ	79	78	46	9.380	E		
2039	10U14	Ⅳ	33	29	15	9.659	A		
2041	10U3	Ⅳ	39	39	49	9.294	E		
2043	10T22・23	Ⅳ	32	24	16	9.614	D		
2044	10U8	Ⅳ	41	30	55	9.298	E	須恵器杯蓋	
2045	10U19	Ⅳ	67	58	35	9.452	E		
2046	10T23、10U3	Ⅳ	35	29	53	9.500	E	須恵器杯	>SK2057
2047	10U19	Ⅳ	24	20	18	9.689	D		
2048	10T17・18	Ⅳ	37	29	16	9.620	A		
2049	10T17	Ⅳ	(18)	(9)	26	9.699	D	土師器片	>SD2040
2055	10U24	Ⅳ	(29)	(15)	21	9.587	D		<SK2050
2056	10T1	Ⅳ	(39)	(10)	46	9.560	A		
2059	10U4・9	Ⅳ	(34)	(17)	52	9.473	E		<SD2001
2065	7Y7・12	Ⅳ	(66)	(14)	19	9.827	C		
2080	6U7	Ⅳ	43	(13)	34	9.650	C		
2081	6U13	Ⅳ	58	52	36	9.476	C		
2082	6T17	Ⅳ	40	32	13	9.680	C		
2083	6T6・11	Ⅳ	(26)	24	32	9.651	A		
2084	6T22、6U2	Ⅳ	34	32	16	9.696	C		
2085	6T11	Ⅳ	35	32	17	9.615	E		
2087	5S4	Ⅳ	42	38	23	9.520	E		
2088	5R18・23	Ⅳ	50	47	13	9.602	A		
2091	5R18・19	Ⅳ	72	41	28	9.506	E		
2093	4Q10・5Q6	Ⅳ	(61)	(33)	22	9.579	A		
2096	5Q22	Ⅳ	(29)	(14)	17	9.600	B		
2097	5Q16・21	Ⅳ	37	25	31	9.345	C	土師器片	
2098	5Q22	Ⅳ	(49)	(41)	29	9.530	C	土師器片，土師質土器片	
2099	5R2	Ⅳ	63	(38)	41	9.416	E		
2100	11W2	Ⅳ	24	23	16	9.736	A		
2103	11W3・8	Ⅳ	(41)	(31)	31	9.750	D		
2105	10W21	Ⅳ	(24)	21	29	9.736	A		
2107	10W18	Ⅳ	33	31	24	9.679	F		<SK2106
2108	10W23・24	Ⅳ	73	48	24	9.670	C		
2109	11W2	Ⅳ	28	27	30	9.616	B		
2110	11W12・17	Ⅳ	36	26	18	9.692	A		
2111	11W17	Ⅳ	34	25	20	9.692	B		
2112	11W2	Ⅳ	33	(25)	30	9.698	F		<SD2009
2113	11W7・8	Ⅳ	49	(37)	34	9.736	A		
2114	10W23	Ⅳ	38	22	7	9.640	A		
2115	10W22	Ⅳ	33	27	14	9.799	C		
2116	10W18	Ⅳ	36	28	23	9.732	E		<SK2106
2117	11W16	Ⅳ	(25)	(24)	26	9.626	A		>P2118
2118	11W16	Ⅳ	(28)	21	13	9.638	A		<P2117
2119	11W16・17	Ⅳ	38	(30)	22	9.623	F		
2120	11W2・3・7・8	Ⅳ	41	36	26	9.700	E	柱根	
2121	11W8	Ⅳ	(33)	(20)	20	9.870	D		
2122	11W3	Ⅳ	30	28	20	9.785	B		>P2123
2123	11W3	Ⅳ	(72)	(34)	30	9.881	C	土師器片，黒色土器片，灰釉陶器皿	<P2122、>SK2102
2125	10W19	Ⅳ	33	28	32	9.620	A		
2126	10W23、10X3	Ⅳ	31	19	22	9.700	A		
2127	10X1	Ⅳ	36	30	22	9.738	A		
2128	9X5、10X1	Ⅳ	69	56	27	9.697	A	土師器片	<SD2054
2129	11W17	Ⅳ	34	29	13	9.743	D		
2131	11V22、11W2	Ⅳ	33	28	28	9.633	A	土師器片	<SD2009

蕪木遺跡Ⅱ　土器・陶磁器 観察表

（胎土：砂＝砂粒、雲＝金雲母、白＝白色粒子、黒＝黒色粒子、海＝海綿骨針、長＝長石）

報告番号	出土位置（グリッド）	遺構 / 層位		種類	器種 / 時期		法量（cm）			内面色調	外面色調	胎土	調整 / 文様	使用痕跡	備考
							口径	器高	底径						
1	10T7	SK2024	1 層	土師器	甕類	古代	20.3	(5.1)		浅黄橙 7.5YR8/4	にぶい橙 7.5YR7/4	雲・砂	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ		
2	10T7	SK2024	1 層	土師器	長胴甕	古代				浅黄橙 7.5YR8/6	にぶい橙 7.5YR7/3	砂	内面：カキメ 外面：カキメ	外面に煤	
3	10T7	SK2024	1 層	須恵器	横瓶	古代	11.4	(3.9)		青灰 10BG5/1	青灰 10BG6/1	白	内面：同心円アテ工具痕 外面：格子目タタキ・自然釉		小泊窯産
4	11W4	SK2101	3 層	土師器	椀	古代				橙 5YR6/8	橙 5YR7/8	砂	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ		
5	11W4	SK2101	3 層	須恵器	杯	古代	12.6	(1.5)		緑灰 10BG6/1	緑灰 10BG5/1	海・白	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ		小泊窯産
6	11W4	SK2102	3 層	土師器	椀	古代	13.2	(2.4)		にぶい橙 7.5YR7/4	浅黄橙 7.5YR8/4	砂	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ		
7	11W3	SK2102	1 層	黒色土器	椀	古代	12.1	(3.6)		黒褐 10YR3/1	明褐灰 7.5YR7/1	砂	内面：ロクロナデ、ミガキ、黒色処理 外面：ロクロナデ、口縁部ミガキ		
8	10W10	SD2001	1 層	青磁	椀	中世	17.7	(3.1)		オリーブ灰 5GY6/1	オリーブ灰 5GY6/1		外面：鎬蓮弁文		龍泉窯系 椀Ⅲ類
9	10V4	SD2001	1 層	青磁	椀	中世				明緑灰 7.5GY7/1	明緑灰 7.5GY7/1		外面：鎬蓮弁文		龍泉窯系
10	10T2	SD2030	1 層	土師器	長胴甕	古代				灰白 7.5YR8/2	にぶい橙 7.5YR7/4	雲・砂	外面：平行タタキ		
11	10T13	SD2030	1 層	須恵器	瓶類	古代		(10.1)		灰 N6/	褐灰 10YR6/1	白・黒	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ、自然釉		小泊窯産
12	10T7	SD2030	1 層	須恵器	甕類	古代				灰 N5/	暗オリーブ灰 5GY4/1	長・砂	外面：カキメ、自然釉		
13	10U3	SD2034	1 層	土師器	鍋	古代				淡黄 2.5Y8/3	淡黄 2.5Y8/3	雲・砂	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ		
14	5R23	SD2070	1 層	土師器	無台椀	古代		(1.5)	5.0	灰白 7.5YR8/2	浅黄橙色 7.5YR8/4	砂	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ		
15	5R13	SD2071	1 層	須恵器	甕	古代				青灰 5BG5/1	暗青灰 10BG4/1	白・砂	内面：平行アテ工具痕 外面：格子目タタキ		
16	9X5	道 1 東	14 層	須恵器	無台杯	古代		(1.9)	6.4	オリーブ灰 5GY6/1	オリーブ灰 5GY6/1	海・白	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ 底部：回転ヘラ切り		
17	11V21	P2008	1 層	須恵器	甕類	古代				青灰 5BG6/1	褐灰 10YR6/1	白・砂	内面：同心円アテ工具痕 外面：平行タタキ、カキメ		
18	10T23	P2033	1 層	土師器	鍋甕類	古代				にぶい褐 7.5YR6/3	浅黄橙 7.5YR8/6	砂	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ		
19	10U8	P2044	1 層	須恵器	無台杯	古代				灰黄褐 10YR6/2	褐灰 10YR6/1	海・白	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ		小泊窯産
20	10U3	P2046	3 層	須恵器	杯	古代				灰 10Y6/1	灰 10Y6/1	海・白	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ		小泊窯産
21	5S9	P2086	3 層	土師器	無台椀	古代				浅黄橙 7.5YR8/4	橙 7.5YR7/6	長	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ		
22	5R18	P2089	1 層	土師器	無台椀	古代				橙 5YR6/8	橙 5YR7/8	長・砂	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ		
23	11W3	P2123	1 層	灰釉陶器	皿	古代	14.8	(2.1)		浅黄 7.5Y7/3	浅黄 7.5Y7/3		内面：ロクロナデ、施釉（上半） 外面：ロクロナデ、施釉（上半）		K90 窯式
24	11V19	SX2124	2 層	土師器	椀	古代				橙 2.5YR6/8	橙 2.5YR6/8	長・砂	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ		
25	11V24	SX2124	2 層	土師器	長胴甕	古代	24.8	(6.8)		浅黄橙 7.5YR8/3	にぶい橙 7.5YR6/4	雲･長･砂	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ、カキメ		
26	11V23	SX2124	1・3 層	須恵器	無台杯	古代	13.4	(3.1)		青灰 5BG6/1	青灰 5BG6/1	白・砂	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ		
27	11V19	SX2124	2 層	須恵器	無台杯	古代	11.8	2.9	8.4	灰白 7.5Y7/1	青灰 5BG6/1	白	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ 底部：回転ヘラ切り	内外面に使用による摩耗痕	小泊窯産 内面墨痕あり
28	11V23	SX2124	1 ～ 3 層	須恵器	無台杯	古代	12.8	2.9	8.8	青灰 5BG6/1	青灰 5BG6/1	海・白	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ 底部：回転ヘラ切り		
29	11V19・23	SX2124	1 ～ 8 層	須恵器	無台杯	古代	12.2	3.1	7.6	灰白 7.5Y7/1	灰 7.5Y6/1	白	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ 底部：回転ヘラ切り		小泊窯産 内面指頭圧痕
30	11V23	SX2124	3 層	須恵器	無台杯	古代	14.6	2.7	9.2	青灰 5B6/1	青灰 5B6/1	長・砂	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ 底部：回転ヘラ切り		内面墨痕あり
31	11V23	SX2124	1 層	須恵器	無台杯	古代	11.4	2.9	7.0	青灰 5BG6/1	灰 7.5Y6/1	海・白	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ		小泊窯産
32	11V23	SX2124	1・3 ～ 8 層	須恵器	杯	古代	13.2	(3.2)		灰白 7.5Y7/1	灰 7.5Y6/1	長・砂	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ		
33	11V23	SX2124	1 層	須恵器	杯	古代	13.2	(3.2)		灰白 7.5Y7/1	緑灰 7.5GY6/1	白	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ		
34	11V23・24	SX2124	1 ～ 3 層	須恵器	無台杯	古代		(1.7)	7.8	灰 10Y6/1	灰白 7.5Y7/1	白	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ 底部：回転ヘラ切り		内面に使用による摩耗痕
35	11V23	SX2124	2 層	須恵器	甕類	古代				灰 5Y6/1	暗オリーブ灰 2.5GY3/1	白	内面：同心円アテ工具痕 外面：平行タタキ、カキメ、自然釉		
36	11V23	SX2124	1 層	須恵器	甕類	古代				青灰 5BG6/1	褐灰 10YR6/1	砂	内面：同心円アテ工具痕 外面：平行タタキ、カキメ		
37	7X22	カクラン		土師器	無台椀	古代		(2.2)	5.0	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい橙 7.5YR6/4	砂	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ 底部：回転糸切り		
38	10T18		Ⅳ	土師器	小甕	古代				黒褐 7.5YR3/1	にぶい褐 7.5YR5/3	砂	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ	内面・断面に黒色付着物	
39	7X22	カクラン		土師器	長胴甕	古代	24.6	(3.2)		浅黄橙 7.5YR8/4	にぶい橙 7.5YR7/3	雲・砂	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ		
40	10U8		Ⅱ	土師器	鍋	古代				明褐灰 5YR7/2	にぶい橙 5YR7/4	雲・砂	内面：カキメ、素文アテ工具痕 外面：格子目タタキ	外面に煤・炭化物付着	
41	5R18		Ⅰ	黒色土器	椀	古代				黒褐 10YR3/1	にぶい褐 7.5YR5/3	砂	内面：ロクロナデ、黒色処理 外面：ロクロナデ		
42	11V23		Ⅰ	須恵器	甕類	古代				オリーブ灰 10Y5/2	灰白 7.5Y7/1	砂	内面：同心円アテ工具痕 外面：平行タタキ、カキメ		
43	10T・U		Ⅰ	須恵器	甕類	古代				灰 N6/	灰白 N7/	白	内面：同心円アテ工具痕 外面：格子目タタキ		
44	11X8		Ⅰ	須恵器	甕類	古代				緑灰 7.5GY6/1	灰 N6/	白	内面：同心円アテ工具痕 外面：平行タタキ、カキメ		
45	10U8		Ⅱ	須恵器	甕類	古代				灰褐 7.5YR5/2	褐灰 7.5YR5/1	長・白	内面：平行アテ工具痕 外面：格子目タタキ		

蕪木遺跡Ⅱ　土製品（土器転用研磨具）観察表

報告番号	出土地			転用前器種	法量（cm）			重さ（g）	備考
	グリッド	遺構	層位		長さ	幅	厚さ		
46	10X6	道１東	14 層	須恵器甕	8.3	3.8	1.3	54.1	転用砥石

蕪木遺跡Ⅱ　金属製品・鍛冶関連遺物 観察表

報告番号	器種	出土地			法量（cm）			重さ（g）	備考
		グリッド	遺構	層位	長さ	幅	厚さ		
47	釘	10T ～ V		I	6.3	0.65	0.45	10.3	
48	炉壁	11V23	SX2124	１層	5.7	3.3	2.2	23.6	

蕪木遺跡Ⅱ　木製品 観察表

報告番号	出土地			種別	木取り	法量（cm）			樹種	樹皮	加工・特徴等
	グリッド	遺構	層位			現存長	幅	厚さ			
49	10U18	P2035	５層	柱根	板目	16.5	14.5	8.9	スギ		
50	10U18	P2035	５層	板	板目	14.3	13.3	1.5	スギ		
51	11W8	P2120	２層	柱根	板目	21.0	6.0	3.7	マツ属		内面に穴

山口野中遺跡Ⅴ　溝 観察表

遺構番号	グリッド	検出層位	形態			規模（cm）					底面標高（m）	埋土堆積状況	主軸方向	出土遺物	切り合い
			平面	断面	立ち上がり	上端長径	上端短径	下端長径	下端短径	深度					
2102	23AA	Ⅳ a'	-	半円状	急斜度	(444)	118	(386)	51	34	6.551 ～ 6.439	A	N-82° -W		
2103	23AA、24AA	Ⅳ a	-	台形状	急斜度	(519)	108	(456)	68	45	6.544 ～ 6.489	A	N-76° -W		
2105	25AA	Ⅳ a	-	漏斗状	緩やか～急斜度	(206)	206	(131)	47	71	6.327	A	N-69° -W	珠洲焼	
2106	25AA、26AA	Ⅳ a	-	半円状～台形状	緩やか	(187)	93	(127)	19	33	6.669	D	N-69° -W		＞ SD2109
2107	25AA、25BB	Ⅳ a	-	半円状	急斜度	(205)	185	(139)	54	45	6.506	A	N-74° -W		
2109	25AA、26AA	Ⅳ a	-	階段状	急斜度	(219)	162	(126)	60	72	6.301	A	N-69° -W	土師器	＜ SD2106

山口野中遺跡Ⅴ　ピット観察表

遺構番号	グリッド	検出層位	規模（cm）			底面標高（m）	埋土堆積状況	出土遺物	切り合い
			上端長径	上端短径	深度				
2108	26Z23	Ⅳ a	29	25	21	6.683	D		

山口野中遺跡Ⅴ　中世　陶磁器観察表

（胎土：海＝海綿骨針、白＝白色粒子）

報告番号	出土位置（グリッド）	遺構 / 層位		種類	器種 / 時期		法量（cm）			内面色調	外面色調	胎土	調整 / 文様	使用痕跡	備考
							口径	器高	底径						
1	25AA19	SD2105	4	珠洲焼	片口鉢	中世		(4.4)	9.9	黄灰 (2.5Y6/1)	黄灰 (2.5Y6/1)	海・白	内面：卸し目７目 底部：静止糸		Ⅲ～Ⅳ期

山口野中遺跡Ⅴ　縄文時代　土器観察表

（胎土：長＝長石、雲＝金雲母）

報告番号	出土位置（グリッド）	遺構 / 層位		種類	器種 / 時期		法量（cm）			内面色調	外面色調	胎土	調整 / 文様	使用痕跡	備考
							口径	器高	底径						
2	26Z23		Ⅳ a	鉢						にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	長・雲	内面：ナデ 底部：浮線文		

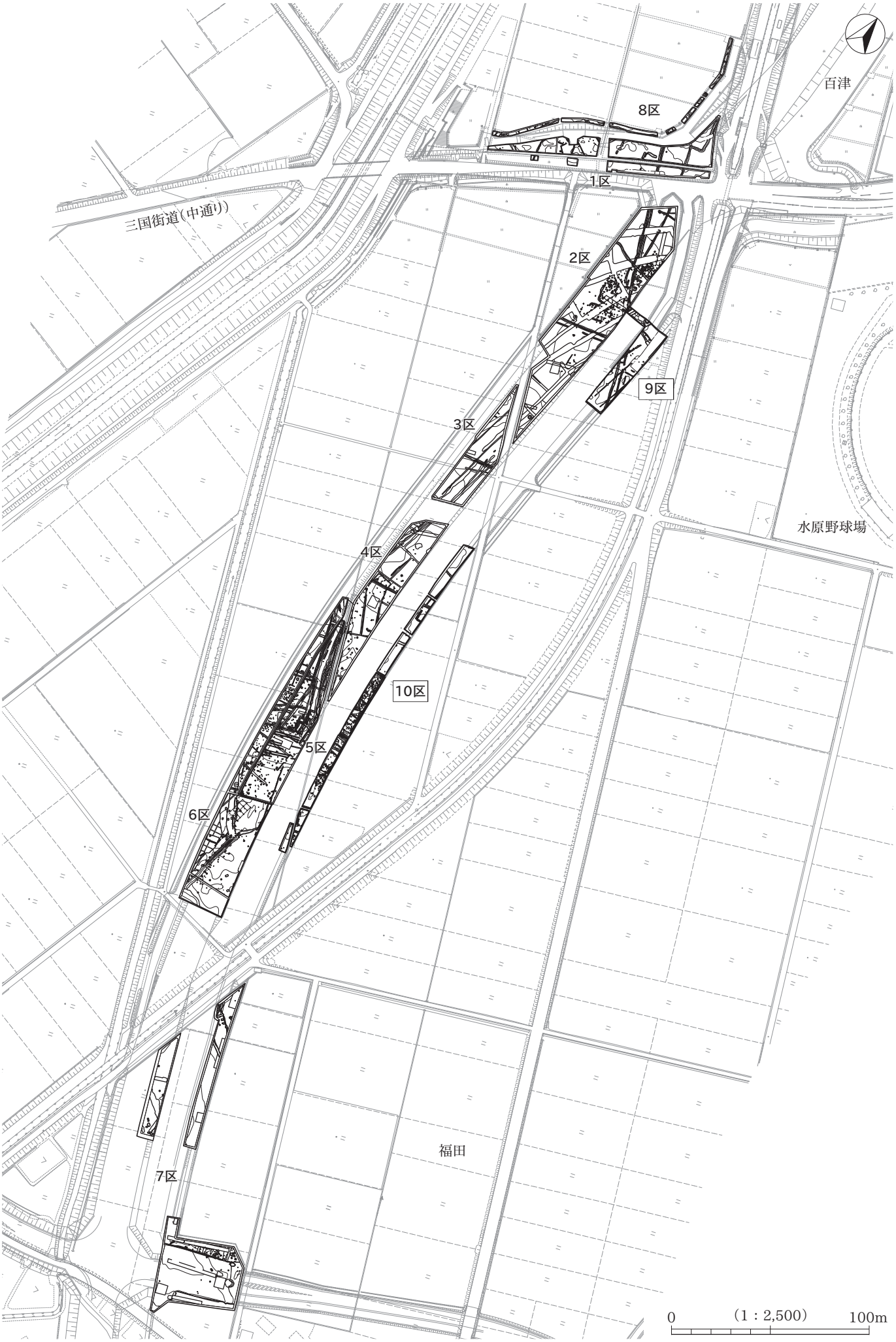
図　　版

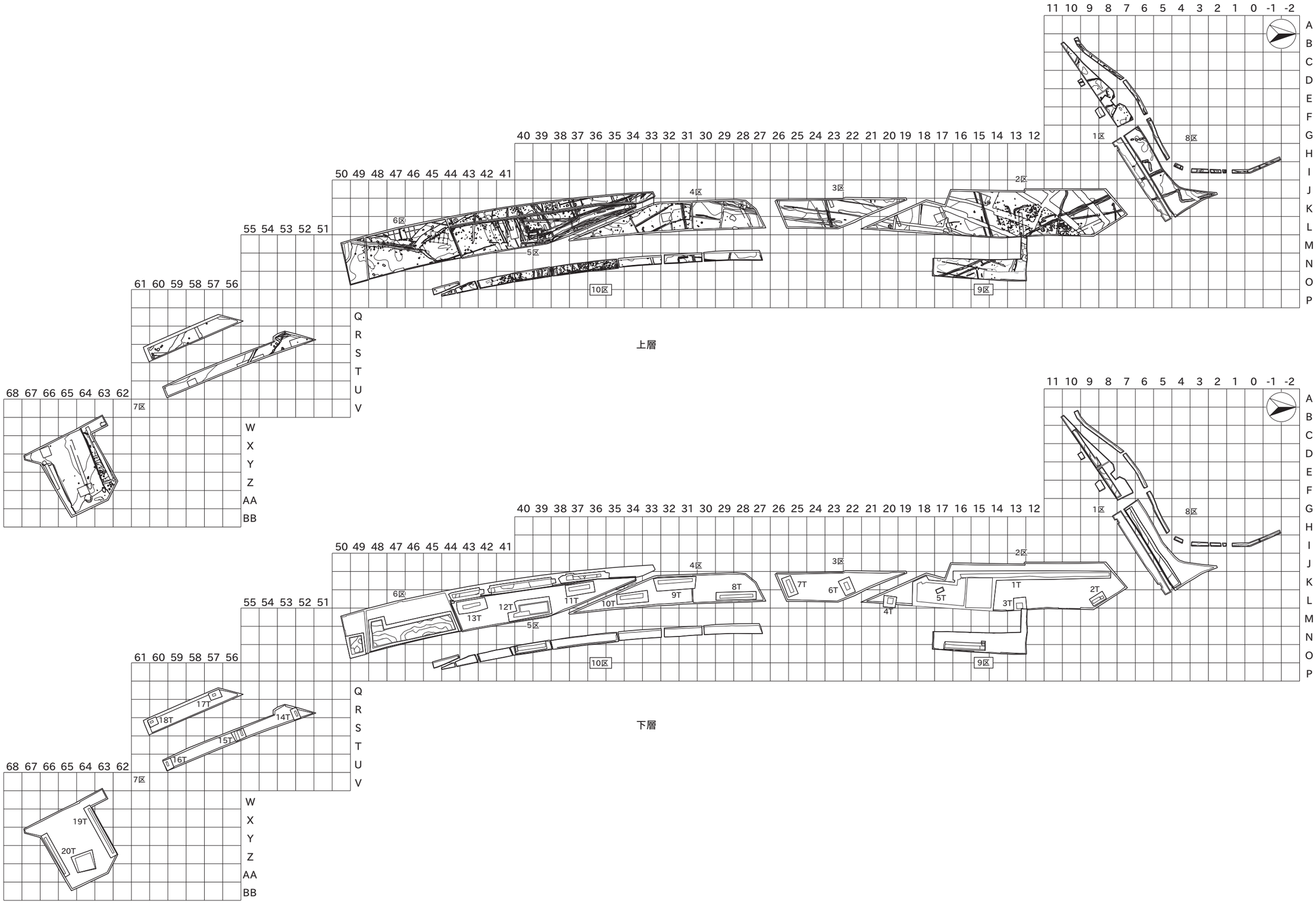
凡　例

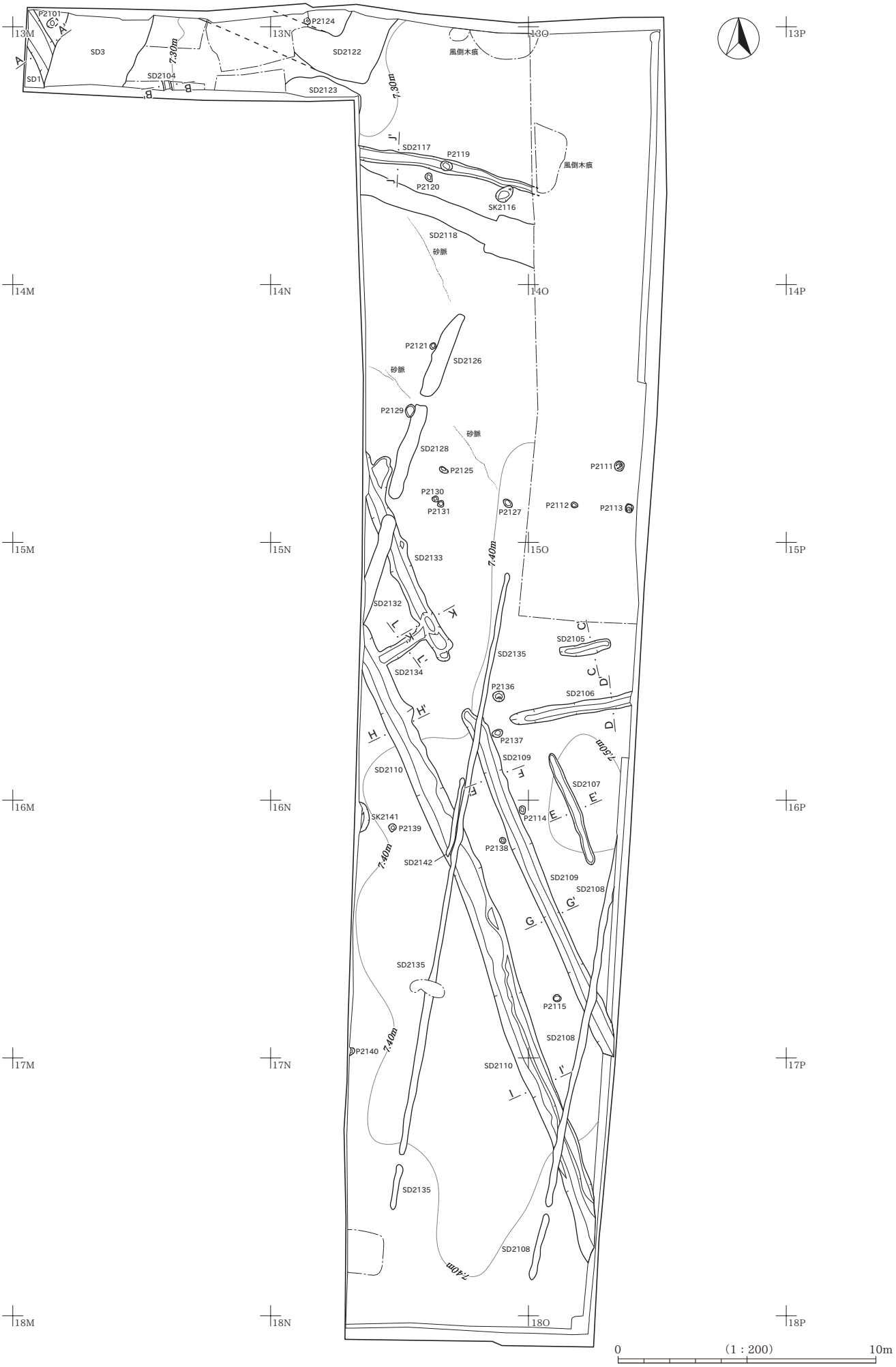
炭化物

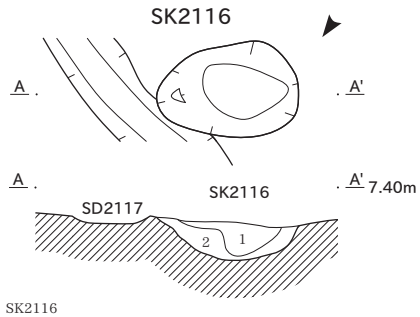
噴　砂

使用痕

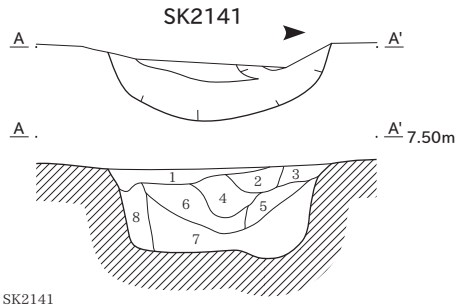

百津
8区
1区
三国街道(中通り)
2区
9区
3区
水原野球場
4区
10区
5区
6区
福田
7区
0
(1：2,500)
100m


上層
下層
1区
2区
3区
4区
5区
6区
7区
8区
9区
10区
1T
2T
3T
4T
5T
6T
7T
8T
9T
10T
11T
12T
13T
14T
15T
16T
17T
18T
19T
20T
11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0 -1 -2
A B C D E F G H I J K L M N O P
40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12
50 49 48 47 46 45 44 43 42 41
55 54 53 52 51
61 60 59 58 57 56
68 67 66 65 64 63 62
Q R S T U V
W X Y Z AA BB
0
(1：2000)
100m

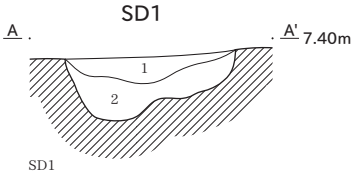

13M
13N
13O
13P
14M
14N
14O
14P
15M
15N
15O
15P
16M
16N
16P
17M
17N
17P
18M
18N
18O
P2101
SD3
SD1
SD2104
SD2123
SD2122
P2124
風倒木痕
7.30m
SD2117
P2119
P2120
SK2116
SD2118
砂脈
P2121
SD2126
P2129
SD2128
P2125
P2130
P2131
P2127
P2112
P2113
P2111
SD2133
7.40m
SD2132
SD2134
SD2135
SD2105
SD2106
P2136
P2137
SD2109
SD2110
SD2107
P2114
SK2141
P2139
P2138
SD2142
SD2108
P2115
P2140
7.60m
0
(1 : 200)
10m



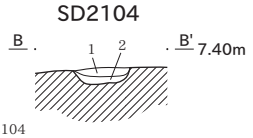
SK2116
1　2.5Y4/2暗灰黄色シルト　しまり強・粘性やや弱。
　灰黄色シルト大ブロック少量含む。
2　2.5Y4/2暗灰黄色シルト　しまり強・粘性やや弱。
　灰黄色シルト大ブロック中量・にぶい黄色シルト中ブロック少量含む。



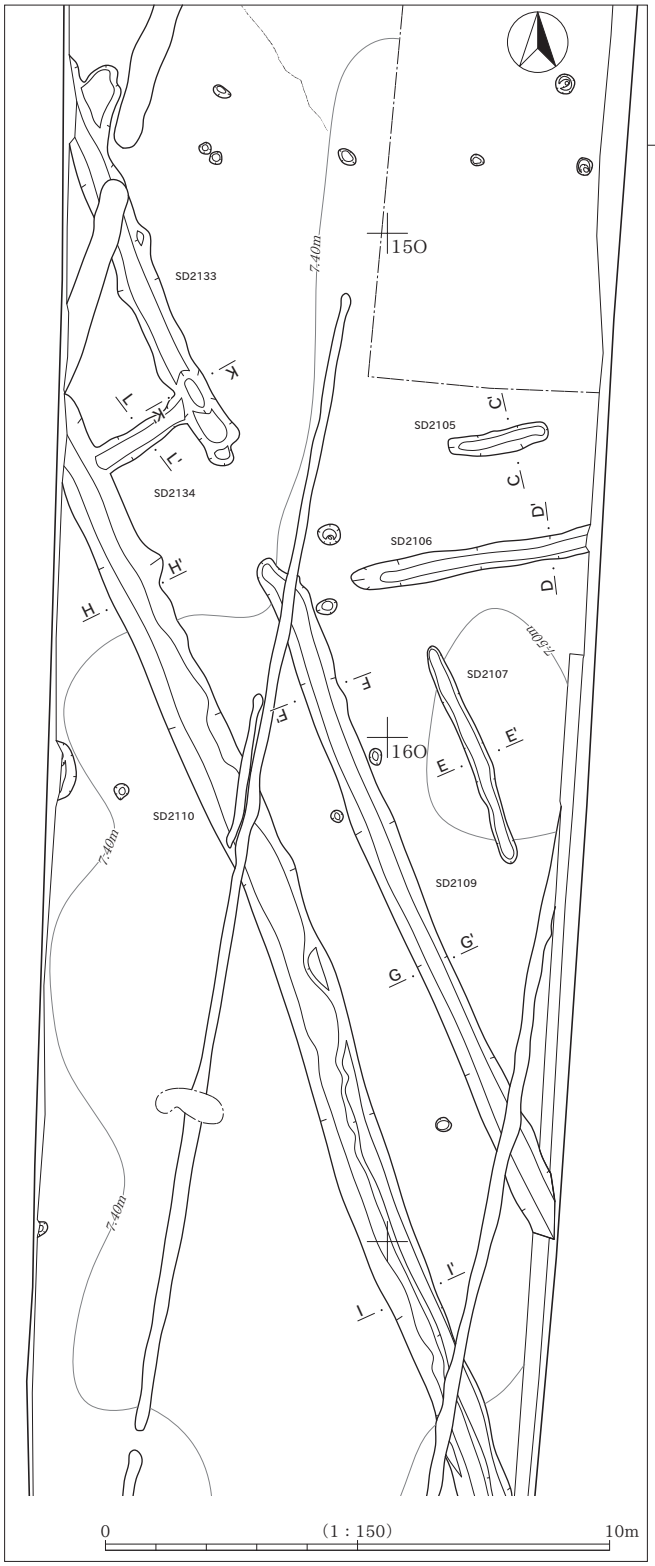
SK2141
1　2.5Y4/2暗灰黄色シルト　しまり強・粘性弱。
2　10YR5/2灰黄褐色シルト　しまり強・粘性やや弱。暗灰黄色シルト大ブロック中量含む。
3　2.5Y5/2暗灰黄色シルト　しまり強・粘性やや弱。にぶい黄色シルト小～中ブロック少量含む。
4　2.5Y4/1黄灰色シルト　しまり強・粘性やや強。暗灰黄色シルト中ブロック微量含む。
5　10YR4/2灰黄褐色シルト　しまり強・粘性やや強。暗灰黄色シルト中ブロック微量含む。
6　2.5Y4/2暗灰黄色シルト　しまり強・粘性やや強。暗灰黄色シルト大～極大ブロック多量含む。
7　10YR4/2灰黄褐色シルト　しまりやや強・粘性強。黄灰色シルト中～極大ブロック多量含む。
8　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　しまりやや強・粘性強。暗灰黄色シルト中ブロック中量含む。

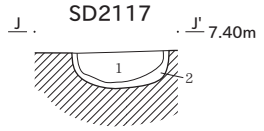


SD1
1　10YR6/2灰黄褐色シルト　しまり強・粘性やや強。
　暗灰黄色シルト大ブロック少量・炭化物微量含む。
2　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　しまり強・粘性やや強。
　灰黄褐色シルト中ブロック多量・炭化物微量含む。

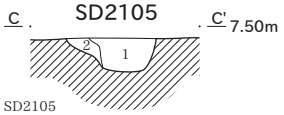


SD2104
1　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　しまりやや強・粘性やや弱。
　灰黄褐色シルト中ブロック少量・大ブロック微量含む。
2　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　しまりやや強・粘性やや弱。
　灰黄褐色シルト大ブロック多量含む。

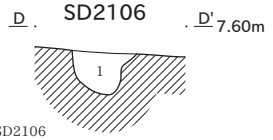




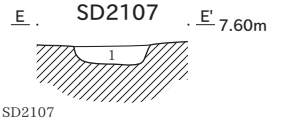
SD2117
1　2.5Y5/3黄褐色シルト　しまり強・粘性やや強。
　にぶい黄色シルト小～中ブロック少量含む。
2　2.5Y5/2暗灰黄色シルト　しまり強・粘性やや強。
　黄褐色シルト中～大ブロック多量含む。



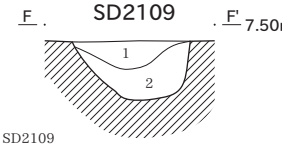
SD2105
1　7.5YR3/3～4/4暗褐色シルト　しまり中・粘性強。
　暗灰黄色シルトブロック微量含む。
2　2.5Y5/2暗灰黄色シルト　しまり中・粘性弱～中。
　鉄分ブロック微量含む。



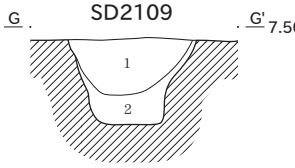
SD2106
1　10YR3/3暗褐色シルト　しまり中・粘性中～強。
　暗灰黄色シルトブロック微量含む。



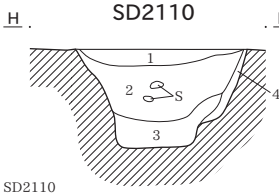
SD2107
1　10YR3/3暗褐色シルト　しまり中・粘性中～強。
　暗灰黄色シルトブロック微量含む。



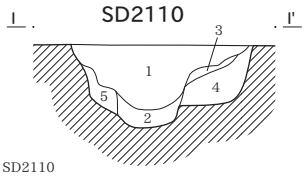
SD2109
1　10YR3/2黒褐色シルト　しまりやや強・粘性やや弱。
　黄灰色シルト中ブロック中量含む。
2　2.5Y5/3黄褐色シルト　しまり強・粘性やや強。
　灰黄褐色シルト中ブロック多量含む。



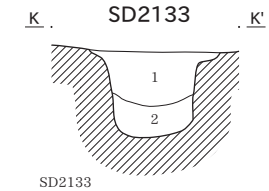
SD2109
1　2.5Y5/2暗灰黄色シルト　しまり強・粘性やや弱。
　褐灰色シルト大～極大ブロック少量含む。
2　2.5Y5/1黄灰色シルト　しまり・粘性やや強。
　暗灰黄色シルト中～極大ブロック中量・灰黄色シルト極大ブロック微量含む。マンガン沈着多量。



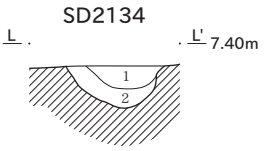
SD2110
1　2.5Y5/2暗灰黄色シルト　しまりやや強・粘性弱。
　灰黄色シルトラミナ状に混じる。
2　2.5Y5/3黄褐色シルト　しまり強・粘性やや弱。
　暗灰黄色シルト中～極大ブロック多量・炭化物微量含む。
3　2.5Y4/2暗灰黄色シルト　しまりやや弱・粘性強。
　黄灰色シルト大ブロック微量含む。
4　2.5Y5/3黄褐色シルト　しまり強・粘性弱。
　暗灰黄色シルト大ブロック中量含む。



SD2110
1　2.5Y5/2暗灰黄色シルト　しまり強・粘性やや強。
　褐灰色シルト大ブロック多量含む。
2　2.5Y5/2暗灰黄色シルト　しまり強・粘性やや強。
　褐灰色シルト大ブロック多量・黄灰色シルト中ブロック少量含む。
3　2.5Y5/2暗灰黄色シルト　しまり強・粘性やや強。
　黄灰色シルト中ブロック・炭化物微量含む。
4　2.5Y5/2暗灰黄色シルト　しまり強・粘性やや強。
　黄灰色シルト中ブロック・灰黄褐色シルト大ブロック微量含む。
5　2.5Y5/2暗灰黄色シルト　しまり強・粘性やや強。
　黄灰色シルト大ブロック多量含む。

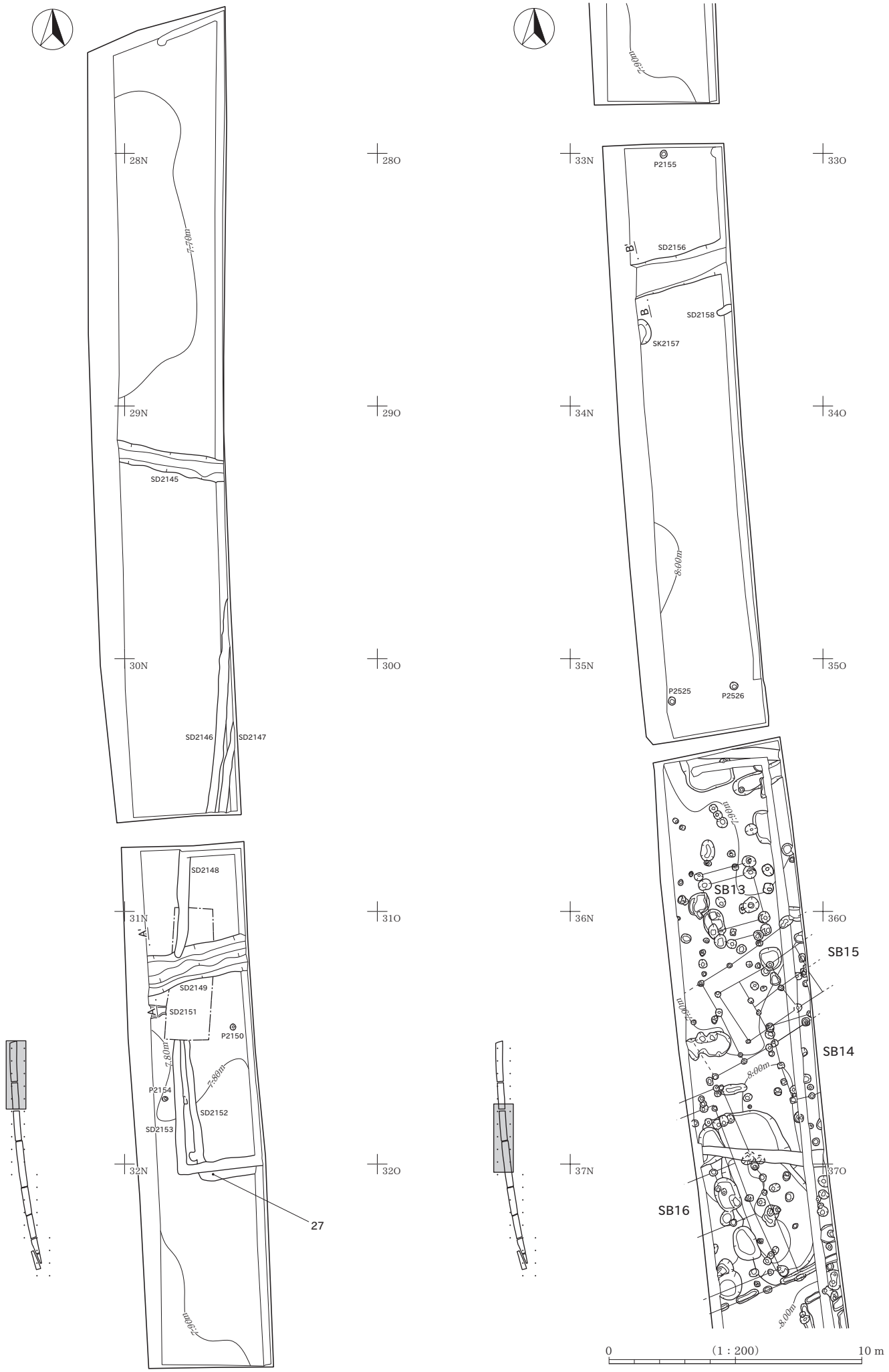


SD2133
1　2.5Y5/2暗灰黄色シルト　しまり強・粘性やや弱。
　暗灰黄色シルト中ブロック・炭化物微量含む。
2　2.5Y5/2暗灰黄色シルト　しまりやや弱・粘性強。
　灰黄色シルト中～大ブロック少量含む。

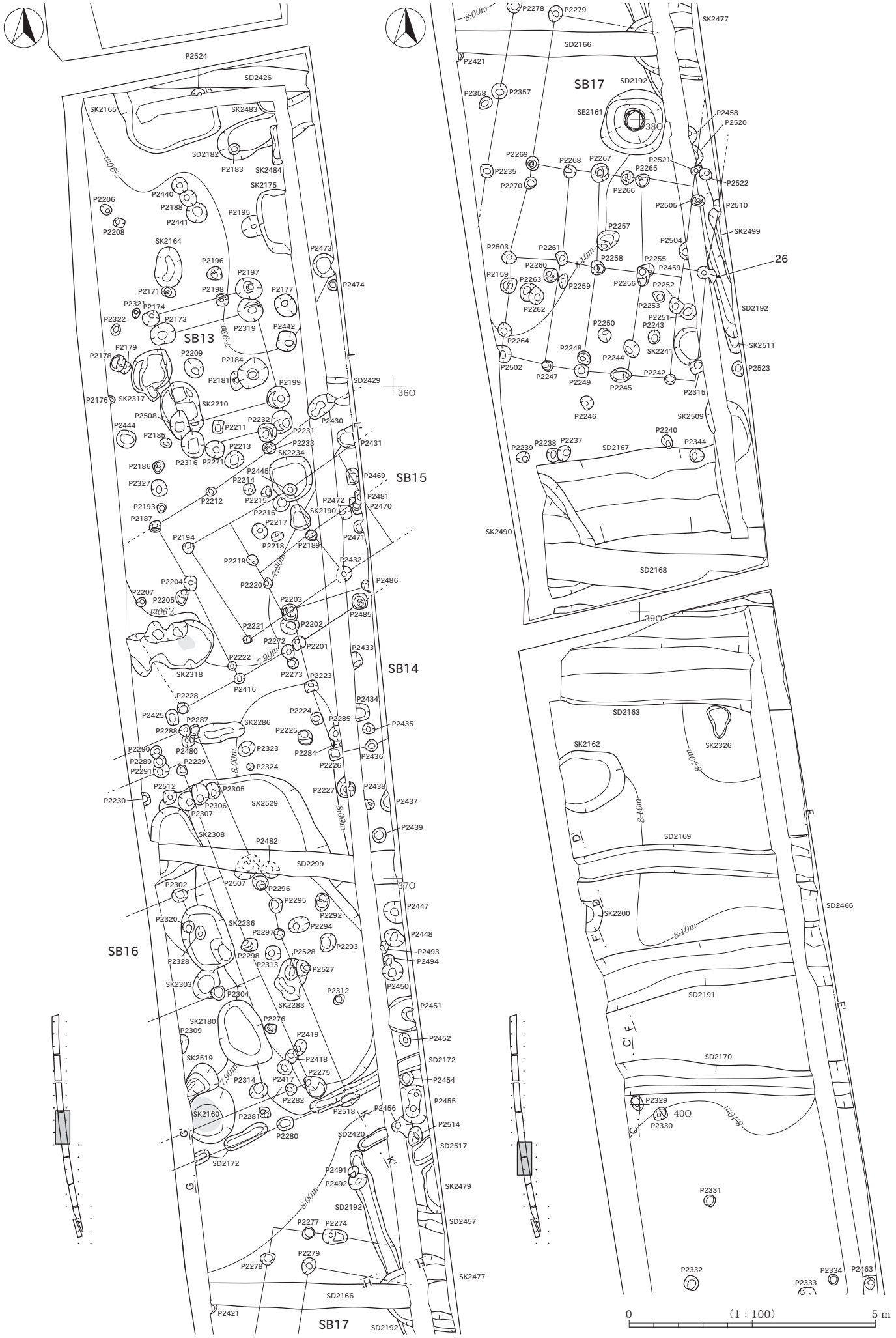


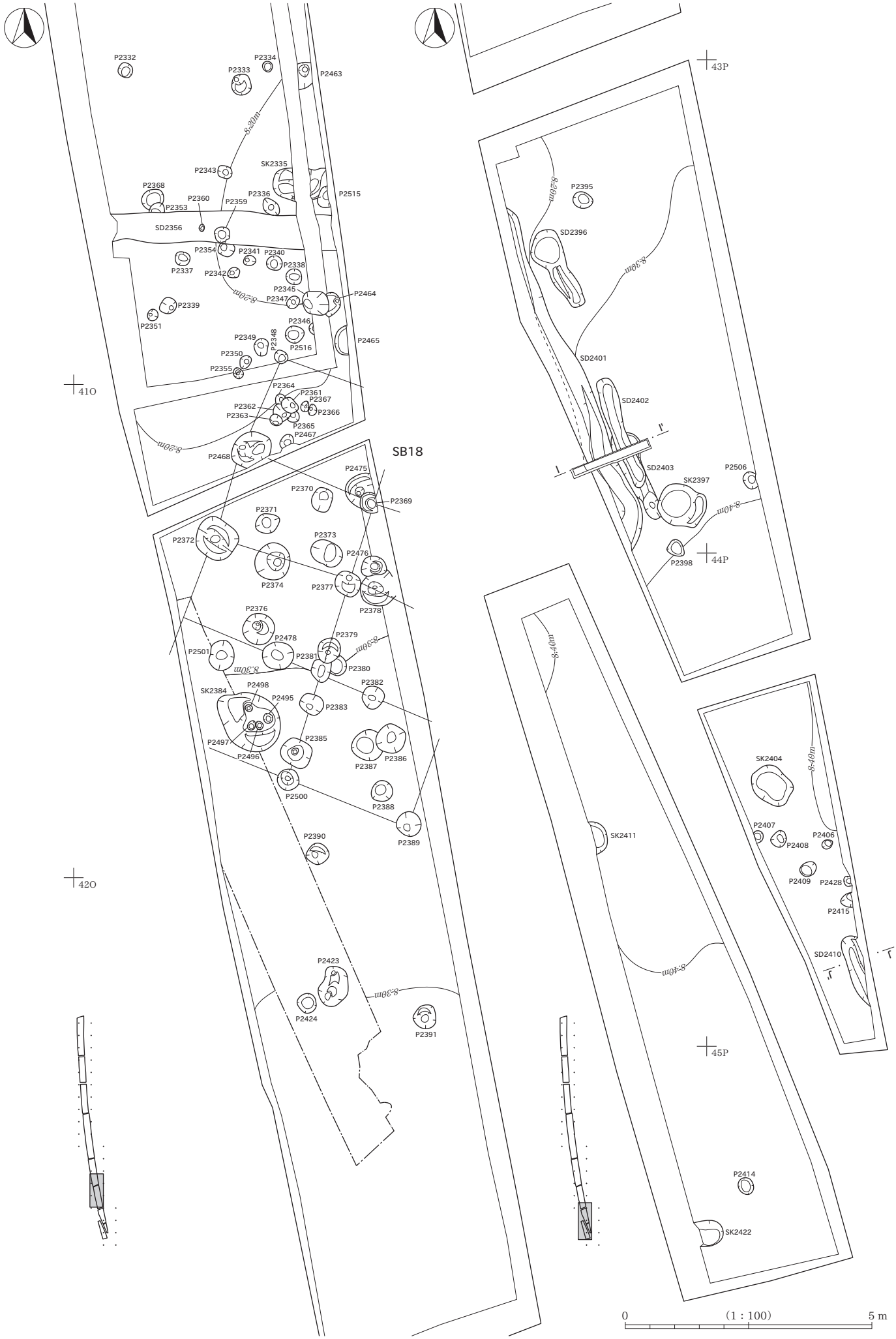
SD2134
1　2.5Y5/3黄褐色シルト　しまり強・粘性やや弱。
　暗灰黄色シルト中～大ブロック中量含む。
2　2.5Y5/3黄褐色シルト　しまり強・粘性弱。
　暗灰黄色シルト中ブロック中量含む。

0　(1：40)　2m

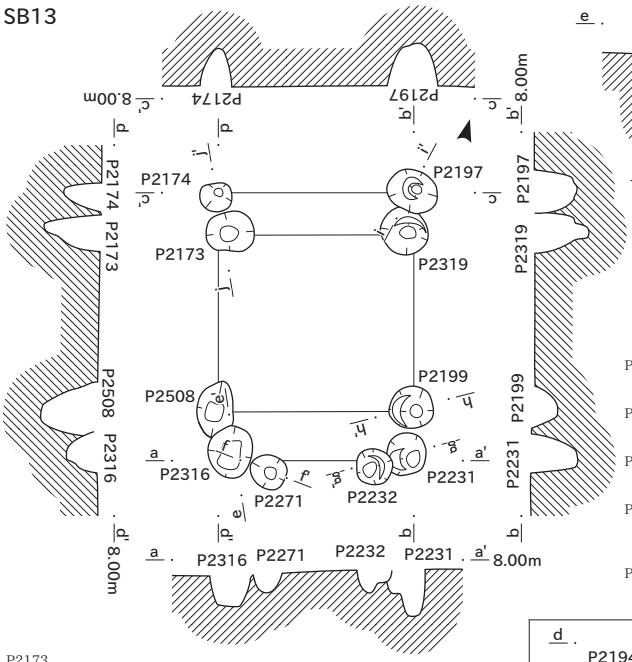

28N
28O
29N
29O
30N
30O
31N
31O
32N
32O
33N
33O
34N
34O
35N
35O
36N
36O
37N
37O
7.90m
SD2145
SD2146
SD2147
SD2148
SD2149
SD2150
SD2151
SD2152
SD2153
SD2154
7.80m
A
A'
27
P2155
SD2156
SD2158
SK2157
B
B'
8.00m
P2525
P2526
SB13
SB14
SB15
SB16
0
(1：200)
10 m

石船戸東遺跡Ⅲ　10区遺構分割図（2）




P2332
P2333
P2334
P2463
8.20m
P2343
SK2335
P2368
P2353
P2360
P2359
P2336
P2515
SD2356
P2354
P2341
P2340
P2337
P2342
P2338
P2345
P2347
P2464
P2339
P2351
P2346
P2349
P2348
P2516
P2465
P2350
P2355
P2364
P2361
P2367
P2362
P2363
P2366
P2365
P2467
P2468
41O
SB18
P2475
P2370
P2369
P2371
P2372
P2373
P2476
P2374
P2377
P2378
P2376
P2478
P2379
P2501
P2381
P2380
8.30m
P2382
SK2384
P2498
P2495
P2383
P2497
P2385
P2386
P2496
P2387
P2500
P2388
P2389
P2390
42O
P2423
P2424
P2391
43P
8.20m
P2395
SD2396
8.30m
SD2401
SD2402
SD2403
SK2397
P2506
8.40m
P2398
44P
8.40m
SK2411
SK2404
P2407
P2408
P2406
P2409
P2428
P2415
SD2410
45P
P2414
SK2422
0
(1：100)
5 m

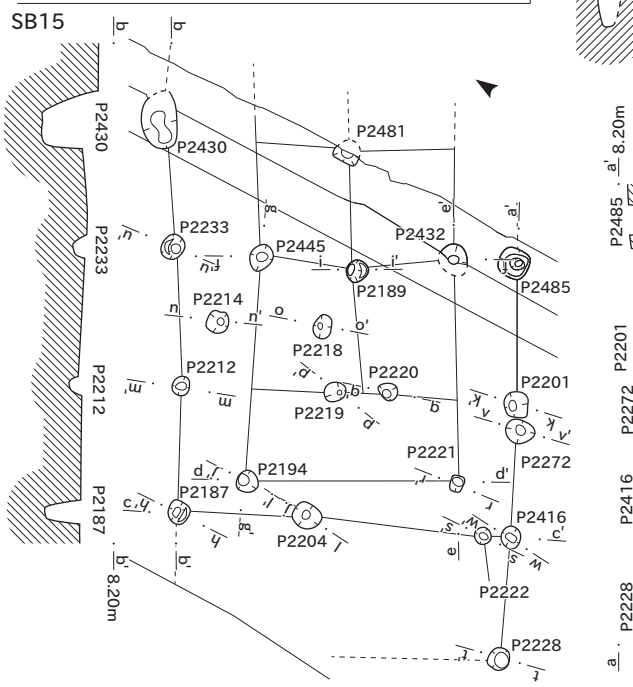
SB13

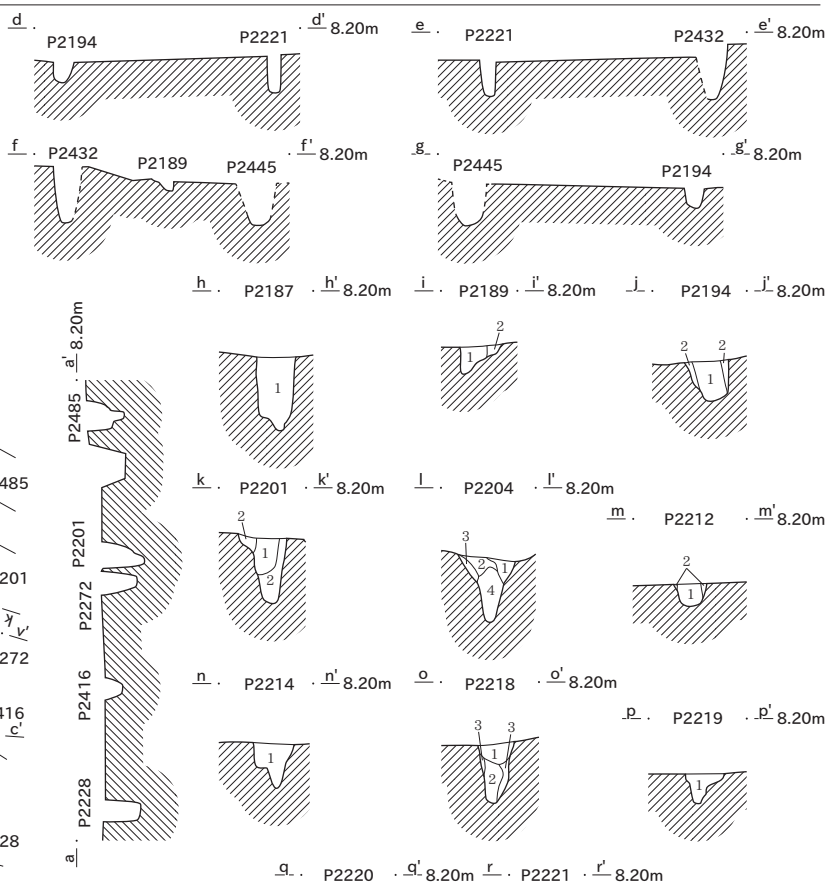


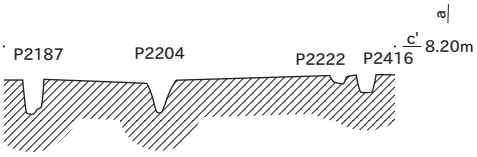
P2199
1　10YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック微量含む。
2　10YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック微量含む。
P2231
1　7.5YR3/4～3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック微量含む。
2　7.5YR3/4～3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック多量含む。
P2232
1　7.5YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック・炭化物微量含む。
2　7.5YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック少量含む。
P2271
1　7.5YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック・炭化物微量含む。
2　7.5YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック微量含む。
3　2.5Y6/2灰黄色シルト　しまり・粘性中。暗褐色シルトブロック微量含む。
P2316
1　7.5YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック・炭化物微量含む。赤色を帯びる。
2　7.5YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック少量含む。赤色を帯びる。

P2173
1　7.5YR3/4暗褐色シルト　しまり中～弱・粘性中。灰黄色シルトブロック微量含む。
2　7.5YR3/4暗褐色シルト　しまり中～弱・粘性中～強。
P2174
1　7.5YR3/3～3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック微量含む。
2　7.5YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック微量含む。
P2197
1　10YR3/3～3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック微量含む。
2　10YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック少量含む。
3　2.5Y6/2灰黄色シルト　しまり・粘性中。暗褐色シルトブロック微量含む。

SB15







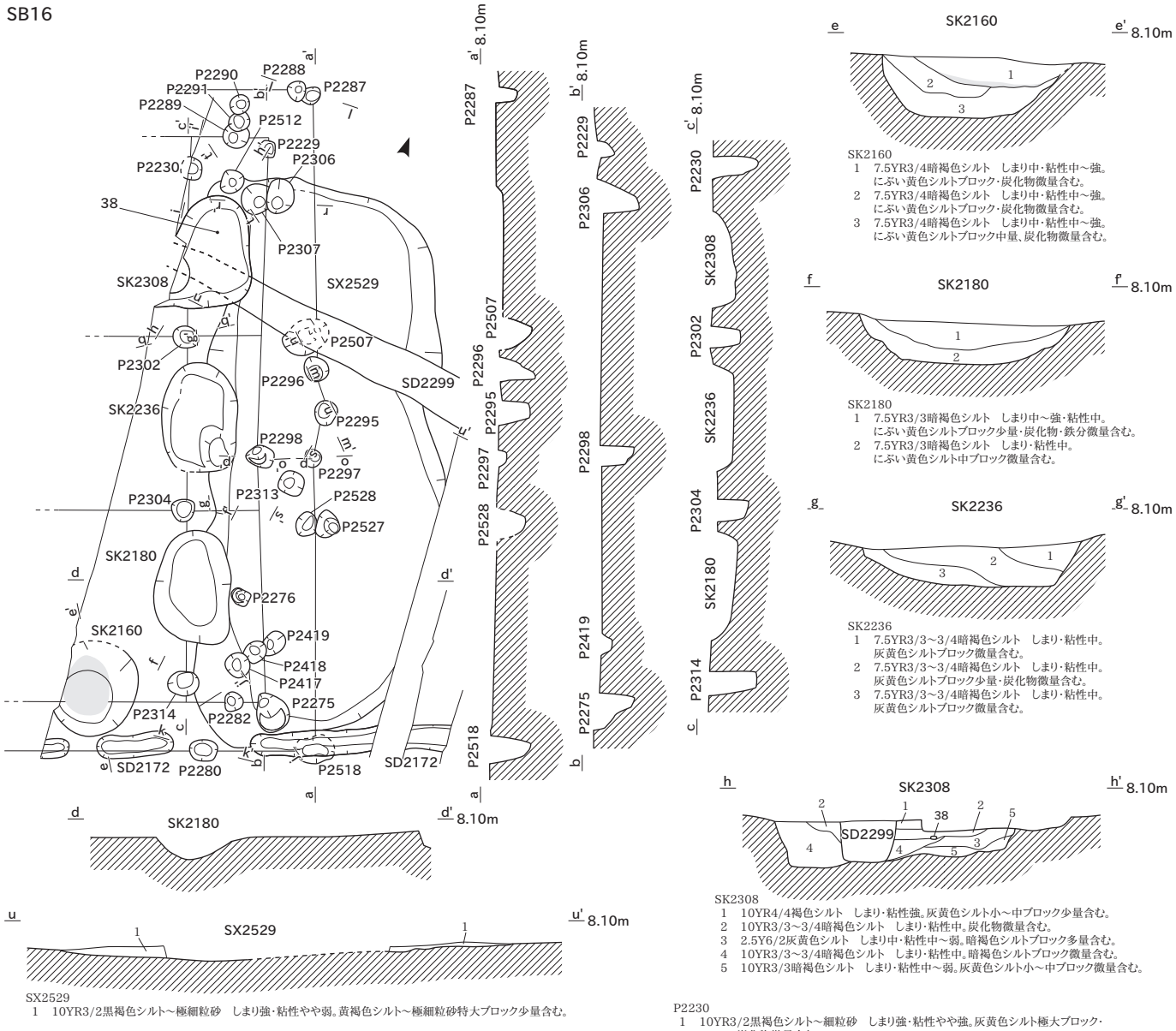
P2187
1　7.5YR3/4～3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック・炭化物微量含む。
P2189
1　10YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック・炭化物微量含む。
2　2.5Y6/2灰黄色シルト　しまり・粘性弱。暗褐色シルトブロック少量含む。
P2194
1　7.5YR3/3～3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック・炭化物微量含む。
2　7.5YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック微量含む。
P2201
1　7.5YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック少量含む。
2　7.5YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック微量含む。
P2204
1　7.5YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック少量含む。
2　7.5YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック微量含む。
3　7.5YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルト極大ブロック多量含む。
4　7.5YR3/3～3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック微量含む。
P2212
1　7.5YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック・炭化物微量含む。
2　2.5Y6/2灰黄色シルト　しまり・粘性弱。暗褐色シルトブロック中量含む。
P2214
1　7.5YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック微量含む。
P2218
1　7.5YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック・炭化物微量含む。
2　7.5YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック・炭化物微量含む。
3　2.5Y6/2灰黄色シルト　しまり・粘性中～弱。暗褐色シルトブロック中量含む。

P2219
1　7.5YR3/4～3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック・炭化物微量含む。
P2220
1　7.5YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック少量含む。
2　2.5Y6/2灰黄色シルト　しまり・粘性弱。暗褐色シルトブロック微量含む。
P2221
1　7.5YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック・炭化物微量含む。
P2222
1　7.5YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック微量含む。
2　7.5YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック中量含む
P2228
1　7.5YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック・炭化物微量含む。
P2233
1　7.5YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック多量・φ5㎜炭化物微量含む。
P2272
1　7.5YR3/4～3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。
2　7.5YR3/4～3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック微量含む。
3　7.5YR3/4～3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック少量含む。
4　7.5YR3/4～3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック多量含む。
P2416
1　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　しまり強・粘性やや強。にぶい黄色シルト中～大ブロック少量含む。

0　平面図・エレベーション図（1：80）　2m

0　断面図（1：40）　2m

SB16



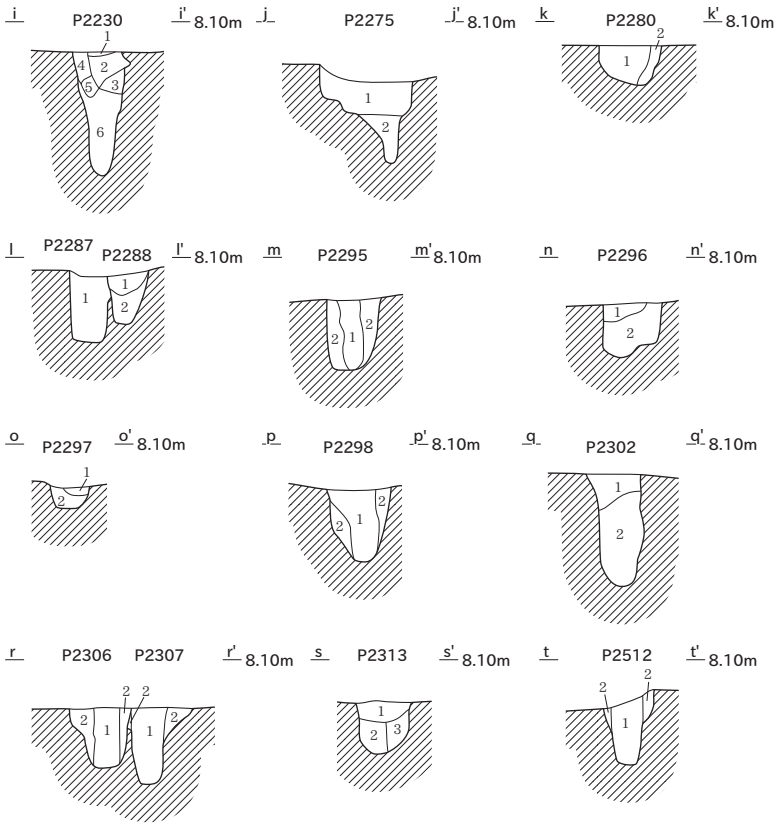
SK2160
1　7.5YR3/4暗褐色シルト　しまり中・粘性中～強。
　にぶい黄色シルトブロック・炭化物微量含む。
2　7.5YR3/4暗褐色シルト　しまり中・粘性中～強。
　にぶい黄色シルトブロック・炭化物微量含む。
3　7.5YR3/4暗褐色シルト　しまり中・粘性中～強。
　にぶい黄色シルトブロック中量、炭化物微量含む。

SK2180
1　7.5YR3/3暗褐色シルト　しまり中～強・粘性中。
　にぶい黄色シルトブロック少量・炭化物・鉄分微量含む。
2　7.5YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。
　にぶい黄色シルト中ブロック微量含む。

SK2236
1　7.5YR3/3～3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。
　灰黄色シルトブロック微量含む。
2　7.5YR3/3～3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。
　灰黄色シルトブロック少量・炭化物微量含む。
3　7.5YR3/3～3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。
　灰黄色シルトブロック微量含む。

SK2308
1　10YR4/4褐色シルト　しまり・粘性強。灰黄色シルト小～中ブロック少量含む。
2　10YR3/3～3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。炭化物微量含む。
3　2.5Y6/2灰黄色シルト　しまり中・粘性中～弱。暗褐色シルトブロック多量含む。
4　10YR3/3～3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。暗褐色シルトブロック微量含む。
5　10YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中～弱。灰黄色シルト小～中ブロック微量含む。

SX2529
1　10YR3/2黒褐色シルト～極細粒砂　しまり強・粘性やや弱。黄褐色シルト～極細粒砂特大ブロック少量含む。



P2230
1　10YR3/2黒褐色シルト～細粒砂　しまり強・粘性やや強。灰黄色シルト極大ブロック・φ12mm炭化物微量含む。
2　10YR2/2黒褐色シルト　しまり・粘性強。灰黄色シルト中～大ブロック・炭化物中ブロック微量含む。
3　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　しまり・粘性強。灰黄色シルト中～大ブロック少量含む。
4　10YR3/2黒褐色シルト　しまり・粘性強。黄褐色シルト小～中ブロック微量含む。
5　2.5Y4/3オリーブ褐色細粒砂　しまり弱・粘性無。
6　10YR3/2黒褐色シルト　しまり・粘性強。にぶい黄褐色シルト極大ブロック微量含む。

P2275
1　10YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック微量含む。
2　10YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック微量含む。

P2280
1　10YR3/3暗褐色シルト　しまり中・粘性中～弱。灰黄色シルトブロック微量含む。
2　2.5Y6/2灰黄色シルト　しまり中・粘性中～弱。暗褐色シルトブロック中量含む。

P2287
1　7.5YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック微量含む。

P2288
1　7.5YR3/3～3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック微量含む。
2　7.5YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック微量含む。

P2295
1　10YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック・上半に炭化物微量含む。
2　10YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック中量含む。

P2296
1　7.5YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中～弱。灰黄色シルトブロック微量含む。
2　7.5YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中～弱。灰黄色シルトブロック微量含む。

P2297
1　10YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック微量含む。
2　10YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック微量含む。

P2298
1　10YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック・炭化物微量含む。
2　10YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック少量含む。

P2302
1　10YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック中量・上半に炭化物微量含む。
2　10YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック少量含む。

P2306
1　10YR3/3暗褐色シルト～極細粒砂　しまり弱・粘性やや強。黄褐色シルト小ブロック微量含む。
2　10YR3/3暗褐色シルト～極細粒砂　しまり弱・粘性やや強。黄褐色シルト小ブロック微量含む。

P2307
1　10YR3/2黒褐色シルト　しまり・粘性強。黄褐色シルト大～極大ブロック少量含む。
2　10YR4/4褐色シルト～極細粒砂　しまり強・粘性やや強。黄褐色シルト大ブロック中量含む。

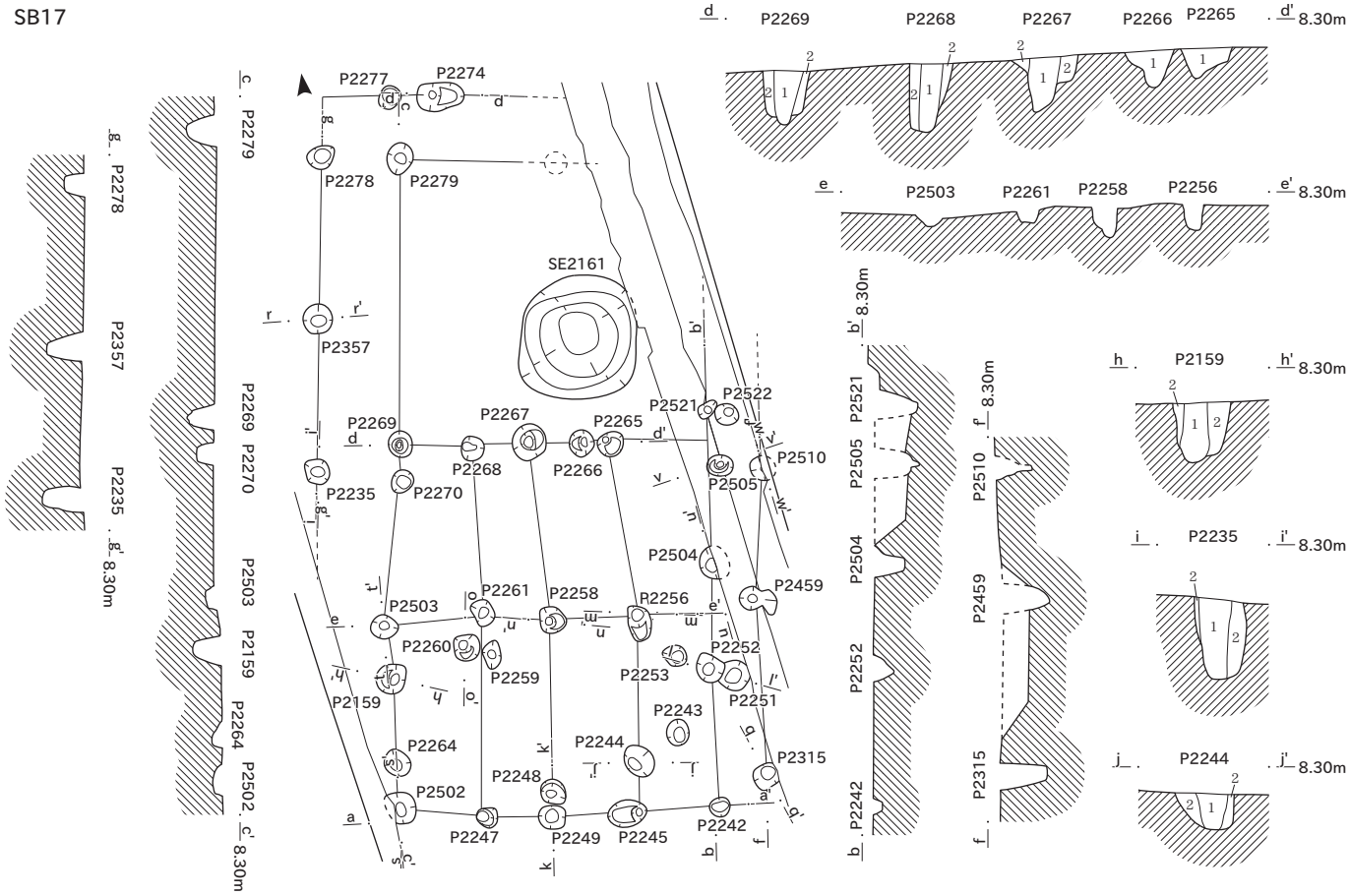
P2313
1　2.5Y6/2灰黄色シルト　しまり・粘性弱。
　暗褐色シルトブロック中量・φ10mm以下炭化物数粒含む。
2　2.5Y6/2灰黄色シルト　しまり・粘性中。暗褐色シルトブロック微量含む。
3　7.5YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック微量含む。

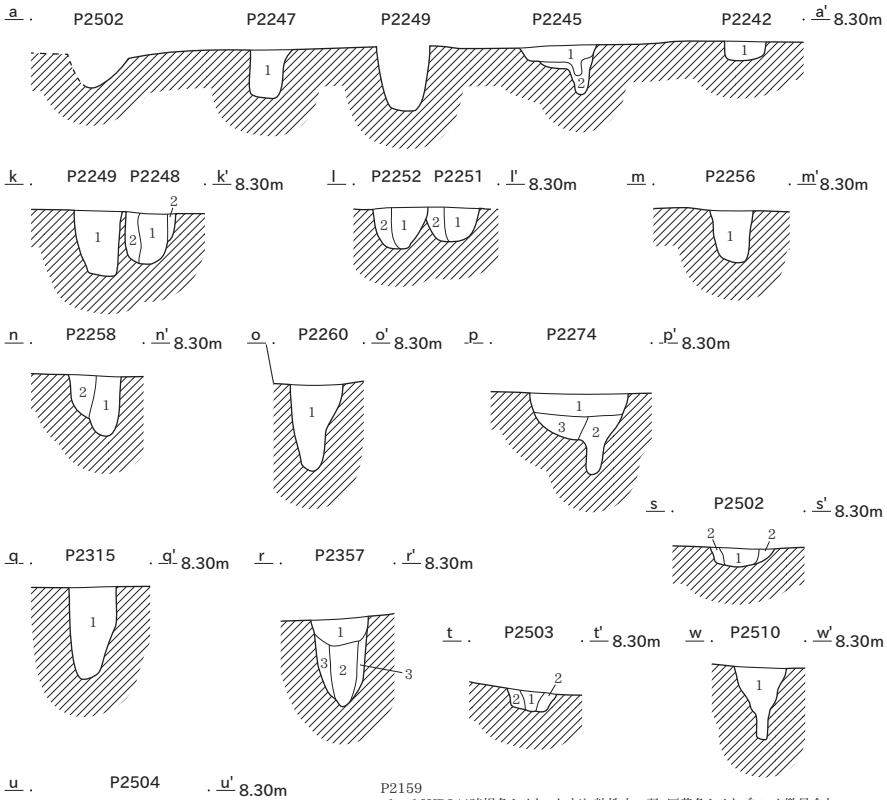
P2512
1　10YR4/2灰黄褐色シルト　しまり・粘性強。にぶい黄色シルト～極細粒砂小～大ブロック少量含む。
2　10YR4/2灰黄褐色シルト　しまり・粘性強。にぶい黄色シルト～極細粒砂特大ブロック多量含む。

0　平面図・エレベーション図（1：80）　4m

0　断面図（1：40）　2m

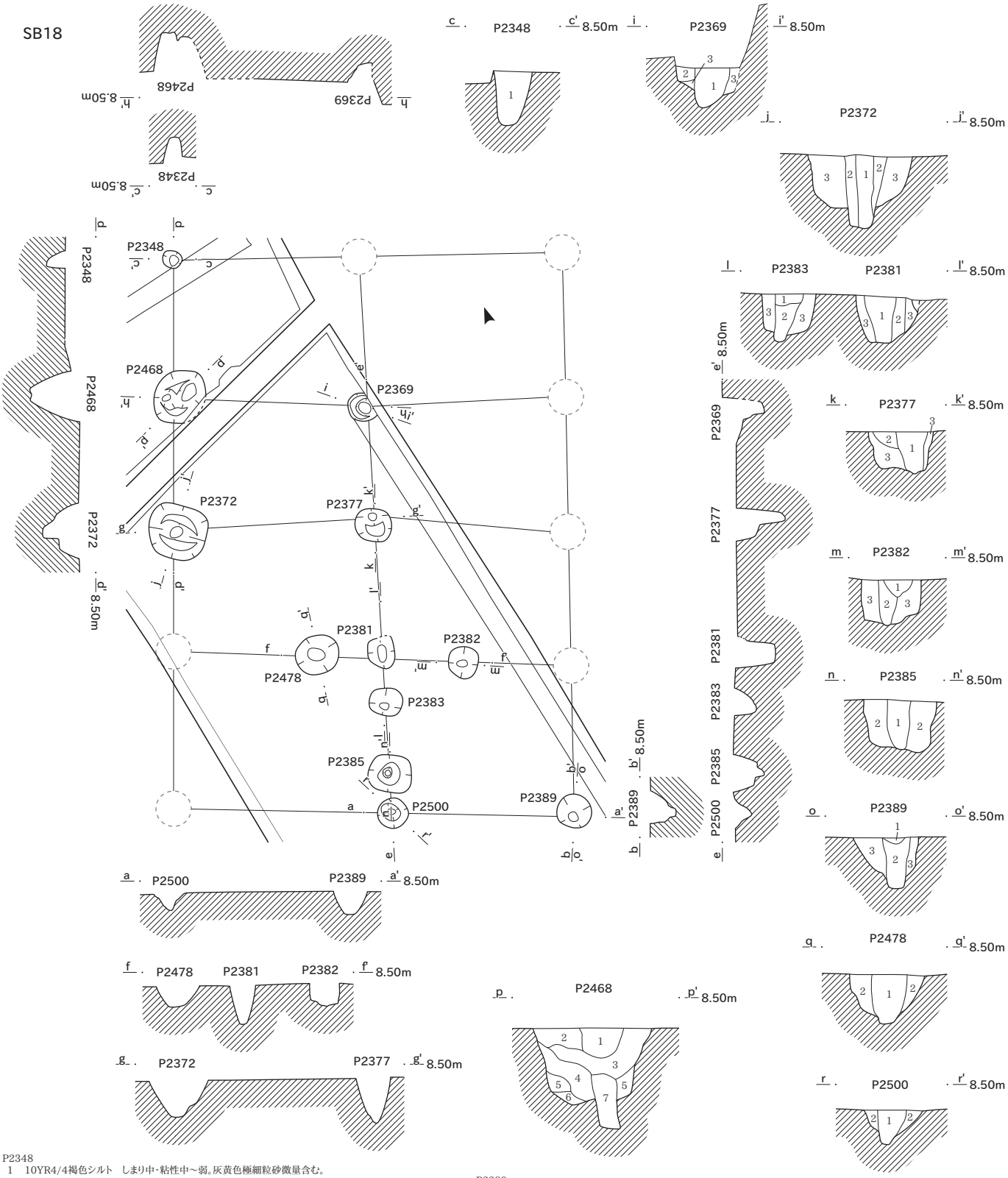
SB17





P2159
1　10YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中～弱。灰黄色シルトブロック微量含む。
2　2.5Y6/2灰黄色シルト　しまり・粘性弱。暗褐色シルトブロック中量含む。
P2235
1　7.5YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック・炭化物微量含む。
2　7.5YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。炭化物微量含む。
P2242
1　10YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック少量含む。
P2244
1　10YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中～弱。灰黄色シルトブロック微量含む。
2　2.5Y6/2灰黄色シルト　しまり・粘性弱。暗褐色シルトブロック微量含む。
P2245
1　10YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック少量含む。
2　10YR3/4暗褐色シルト～極細粒砂　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック少量含む。
P2247
1　10YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック微量含む。
P2248
1　10YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック微量含む。
2　2.5Y6/2灰黄色シルト　しまり・粘性弱。暗褐色シルトブロック微量含む。
P2249
1　10YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック微量含む。
P2251
1　10YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性弱。灰黄色シルトブロック微量含む。
2　2.5Y6/2灰黄色シルト　しまり・粘性弱。暗褐色シルトブロック微量含む。
P2252
1　10YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性弱。灰黄色シルトブロック微量含む。
2　2.5Y6/2灰黄色シルト　しまり・粘性弱。暗褐色シルトブロック少量含む。
P2256
1　10YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中～弱。灰黄色シルトブロック微量含む。
P2258
1　10YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック微量含む。
2　2.5Y6/2灰黄色シルト　しまり・粘性弱。暗褐色シルトブロック少量含む。
P2260
1　10YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性弱。灰黄色シルト含む。
P2265
1　10YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中～弱。灰黄色シルトブロック少量含む。
P2266
1　10YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中～弱。灰黄色シルトブロック中量含む。
P2267
1　10YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中～弱。灰黄色シルトブロック多量含む。
2　10YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中～弱。灰黄色シルトブロック少量含む。
P2268
1　10YR3/4～3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。
灰黄色シルトブロック微量含む。
2　10YR3/4～3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。
灰黄色シルトブロック多量含む。
P2269
1　10YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック微量含む。
2　10YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック中量含む。
P2274
1　10YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック多量含む。
2　10YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック微量含む。
3　10YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック少量含む。
P2315
1　10YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック微量含む。
P2357
1　10YR4/3にぶい黄褐色シルト～極細粒砂　しまり強・粘性やや強。
にぶい黄色シルト中～大ブロック少量含む。
2　2.5Y4/3オリーブ褐色シルト～極細粒砂　しまり強・粘性やや弱。
にぶい黄褐色シルト～極細粒砂中ブロック微量含む。
3　2.5Y4/3オリーブ褐色極細砂　しまり強・粘性弱。
にぶい黄褐色シルト～極細粒砂中ブロック微量含む。
P2502
1　2.5Y5/2暗灰黄色シルト～極細粒砂　しまり強・粘性やや強。
にぶい黄褐色シルト～極細粒砂特大ブロック微量含む。
2　2.5Y6/3にぶい黄色シルト～極細粒砂　しまりやや強・粘性やや弱。
P2503
1　2.5Y5/3黄褐色極細砂　しまりやや強・粘性弱。
にぶい黄褐色シルト～極細粒砂中ブロック多量含む。
2　2.5Y5/3黄褐色シルト　しまりやや強・粘性弱。
黒褐色シルト～極細粒砂中ブロック微量含む。
P2504
1　10YR3/2黒褐色シルト　しまり・粘性強。
暗灰黄色極細砂小～大ブロック少量含む。
2　2.5Y5/3黄褐色シルト～極細粒砂　しまり強・粘性やや弱。
黒褐色シルト特大ブロック微量含む。
P2505
1　10YR4/3にぶい黄褐色シルト～極細粒砂　しまり強・粘性やや強。
黄褐色極細砂中ブロック微量含む。
2　2.5Y5/4黄褐色極細砂。しまり強・粘性弱。
にぶい黄褐色シルト～極細粒砂特大ブロック微量含む。
P2510
1　10YR3/3暗褐色シルト　しまり中・粘性中～弱。
灰黄色シルトブロック微量含む。

0　平面図・エレベーション図（1：80）　4m
0　断面図（1：40）　2m



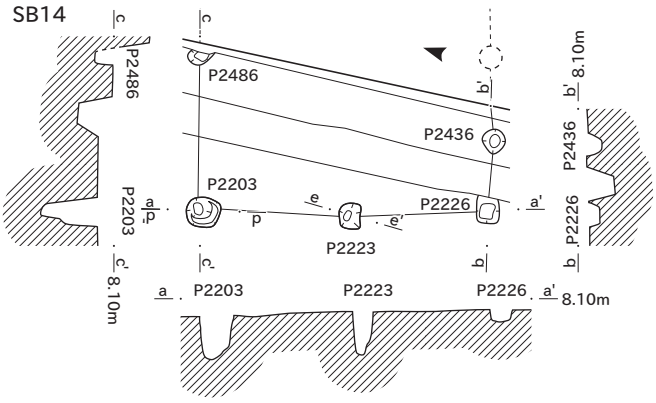
P2348
1　10YR4/4褐色シルト　しまり中・粘性中～弱。灰黄色極細粒砂微量含む。
P2369
1　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　しまり・粘性強。黄褐色シルト小～中ブロック多量含む。
2　2.5Y5/3黄褐色シルト　しまり強・粘性やや強。にぶい黄褐色シルト大～極大ブロック少量含む。
3　10YR4/4褐色シルト　しまり・粘性強。黄褐色シルト中ブロック中量含む。
P2372
1　10YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性強。灰黄色シルト小～中ブロック少量含む。
2　10YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性強。灰黄色シルト中～特大ブロック多量含む。
3　2.5Y6/3にぶい黄色シルト　しまり・粘性強。暗褐色シルト特大ブロック微量含む。
P2377
1　10YR3/3暗褐色シルト　しまり強・粘性やや強。にぶい黄色シルト中～大ブロック少量含む。
2　10YR3/3暗褐色シルト　しまり強・粘性やや強。にぶい黄色シルト中～大ブロック多量含む。
3　2.5Y6/3にぶい黄色シルト～極細粒砂　しまりやや強・粘性やや弱。
暗褐色シルト大ブロック微量含む。
P2381
1　10YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルト中ブロック微量含む。
2　10YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルト小～中ブロック微量含む。
3　10YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック少量含む。
P2382
1　10YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック少量含む。
2　2.5Y6/2灰黄色シルト　しまり中・粘性中～弱。暗褐色シルトブロック微量含む。
3　2.5Y6/2灰黄色シルト　しまり・粘性中。暗褐色シルトブロック微量含む。
P2383
1　10YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック微量含む。
2　2.5Y6/2灰黄色シルト　しまり・粘性中。暗褐色シルトブロック少量含む。
3　2.5Y6/2灰黄色シルト　しまり・粘性中。暗褐色シルトブロック微量含む。
P2385
1　10YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック少量含む。
2　2.5Y6/2灰黄色シルト　しまり・粘性中。暗褐色シルトブロック微量含む。

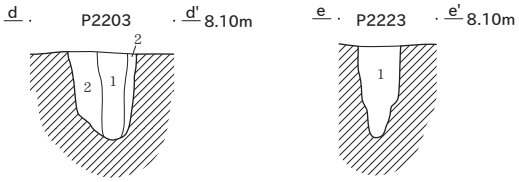
P2389
1　2.5Y6/1黄灰色シルト　しまり・粘性中。
灰黄色シルトブロック微量含む。
2　2.5Y6/2灰黄色シルト　しまり・粘性中。
暗褐色シルトブロック微量含む。
3　2.5Y6/2灰黄色シルト　しまり・粘性中。
P2468
1　10YR4/3にぶい黄褐色シルト～極細粒砂
しまり強・粘性やや弱。
黄褐色シルト大～特大ブロック中量含む。
2　10YR4/2灰黄褐色シルト　しまり・粘性強。
黄褐色シルト中ブロック少量含む。
3　10YR4/3にぶい黄褐色シルト～極細粒砂
しまり強・粘性やや弱。
黄褐色シルト大～特大ブロック多量含む。
4　10YR4/2灰黄褐色シルト　しまり・粘性強。
黄褐色シルト小～大ブロック微量含む。
5　10YR4/3にぶい黄褐色シルト～極細粒砂
しまり強・粘性やや弱。
黄褐色シルト中～特大ブロック多量含む。
6　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　しまり・粘性強。
暗灰黄褐色シルト中ブロック微量含む。
7　10YR3/2黒褐色シルト　しまり・粘性強。
黄褐色シルト大ブロック微量含む。

P2478
1　2.5Y5/3黄褐色シルト～極細粒砂　しまり強・粘性やや弱。
にぶい黄褐色シルト特大ブロック少量含む。
2　2.5Y5/3黄褐色シルト～極細粒砂　しまり強・粘性やや弱。
にぶい黄褐色シルト特大ブロック微量含む。
P2500
1　10YR4/2灰黄褐色シルト　しまり・粘性強。
黄褐色シルト～極細粒砂小～中ブロック少量含む。
2　2.5Y5/3黄褐色シルト～極細粒砂　しまり・粘性強。
灰黄褐色シルト大ブロック微量含む。

0　平面図・エレベーション図（1：80）　4m
0　断面図（1：40）　2m

SB14



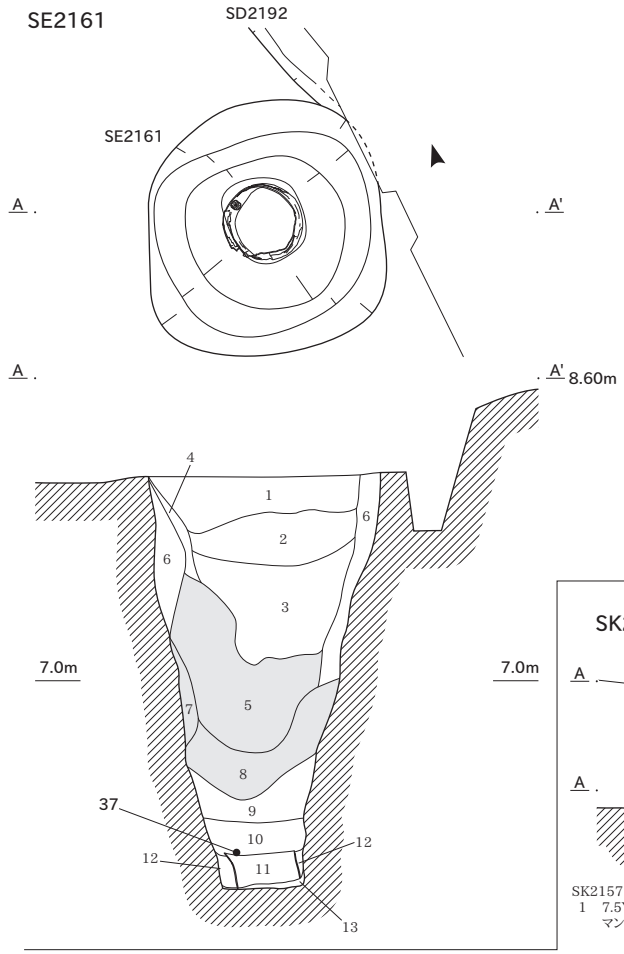


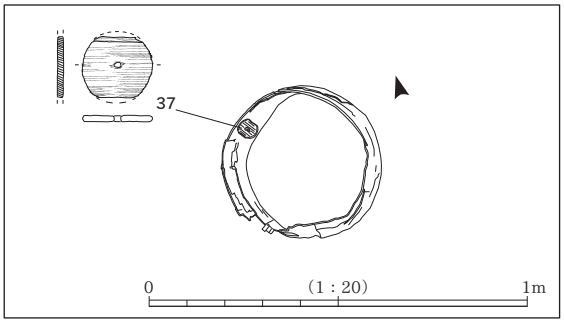
P2203
1　7.5YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック・炭化物微量含む。
2　7.5YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック微量含む。
P2223
1　7.5YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック・炭化物微量含む。

0　平面図・エレベーション図（1：80）　2m

0　断面図（1：40）　2m

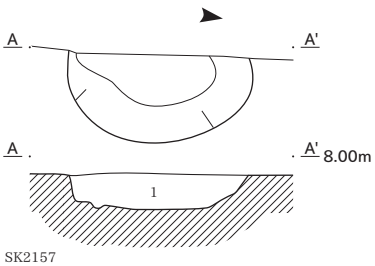
SE2161





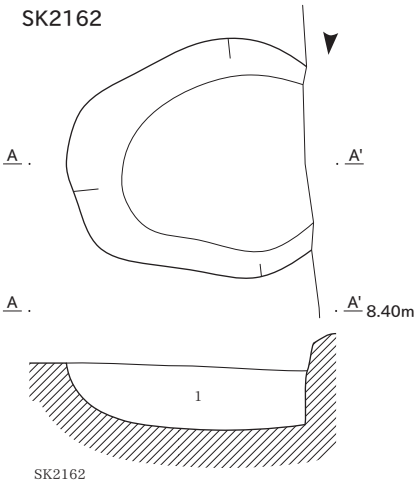
SE2161
1　10YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中～弱。
2　10YR3/3～3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中～弱。炭化物微量含む。
3　10YR2/3～3/3黒褐色シルト　しまり中・粘性中～強。にぶい黄色シルトブロック微量・炭化物含む。
4　10YR2/3～3/3黒褐色シルト　しまり中・粘性中～強。にぶい黄色シルトブロック微量含む。
5　7.5YR2/1黒色灰（炭化物）層　しまり弱・粘性無。
6　10YR3/4暗褐色シルト　しまり中・粘性中～弱。にぶい黄色シルトブロック少量含む。
7　7.5YR2/1～3/1黒色灰（炭化物）層　しまり・粘性弱。にぶい黄色シルト（粘質土）ブロック微量含む。
8　7.5YR2/1黒色灰（炭化物）層　しまり・粘性弱。にぶい黄色シルト（粘質土）のレンズ状ブロック中量含む。
9　2.5Y6/3にぶい黄色シルト（粘質土）　しまり中～弱・粘性中～強。褐色砂レキ微量含む。
10　10YR4/6褐色砂レキ　オリーブ灰色粘土ブロック少量・φ10～50mm石含む。
11　5BG5/1～10BG5/1青灰色シルト（粘質土）　しまり・粘性強。中～粗粒砂を微量含む。
12　5GY6/1～7.5GY6/1オリーブ灰～緑灰色シルト（粘質土）　しまり・粘性強。中～粗粒砂を微量含む。
13　7.5Y4/1灰色中～極粗粒砂　しまり・粘性無。φ10～50mm石多量含む。

SK2157



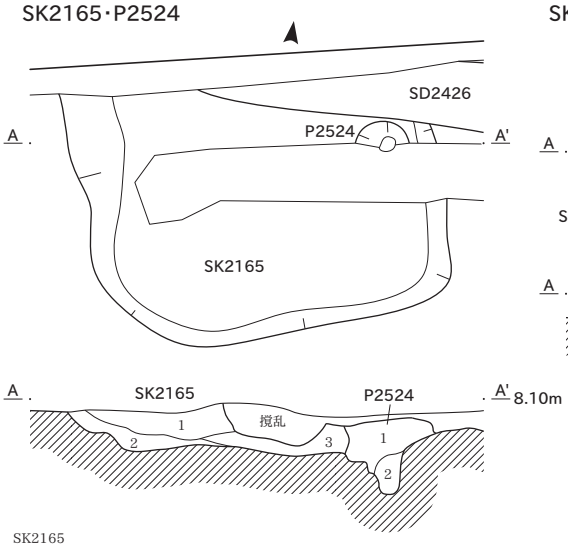
SK2157
1　7.5YR4/1褐灰色シルト質極細砂　しまり中・粘性弱。
マンガン含む。褐色を帯びる。

SK2162



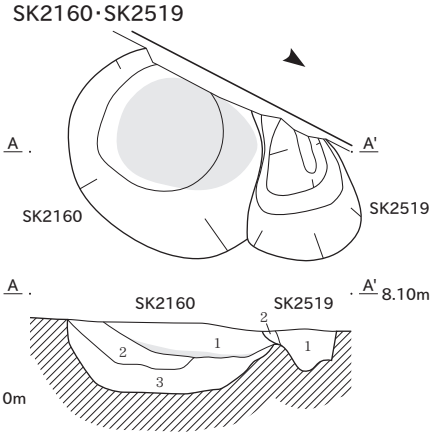
SK2162
1　10YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中～弱。
にぶい黄色シルト～極細粒砂ブロック多量含む。

SK2165・P2524



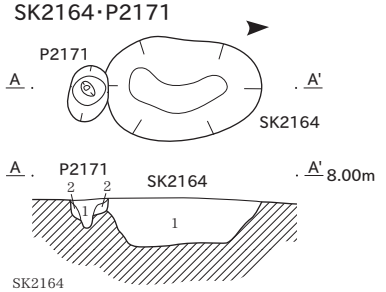
SK2165
1　10YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄褐色シルトブロック微量含む。
2　10YR3/4～3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。赤色を帯びる。
3　10YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。
P2524
1　10YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック少量含む。
2　10YR3/3暗褐色粘質シルト　しまり中・粘性中～強。灰黄色シルトブロック微量含む。

SK2160・SK2519



SK2160
1　7.5YR3/4暗褐色シルト　しまり中～強・粘性中。
にぶい黄色シルト中ブロック・炭化物微量含む。
2　7.5YR3/4暗褐色シルト　しまり中～強・粘性中。
にぶい黄色シルト中～大ブロック・炭化物微量含む。
3　7.5YR3/4暗褐色シルト　しまり中～強・粘性中。
にぶい黄色シルトブロック中量・炭化物微量含む。
SK2519
1　10YR6/4にぶい黄橙色シルト　しまり・粘性強。
にぶい黄褐色シルト小ブロック微量含む。
2　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　しまり・粘性強。
にぶい黄橙色シルト中ブロック少量含む。

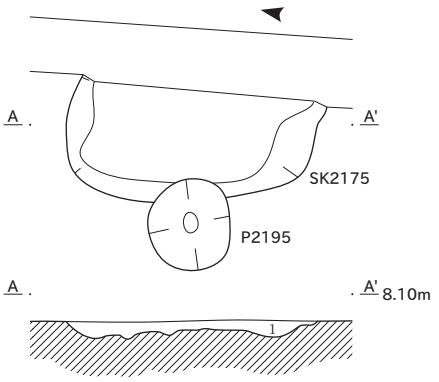
SK2164・P2171



SK2164
1　7.5YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。
灰黄色シルトブロック・φ10mm炭化物微量含む。
P2171
1　7.5YR3/3～3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。
灰黄色シルトブロック・炭化物微量含む。
2　7.5YR3/3暗褐色シルト　しまり中・粘性弱～中。
灰黄色シルトブロック少量む。

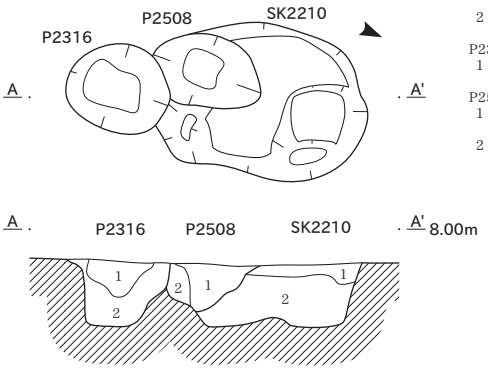
0　（1：40）　2m

SK2175



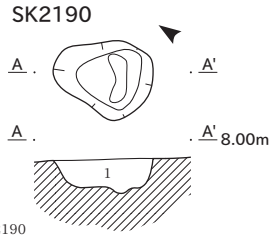
SK2175
1　7.5YR3/4暗褐色シルト　しまり中・粘性中～強。
　　灰黄色シルトブロック・炭化物微量含む。

SK2210・P2316・P2508



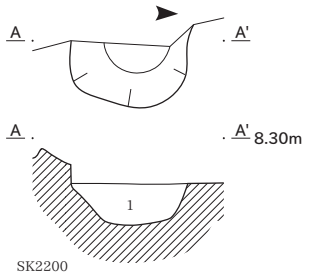
SK2210
1　7.5YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。
　　灰黄色シルトブロック多量含む。赤色を帯びる。
2　7.5YR3/4～4/4暗褐色シルト　しまり中・粘性中～強。
　　灰黄色シルトブロック微量含む。赤色を帯びる。
P2316
1　7.5YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。
　　灰黄色シルトブロック・炭化物微量含む。赤色を帯びる。
P2508
1　7.5YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。
　　灰黄色シルトブロック中量・炭化物微量含む。赤色を帯びる。
2　7.5YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。
　　灰黄色シルトブロック微量含む。

SK2190



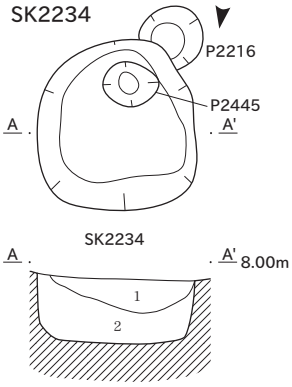
SK2190
1　7.5YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。
　　灰黄色シルトブロック中量含む。赤色を帯びる。

SK2200



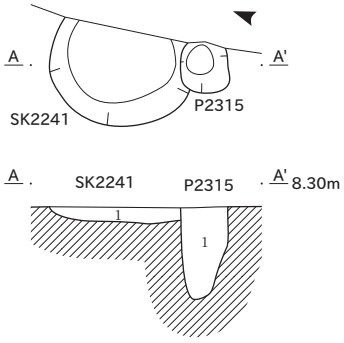
SK2200
1　10YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中～弱。
　　灰黄色シルトブロック微量含む。

SK2234



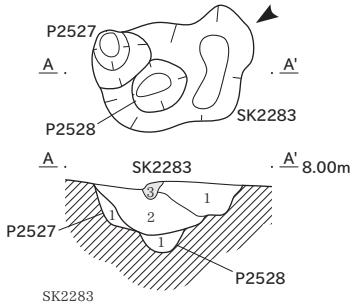
SK2234
1　10YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。
　　灰黄色シルトブロック微量含む。
2　10YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。
　　灰黄色シルトブロック少量含む。

SK2241・P2315



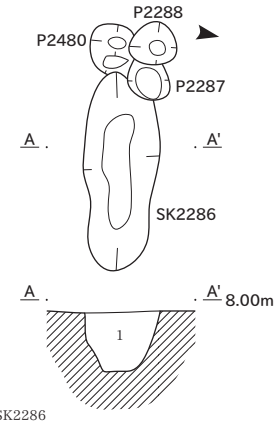
SK2241
1　10YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。
　　灰黄色シルトブロック微量含む。
P2315
1　10YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。
　　灰黄色シルトブロック微量含む。

SK2283・P2527・P2528



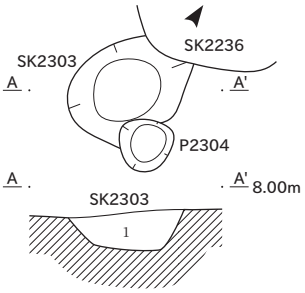
SK2283
1　10YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。
　　灰黄色シルトブロック微量含む。
2　10YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。
　　灰黄色シルトブロック多量・炭化物微量含む。
3　炭化物層。灰黄色シルトブロック微量含む。
P2527
1　10YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。
　　灰黄色シルトブロック中～特大微量含む。
P2528
1　10YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。
　　灰黄色シルトブロック中～特大微量含む。

SK2286



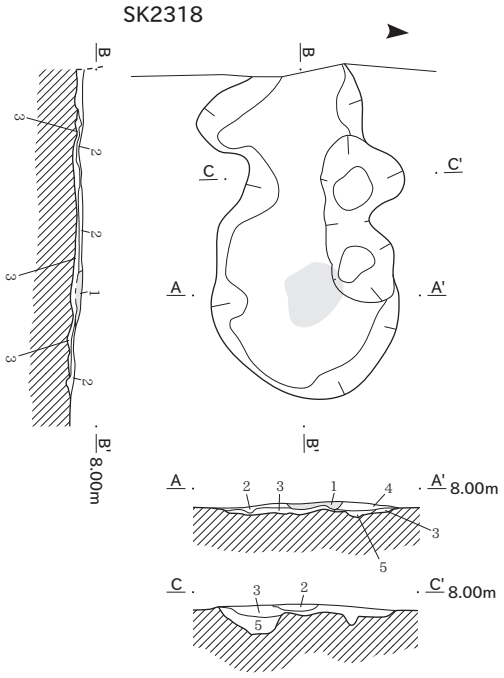
SK2286
1　7.5YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。
　　灰黄色シルトブロック・炭化物微量・
　　φ5mm焼土ブロック数粒含む。赤色を帯びる。

SK2303



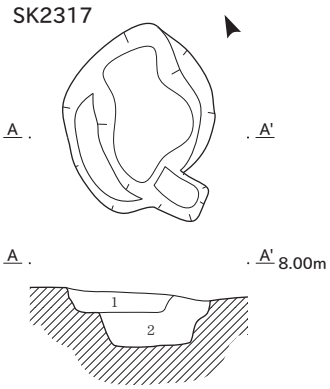
SK2303
1　10YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。
　　灰黄色シルトブロック少量・上半に炭化物微量含む。

SK2318



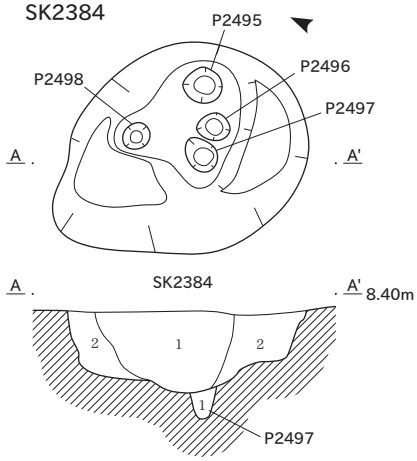
SK2318
1　10YR3/2黒褐色シルト～極細粒砂　しまり強・粘性やや弱。
　　黒色シルト～極細粒砂中～大ブロック多量（炭化物）・
　　にぶい黄橙色～極細粒砂中ブロック少量含む。
2　10YR3/2黒褐色シルト～極細粒砂　しまり強・粘性やや弱。
　　にぶい黄褐色シルト小ブロック・焼土小ブロック微量含む。
3　10YR3/2黒褐色シルト～極細粒砂　しまり強・粘性やや弱。
　　にぶい黄褐色シルト中～極大ブロック・にぶい赤褐色シルト～
　　極細粒砂中～大ブロック（焼土ブロック）・炭化物微量含む。
4　10YR5/3にぶい黄褐色～極細粒砂　しまり強・粘性弱。
　　褐色シルト～極細粒砂小～中ブロック微量含む（火床部?）。
5　10YR4/2灰黄褐色シルト　しまり強・粘性やや強。
　　にぶい黄褐色～極細粒砂小～中ブロック微量含む。

SK2317



SK2317
1　7.5YR3/4暗褐色シルト　しまり中・粘性中～強。
　　灰黄色シルトブロック微量、炭化物微量含む。
2　7.5YR3/4～4/4暗褐色シルト　しまり中・粘性中～強。
　　灰黄色シルトブロック・炭化物微量含む。

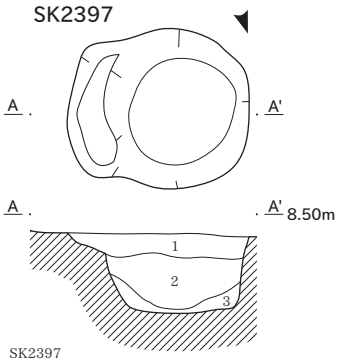
SK2384



SK2384
1　7.5YR3/3～3/4暗褐色シルト　しまり中・粘性中。
　　灰黄色シルトブロック中量含む。
2　2.5Y6/2灰黄色シルト　しまり・粘性中～弱。
　　暗褐色シルトブロック少量含む。
P2497
1　10YR4/3にぶい黄褐色シルト～極細粒砂
　　しまり強・粘性やや強。灰黄色シルト中ブロック少量含む。

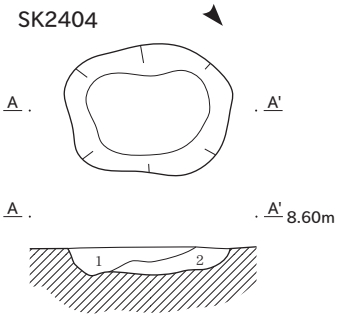
0　（1：40）　2m

SK2397



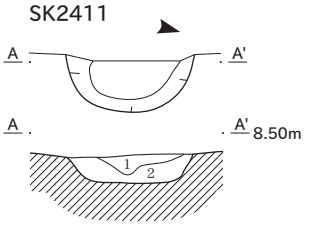
SK2397
1　7.5YR4/6褐色シルト　しまり中・粘性中。
　　灰黄色シルトブロック微量含む。
2　7.5YR4/6褐色シルト　しまり中・粘性中～強。
　　赤色を帯びる。
3　7.5YR4/6褐色シルト　しまり中・粘性中。
　　灰黄色シルトブロック微量含む。

SK2404



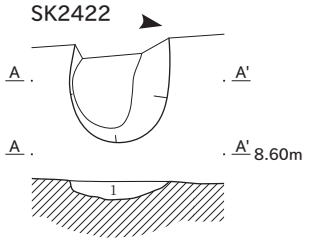
SK2404
1　10YR3/4暗褐色シルト　しまり中・粘性中。
　　灰黄色シルトブロック微量含む。
2　2.5Y6/2灰黄色シルト　しまり中・粘性中～弱。
　　ブロック中量含む。

SK2411



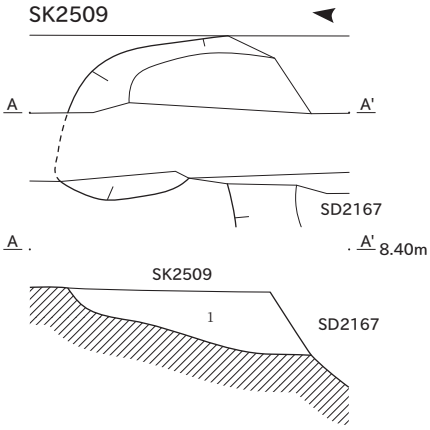
SK2411
1　7.5YR2/2黒褐色シルト　しまり・粘性中。
2　7.5YR2/2黒褐色シルト　しまり・粘性中。
　　にぶい黄褐色シルトブロック少量、鉄分含む。
　　灰色を帯びる。

SK2422



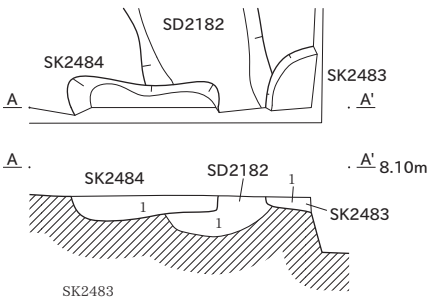
SK2422
1　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　しまり・粘性中～強。
　　φ5～20mm炭片含む。全体的に灰色を帯びる。

SK2509



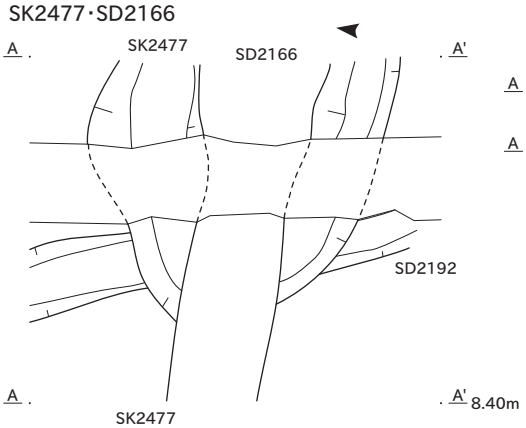
SK2509
1　7.5YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。
　　灰黄色シルトブロック少量含む。

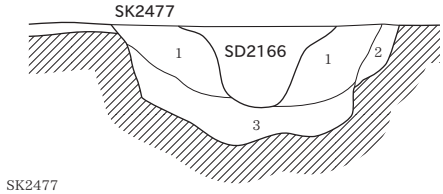
SK2483・2484・SD2182



SK2483
1　7.5YR3/4暗褐色シルト　しまり中・粘性中～弱。
　　φ20～30mm焼土ブロック・炭化物含む。赤色を帯びる。
SK2484
1　7.5YR4/3褐色シルト　しまり中・粘性中～強。
　　灰黄色シルトブロック微量・φ5mm以下炭化物微量含む。
SD2182
1　7.5YR3/3～3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。
　　灰黄色シルトブロック少量、炭化物微量含む。

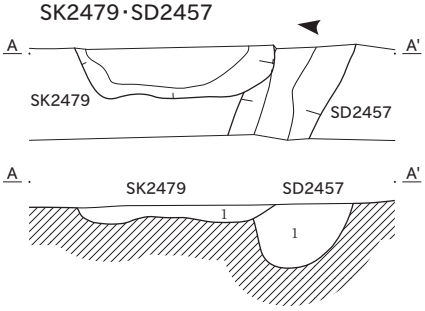
SK2477・SD2166





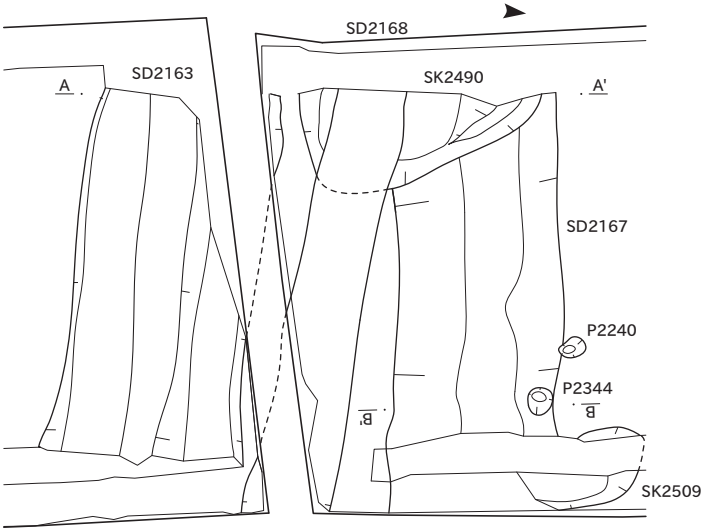
SK2477
1　10YR4/3～3/3にぶい黄褐色シルト　しまり・粘性中～弱。
　　灰黄色シルト小ブロック微量含む。褐色を帯びる。
2　2.5Y6/2灰黄色シルト　しまり中・粘性中。暗褐色シルトブロック微量含む。
3　10YR3/4～3/3暗褐色シルト　しまり中・粘性中～弱。灰黄色シルト小ブロック微量含む。

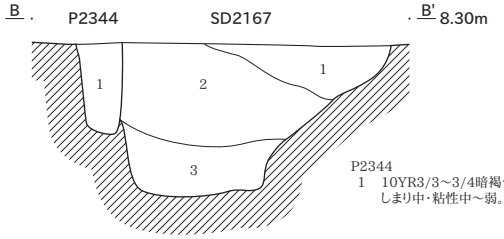
SK2479・SD2457



SK2479
1　10YR4/4褐色シルト
　　しまり・粘性中～弱。
　　灰黄色シルトブロック少量含む。
SD2457
1　10YR3/3～4/3暗褐色シルト
　　しまり・粘性中～弱。
　　灰黄色シルトブロック微量含む。

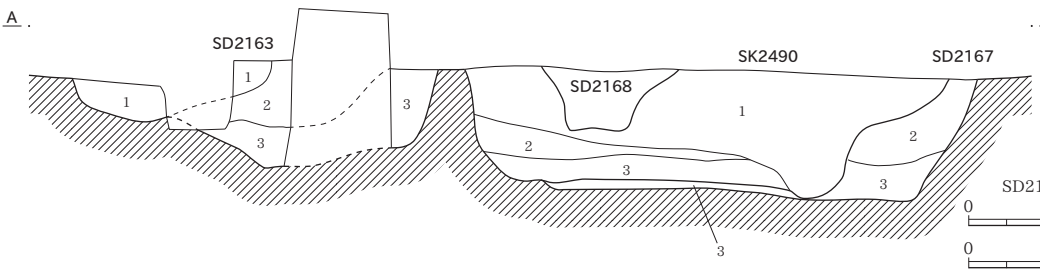
SD2163・2167・SK2490・P2344





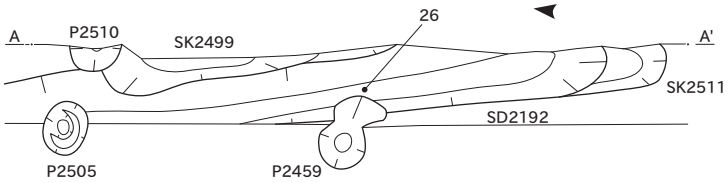
P2344
1　10YR3/3～3/4暗褐色シルト～細粒砂
　　しまり中・粘性中～弱。

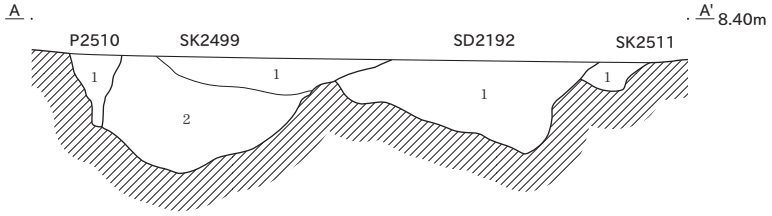
SD2163
1　7.5YR3/2～3/3黒褐色シルト　しまり中・粘性中～弱。炭化物微量含む。
2　10YR4/4～3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック微量含む。
3　2.5Y5/2～4/2暗灰黄色シルト　しまり中・粘性中～弱。黄色を帯びる。
SD2167
1　7.5Y3/2～3/3黒褐色シルト　しまり中・粘性中～弱。炭化物微量含む。
2　10YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック微量含む。
3　10YR4/2～5/2灰黄褐色シルト　しまり中・粘性強。灰黄色シルトブロック・鉄分ブロック微量含む。
SK2490
1　10YR4/4～3/4褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック少量含む。
2　2.5Y6/2～5/2暗灰黄色極細粒砂　しまり・粘性弱。暗褐色シルトブロック微量含む。
3　10YR4/4～3/4褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック多量含む。



SD2163・2167・SK2490・P2344平面図
0　（1：80）　4m
0　断面図（1：40）　2m

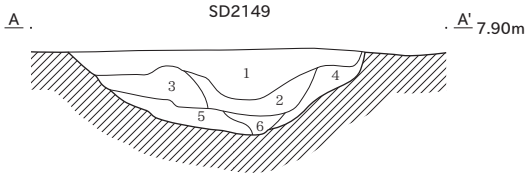
SK2499・2511・SD2192・P2510



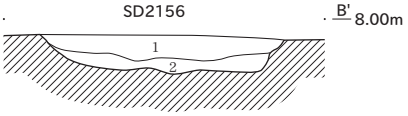


SK2499
1　7.5YR4/6～4/4褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック微量含む。
2　7.5YR4/4褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック微量含む。赤色を帯びる。
SK2511
1　10YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中。灰黄色シルトブロック微量含む。
SD2192
1　10YR4/4～7.5YR4/4褐色シルト　しまり・粘性中。暗灰黄色・灰黄色シルトブロック微量含む。灰色を帯びる。
P2510
1　10YR3/3暗褐色シルト　しまり中・粘性中～弱。灰黄色シルトブロック微量含む。

遺構分割図(1)（図版5）

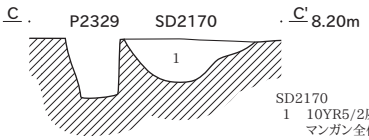


SD2149
1　10YR4/2灰黄褐色シルト　しまり・粘性中。マンガン含む。褐色を帯びる。
2　7.5YR4/4褐色シルト　しまり中・粘性強。黄褐色シルトブロック少量含む。
3　7.5YR4/4褐色シルト　しまり中・粘性強。
4　2.5Y5/4黄褐色シルト　しまり・粘性中。褐色シルトブロック少量含む。
5　2.5Y5/4黄褐色シルト　しまり・粘性中。褐色シルトブロック・鉄分微量含む。
6　7.5YR4/4褐色シルト　しまり中・粘性強。黄褐色シルトブロック微量含む。

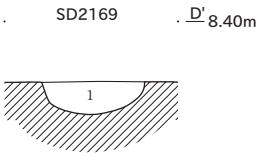


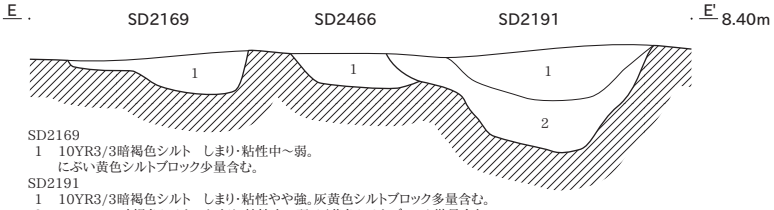
SD2156
1　7.5YR4/1褐灰色シルト　しまり・粘性中。
マンガン含む。褐色を帯びる。
2　7.5YR4/1褐灰色シルト　しまり・粘性中。
灰黄褐色シルトブロック・マンガン微量含む。褐色を帯びる。

遺構分割図(2)（図版6）

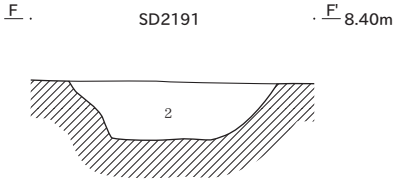


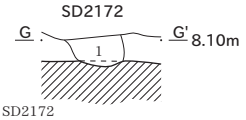
SD2170
1　10YR5/2灰黄褐色シルト　しまり・粘性中～弱。
マンガン全体的に含む。褐色を帯びる。



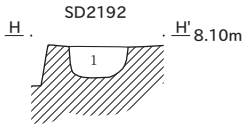


SD2169
1　10YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性中～弱。
にぶい黄色シルトブロック少量含む。
SD2191
1　10YR3/3暗褐色シルト　しまり・粘性やや強。灰黄色シルトブロック多量含む。
2　7.5YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性中～弱。灰黄色シルトブロック微量含む。
SD2466
1　10YR3/4暗褐色シルト　しまり・粘性やや強。灰黄色シルトブロック多量含む。

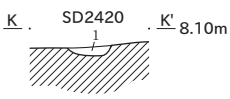




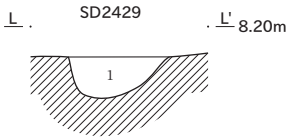
SD2172
1　2.5Y4/2暗灰黄色シルト～極細粒砂
しまり・粘性強。にぶい黄褐色シルト～
極細粒砂中ブロック微量含む。



SD2192
1　10YR3/3暗褐色シルト
しまり・粘性中。灰黄色シルト
ブロック中量含む。
赤色を帯びる。

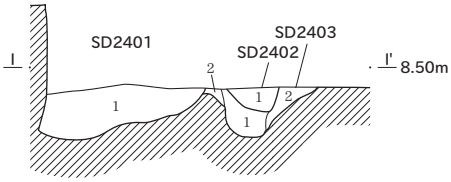


SD2420
1　10YR3/3暗褐色シルト
しまり・粘性中。
灰黄色シルト～極細粒砂
小ブロック中量含む。

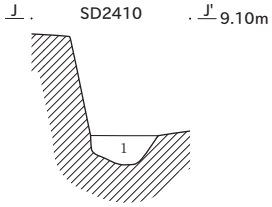


SD2429
1　10YR3/2黒褐色シルト　しまり・粘性中。
φ10mm以下焼土ブロック微量・炭化物含む。

遺構分割図(3)（図版7）

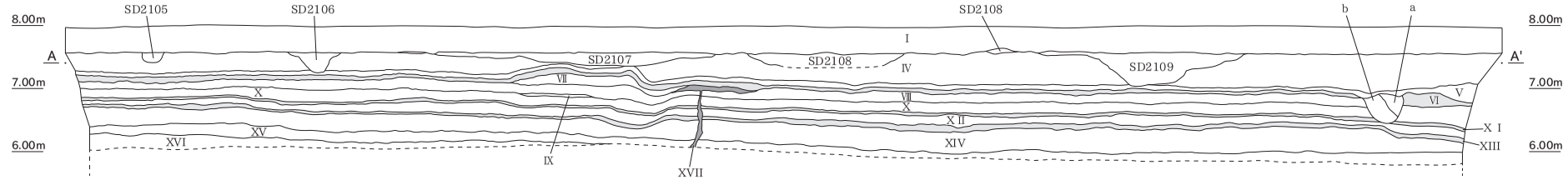


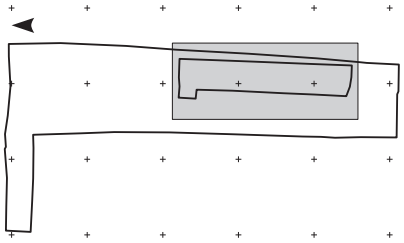
SD2401
1　7.5YR4/4褐色シルト　しまり・粘性中。
SD2402
1　2.5Y3/3黄褐色シルト　しまり中・粘性弱。
灰黄色シルトブロック少量、マンガン含む。
SD2403
1　7.5YR4/4褐色シルト　しまり・粘性中。
灰黄色シルトブロック少量含む。
2　2.5Y6/2灰黄色シルト　しまり中・粘性弱。
褐色シルトブロック多量含む。

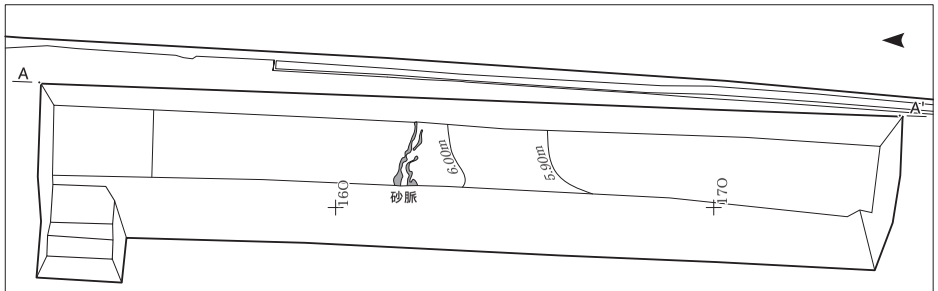


SD2410
1　10YR3/4暗褐色シルト
しまり中・粘性中～弱。
灰黄褐色シルトブロック中量含む。

0　(1：40)　2m

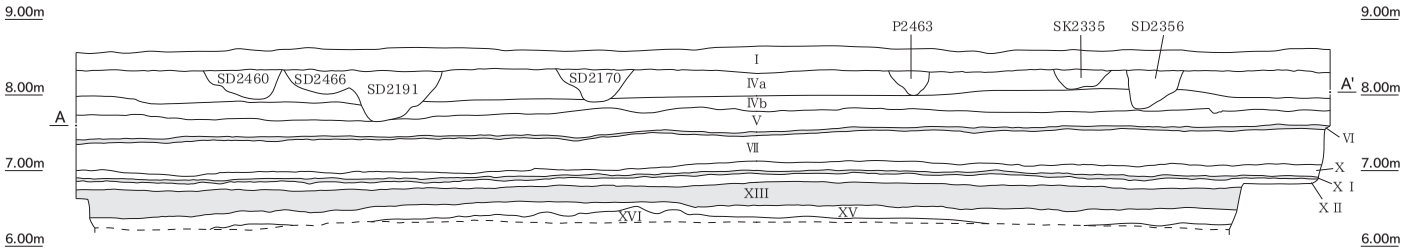


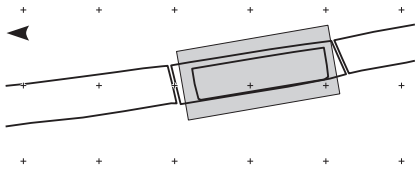


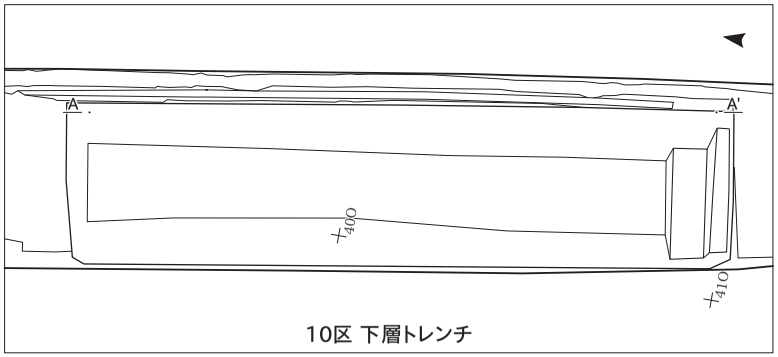


9区 下層トレンチ

I　耕作土
IV　2.5Y6/2～6/3灰黄色シルト　しまり・粘性弱。鉄分多量・マンガン少量含む。黄色を帯びる。
V　2.5Y6/1～6/2黄灰色シルト　しまり・粘性弱。鉄分少量・マンガン微量含む。白色を帯びる。
VI　10YR4/2～5/2灰黄褐色シルト　しまり・粘性中。鉄分・マンガン微量含む。褐色を帯びる。有機土壌。
VII　7.5YR5/3～5/4にぶい褐色シルト　しまり・粘性中。
VIII　2.5Y5/3黄褐色シルト　しまり中・粘性弱～中。鉄分・マンガン微量含む。
IX　2.5Y7/3～6/3浅黄色シルト　しまり・粘性中。褐色を帯びる。有機土壌。
X　2.5Y7/3～7/2浅黄色シルト　しまり・粘性中。マンガン微量含む。
XI　10YR6/1～6/2褐灰色シルト　しまり中・粘性強。マンガン・炭化物微量含む。褐色を帯びる暗色帯。有機土壌。
XII　2.5Y7/3～6/3浅黄色粘質シルト　しまり中・粘性強。マンガン微量含む。
XIII　10YR6/1～6/2褐灰色シルト　しまり・粘性中。マンガン微量、部分的に炭化物中量含む。有機土壌。
XIV　10YR6/1～7/1褐灰色シルト　しまり中・粘性強。マンガン微量含む。白色を帯びる。
XV　2.5Y6/2～7/2灰黄色砂混シルト　しまり・粘性弱～中。XIV層とXVI層の中間層。
XVI　5Y6/1灰色細粒砂　しまり強・粘性弱。南方へ向かいグライ化し粘性が増す。粒径1/4mmの均質な細粒砂。
XVII　7.5YR5/4～5/6明褐色細～中粒砂　しまり弱～中・粘性無し。噴砂。
a　2.5Y6/1黄灰色シルト　しまり中～弱・粘性中～強。炭化物微量含む。灰色を帯びる。風倒木痕か。
b　2.5Y5/1黄灰色シルト　しまり中・粘性中～強。炭化物微量含む。黒色を帯びる。風倒木痕か。





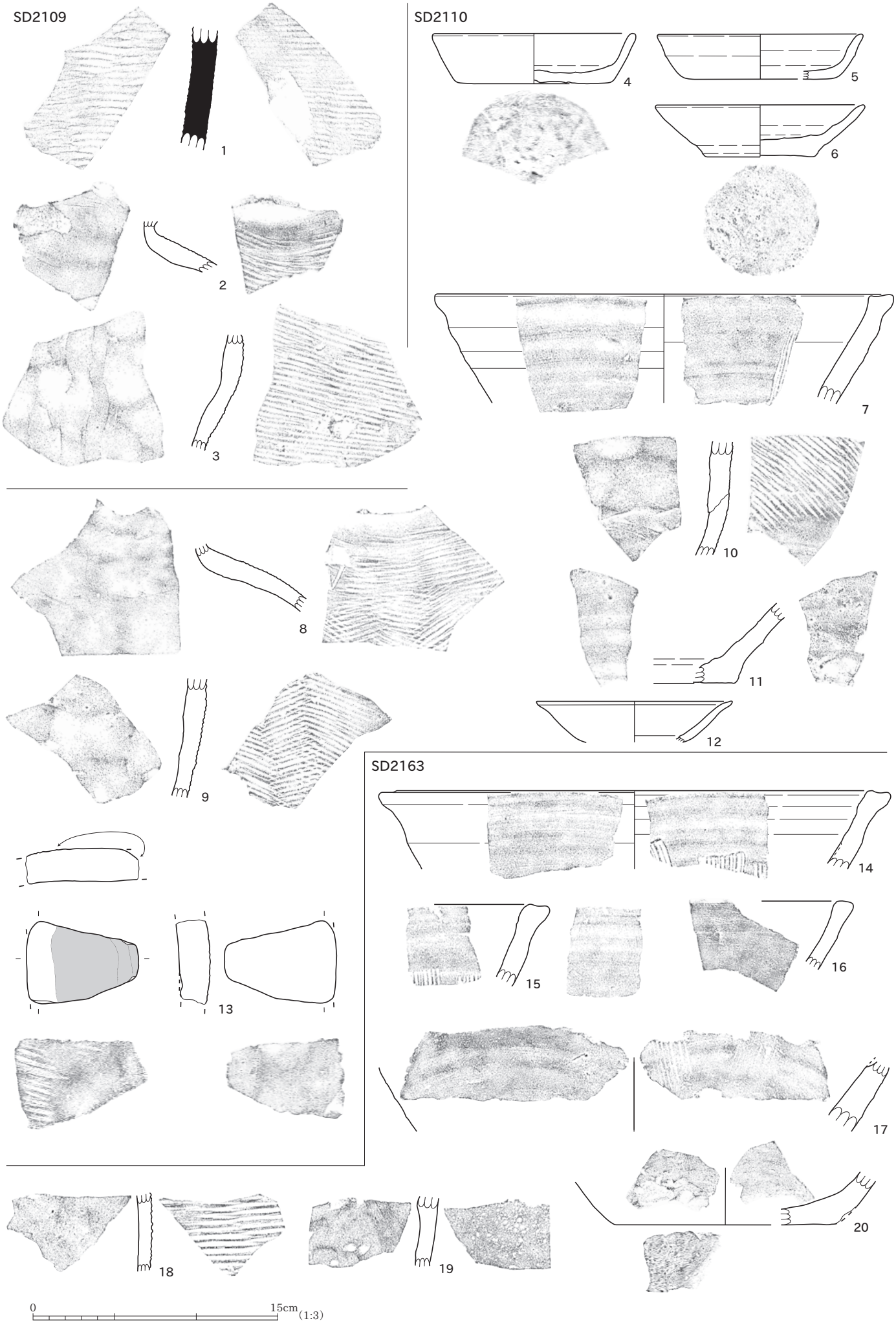


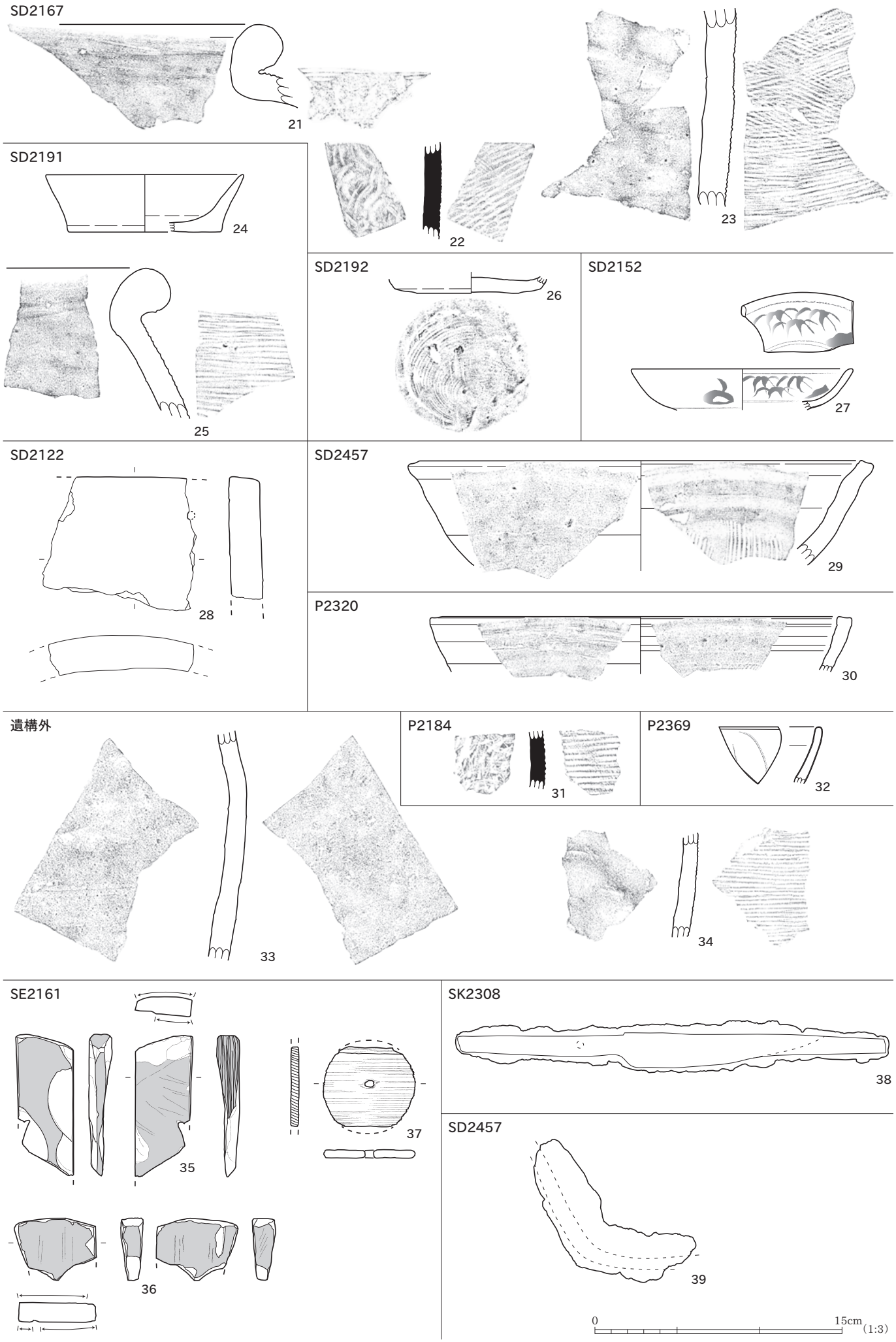
10区 下層トレンチ

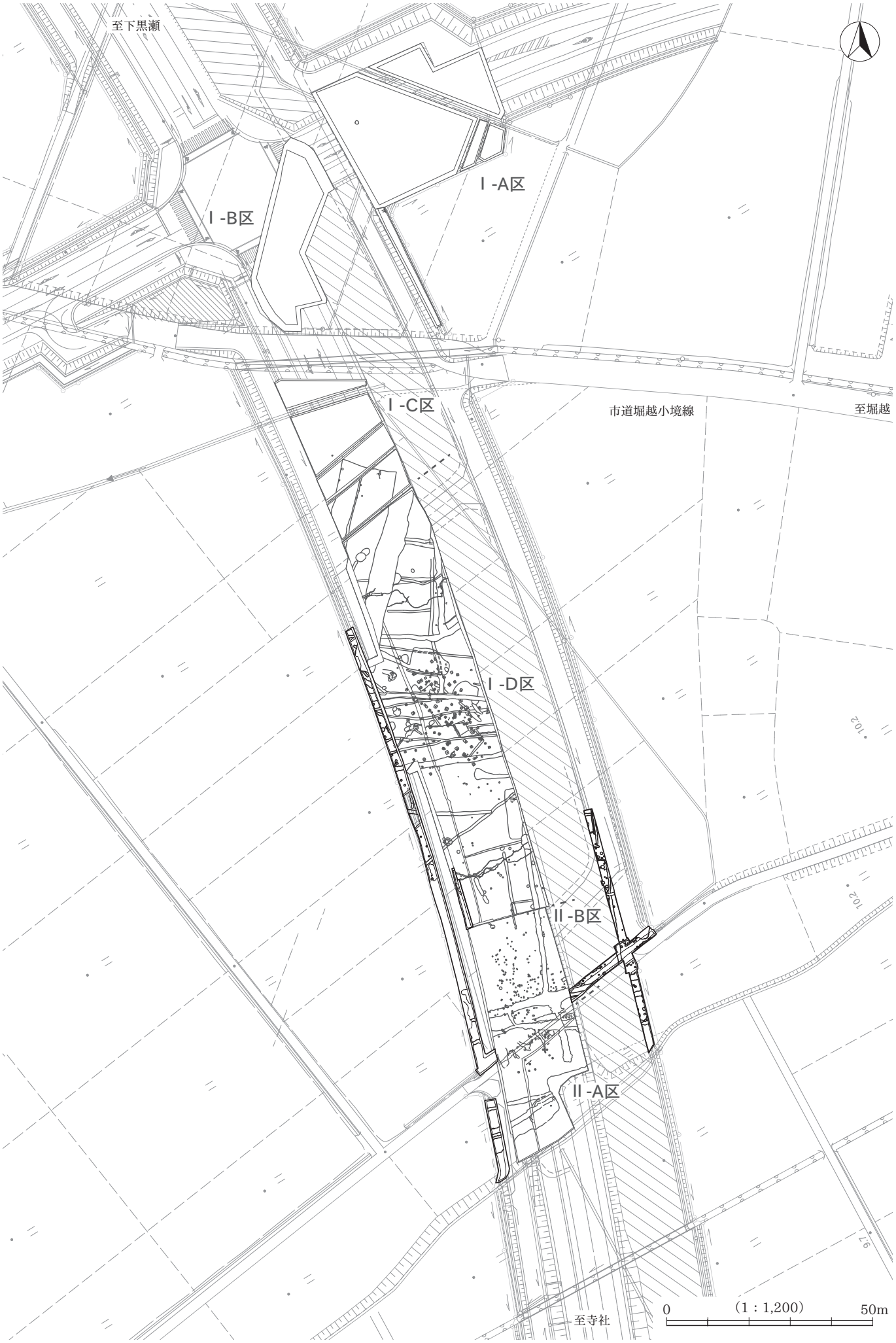
I　10YR3/2黒褐色シルト　しまり・粘性中～弱。下位に鉄分沈着。
IVa　10YR5/6黄褐色シルト～極細粒砂　しまり中～弱・粘性中。
IVb　10YR4/6褐色極細粒砂　しまり・粘性弱。
V　2.5Y6/2灰黄色シルト　しまり中・粘性中～強。全体的に鉄分微量含む。
VI　2.5Y5/2暗灰黄色シルト　しまり・粘性中～強。炭化物を微量含む。黒色を帯びる。
VII　2.5Y6/3にぶい黄色シルト～粘質土　しまり・粘性中～強。鉄分少量含む。下位は黄色を帯びる。
X　2.5Y6/3にぶい黄色シルト～粘質土　しまり・粘性中～強。鉄分微量含む。VII層より鉄分少なく橙色を帯びる。
XI　10YR5/2灰黄褐色シルト～粘質土　しまり・粘性中～強。炭化物を微量含む。黒色を帯びる。
XII　2.5Y6/2～6/3灰黄色～にぶい黄色粘質土　しまり・粘性強。鉄分少量含む。灰白色を帯びる。
XIII　10YR6/2灰黄褐色粘質土　しまり・粘性強。炭化物を微量含む。
XV　2.5Y5/6黄褐色砂混粘質土　しまり中・粘性中～強。下位に鉄分沈着、にぶい黄色を帯びる。
XVI　10YR4/6褐色粗粒砂～極粗粒砂（砂礫）　しまり・粘性無。φ1～10cmの礫少量含む。

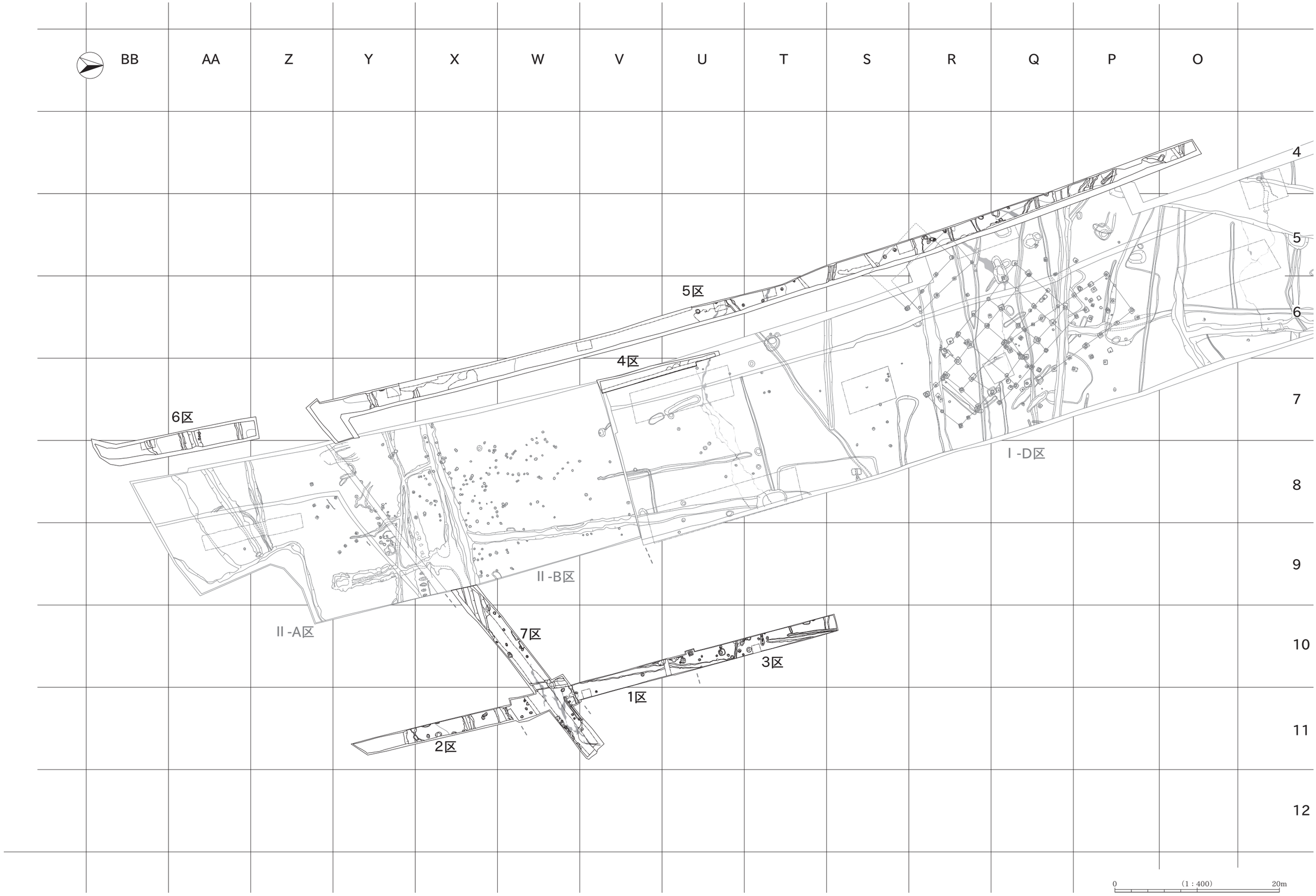
暗色帯
噴　砂

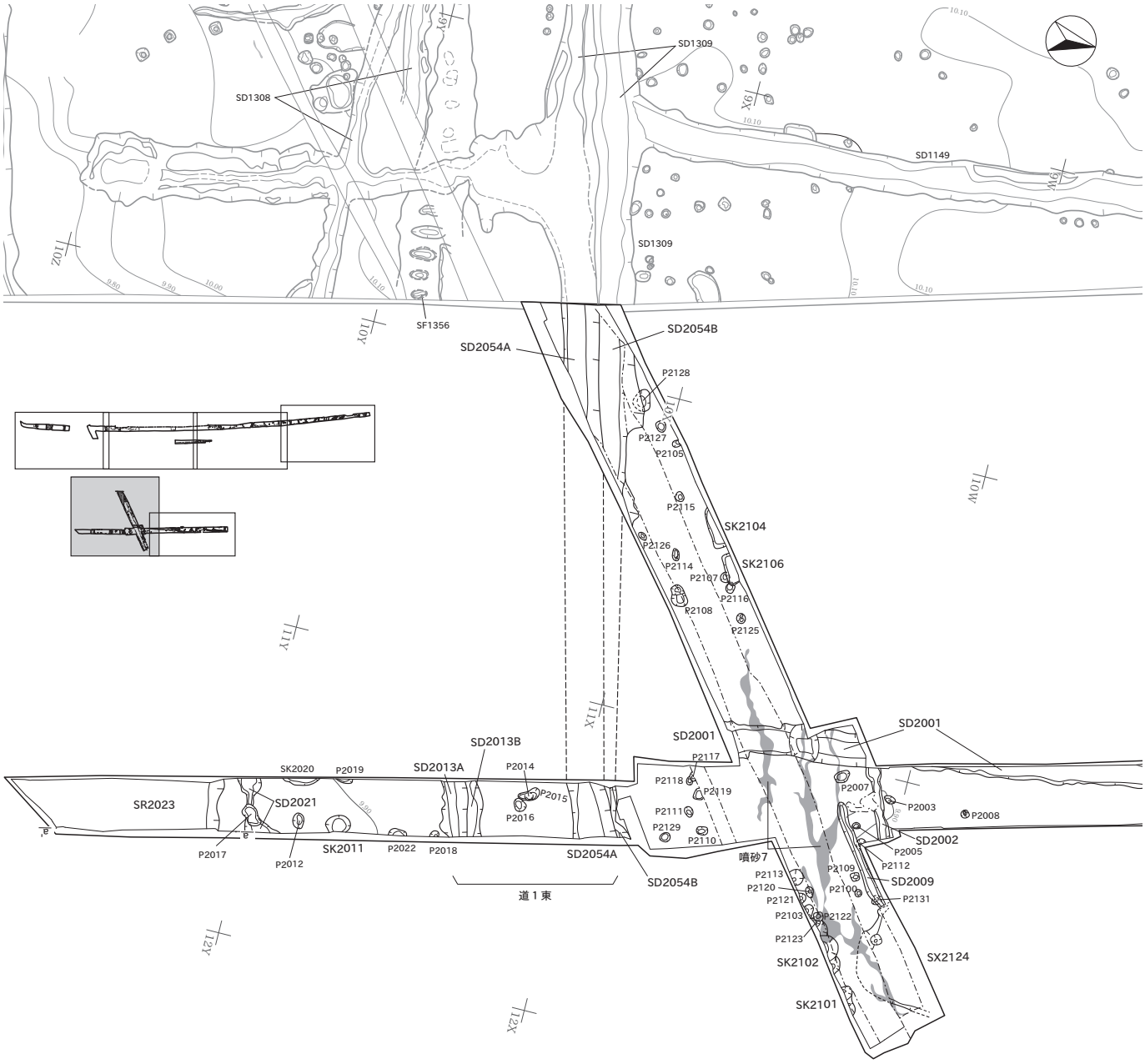
0　断面図（1：100）　5m
0　平面図（1：200）　10m

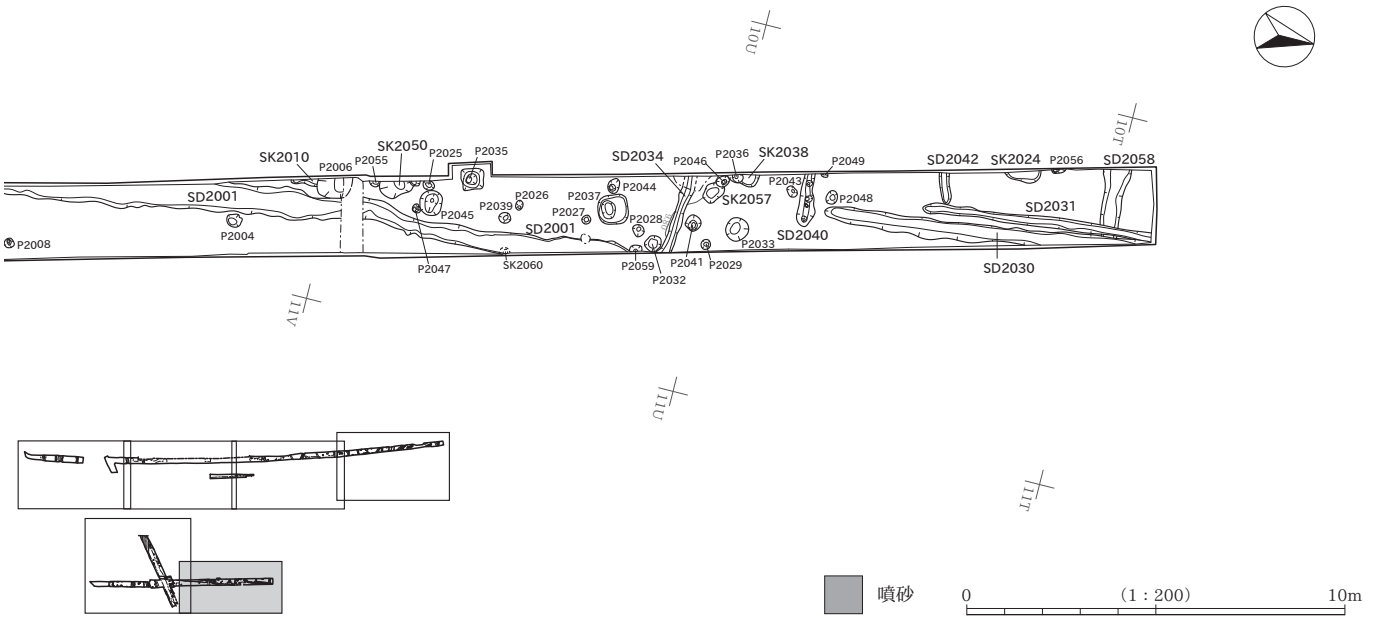

SD2109
1
2
3
SD2110
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
SD2163
14
15
16
17
18
19
20
0
15cm
(1:3)

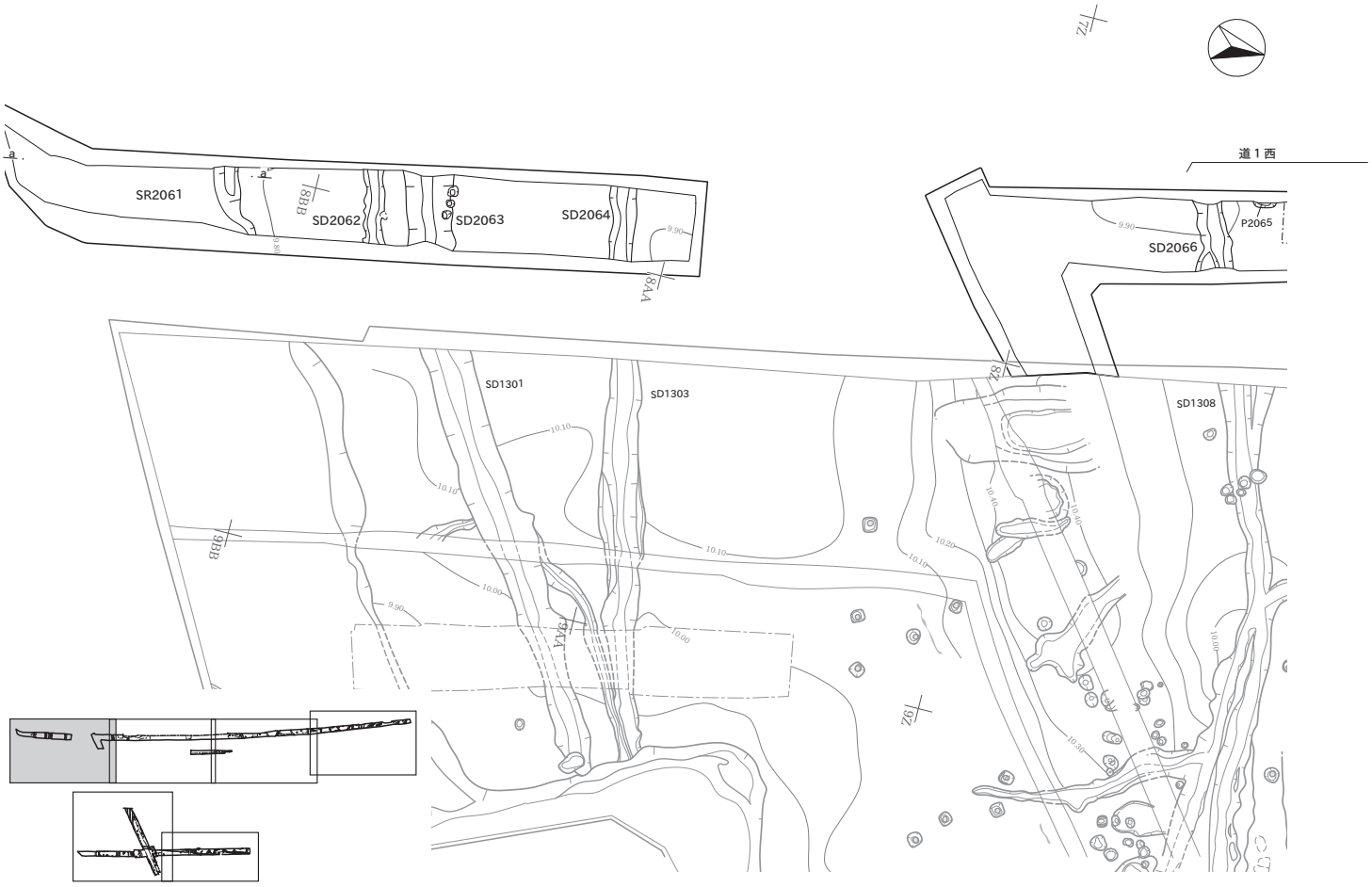

SD2167
21
22
23
SD2191
24
25
SD2192
26
SD2152
27
SD2122
28
SD2457
29
P2320
30
遺構外
33
P2184
31
P2369
32
34
SE2161
35
36
37
SK2308
38
SD2457
39
0
15cm
(1:3)

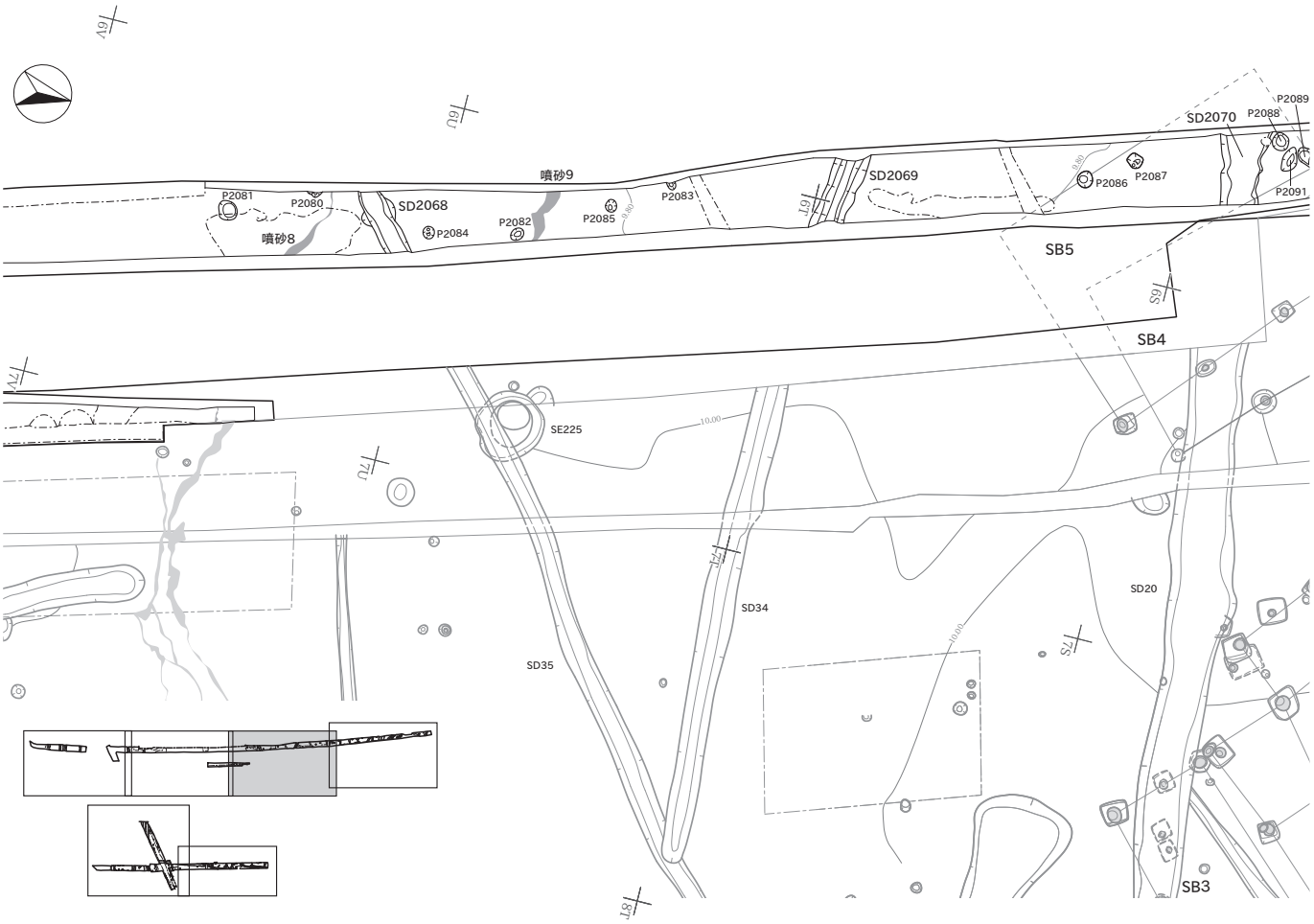

至下黒瀬
Ⅰ-A区
Ⅰ-B区
Ⅰ-C区
市道堀越小境線
至堀越
Ⅰ-D区
Ⅱ-B区
Ⅱ-A区
至寺社
0
(1：1,200)
50m

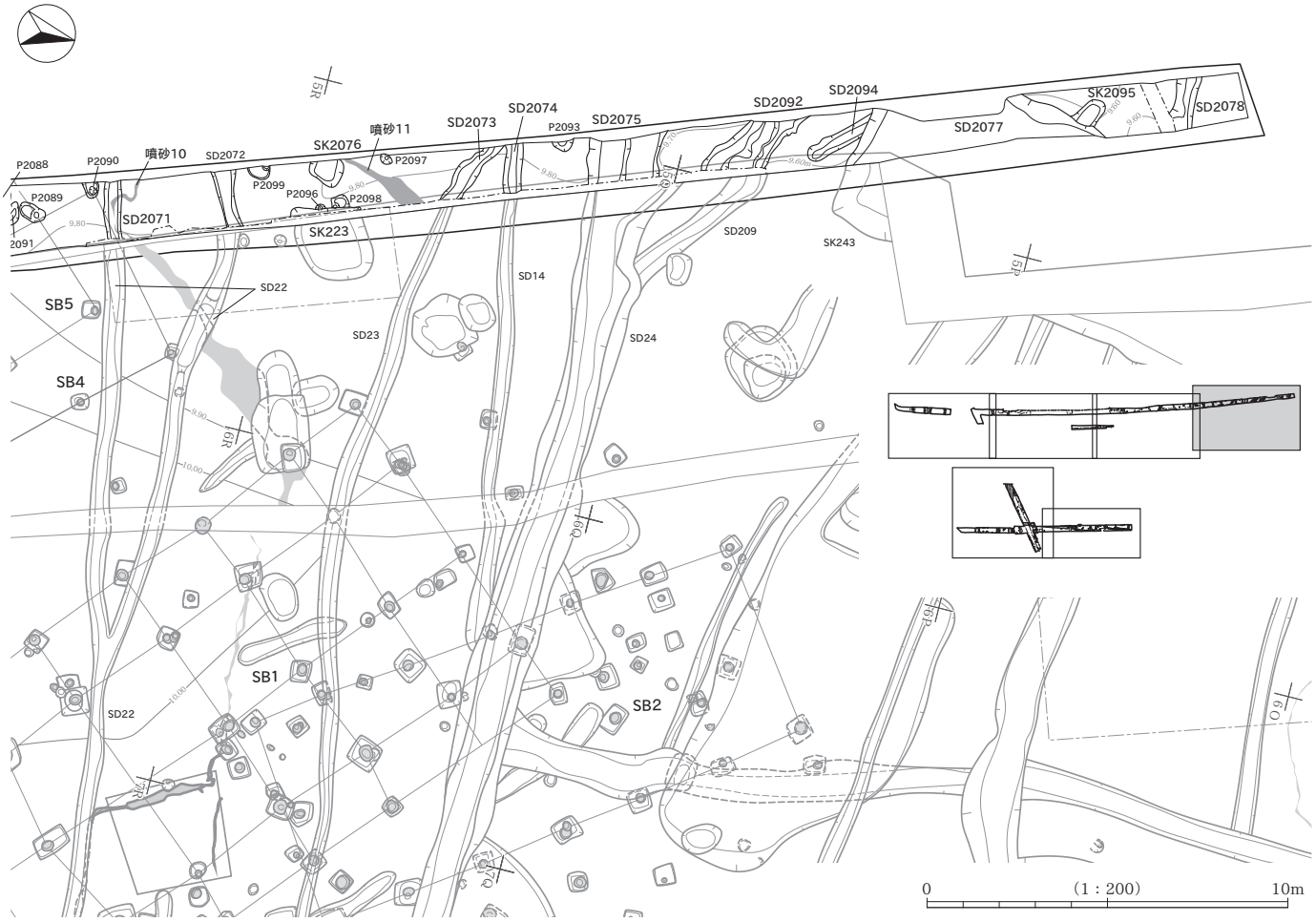

BB
AA
Z
Y
X
W
V
U
T
S
R
Q
P
O
4
5
6
7
8
9
10
11
12
5区
4区
6区
Ⅰ-D区
Ⅱ-B区
Ⅱ-A区
7区
3区
1区
2区
0
(1：400)
20m


SD1308
SD1309
SD1149
SD1309
SF1356
SD2054A
SD2054B
P2128
P2127
P2105
P2115
SK2104
P2126
P2114
SK2106
P2107
P2116
P2108
P2125
SD2001
SD2001
SD2013B
SD2013A
SK2020
P2019
P2014
P2015
P2016
SR2023
SD2021
P2017
P2012
SK2011
P2022
P2018
SD2054A
SD2054B
道１東
P2117
P2118
P2119
P2111
P2129
P2110
噴砂7
P2007
P2003
P2008
SD2002
P2005
P2112
P2109
SD2009
P2100
P2131
P2113
P2120
P2121
P2103
P2122
P2123
SK2102
SX2124
SK2101

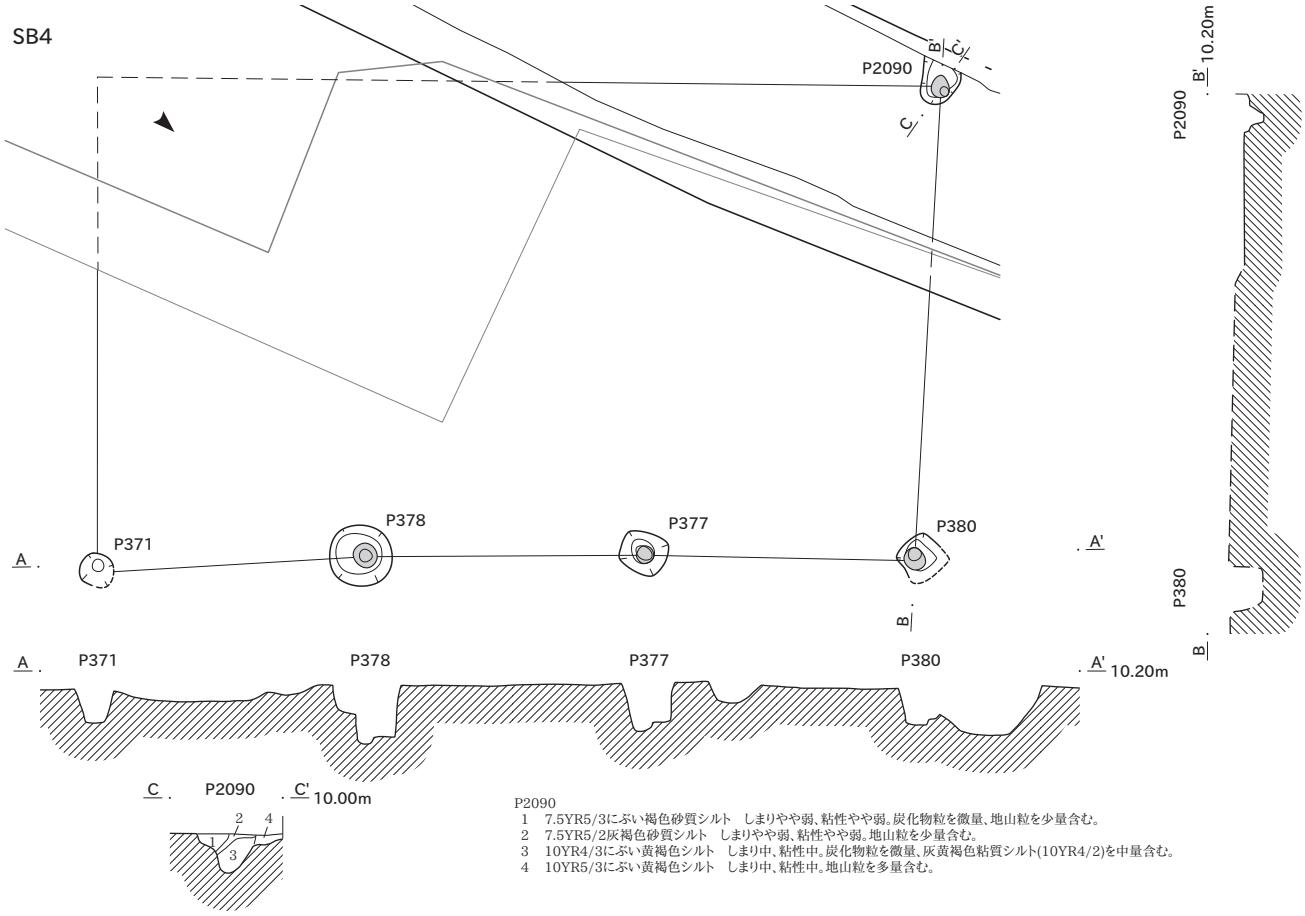

SK2010
P2006
P2055
SK2050
P2025
P2035
SD2001
P2004
P2008
P2045
P2047
P2039
P2026
P2027
SK2060
SD2001
P2037
P2044
P2028
P2059
P2032
SD2034
P2046
P2036
SK2038
SK2057
P2033
P2041
P2029
P2043
P2049
P2048
SD2040
SD2042
SK2024
P2056
SD2058
SD2031
SD2030
噴砂
0
（1：200）
10m


SR2061
SD2062
SD2063
SD2064
SD2066
P2065
道１西
SD1301
SD1303
SD1308
SA1581
SD1309
SD2079
0
(1：200)
10m


噴砂9
噴砂8
P2081
P2080
SD2068
P2084
P2082
P2085
P2083
SD2069
P2086
P2087
SD2070
P2088
P2089
P2091
SB5
SB4
SE225
SD34
SD35
SD20
SB3

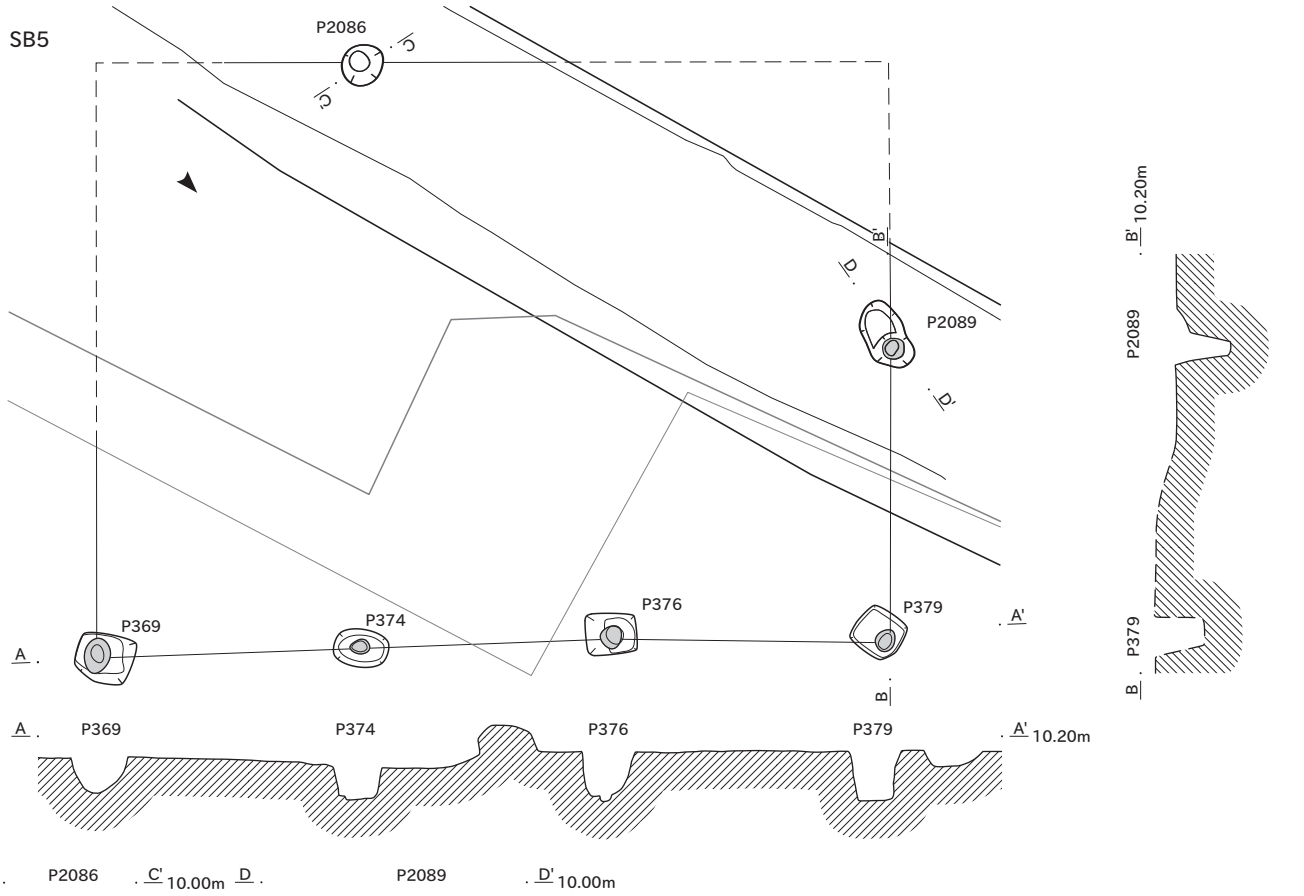

P2088
P2090
噴砂10
SD2072
SK2076
噴砂11
P2097
SD2073
SD2074
P2093
SD2075
SD2092
SD2094
SK2095
SD2078
SD2077
P2089
P2099
P2096
P2098
SD2071
SK223
SD209
SK243
SD14
SD22
SB5
SD23
SD24
SB4
SB1
SB2
0
(1：200)
10m

SB4



P2090
1　7.5YR5/3にぶい褐色砂質シルト　しまりやや弱、粘性やや弱。炭化物粒を微量、地山粒を少量含む。
2　7.5YR5/2灰褐色砂質シルト　しまりやや弱、粘性やや弱。地山粒を少量含む。
3　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を微量、灰黄褐色粘質シルト(10YR4/2)を中量含む。
4　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。地山粒を多量含む。

SB5



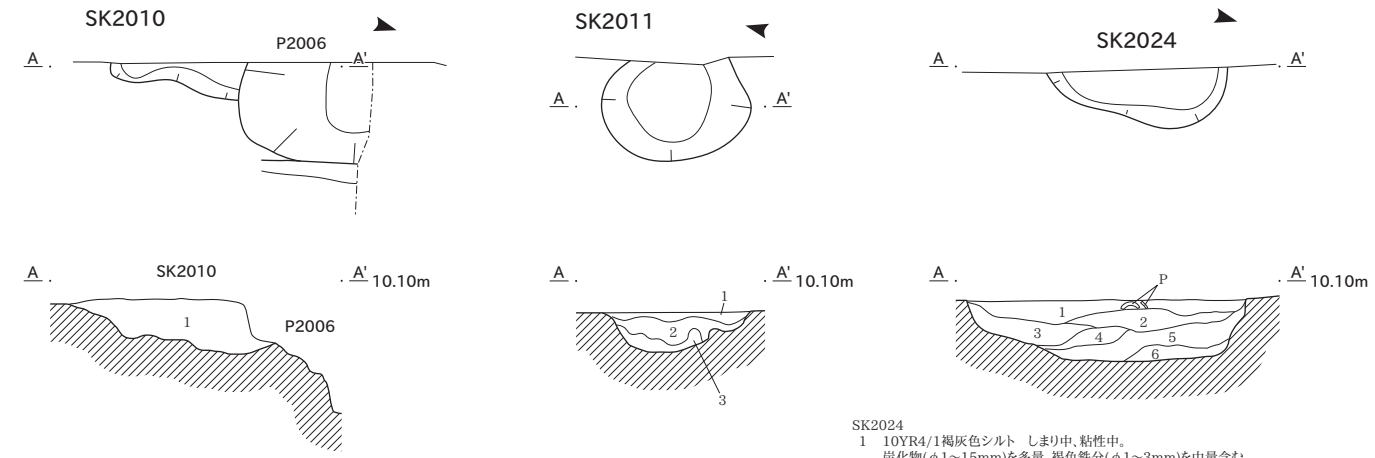
P2089
1　10YR6/2灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を微量、褐灰色シルトブロック(10YR5/1)を少量含む。
2　10YR7/2にぶい黄橙色シルト　しまり中、粘性中。褐灰色シルトブロック(10YR5/1)を少量含む。
3　10YR5/2灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を少量含む。
4　10YR7/2にぶい黄橙色シルト　しまり中、粘性やや強。炭化物粒を少量、褐灰色シルトブロック(10YR4/1)を中量含む。
5　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　しまり中、粘性中。褐灰色シルトブロック(10YR5/1)を少量、礫(φ5～10mm)を少量含む。
6　10YR5/4にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を微量含む。
7　10YR5/2灰黄褐色シルト　しまり中、粘性やや強。炭化物粒を微量、黒褐色シルト(10YR3/1)を中量含む。

P2086
1　10YR5/4にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を微量含む。
2　10YR6/4にぶい黄橙色砂質シルト　しまり中、粘性やや弱。炭化物粒を微量含む。
3　10YR4/2灰黄褐色粘質シルト　しまりやや強、粘性やや強。炭化物粒を少量含む。

柱痕

0　平面図・エレベーション図（1：80）　4m

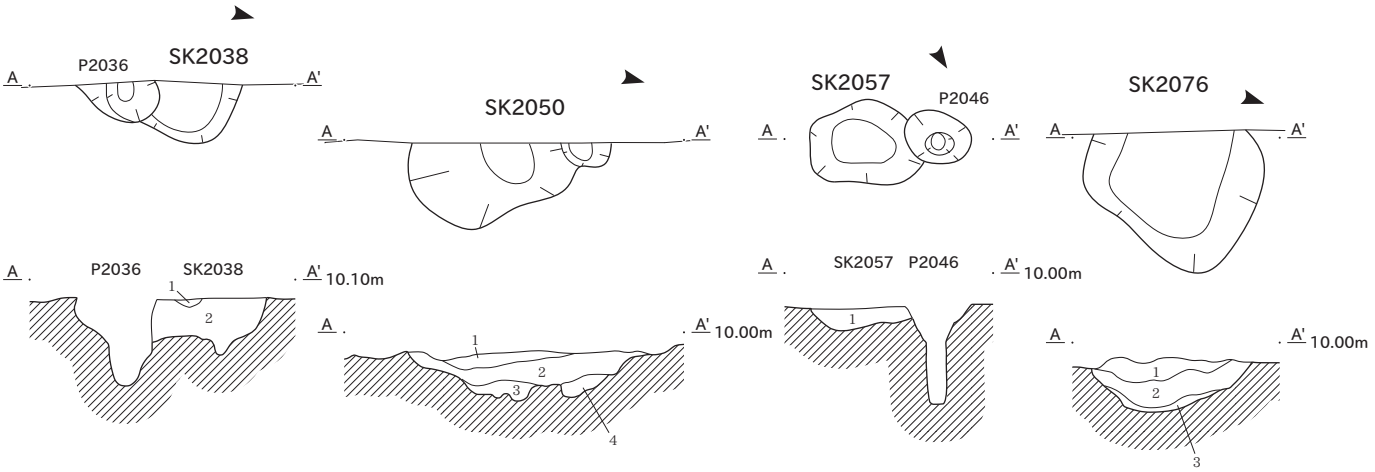
0　断面図（1：40）　2m



SK2010
1　10YR5/1褐灰色シルト　しまり中、粘性中。
　灰白色砂質シルト(10YR7/1)を少量、黒褐色シルトブロック(10YR3/1)を少量含む。

SK2011
1　10YR5/4にぶい黄褐色シルト　しまりやや強、粘性中。にぶい黄橙色砂質シルトブロック(10YR6/3)を中量含む。
2　10YR3/3暗褐色シルト　しまり中、粘性中。褐灰色砂質シルトブロック(10YR5/1)を微量含む。
3　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト　しまり弱、粘性弱。褐灰色砂質シルトブロック(10YR4/1)を多量含む。

SK2024
1　10YR4/1褐灰色シルト　しまり中、粘性中。
　炭化物(φ1～15mm)を多量、褐色鉄分(φ1～3mm)を中量含む。
2　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
　炭化物(φ1～5mm)を中量、黒褐色シルト(10YR3/1)を中量含む。
3　10YR4/2灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
　炭化物粒を中量、黒褐色シルト(10YR3/1)を中量含む。
4　10YR6/2灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
　炭化物(φ1～10mm)を中量、黒褐色シルト(10YR3/1)少量含む。
5　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
　炭化物粒を中量、褐色鉄分(φ1～3mm)を中量、黒褐色シルト(10YR3/1)を中量含む。
6　10YR4/2灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
　炭化物(φ1～3mm)を多量、褐色鉄分(φ1～3mm)を中量含む。

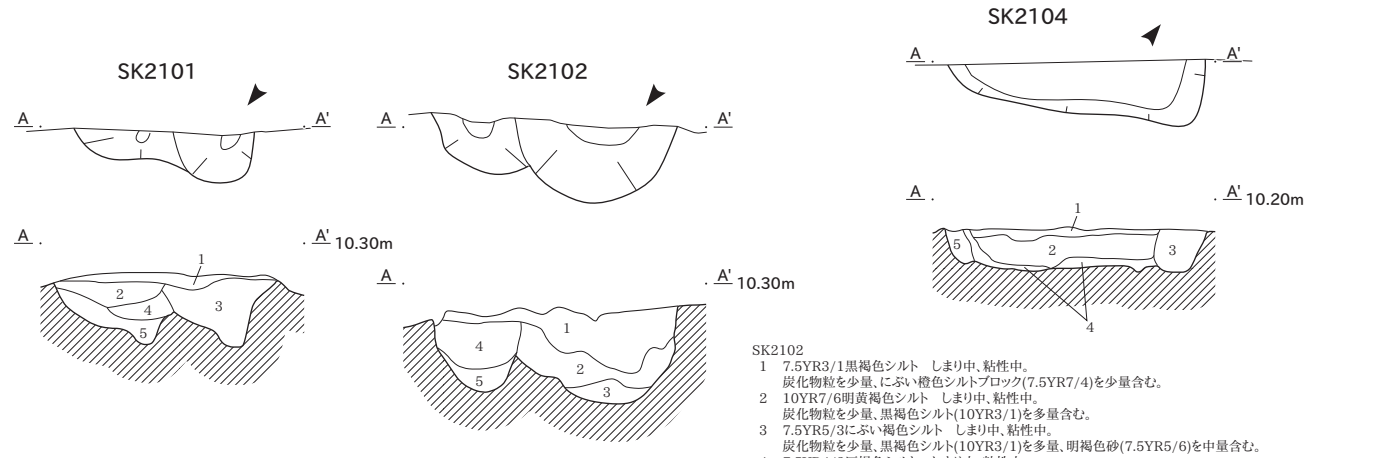


SK2038
1　10YR3/1黒褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を中量、地山ブロックを少量含む。
2　10YR4/2灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を微量、黒色粒子(φ1～2mm)を多量、褐色鉄分(φ1～3mm)を中量含む。

SK2050
1　5YR3/1黒褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物(φ1～5mm)を少量、灰白色シルトブロック(10YR8/1)を少量、褐色鉄分(φ1～2mm)を少量含む。
2　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を少量、地山ブロックを少量含む。
3　10YR6/3にぶい黄橙色シルト　しまり中、粘性中。黒色粒子(φ1～2mm)を少量、地山ブロックを少量含む。
4　10YR4/4褐色シルト　しまり中、粘性中。黒色粒子(φ1～2mm)を少量、地山ブロックを微量含む。

SK2057
1　7.5YR5/2灰褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を少量、灰白色砂質シルト(10YR7/1)を少量含む。

SK2076
1　10YR7/3にぶい黄橙色シルト　しまりやや強、粘性中。炭化物粒を微量、地山ブロックを多量含む。
2　10YR6/3にぶい黄橙色シルト　しまりやや強、粘性やや弱。炭化物粒を微量、地山ブロックを多量、浅黄橙色砂質シルト(10YR8/6)を少量含む。
3　10YR6/2灰黄褐色シルト　しまりやや強、粘性やや強。炭化物粒を微量、地山ブロックを多量含む。

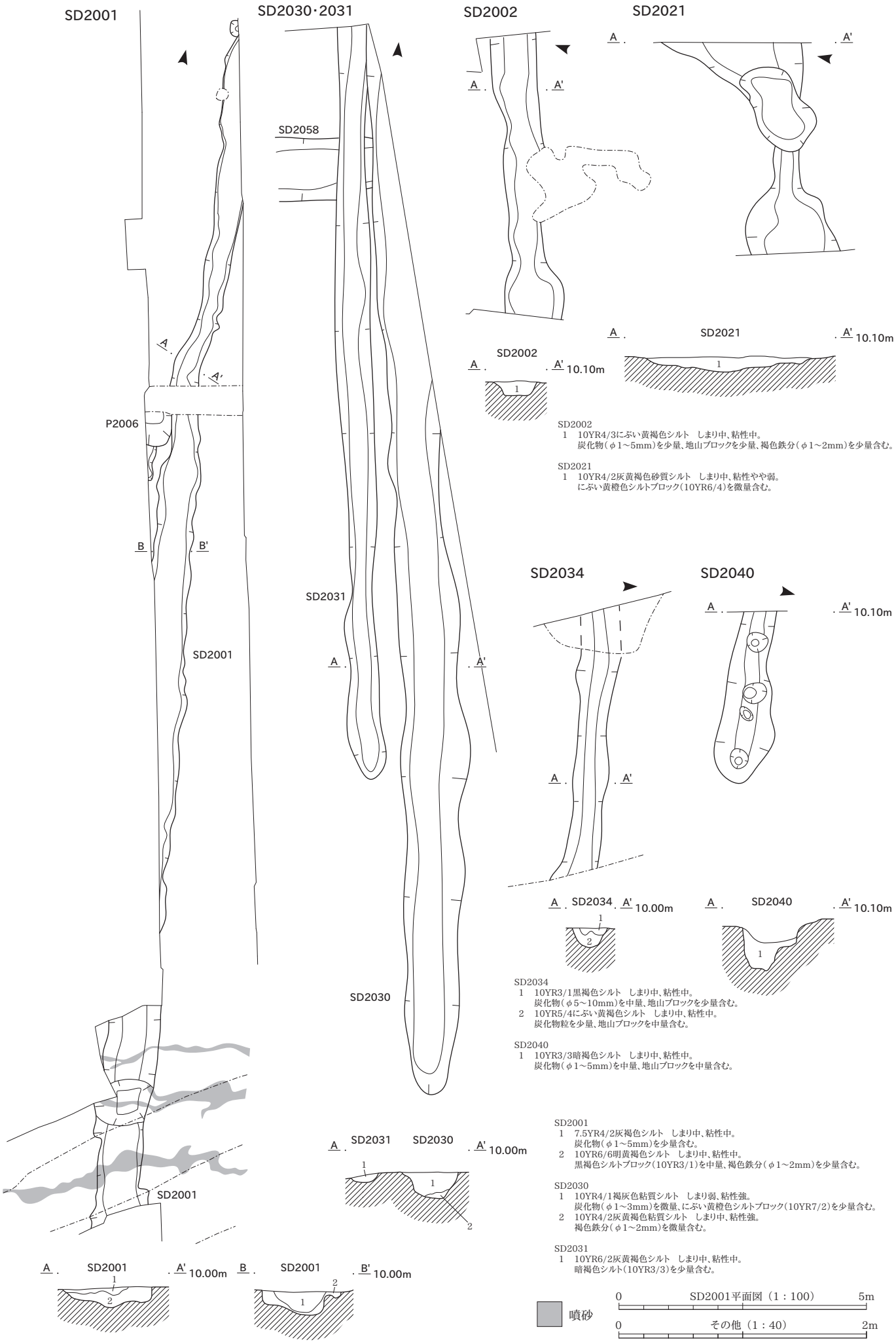


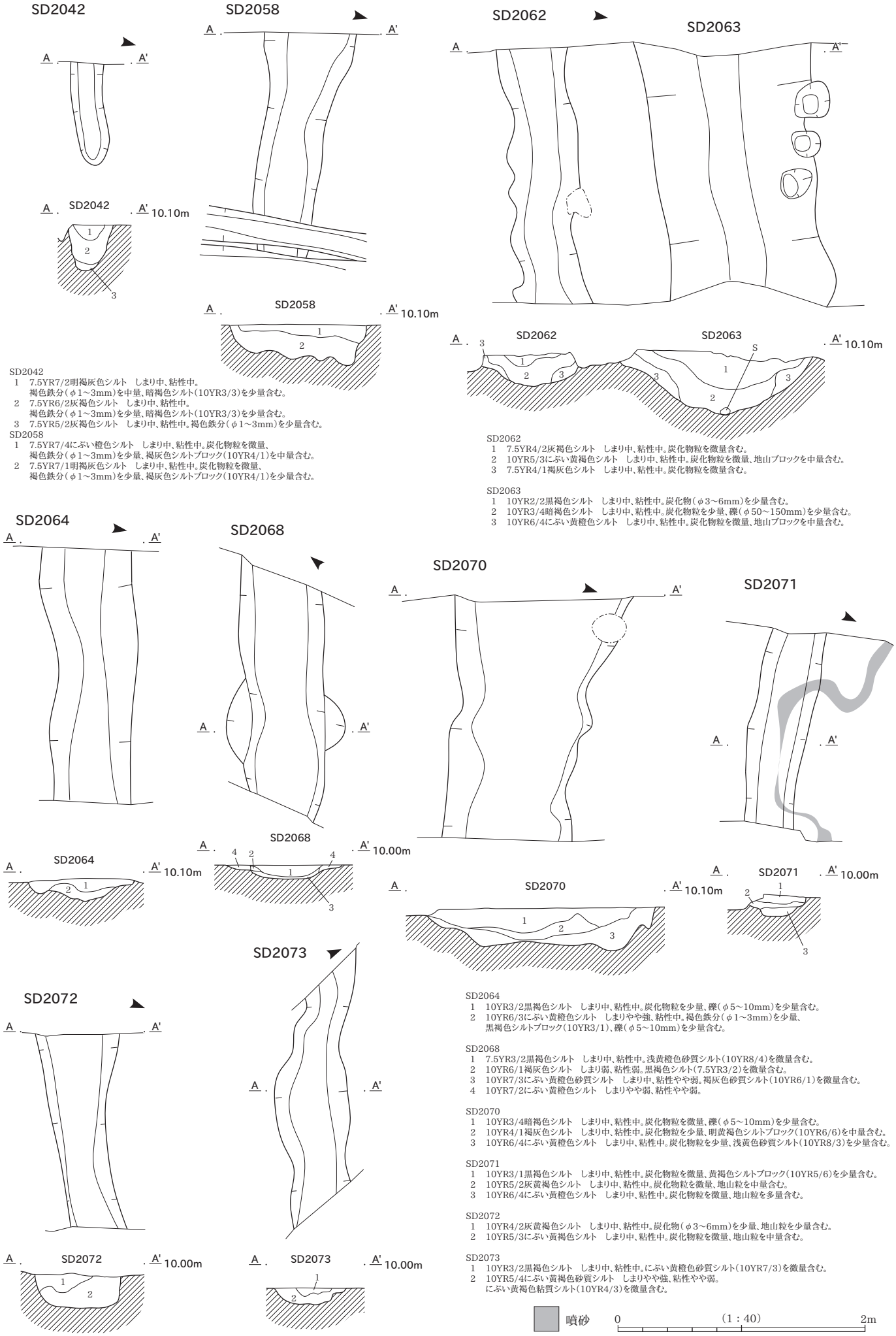
SK2101
1　7.5YR4/2灰褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を微量、灰白色シルトブロック(7.5YR8/2)を微量含む。
2　7.5YR3/1黒褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を少量、礫(φ3～6mm)を少量、明褐色砂(7.5YR5/6)を少量含む。
3　7.5YR7/4にぶい橙色シルト　しまり中、粘性中。炭化物(φ3～6mm)を少量、焼土粒を微量、灰白色シルトブロック(7.5YR8/2)を中量含む。
4　7.5YR6/3にぶい褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を少量含む。
5　10YR6/4にぶい黄橙色シルト　しまり中、粘性やや弱。炭化物粒を少量、明褐色砂(7.5YR5/6)を中量、灰白色シルトブロック(7.5YR8/2)を中量含む。

SK2102
1　7.5YR3/1黒褐色シルト　しまり中、粘性中。
　炭化物粒を少量、にぶい橙色シルトブロック(7.5YR7/4)を少量含む。
2　10YR7/6明黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
　炭化物粒を少量、黒褐色シルト(10YR3/1)を多量含む。
3　7.5YR5/3にぶい褐色シルト　しまり中、粘性中。
　炭化物粒を少量、黒褐色シルト(10YR3/1)を多量、明褐色砂(7.5YR5/6)を中量含む。
4　7.5YR4/2灰褐色シルト　しまり中、粘性中。
　炭化物(φ3～6mm)を少量、にぶい橙色シルトブロック(7.5YR7/4)を少量含む。
5　7.5YR6/3にぶい褐色シルト　しまり中、粘性粘性やや弱。
　炭化物粒を少量、褐灰色シルト(10YR4/1)を中量、明褐色砂(7.5YR5/6)を中量含む。

SK2104
1　7.5YR4/1褐灰色シルト　しまり中、粘性中。褐色鉄分(φ1～3mm)を多量含む。
2　7.5YR4/1褐灰色シルト　しまりやや強、粘性やや強。褐色鉄分(φ1～3mm)を微量含む。
3　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　しまり中、粘性中。褐灰色シルトブロック(10YR4/1)を少量含む。
4　10YR4/2灰黄褐色シルト　しまり弱、粘性やや強。褐灰色シルトブロック(10YR4/1)を中量含む。
5　10YR5/2灰黄褐色シルト　しまり中、粘性やや弱。褐灰色シルトブロック(10YR4/1)を微量含む。

0　（1：40）　2m


SD2001
SD2030・2031
SD2002
SD2021
SD2058
P2006
SD2031
SD2001
SD2030
SD2034
SD2040
A
A'
B
B'
10.00m
10.10m
SD2002
1　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
炭化物（φ1～5mm）を少量、地山ブロックを少量、褐色鉄分（φ1～2mm）を少量含む。
SD2021
1　10YR4/2灰黄褐色砂質シルト　しまり中、粘性やや弱。
にぶい黄橙色シルトブロック（10YR6/4）を微量含む。
SD2034
1　10YR3/1黒褐色シルト　しまり中、粘性中。
炭化物（φ5～10mm）を中量、地山ブロックを少量含む。
2　10YR5/4にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
炭化物粒を少量、地山ブロックを中量含む。
SD2040
1　10YR3/3暗褐色シルト　しまり中、粘性中。
炭化物（φ1～5mm）を中量、地山ブロックを中量含む。
SD2001
1　7.5YR4/2灰褐色シルト　しまり中、粘性中。
炭化物（φ1～5mm）を少量含む。
2　10YR6/6明黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
黒褐色シルトブロック（10YR3/1）を中量、褐色鉄分（φ1～2mm）を少量含む。
SD2030
1　10YR4/1褐灰色粘質シルト　しまり弱、粘性強。
炭化物（φ1～3mm）を微量、にぶい黄橙色シルトブロック（10YR7/2）を少量含む。
2　10YR4/2灰黄褐色粘質シルト　しまり中、粘性強。
褐色鉄分（φ1～2mm）を微量含む。
SD2031
1　10YR6/2灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
暗褐色シルト（10YR3/3）を少量含む。
噴砂
0　SD2001平面図（1：100）　5m
0　その他（1：40）　2m



SD2042
1　7.5YR7/2明褐灰色シルト　しまり中、粘性中。
　褐色鉄分（φ1～3mm）を中量、暗褐色シルト（10YR3/3）を少量含む。
2　7.5YR6/2灰褐色シルト　しまり中、粘性中。
　褐色鉄分（φ1～3mm）を少量、暗褐色シルト（10YR3/3）を少量含む。
3　7.5YR5/2灰褐色シルト　しまり中、粘性中。褐色鉄分（φ1～3mm）を少量含む。

SD2058
1　7.5YR7/4にぶい橙色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を微量、
　褐色鉄分（φ1～3mm）を少量、褐灰色シルトブロック（10YR4/1）を中量含む。
2　7.5YR7/1明褐灰色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を微量、
　褐色鉄分（φ1～3mm）を少量、褐灰色シルトブロック（10YR4/1）を少量含む。

SD2062
1　7.5YR4/2灰褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を微量含む。
2　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を微量、地山ブロックを中量含む。
3　7.5YR4/1褐灰色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を微量含む。

SD2063
1　10YR2/2黒褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物（φ3～6mm）を少量含む。
2　10YR3/4暗褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を少量、礫（φ50～150mm）を少量含む。
3　10YR6/4にぶい黄橙色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を微量、地山ブロックを中量含む。

SD2064
1　10YR3/2黒褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を少量、礫（φ5～10mm）を少量含む。
2　10YR6/3にぶい黄橙色シルト　しまりやや強、粘性中。褐色鉄分（φ1～3mm）を少量、
　黒褐色シルトブロック（10YR3/1）、礫（φ5～10mm）を少量含む。

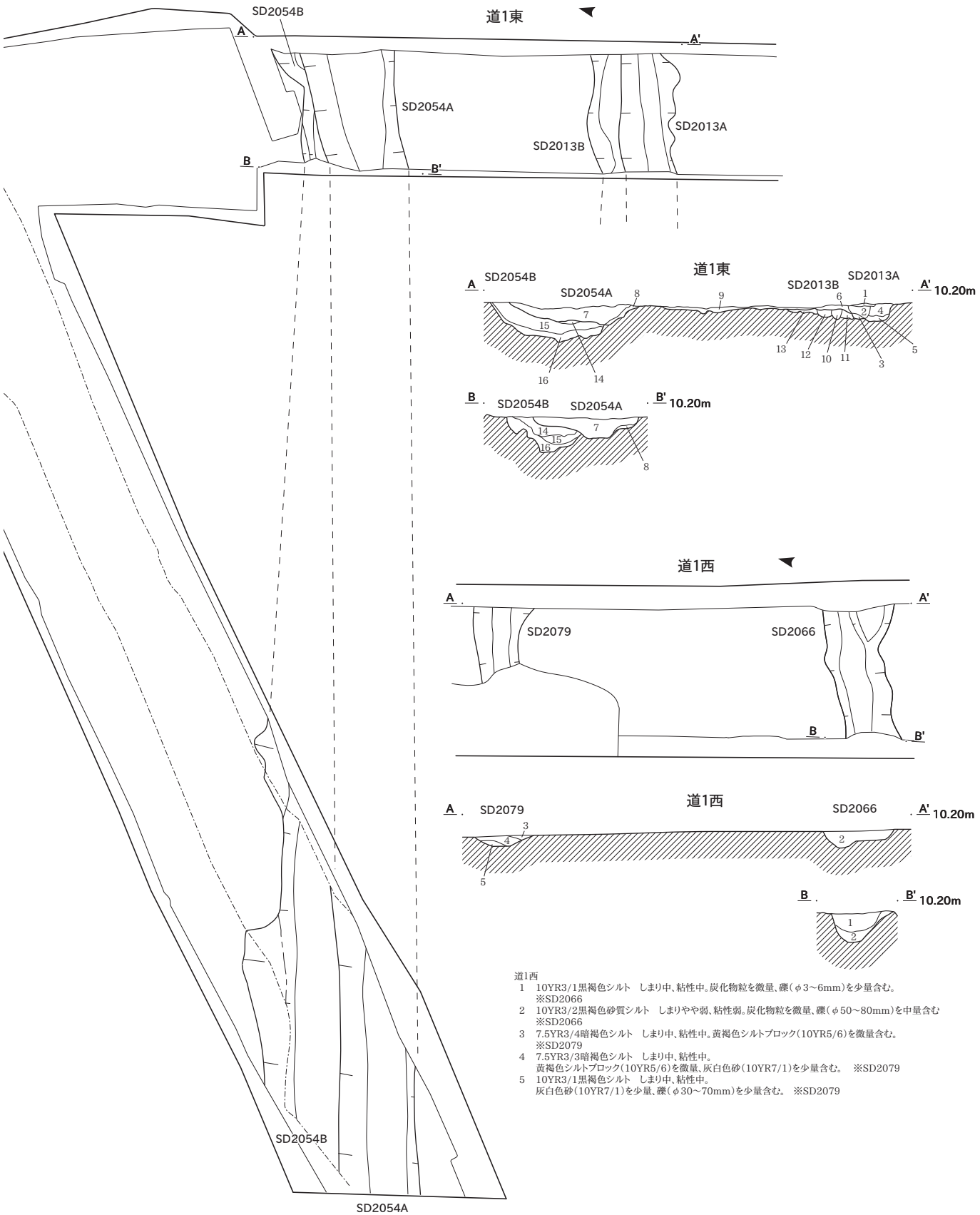
SD2068
1　7.5YR3/2黒褐色シルト　しまり中、粘性中。浅黄橙色砂質シルト（10YR8/4）を微量含む。
2　10YR6/1褐灰色シルト　しまり弱、粘性弱。黒褐色シルト（7.5YR3/2）を微量含む。
3　10YR7/3にぶい黄橙色砂質シルト　しまり中、粘性やや弱。褐灰色砂質シルト（10YR6/1）を微量含む。
4　10YR7/2にぶい黄橙色シルト　しまりやや弱、粘性やや弱。

SD2070
1　10YR3/4暗褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を微量、礫（φ5～10mm）を少量含む。
2　10YR4/1褐灰色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を少量、明黄褐色シルトブロック（10YR6/6）を中量含む。
3　10YR6/4にぶい黄橙色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を少量、浅黄色砂質シルト（10YR8/3）を少量含む。

SD2071
1　10YR3/1黒褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を微量、黄褐色シルトブロック（10YR5/6）を少量含む。
2　10YR5/2灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を微量、地山粒を中量含む。
3　10YR6/4にぶい黄橙色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を微量、地山粒を多量含む。

SD2072
1　10YR4/2灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物（φ3～6mm）を少量、地山粒を少量含む。
2　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を微量、地山粒を中量含む。

SD2073
1　10YR3/2黒褐色シルト　しまり中、粘性中。にぶい黄橙色砂質シルト（10YR7/3）を微量含む。
2　10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルト　しまりやや強、粘性やや弱。
　にぶい黄褐色粘質シルト（10YR4/3）を微量含む。

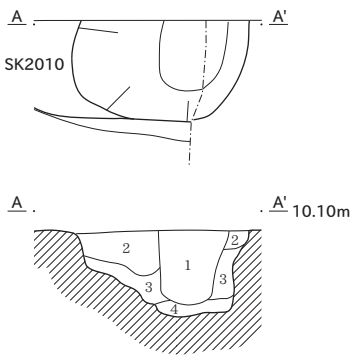


道1西
1　10YR3/1黒褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を微量、礫（φ3～6mm）を少量含む。
　※SD2066
2　10YR3/2黒褐色砂質シルト　しまりやや弱、粘性弱。炭化物粒を微量、礫（φ50～80mm）を中量含む
　※SD2066
3　7.5YR3/4暗褐色シルト　しまり中、粘性中。黄褐色シルトブロック（10YR5/6）を微量含む。
　※SD2079
4　7.5YR3/3暗褐色シルト　しまり中、粘性中。
　黄褐色シルトブロック（10YR5/6）を微量、灰白色砂（10YR7/1）を少量含む。　※SD2079
5　10YR3/1黒褐色シルト　しまり中、粘性中。
　灰白色砂（10YR7/1）を少量、礫（φ30～70mm）を少量含む。　※SD2079

道1東
1　7.5YR5/2灰褐色シルト　しまり中、粘性中。褐色鉄分（φ1～5mm）を少量含む。　※SD2013A
2　10YR4/4褐色砂　しまり弱、粘性弱。礫（φ3～10mm）を中量含む。　※SD2013A
3　10YR5/3にぶい黄褐色砂　しまり中、粘性弱。褐灰色シルト（10YR5/1）を少量含む。　※SD2013A
4　10YR3/3暗褐色シルト　しまり中、粘性強。炭化物（φ1～3mm）を少量、地山ブロックを少量含む。　※SD2013A
5　10YR3/4暗褐色砂質シルト　しまり中、粘性中。炭化物（φ1～3mm）を少量、地山ブロックを少量含む。　※SD2013A
6　10YR3/3暗褐色シルト　しまり中、粘性強い。黒色粒子（φ1～3mm）を多量、褐色砂（10YR4/4）を少量含む。　※SD2013A
7　10YR3/3暗褐色シルト　しまり中、粘性中。褐灰色シルト（10YR5/1）を少量、礫（φ50～100mm）を中量含む。　※SD2054A
8　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。灰白色砂質シルト（10YR7/1）を中量含む。　※SD2054A
9　7.5YR5/3にぶい褐色シルト　しまり中、粘性中。
　Ⅳ層土ブロックを少量、赤褐色鉄分（φ1～5mm）を少量、黒色粒子（φ1～3mm）を多量含む。
10　5YR4/4にぶい赤褐色砂　しまり弱、粘性弱。黄色粒子（5YR8/8）を少量含む。　※SD2013B
11　10YR6/4にぶい黄橙色砂質シルト　しまり中、粘性弱。
　褐色鉄分（φ1～5mm）を少量、褐色シルトブロック（10YR4/4）を少量含む。　※SD2013B
12　10YR6/4にぶい黄橙色砂質シルト　しまり中、粘性弱。
　褐色鉄分（φ1～5mm）を少量、褐色シルトブロック（10YR4/4）を中量含む。　※SD2013B
13　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
　Ⅳ層土ブロックを中量、暗褐色シルトブロック（10YR3/3）を中量含む。　※SD2013B
14　10YR3/3暗褐色砂質シルト　しまり中、粘性弱。
　褐色砂（10YR4/4）を中量含む。　※SD2054
15　10YR3/1黒褐色シルト　しまり中、粘性中。地山ブロックを微量含む。　※SD2054
16　10YR4/1褐灰色シルト　しまり中、粘性中。地山ブロックを中量含む。　※SD2054

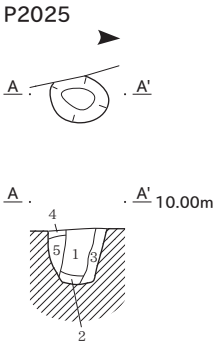
0　（1：80）　4m

P2006



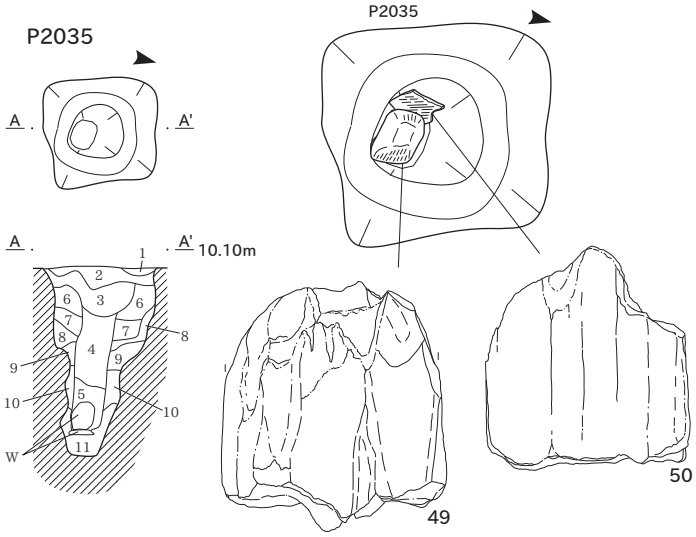
P2006
1　10YR3/1黒褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物（φ1～5mm）を少量、地山ブロックを中量含む。
2　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト　しまり中、粘性中。
　地山ブロックを多量、褐色鉄分（φ1～2mm）を少量含む。
3　10YR4/1褐灰色シルト　しまり中、粘性中。炭化物（φ1～3mm）を少量、地山ブロックを少量含む。
4　10YR7/1灰白色粘質シルト　しまり強、粘性強。黒褐色シルト（10YR3/1）を少量含む。

P2025



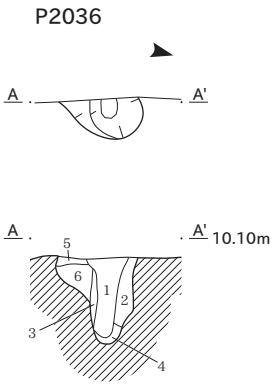
P2025
1　10YR3/1黒褐色シルト　しまり中、粘性中。焼土粒を微量、炭化物粒を少量、地山ブロックを少量含む。
2　10YR7/3にぶい黄橙色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を微量、褐灰色シルトブロック（10YR4/1）を少量含む。
3　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を少量、褐灰色シルトブロック（10YR4/1）を少量含む。
4　10YR5/2灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を少量、暗褐色シルト（10YR3/3）を中量含む。
5　10YR7/2にぶい黄橙色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を少量、暗褐色シルト（10YR3/3）を少量含む。

P2035



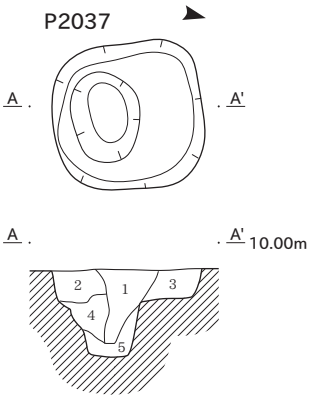
P2035
1　10YR5/2灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物（φ1～3mm）を少量含む。
2　7.5YR4/1褐灰色シルト　しまり中、粘性中。炭化物（φ1～3mm）を少量、地山ブロックを少量含む。
3　10YR4/4褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を少量、地山ブロックを中量含む。
4　10YR3/1黒褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物（φ1～5mm）を少量、
　にぶい黄褐色シルトブロック（10YR5/4）を少量含む。
5　10YR2/1黒色粘質シルト　しまり弱、粘性強。炭化物（φ1～5mm）を少量含む。
6　7.5YR5/2灰褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を微量、地山ブロックを少量含む。
7　10YR3/1黒褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物（φ1～5mm）を少量、地山ブロックを少量含む。
8　10YR6/3にぶい黄橙色シルト　しまり中、粘性中。
　褐色鉄分（φ1～3mm）を少量、暗褐色シルトブロック（10YR3/3）を少量含む。
9　10YR4/2灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を少量、褐色鉄分（φ1～3mm）を少量含む。
10　10YR7/1灰白色粘質シルト　しまりやや強、粘性強。炭化物粒を少量、黒褐色シルト（10YR3/1）を少量含む。
11　10YR8/2灰白色粘土　しまり強、粘性強。炭化物粒を微量含む。

P2036



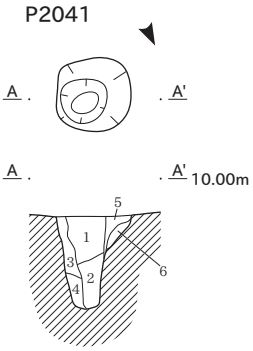
P2036
1　10YR3/1黒褐色シルト　しまり中、粘性中。焼土粒を少量、
　炭化物（φ1～10mm）を多量、地山ブロックを少量含む。
2　10YR3/3暗褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を少量、褐灰色シルト（10YR5/1）を中量含む。
3　10YR8/4浅黄橙色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を多量、褐灰色シルト（10YR5/1）を少量含む。
4　10YR7/1灰白色粘質シルト　しまり中、粘性強。炭化物粒を微量、暗褐色シルト（10YR3/3）を少量含む。
5　10YR3/1黒褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を小量、地山ブロックを少量含む。
6　10YR6/3にぶい黄橙色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を微量、黒褐色シルト（10YR3/1）を少量含む。

P2037



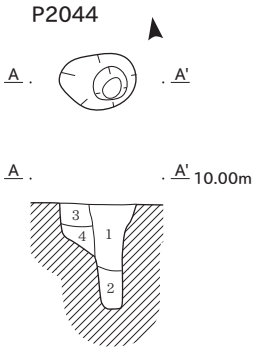
P2037
1　10YR2/2黒褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物（φ1～3mm）を少量、地山ブロックを少量含む。
2　10YR5/6黄褐色シルト　しまり強、粘性中。地山ブロックを少量、暗褐色シルト（10YR3/3）を中量含む。
3　10Y4R/2灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物（φ1～3mm）を微量、地山ブロックを中量含む。
4　10YR6/6明黄褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物（φ1～3mm）を微量、
　褐色鉄分（φ1～3mm）を中量、地山ブロックを中量含む。
5　10YR7/1灰白色粘質シルト　しまり中、粘性強。炭化物（φ1～3mm）を微量、
　褐色鉄分（φ1～3mm）を微量含む。

P2041



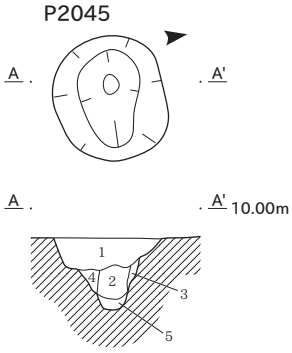
P2041
1　10YR3/1黒褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物（φ1～3mm）を中量、地山ブロックを少量含む。
2　10YR3/3暗褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を少量、地山ブロックを中量含む。
3　10YR2/1黒色粘質シルト　しまり弱、粘性強。焼土粒を微量、炭化物（φ1～3mm）を少量含む。
4　10YR4/1褐灰色粘質シルト　しまり中、粘性強。炭化物粒を少量含む。
5　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。灰白色砂質シルト（10YR8/1）を少量、
　暗褐色シルト（10YR3/3）を中量含む。
6　10YR6/6明黄褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を微量、暗褐色シルト（10YR3/3）を少量含む。

P2044



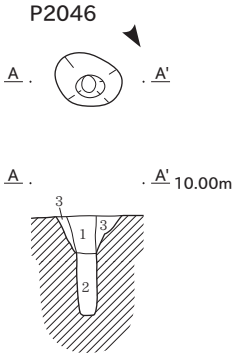
P2044
1　10YR3/1黒褐色シルト　しまり中、粘性中。焼土粒を微量、
　炭化物（φ3～10mm）を多量、明黄褐色シルトブロック（10YR7/6）を中量含む。
2　10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト　しまり中、粘性強。炭化物粒を微量、
　明黄褐色シルトブロック（10YR7/6）を少量含む。
3　10YR3/3暗褐色砂質シルト　しまり中、粘性中。炭化物（φ3～10mm）を少量、
　にぶい黄褐色砂質シルト（10YR6/3）を中量含む。
4　10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を微量、
　暗褐色シルトブロック（10YR3/3）を少量含む。

P2045



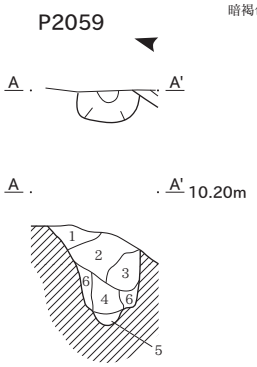
P2045
1　10YR5/6黄褐色シルト　しまり中、粘性中。焼土粒を微量、炭化物（φ1～3mm）を中量、
　暗褐色シルトブロック（10YR3/3）を多量含む。
2　10YR3/1黒褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を少量、地山ブロックを少量含む。
3　10YR5/2灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を少量含む。
4　10YR6/2灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を少量、褐色鉄分（φ1～5mm）を少量含む。
5　10YR7/1灰白色粘質シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を微量、褐色鉄分（φ1～5mm）を微量含む。

P2046



P2046
1　10YR3/1黒褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を微量、地山ブロックを少量含む。
2　10YR4/1褐灰色シルト　しまり中、粘性強。炭化物粒を微量、地山ブロックを少量含む。
3　10YR4/2灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物粒を微量、にぶい黄橙色砂質シルト（10YR5/4）を少量含む。

P2059



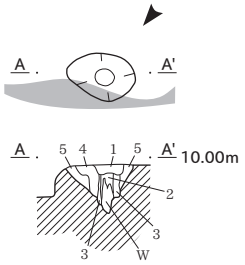
P2059
1　7.5YR3/2黒褐色シルト　しまり中、粘性中。黒色粒子（φ1～2mm）を少量、
　灰白色シルトブロック（10YR7/1）を少量含む。
2　10YR3/1黒褐色シルト　しまり中、粘性中。黒色粒子（φ1～2mm）を少量、
　灰白色シルトブロック（10YR7/1）を中量含む。
3　10YR3/3暗褐色シルト　しまり中、粘性中。黒色粒子（φ1～2mm）を少量、
　灰白色シルトブロック（10YR7/1）を多量含む。
4　10YR3/1黒褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物（φ1～5mm）を少量、
　黄褐色シルトブロック（10YR5/6）を中量含む。
5　10YR4/1褐灰色粘質シルト　しまり中、粘性強い。
　灰白色シルトブロック（10YR7/1）を少量含む。
6　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　しまり強い、粘性中。
　黒色粒子（φ1～2mm）を少量、Ⅳ層土ブロックを中量含む。

0　遺物実測図（1：5）　20cm

0　P2035木材出土状況平面図（1：20）　1m

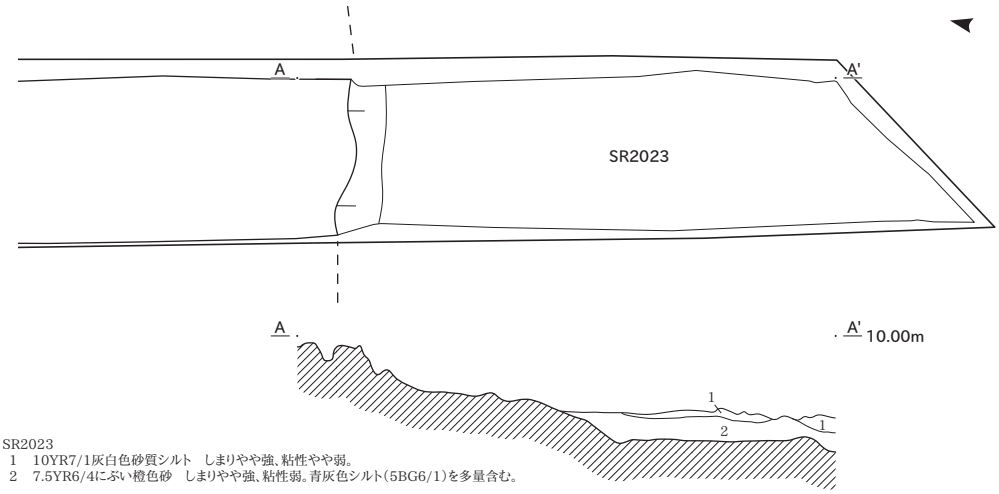
0　その他（1：40）　2m

P2120



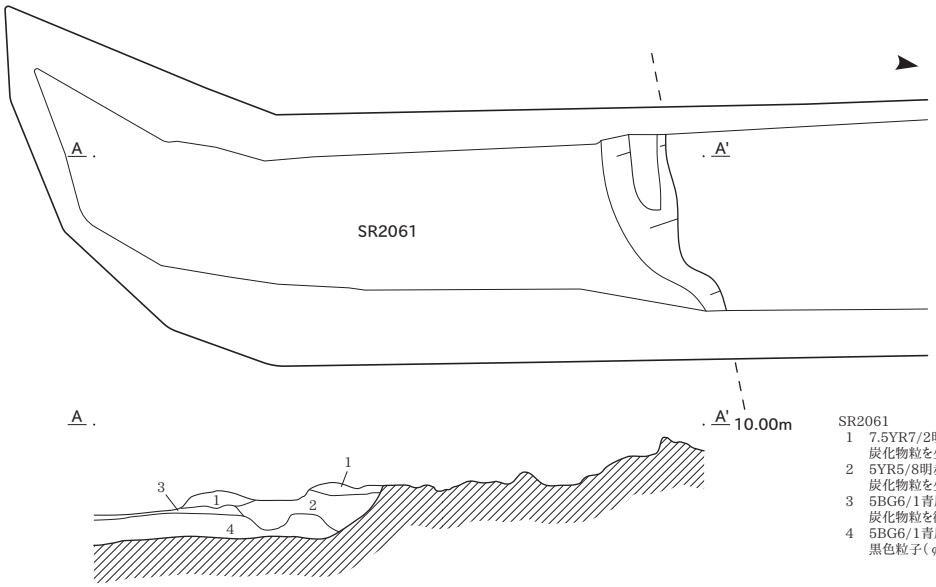
P2120
1　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　しまり中、粘性中。
　炭化物粒を微量、地山ブロックを少量含む。
2　10YR5/6黄褐色砂（粗粒砂）　しまり弱、粘性弱。
　炭化物粒を微量、礫（φ3～6mm）を少量含む。
3　10YR3/1黒褐色粘質シルト　しまり強、粘性強。
　炭化物粒を微量含む。
4　10YR4/2灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
　炭化物粒を少量含む。
5　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
　炭化物粒を微量、地山粒を少量含む。

SR2023



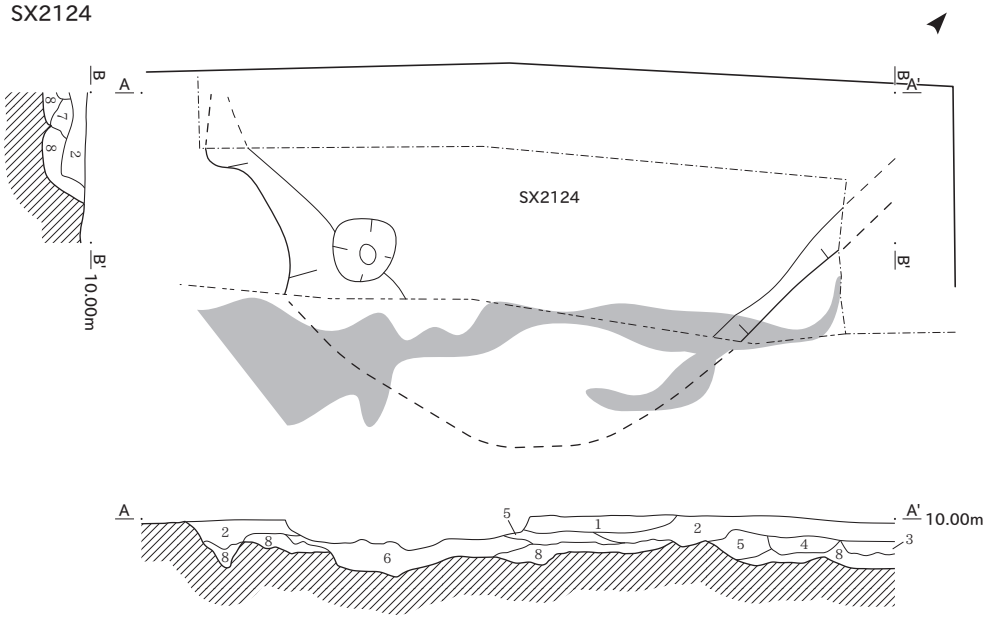
SR2023
1　10YR7/1灰白色砂質シルト　しまりやや強、粘性やや弱。
2　7.5YR6/4にぶい橙色砂　しまりやや強、粘性弱。青灰色シルト（5BG6/1）を多量含む。

SR2061



SR2061
1　7.5YR7/2明褐灰色粘質シルト　しまり強、粘性強。
　炭化物粒を少量、黒色粒子（φ1～2mm）を少量、赤褐色鉄分（φ1～5mm）を多量含む。
2　5YR5/8明赤褐色砂質シルト　しまりやや強、粘性弱。
　炭化物粒を少量、黒色粒子（φ1～2mm）を少量、赤褐色鉄分（φ1～5mm）を多量含む。
3　5BG6/1青灰色砂質シルト　しまりやや強、粘性弱。
　炭化物粒を微量、黒色粒子（φ1～2mm）を少量、赤褐色鉄分（φ1～5mm）を中量含む。
4　5BG6/1青灰色粘質シルト　しまり強、粘性強。
　黒色粒子（φ1～2mm）を少量、赤褐色鉄分（φ1～5mm）を中量含む。

SX2124

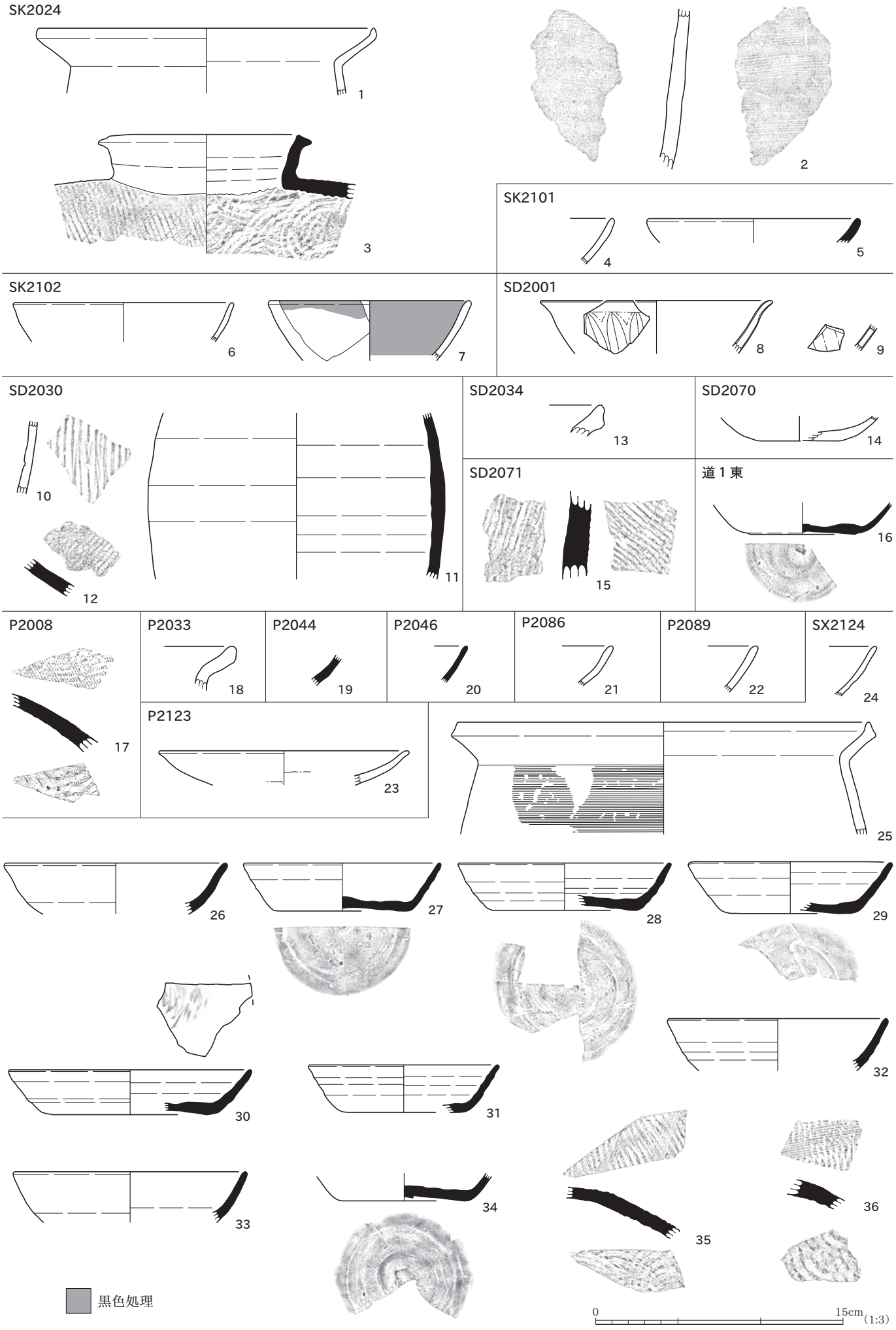


SX2124
1　10YR7/6明黄褐色シルト　しまり強、粘性中。
　炭化物（φ3～6mm）を中量、焼土粒を少量、
　地山ブロックを多量含む。
2　10YR3/1黒褐色シルト　しまり弱、粘性中。
　炭化物（φ6～20mm）を中量、焼土粒を少量、
　地山ブロックを微量含む。
3　10YR2/2黒褐色シルト　しまり強、粘性中。
　炭化物粒を中量、焼土粒を少量、地山粒を微量含む。
4　10YR4/1褐灰色シルト　しまり中、粘性中。
　炭化物（φ3～6mm）を中量、焼土粒を少量、
　地山ブロックを少量含む。
5　10YR6/2灰黄褐色シルト　しまりやや強、粘性中。
　炭化物（φ3～10mm）を中量、焼土粒を少量含む。
6　10YR2/2黒褐色シルト　しまり中、粘性中。
　炭化物（φ6～20mm）を中量、焼土粒を少量、
　地山ブロックを多量含む。
7　10YR5/2灰黄褐色シルト　しまりやや強、粘性中。
　炭化物（φ3～6mm）を多量、焼土粒を少量、
　地山ブロックを少量含む。
8　10YR6/4にぶい黄橙色シルト　しまり強、粘性中。
　炭化物（φ3～6mm）を少量、地山粒を多量含む。

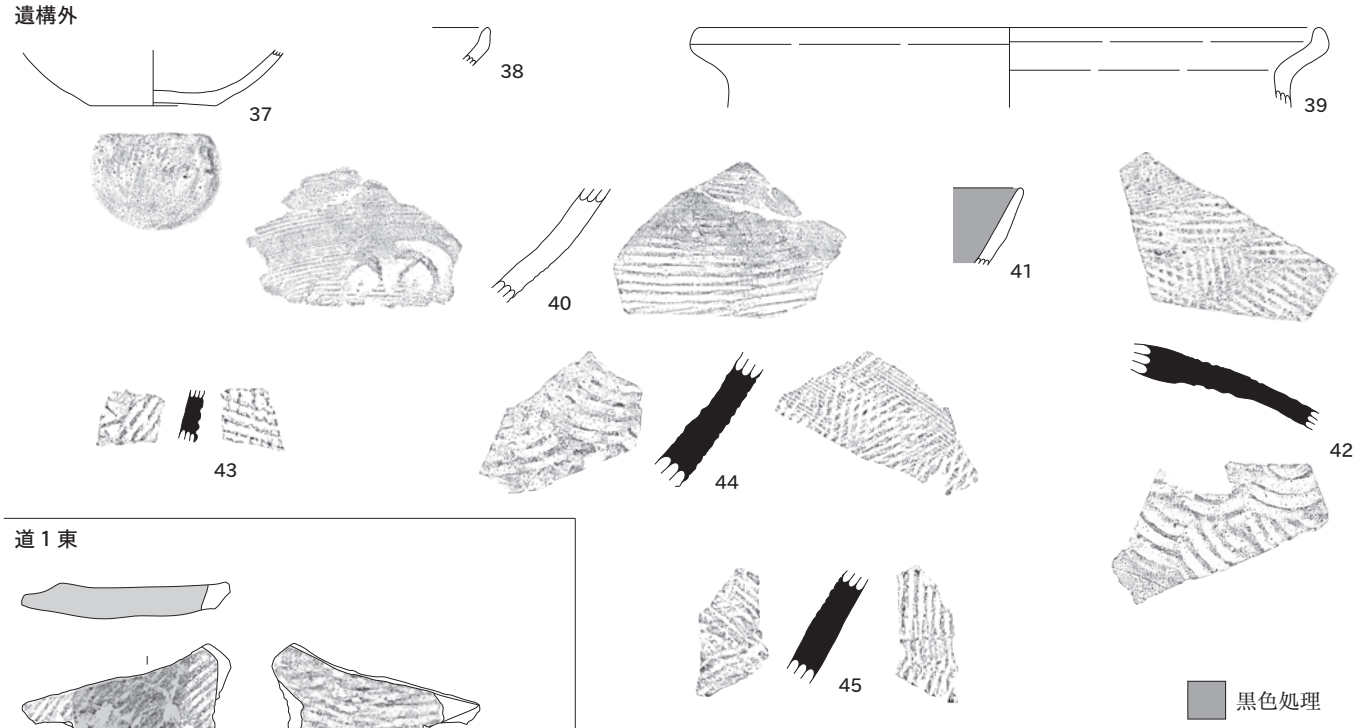
噴砂

0　SR2023・SR2061（1：80）　4m

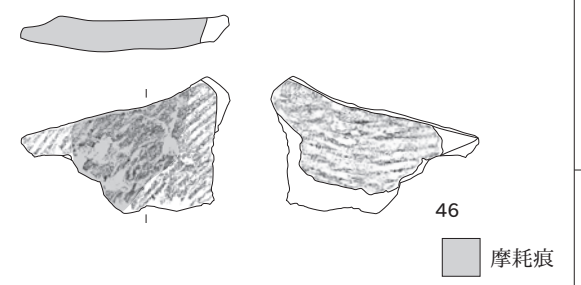
0　その他（1：40）　2m


SK2024
1
2
3
SK2101
4
5
SK2102
6
7
SD2001
8
9
SD2030
10
11
12
SD2034
13
SD2070
14
SD2071
15
道１東
16
P2008
17
P2033
18
P2044
19
P2046
20
P2086
21
P2089
22
SX2124
24
P2123
23
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
黒色処理
0
15cm
(1:3)

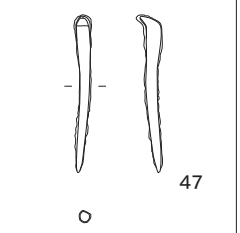
遺構外



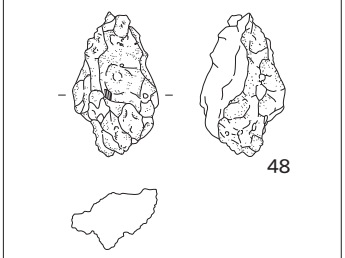
道１東



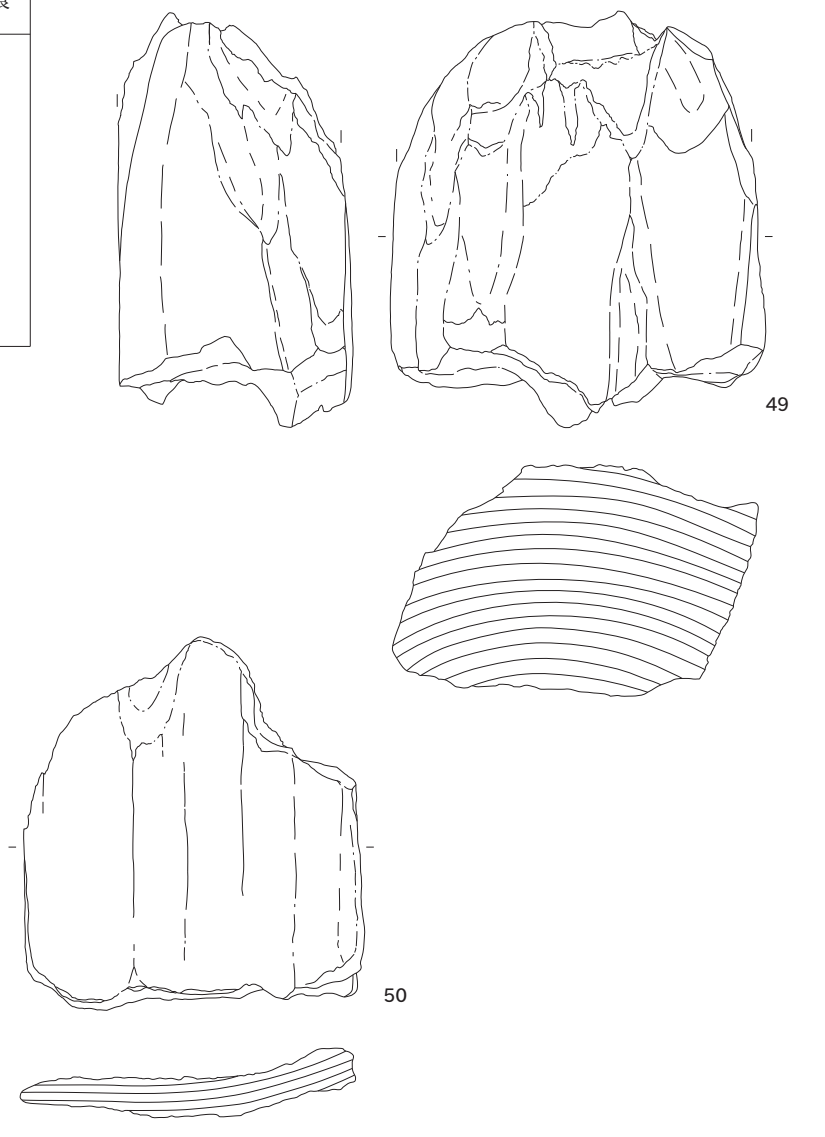
遺構外



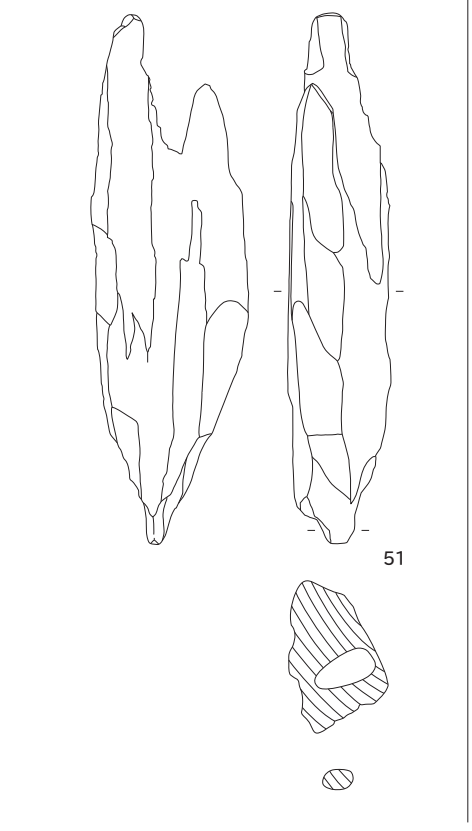
SX2124



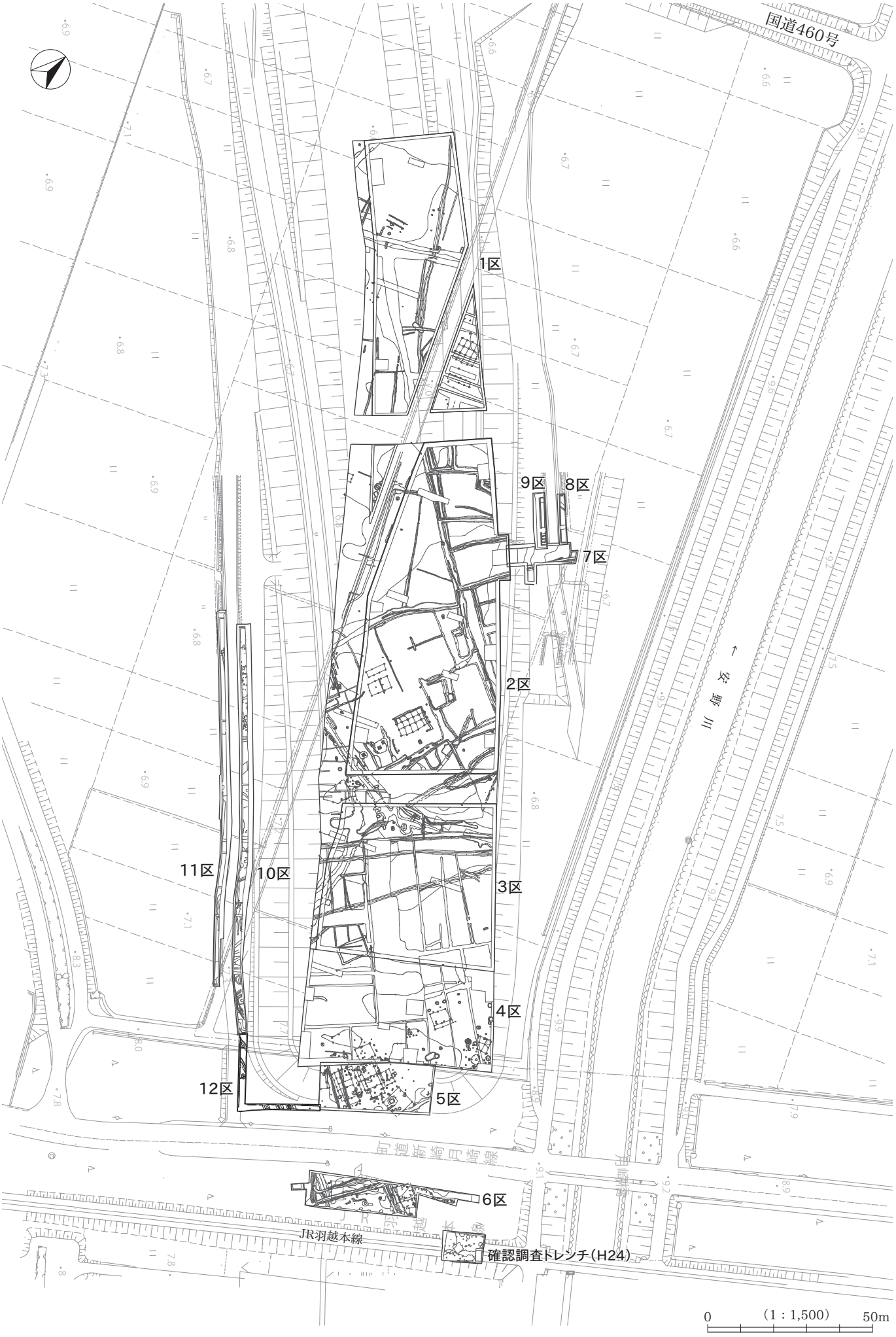
P2035

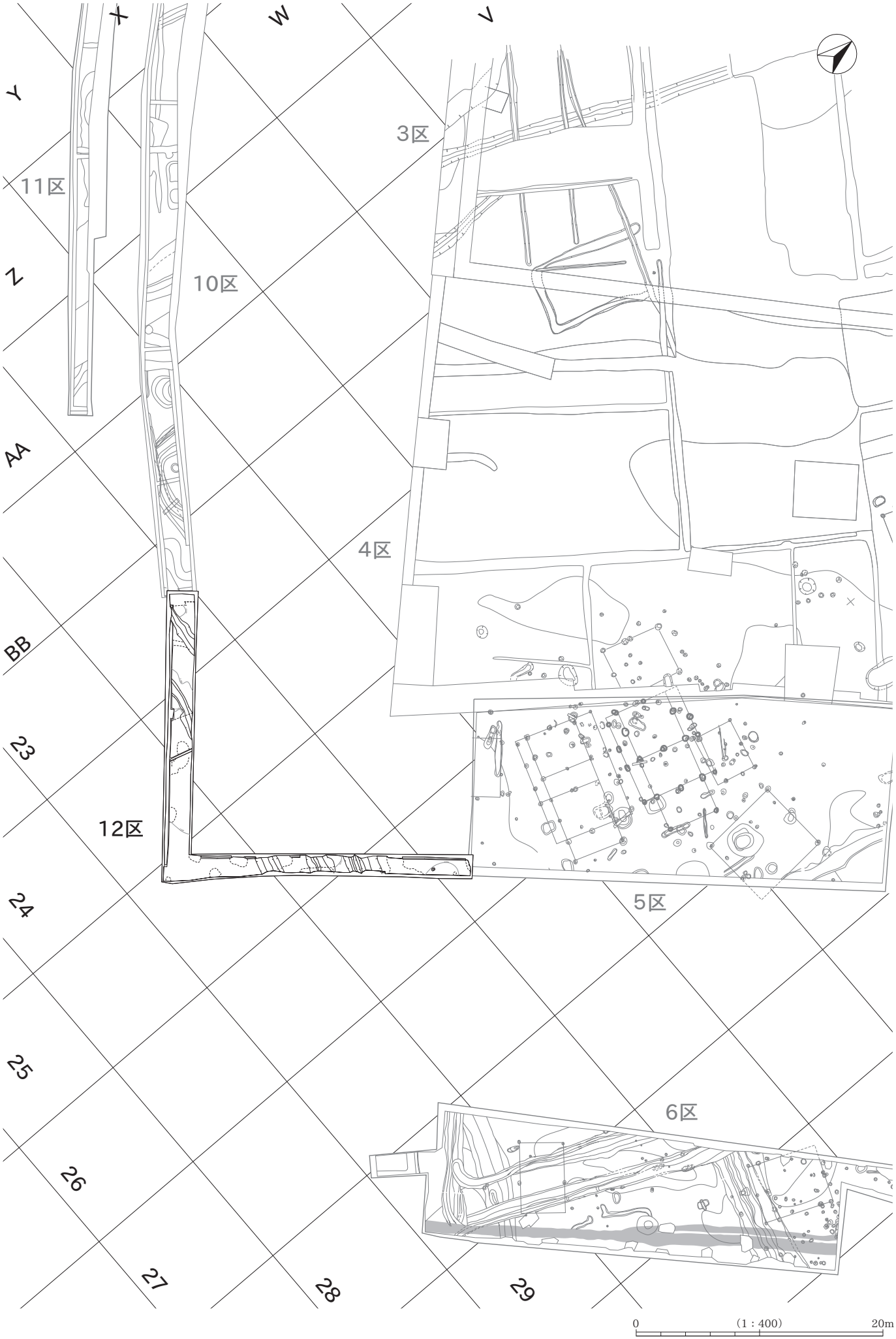


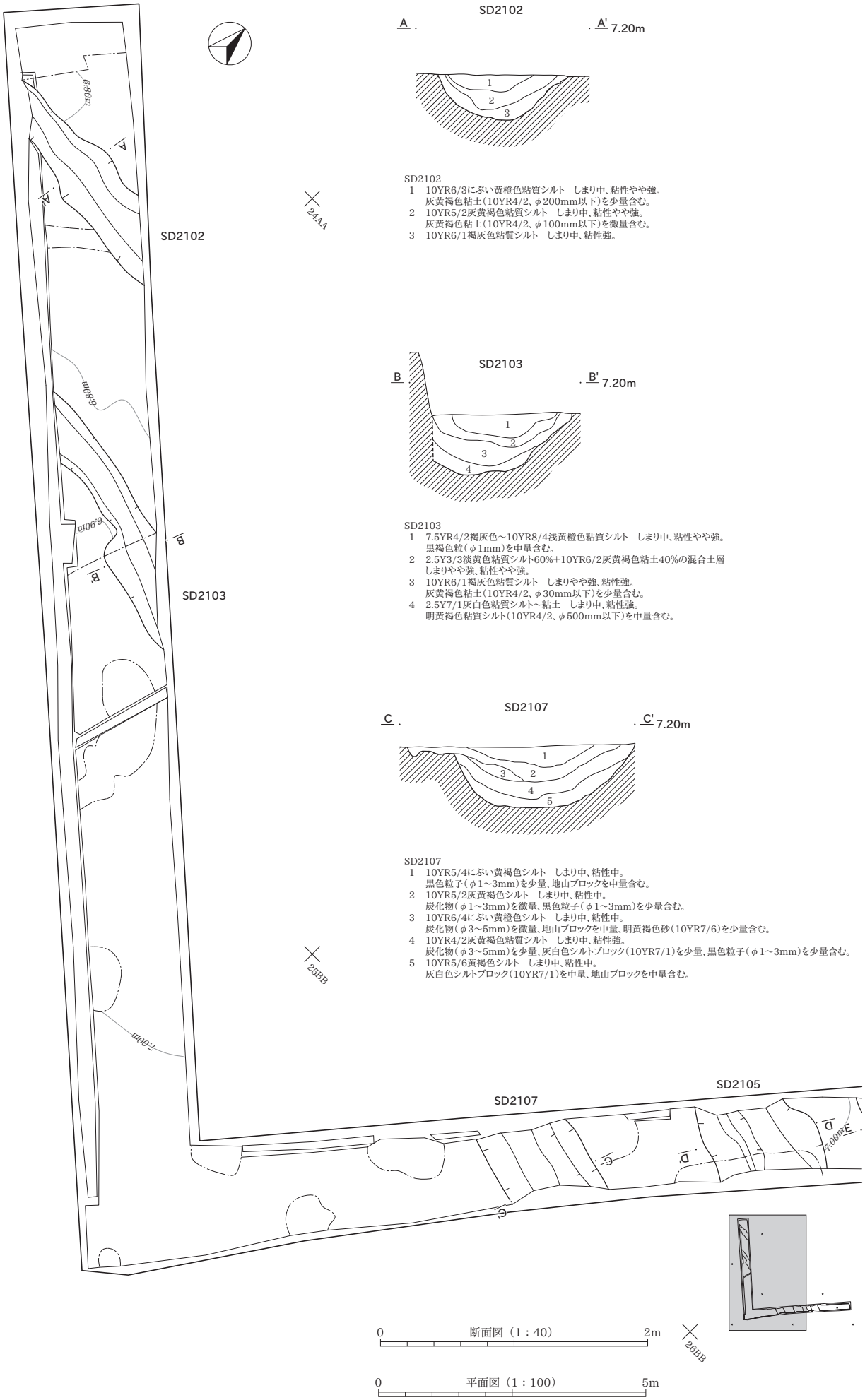
P2120

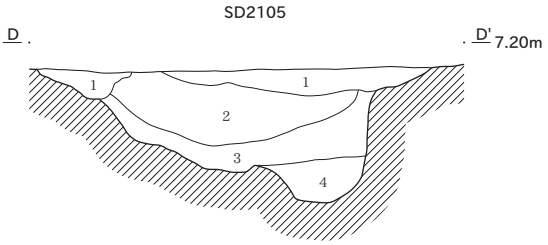


0　15cm（1:3）

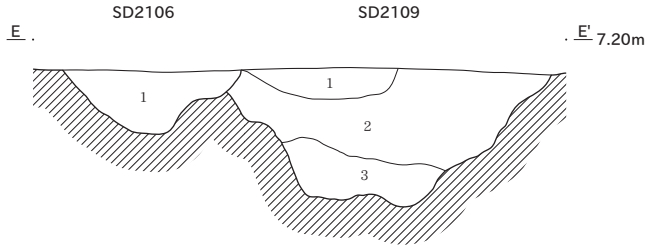

国道460号
1区
9区
8区
7区
2区
3区
4区
5区
6区
10区
11区
12区
JR羽越本線
確認調査トレンチ（H24）
0
（1：1,500）
50m


X
W
V
Y
Z
AA
BB
23
24
25
26
27
28
29
3区
4区
5区
6区
10区
11区
12区
0
(1：400)
20m


SD2102
A
A'
7.20m
1
2
3
SD2102
1　10YR6/3にぶい黄橙色粘質シルト　しまり中、粘性やや強。
灰黄褐色粘土（10YR4/2、φ200mm以下）を少量含む。
2　10YR5/2灰黄褐色粘質シルト　しまり中、粘性やや強。
灰黄褐色粘土（10YR4/2、φ100mm以下）を微量含む。
3　10YR6/1褐灰色粘質シルト　しまり中、粘性強。
SD2103
B
B'
7.20m
1
2
3
4
SD2103
1　7.5YR4/2褐灰色～10YR8/4浅黄橙色粘質シルト　しまり中、粘性やや強。
黒褐色粒（φ1mm）を中量含む。
2　2.5Y3/3淡黄色粘質シルト60%+10YR6/2灰黄褐色粘土40%の混合土層
しまりやや強、粘性やや強。
3　10YR6/1褐灰色粘質シルト　しまりやや強、粘性強。
灰黄褐色粘土（10YR4/2、φ30mm以下）を少量含む。
4　2.5Y7/1灰白色粘質シルト～粘土　しまり中、粘性強。
明黄褐色粘質シルト（10YR4/2、φ500mm以下）を中量含む。
SD2107
C
C'
7.20m
1
2
3
4
5
SD2107
1　10YR5/4にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
黒色粒子（φ1～3mm）を少量、地山ブロックを中量含む。
2　10YR5/2灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
炭化物（φ1～3mm）を微量、黒色粒子（φ1～3mm）を少量含む。
3　10YR6/4にぶい黄橙色シルト　しまり中、粘性中。
炭化物（φ3～5mm）を微量、地山ブロックを中量、明黄褐色砂（10YR7/6）を少量含む。
4　10YR4/2灰黄褐色粘質シルト　しまり中、粘性強。
炭化物（φ3～5mm）を少量、灰白色シルトブロック（10YR7/1）を少量、黒色粒子（φ1～3mm）を少量含む。
5　10YR5/6黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
灰白色シルトブロック（10YR7/1）を中量、地山ブロックを中量含む。
SD2102
SD2103
SD2107
SD2105
6.80m
6.80m
6.90m
7.00m
7.00m
24AA
24BB
25BB
25CC
26BB
0　断面図（1：40）　2m
0　平面図（1：100）　5m

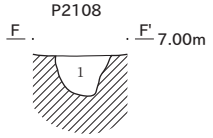


SD2105
1　10YR4/2灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物（φ1～8mm）を微量含む。
2　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
炭化物（φ1～8mm）を微量、黒色粒子（φ1～3mm）を少量含む。
3　10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト　しまり中、粘性強い。
炭化物粒を微量、褐色鉄分（φ1～3mm）を少量含む。
4　10YR5/6黄褐色砂質シルト　しまり中、粘性弱い。
炭化物（φ1～3mm）を少量、褐色鉄分（φ1～3mm）を少量、地山ブロックを中量含む。



SD2106
1　10YR4/2灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。炭化物（φ1～3mm）を微量、
赤褐色鉄分（φ1～3mm）を少量、地山ブロックを少量含む。

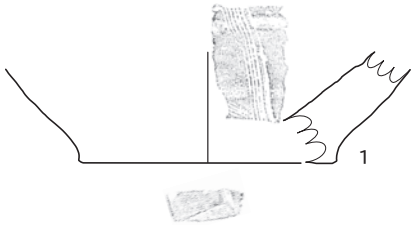
SD2109
1　10YR4/2灰黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
黒色粒子（φ1～3mm）を微量、地山ブロックを少量含む。
2　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　しまり中、粘性中。
炭化物（φ5～8mm）を少量、褐色鉄分（φ1～3mm）を少量、黒色粒子（φ1～3mm）を少量、礫（φ50～150mm）を微量含む。
3　10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト　しまり強い、粘性強い。
炭化物（φ3～5mm）を少量、褐色鉄分（φ1～3mm）を少量、黒色粒子（φ1～3mm）を少量含む。



P2108
1　10YR3/1黒褐色シルト　しまり中、粘性中。黒色粒子（φ1～3mm）を少量、地山ブロックを少量含む。

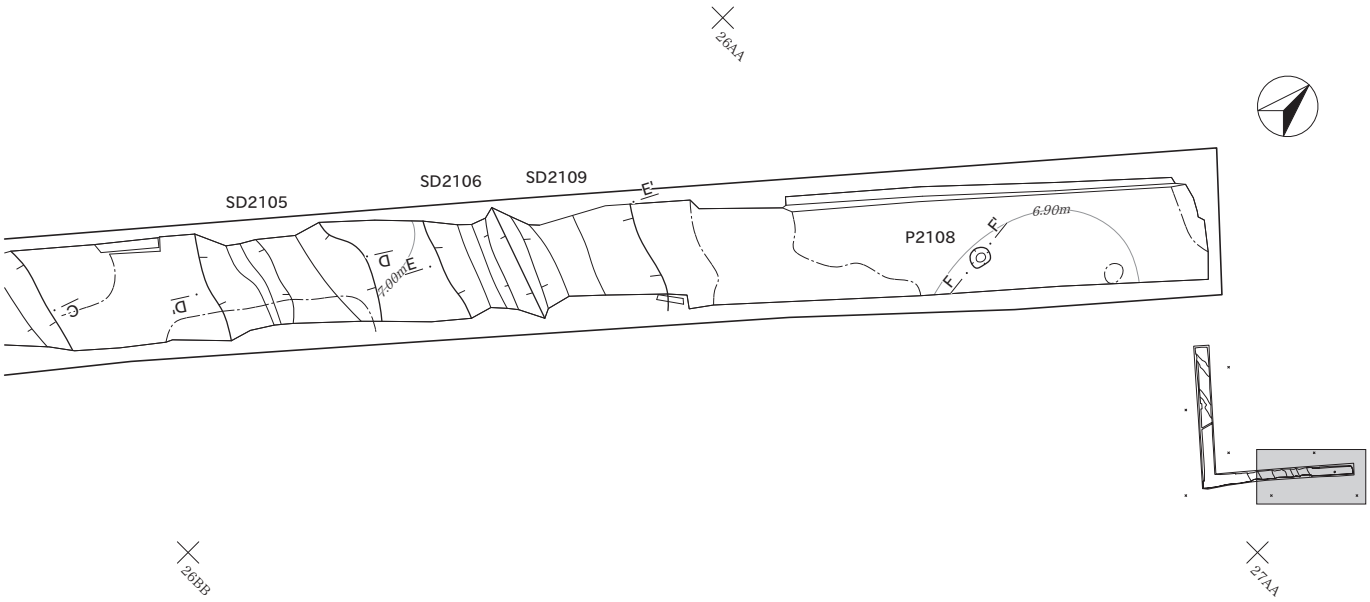
0　（1：40）　2m

SD2105



遺構外

0　15cm　(1:3)



0　（1：100）　5m

遺跡遠景（南から）

遠景（西から）

９区　完掘（西から）

10区　完掘（西から）

10区　遺構集中・北側（西から）

10区　遺構集中・南側（西から）

SK2141　断面（東から）

SD１　完掘（北西から）

SD2104　断面（北西から）

SD2105　断面（東から）

SD2106　完掘（南から）

SD2107　断面（南から）

SD2109　断面（南から）

SD2109　断面（北から）

SD2109　遺物出土状況（南から）

SD2109　遺物出土状況（北西から）

SD2110　断面 B-B'（南東から）

SD2110　遺物出土状況（南から）

SD2110　遺物出土状況（西から）

SD2110　遺物出土状況（東から）

SD2110　遺物出土状況（北東から）

SD2109・SD2110・SD2133・SD2134　完掘（北西から）

SD2117　断面 B-B'（東から）

SD2133　断面（北から）

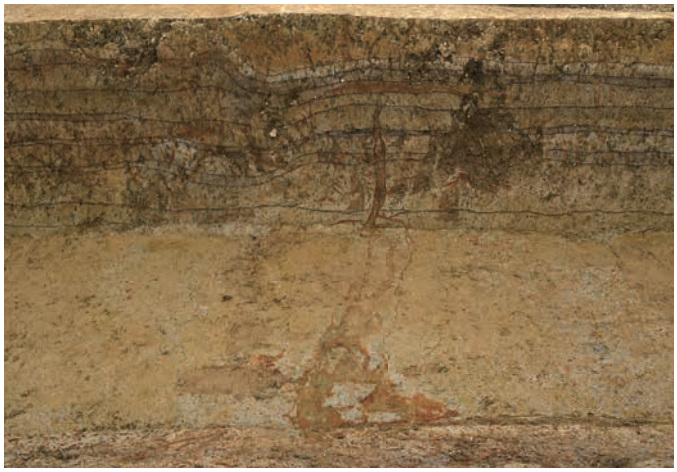
SD2134　断面（南西から）

P2115　断面（南から）

P2121　断面（西から）

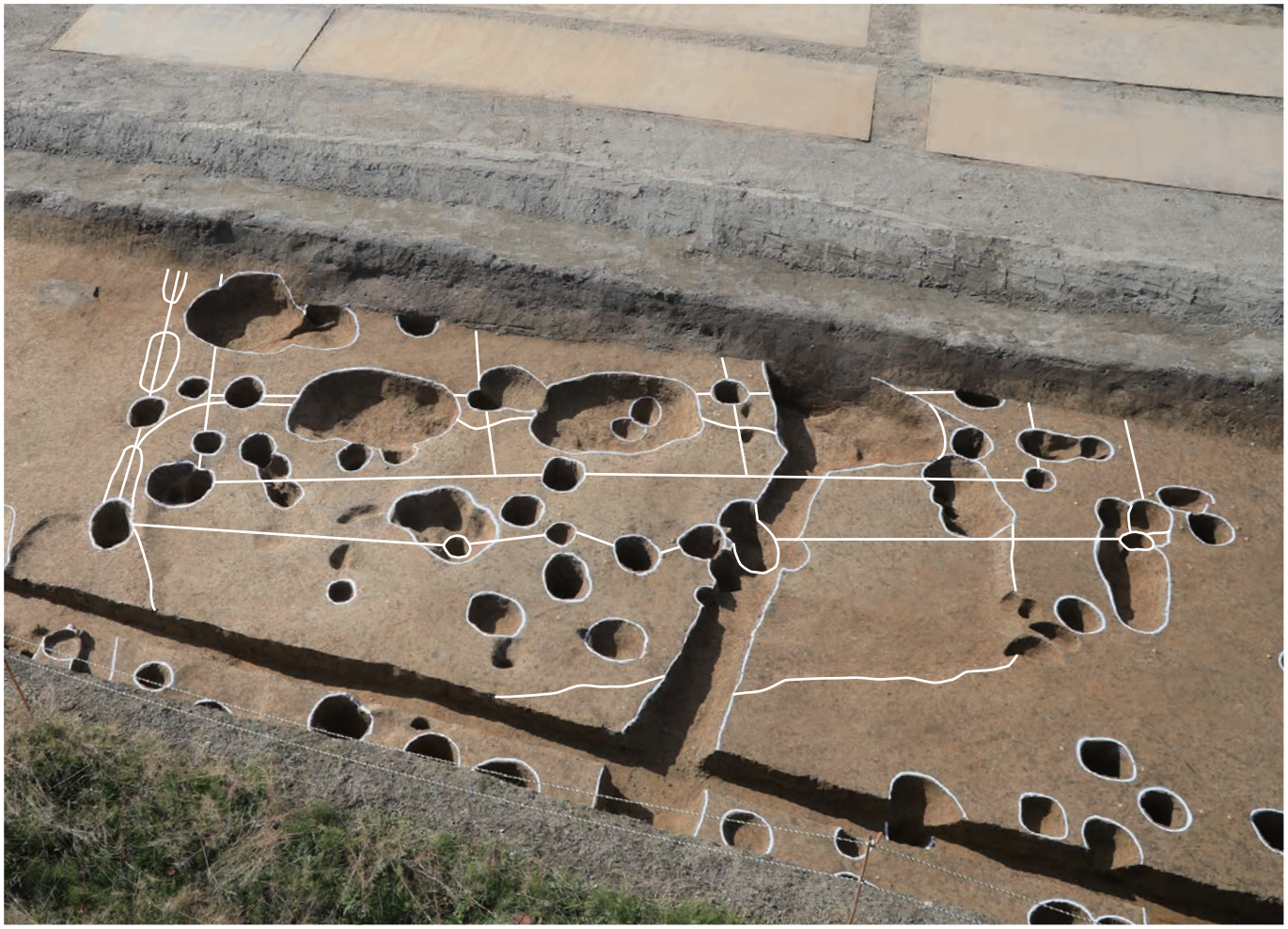
下層　全景（南から）

下層　東壁断面（南西から）



下層　砂脈・噴砂（西から）

SB13･14･15　完掘（南西から）



SB16　完掘（北東から）

SB17　完掘（北西から）

SB18　完掘（北西から）

SE2161　断面（南から）

SE2161　遺物出土状況　俯瞰（東から）

SE2161　断面（南西から）

SE2161　遺物出土状況　近接（南から）

SE2161　完掘（東から）

SK2157　断面（東から）

SK2160・SK2519　断面（北東から）

SK2160　炭化物出土状況（東から）

SK2162　断面（北から）

SK2164・P2171　断面（東から）

SK2165　完掘（南東から）

SK2180　断面（東から）

SK2180　完掘（東から）

SD2182　断面（西から）

SK2190　断面（西から）

SK2210　断面（北東から）

SK2234　断面（北から）

SK2234　完掘（西から）

SK2236　断面（東から）

SK2236　完掘（北東から）

SK2286　断面（東から）

SK2303　断面（南東から）

SK2308　断面（東から）

SK2308　遺物出土状況（東から）

SK2175　完掘（東から）

SK2317　断面（南東から）

SK2318　検出状況（東から）

SK2318　断面 A-A'（東から）

SK2335　断面（西から）

SK2384　断面（西から）

SK2397　断面（北東から）

SK2411　断面（東から）

SK2477　完掘（西から）

SK2484・SK2483　完掘（東から）

SK2490　断面（東から）

SD2145　完掘（北から）

SD2149　断面（東から）

SD2149　完掘（西から）

SD2151　完掘（東から）

SD2156　断面（東から）

SD2163・SD2167・SD2168・SK2490　完掘（東から）

SD2167・SD2168・SK2490　断面 A-A'（東から）

SD2169　断面 A-A'（東から）

SD2169・SD2191・SD2170　完掘（西から）

SD2170　断面（東から）

SD2182　完掘（南西から）

SD2191　断面 B-B'（西から）

SD2192　断面（北西から）

SD2192　遺物出土状況（北から）

SD2401・SD2402・SD2403　断面 A-A'（南から）

P2173　断面（北東から）

P2174　断面（北東から）

P2184　断面（北東から）

P2193　断面（東から）

P2194　断面（東から）

P2201　断面（東から）

P2203　断面（東から）

P2211　断面（南から）

P2213　断面（東から）

P2216　断面（西から）

P2225　断面（西から）

P2244　断面（北から）

P2257　断面（北から）

P2258　断面（北から）

P2262・P2263　断面（北東から）

P2267　断面（南から）

P2282　断面（北から）

P2297　断面（北から）

P2353　断面（南から）

P2355　断面（南から）

P2373　断面（南東から）

P2377　断面（南東から）

P2378　断面（北西から）

P2378・P2476　完掘（西から）

P2381　断面（南東から）

P2383　断面（南東から）

P2385　完掘（南東から）

P2391　断面（北東から）

P2396　断面（南から）

P2421　断面（東から）

P2425　断面（西から）

P2468　断面（北から）

P2468　完掘（北から）

P2372　完掘（南東から）

P2504　断面（東から）

下層　全景（北から）

下層東壁（北西から）

下層断面（基本層序）（西から）

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
1～20　〔≒1:3〕

21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
1～20　〔≒1:3〕

1～4区遠景（南から）

1～3区遠景（北から）

1～4区全景（東から）

5～7区遠景（北から）

5～7区全景（東から）

7区全景（北西から）

SB４・５　完掘（南東から）

噴砂７（東から）

噴砂９（東から）

SK2010・P2006　断面（東から）

SK2011　完掘（西から）

SK2024　遺物出土状況（東から）

SK2024　断面（東から）

SK2038・P2036　断面（東から）

SK2050　断面（東から）

SK2057・P2046　完掘（北東から）

SK2076　完掘（東から）

SK2101　遺物出土状況（北西から）

SK2101　完掘（北西から）

SK2102　断面（北西から）

SK2102　完掘（北西から）

SK2104　完掘（北西から）

SD2001　断面（南から）

SD2001　完掘（北から）

SD2030・SD2031　断面（南から）

SD2030・SD2031　完掘（北から）

SD2034　完掘（南から）

SD2040　完掘（南から）

SD2042　完掘（東から）

SD2058　完掘（南から）

SD2062・SD2063　完掘（東から）

SD2068　完掘（西から）

SD2070　完掘（東から）

SD2072　完掘（東から）

SD2073　完掘（東から）

道１東（SD2054A）　断面（東から）

道１東（SD2013A）　断面（西から）

道１東（SD2013・SD2054）　完掘（西から）

道１東（SD2054）　完掘（西から）

道１西（SD2079）　断面（西から）

道１西（SD2066）　完掘（東から）

P2025　断面（東から）

P2035　断面（東から）

P2035東部　完掘（東から）

P2035　柱根出土状況（東から）

P2035　板材出土状況（東から）

P2035　礎板出土状況（東から）

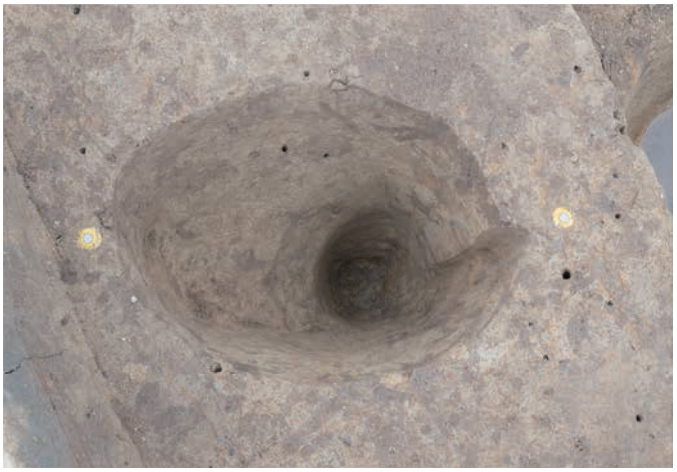
P2035　完掘（東から）

P2037　断面（東から）

P2037　完掘（東から）

P2041　断面（北東から）

P2044　断面（南から）



P2044　完掘（南から）

P2045　断面（東から）

P2045　完掘（東から）

P2046　断面（北から）

P2059　断面（西から）

P2086　断面（南から）

P2086　完掘（南から）

P2089　断面（南東から）

P2089　完掘（南東から）

P2090　断面（北から）

P2090　完掘（北から）

P2120　完掘（北西から）

SR2023　断面（西から）

P2006・2025・2035・2036・2037・2041・2044・2045・2046・2059　完掘（東から）

SR2061　完掘（東から）

SR2061　完掘（北東から）

SX2124　遺物出土状況（東から）

SX2124　断面（南東から）

SX2124　完掘（東から）

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36

1～36　〔≒1:3〕

37～51　〔≒1:3〕

調査区遠景（南西から）

調査区遠景（西から）

調査区全景（北西から）

SD2102　断面（北西から）

SD2102　完掘（南東から）

SD2103　断面（北西から）

SD2103　完掘（北西から）

SD2105　断面（北西から）

SD2105　珠洲焼出土状況（南東から）

SD2106・SD2109　断面（南東から）

SD2106・SD2109　完掘（北西から）

SD2107　断面（北西から）

SD2107　完掘（北西から）

SD2105

1

遺構外

2

〔≒1:3〕

報告書抄録

ふりがな	いしふなとひがしいせきさんだいよじちょうさ・かぶらぎいせきにだいさんじちょうさ・やまぐちのなかいせきごだいろくじちょうさ
書名	石船戸東遺跡Ⅲ 第４次調査・蕪木遺跡Ⅱ 第３次調査・山口野中遺跡Ⅴ 第６次調査
副書名	一般国道 49 号阿賀野バイパス関係発掘調査報告書
巻次	19
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 297 集
編著者名	藤本隆之・山中悟朗・高野恒一・小村正之（以上、株式会社ノガミ）、荒川隆史（埋文事業団）、赤堀岳人・馬場健司・田中義文・東澤　翔（パリノ・サーヴェイ株式会社）
編集機関	公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒 956 － 0845 新潟県新潟市秋葉区金津 93 番地 1　　TEL　0250（25）3981
発行年月日	2023（令和５）年７月 28 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	調査面積 ㎡	調査原因
いしふなとひがしいせき 石船戸東遺跡	にいがたけんあがのし 新潟県阿賀野市 ももづ 百津地内	15222	403	37° 49′ 8″	139° 12′ 53″	20220516 ～ 20220822 20220920 ～ 20221107	1,373㎡	一般国道 49 号 阿賀野バイパス建設
かぶらぎいせき 蕪木遺跡	にいがたけんあがのし 新潟県阿賀野市 ほりこし 堀越地内	15222	405	37° 48′ 32″	139° 13′ 18″	20220415 ～ 20220705 20220926 ～ 20221116	422㎡	一般国道 49 号 阿賀野バイパス建設
やまぐちのなかいせき 山口野中遺跡	にいがたけんあがのし 新潟県阿賀野市 つきざき 月崎地内	15222	400	37° 49′ 48″	139° 12′ 27″	20220713 ～ 20220729	81㎡	一般国道 49 号 阿賀野バイパス建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
石船戸東遺跡	散布地 集落跡	中世 近世	掘立柱建物６棟、井戸１基、溝 53 条、土坑 37 基、ピット（小穴）308 基、性格不明遺構１基	須恵器、土師質土器、珠洲焼、青磁、白磁、砥石、曲物、紡錘車、刀子	
蕪木遺跡遺跡	集落跡	平安時代 中世 近世	掘立柱建物２棟、道１条、溝 25 条、土坑 14 基、ピット 77 基、流路２条、性格不明遺構１基	土師器、黒色土器、須恵器、灰釉陶器、土師質土器、青磁、陶磁器、釘、炉壁、板材、柱根	古代・中世の道 噴砂 灰釉陶器
山口野中遺跡	集落跡	中世 近世	溝６条、ピット１基	縄文土器、土師器、珠洲焼	中世の道

要約		
	石船戸東遺跡	二つの調査区で遺構の密度は異なり、居住域と田畑などの生産域が存在する。溝（SD）は主に用排水路と区画溝と考えられる。今回の調査では井戸（SE）は１基のみで掘立柱建物（SB）が集中する居住域に存在する。掘立柱建物は６棟を確認した。明確な時期を特定するには至らないが、僅かな遺物や覆土の土質や状態から中世の範疇からは外れることはないと考えられる。過年度調査で確認されている縄文時代晩期に比定できる層位は確認できたが、遺構・遺物は検出できなかった。標高 6.0 m前後で砂層となり、以下は完全な無遺物層と考えられる。
	蕪木遺跡	９世紀代において旧河道沿いに掘立柱建物群が存在し、旧河道と建物群の間には道が存在することが確認された。出土遺物は９世紀代の土師器・須恵器が主体で、灰釉陶器皿など、官衙的色彩を有するものが若干含まれる。中世では 13 ～ 14 世紀頃の居住域と思われる多数の柱穴が確認され、付近から青磁椀などが出土した。
	山口野中遺跡	山口野中遺跡から境塚遺跡にかけて延びる中世の道が、途中で緩やかに蛇行していることが確認された。道の側溝の可能性がある溝からは、珠洲焼の片口鉢の破片が出土した。

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 297 集

一般国道 49 号阿賀野バイパス関係発掘調査報告書 19

石船戸東遺跡Ⅲ　第４次調査
蕪 木 遺 跡 Ⅱ　第３次調査
山口野中遺跡Ⅴ　第６次調査

2023（令和５）年７月 27 日印刷　編集・発行　公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
2023（令和５）年７月 28 日発行　〒 956－0845 新潟市秋葉区金津 93 番地 1
電 話　0250（25）3981
FAX　0250（25）3986

印刷・製本　株式会社ウィザップ
〒 950－0963 新潟市中央区南出来島 2 丁目 1 番 25 号
電 話　025（285）3311

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第297集『石船戸東遺跡Ⅲ（第4次）　蕪木遺跡Ⅱ（第3次）
山口野中遺跡Ⅴ（第6次）』　正誤表　2023年8月追加

頁	位置	誤	正
抄録	石船戸東遺跡 市町村コード	１５２２２	１５２２３
抄録	蕪木遺跡 市町村コード	１５２２２	１５２２３
抄録	山口野中遺跡 市町村コード	１５２２２	１５２２３